

FUKUSHIMA MEDICAL UNIVERSITY HOSPITAL BOOKLET 2023



医学生・研修医のための 附属病院紹介ブックレット

医療を幅広い視野で柔軟に学べる 研修プログラム 豊かな知識と確かな医療技術を約束します。



福島県立医科大学附属病院長

竹石 恭知

当院の基本理念は「健康を支える医療・心温まる医療を目指して県民と共に歩む」です。この基本理念の下、県内唯一の特定機能病院として、最高水準の医療、先進的な医療を県民の皆様へ提供する責務を担うとともに、地域医療を充実させ、地域創生に貢献できるような高い見識と多様な能力を有する医療人を育成しています。

福島県の医療の最後の砦として、県民の健康を守り、地域医療の向上に貢献するだけでなく、教育病院として豊かな知識と確かな医療技術を身につけた、患者さんに温かい眼差しを持った医師を養成することを目標にしており、多くの本学出身者が幅広い分野で世界中の医療の充実と発展に貢献しています。

さて、当院の臨床研修では、プライマリ・ケアから将来のキャリアに応じた研修まで自分に合ったローテートを自由にプランニングできる「ベーシックプログラム」、研修期間中1年間は協力病院で研修を行う、地域病院重視型の「1年目福島医大・2年目協力病院プログラム」及び「1年目協力病院・2年目福島医大プログラム」、さらに、小児科医・産婦人科医を目指す方のための「小児科・産婦人科・周産期プログラム」の計4つのプログラムを用意しております。

これらのプログラムにおける最大の特徴は「多様な選択肢と高い自由度」です。当院は、県内で最も多くの診療科を有し、専門性の高い経験豊富な指導医が多数在籍しています。研修プログラムは、それぞれの希望に応じて100を超える協力病院で研修を行うことが可能です。当院では「医療のフロントラインと考える診療」、協力病院等では「common diseaseへの対応と基本技術」を学ぶことができます。

研修環境の整備にも力を入れており、2020年には、卒後臨床研修評価機構（JCEP）の調査を受審し、臨床研修病院として認定を取得しています。

さらに、専門医研修においては、19ある全ての基本領域で基幹施設としてプログラムを運用しており、専門医を取得することが可能です。各プログラムでは、県内外の協力病院と密に連携しながら、各人にとって最適な研修計画を策定し、迅速に専門医資格が取得出来るよう配慮されています。また、大学院・大学院研究生の併願が可能のため、多くの専攻医が、医学博士号（PhD）を並行して取得しています。

このように、当院では優れた医師としての基盤を築くための最適な研修プログラムと充実した施設・研修環境が整っており、皆様にとって有意義な研修生活を送ることができるものと確信しています。個々の目標達成から将来のキャリア形成まで全面的に支援しますので、ぜひ、当院での臨床研修ならびに専門医研修を選択ください。

■目 次

病院長挨拶	
病院案内・大学配置図	1
臨床研修プログラムの概要	3
専門研修プログラムの概要	7
臨床研修医からのメッセージ	9
専攻医からのメッセージ	10
〈診療科〉・〈医学部〉臨床医学系	
循環器内科	11
血液内科	13
消化器内科	15
リウマチ・膠原病内科	17
腎臓・高血圧内科	19
糖尿病・内分泌代謝内科	21
脳神経内科	23
呼吸器内科	25
腫瘍内科	27
総合内科	29
漢方内科	30
呼吸器外科	31
消化管外科	33
肝胆膵・移植外科	35
乳腺外科	37
小児外科	39
甲状腺・内分泌内科	41
甲状腺・内分泌外科	42
心臓血管外科	43
脳神経外科	45
整形外科	47
形成外科	49
産科、婦人科	51
小児科	53
小児腫瘍内科	55
眼科	57
皮膚科	59
泌尿器科・副腎内分泌外科（泌尿器科学講座）	61
耳鼻咽喉科・頭頸部外科（耳鼻咽喉科学講座）	63
心身医療科（神経精神医学講座）	65
放射線科	67
放射線治療科（放射線腫瘍学講座）	69
核医学科	71
麻酔・疼痛緩和科、集中治療部（麻酔科学講座）	73
病理診断科	75
救急科（救急医療学講座・放射線災害医療学講座・地域救急医療支援講座）	77
リハビリテーション科	79
検査部（臨床検査医学講座）	81
感染制御部	82
輸血・移植免疫部	83
地域・家庭医療部	85
歯科口腔外科	87
放射線健康管理学講座	89

災害こころの医学講座	91
〈医学部〉生命科学・社会医学系	
神経解剖・発生学講座	93
解剖・組織学講座	93
細胞統合生理学講座	94
システム神経科学講座	94
生化学講座	95
免疫学講座	95
病態制御薬理医学講座	96
微生物学講座	96
基礎病理学講座	97
衛生学・予防医学講座	97
公衆衛生学講座	98
法医学講座	98
放射線生命科学講座	99
疫学講座	99
放射線物理化学講座	100
健康リスクコミュニケーション学講座	100
〈医学部附属施設〉研究部門	
生体物質研究部門	101
細胞科学研究部門	101
生体機能研究部門	102
〈医学部附属施設〉中央部門	
医療情報部	102
遺伝診療部	103
がんゲノム医療診療部	104
内視鏡診療部	105
リハビリテーションセンター	107
臨床腫瘍センター	109
ふくしま子ども・女性医療支援センター	110
生殖医療センター	111
性差医療センター	112
小児・AYA（思春期若年成人）がん長期支援センター	112
手術部	113
臨床研究教育推進部	113
総合周産期母子医療センター	114
痛み緩和医療センター	114
医療安全管理部	115
患者サポートセンター	115
ふくしま国際医療科学センター	116
放射線医学県民健康管理センター	117
先端臨床研究センター	119
健康増進センター	121
甲状腺・内分泌センター	121
ふたば救急総合医療支援センター	122
臨床研究イノベーションセンター	123
医療人育成・支援センター	125
災害医療総合学習センター	127
総合内科・総合診療医センター	128

■病院案内・大学配置図

■病院の概要

当院は、医科大学附属の総合病院として、39診療科・778床の施設を有し、先進医療の充実や診療体制の整備につとめております。

下記のとおり施設基準を満たした体制を整え、多様化する医療に対する県民の期待に応えております。

・附属病院 基本理念

「当病院は、健康を支える医療・心温まる医療を目指して県民と共に歩みます。」

私たち当病院に働くすべての職員は、医療人としての誇りをもって、互いに協力して県民の健康な暮らしの確保と病（やまい）克服のお手伝いをします。

・附属病院 基本方針

- 1 私たちは、高い倫理観のもと、命と人権とプライバシーを尊び、患者さん一人ひとりと心の通い合う安全な医療を提供します。
- 2 私たちは、患者さん一人ひとりのニーズにこたえる最高水準の医療、先進的な医療を提供します。
- 3 私たちは、県民の未来を支える誠実で優秀な医療人を育成します。
- 4 私たちは、地域との連携を重視し、新しい医療、より良い医療を創造します。
- 5 私たちは、日々進歩する医療の成果を県内、全国、そして世界へ発信します。

・選定・認定名

- 特定機能病院承認（平成7年4月1日）
- 日本医療機能評価機構認定（平成25年3月1日）
- 特定救急認定（平成23年2月12日）
- 災害拠点病院選定（平成8年11月29日）
- 都道府県がん診療連携拠点病院指定（平成27年4月1日）
- 福島県エイズ治療中核拠点病院（平成23年1月1日）
- 肝疾患診療連携拠点病院（平成21年8月1日）
- 高度救命救急センター指定（平成24年3月30日）
- 高度被ばく医療支援センター、原子力災害医療・総合支援センター指定（平成27年8月26日）

・病床数

778床
（一般713床、精神49床、結核14床、感染2床）



2～4号館（研究棟）



■診療科目

循環器内科、血液内科、消化器内科、リウマチ・膠原病内科、腎臓・高血圧内科、糖尿病・内分泌代謝内科、脳神経内科、呼吸器内科、漢方内科、甲状腺・内分泌内科、腫瘍内科、総合内科、呼吸器外科、消化管外科、肝胆膵・移植外科、乳腺外科、小児外科、甲状腺・内分泌外科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、産科、婦人科、小児科、小児腫瘍内科、眼科、皮膚科、泌尿器科・副腎内分泌外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、心身医療科、放射線科、放射線治療科、核医学科、麻酔・疼痛緩和科、病理診断科、歯科口腔外科、救急科、リハビリテーション科



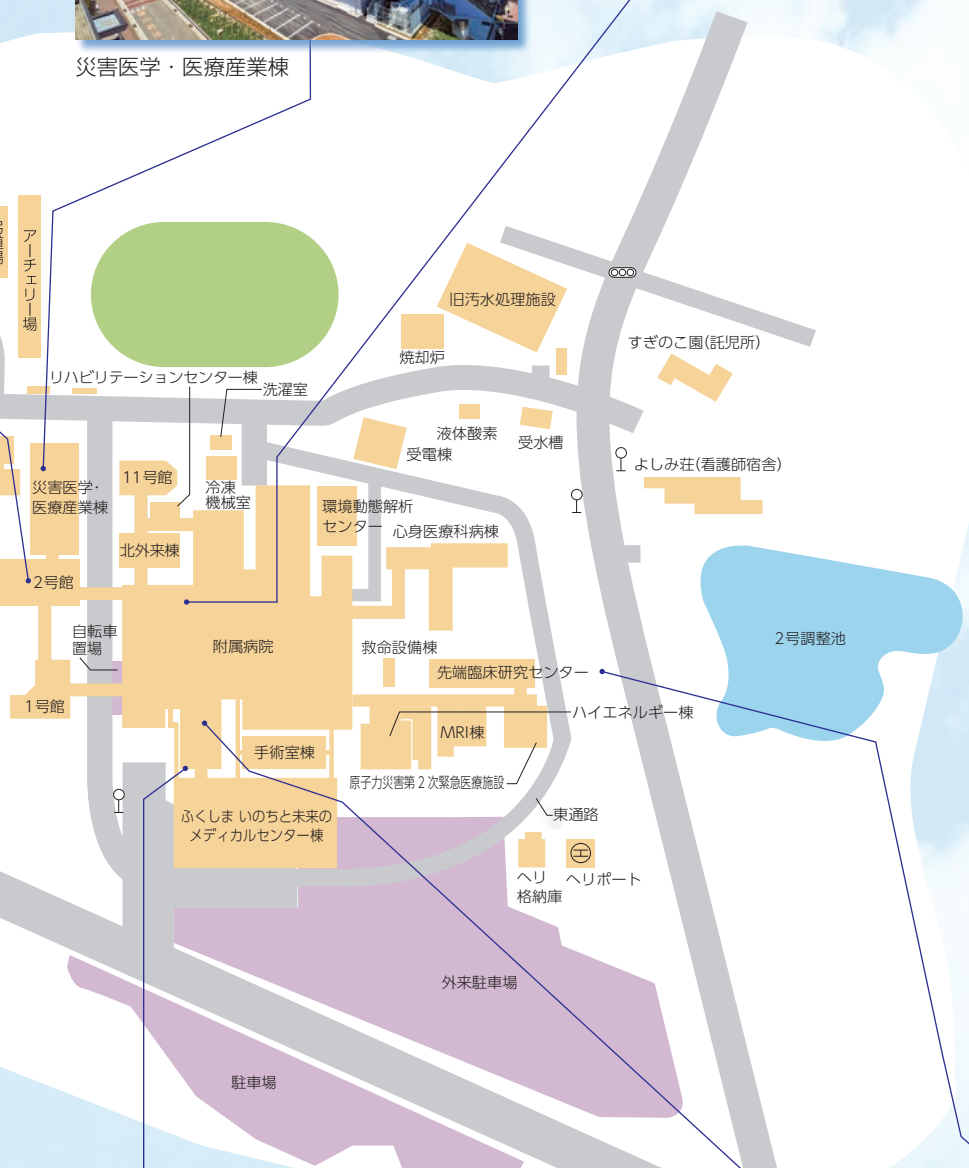
附属学術情報センター



災害医学・医療産業棟



研修医室



■先進医療届出状況 (令和5年4月1日現在)
【先進医療A】

- 1 腹腔鏡下膀胱尿管逆流防止術

■職員数

医師 650名
看護師 957名
技師・事務職員等 597名
(令和5年4月1日現在)

■1日平均入院患者数

588名 (令和3年度)

■1日平均外来患者数

1,556名 (令和4年度)

■病院の沿革

- 1951年4月 旧福島県立女子医学専門学校附属病院は、福島県立医科大学附属病院となる。
- 1987年6月 福島県立医科大学附属病院(新病院)開業
- 1995年4月 特定機能病院承認(公立大学病院第1号) 新生児集中治療部新設
- 1998年4月 看護学部設置により、福島県医科大学医学部附属病院となる。
- 2001年3月 被ばく医療施設を新設
- 2002年4月 総合周産期母子医療センター開設
- 2003年6月 電子カルテシステム稼働
- 2005年4月 病院病診連携事業開始 後期研修(専門医養成コース)制度開始
- 2006年4月 公立大学法人 福島県立医科大学が設置する附属病院となる。
- 2008年1月 救命救急センター新設、ドクターヘリ運航開始
- 2015年8月 高度被ばく医療支援センター及び原子力災害医療・総合支援センターに指定
- 2016年4月 ふたば救急総合医療支援センターを新設
- 2016年10月 ふくしま いのちと未来のメディカルセンター棟完成
- 2017年7月 手術室棟完成



附属病院



エントランス



先端臨床研究センター棟

臨床研修プログラムの特徴

01

柔軟性をもったプログラム

研修医のニーズに柔軟に対応するため、4つのプログラムを用意し、各プログラムともすべての診療科から自由に選択でき、いろいろな診療科を院内外で研修することができます。また、年度途中でも、2ヶ月前までに申し出てもらえれば研修計画（ローテート）の変更も可能で、進路の変更等にも柔軟に対応できます。

02

臨床研修・専門医研修の一貫した研修体制

将来の専門医取得まで見据えた、臨床研修2年間、専門医研修3～5年間の一貫した研修を受けることが可能です。

03

研修医オリエンテーション

研修開始後10日程度実施しています。臨床研修への円滑な導入、医療の質・安全性の向上、多職種連携の強化を目的として、各診療科や関係部署が協力して実施しています。

04

ステップアップセミナーの開催

幅広い分野から研修医に必要なプライマリケアの知識を習得してもらうため、毎週火曜日に開催しています。セミナーは各診療科が協力して担当しており、バランスの良い総合的な研修を行っています。





05

総合内科研修

令和4年度より総合内科を必修として、病歴聴取・身体診察からの臨床推論、複数疾患をもつ患者のマネージメントなどを中心に、総合的な臨床能力の高い医師を養成することに力を入れています。当院の他、県内6カ所の病院の総合内科で研修が可能です。

06

メンター（相談員）制度による きめ細やかな研修サポート

2年間を通して研修や将来の進路、精神面も含めて支援します。研修医が指導医等からメンターを選び、年度途中でのメンターの変更も可能です。

07

高度救命救急センター

ドクターヘリやドクターカーが常駐しており、救急科研修中には研修医も同行し、最前線の救急医療現場を経験することが可能です。大学病院ならではの幅広い救急疾患患者を通して、プライマリケアを学ぶ環境が充実しています。



08

充実した病院群

当院を基幹型相当大学病院とし、協力型臨床研修病院である地域の臨床研修病院及び研修協力施設である地域の協力病院、診療所、保健所等100を超える施設と病院群を形成しています。また、令和6年度からは、東京都健康長寿医療センターでのたすきがけ研修（プログラムB・C）が可能になります。

09

身分の保障等

協力病院等で研修する場合でも、研修医は当院の身分を有したまま派遣されるため、研修期間中、給与や社会保険等が一括して補償されます。

※「たすきがけ方式の研修プログラム（プログラムB・C）における協力病院での研修期間中は、協力病院の身分・処遇となります。

10

研修環境の充実

附属病院きぼう棟10階に研修医室があり、電子カルテシステムも設置されています。また、一人1台iPadの支給があり、自由に自己研修等を行えます。その他、研修医専用の当直室、更衣室を設けています。



研修医室

令和6年度プログラム

当院では、次の【A】～【D】の4つのプログラムを用意しています。全てのプログラムとも、県内外多数の協力病院にて研修を行うことができます。また、研修計画の変更にも、2ヶ月前までの申し出であれば柔軟に対応いたしますので、希望に沿った臨床研修が可能です。
※臨床研修制度の改正に伴い、令和2年度からは週単位でのローテートとなっています。

A ベーシックプログラム

定員33名

例

科目 内 科 (20週) 総合内科 (4週)	救急科 (12週)	外 科 (4週)	小児科 (4週)	産婦人科 (4週)
地域医療 (4週)	精 神 科 (4週)	選 択 科 (48週)		

B 1年目福島医大・2年目協力病院プログラム

定員4名

例

科目 内 科 (20週) 総合内科 (4週)	救急科 (12週)	外 科 (4週)	小児科 (4週)	産婦人科 (4週)
------------------------------	--------------	-------------	-------------	--------------

1年間 協力病院にて、各病院のプログラムに沿った研修を行う。
※この間は、協力病院の身分・処遇となります。

C 1年目協力病院・2年目福島医大プログラム

定員4名

例

1年間 協力病院にて、Common diseaseを中心とした研修を行う。
※この間は、協力病院の身分・処遇となります。

地域医療 (4週)	精 神 科 (4週)	選 択 科 (44週)
--------------	---------------	----------------

《【B】・【C】プログラム協力病院》

- ・東京都健康長寿医療センター（令和6年度～）
- ・大原総合病院
- ・医療生協わたり病院
- ・福島赤十字病院
- ・星総合病院
- ・済生会福島総合病院
- ・公立藤田総合病院
- ・太田西ノ内病院
- ・総合南東北病院
- ・寿泉堂総合病院
- ・公立岩瀬病院
- ・白河厚生総合病院
- ・竹田総合病院
- ・会津医療センター附属病院
- ・会津中央病院
- ・いわき市医療センター
- ・福島労災病院
- ・公立相馬総合病院
- ・南相馬市立総合病院
- ・常磐病院
- ・米沢市立病院

D 小児科・産婦人科・周産期プログラム

定員4名

例

科目 小児科または産婦人科 (12週)	内 科 (20週) 総合内科 (4週)	救急科 (12週)
地域医療 (4週)	精 神 科 (4週)	外 科 (4週)
選 択 科 (44週)		

【共通留意事項】

- (1) 内科は、①循環器内科、②血液内科、③消化器内科、④リウマチ・膠原病内科、⑤腎臓・高血圧内科、⑥糖尿病・内分泌・代謝内科、⑦脳神経内科、⑧呼吸器内科、⑨総合内科、⑩腫瘍内科から自由に選択できます。
- (2) 外科は、①消化管外科、②呼吸器外科、③乳腺外科、④甲状腺・内分泌外科、⑤肝胆膵・移植外科、⑥小児外科、⑦心臓血管外科、⑧脳神経外科、⑨整形外科、⑩形成外科、⑪泌尿器科・副腎内分泌外科、⑫耳鼻咽喉科・頭頸部外科から選択できます。
- (3) ローテート順は希望を尊重し決定しますが、経験すべき症例数の確保や各科の受入可能数等により調整する場合があります。
- (4) 協力病院での研修は、プログラムの範囲内で希望に応じて調整します。ただし、最低12か月以上は医大での研修が必要です。
- (5) 内科・地域医療研修時に、一般外来研修を4週以上実施します。
- (6) 麻酔科研修は、4週を上限として救急研修期間とすることが可能です。

<研修計画スケジュール例>

【プログラムA】 ベーシックプログラム(定員33名)

□ …本院 □ …協力病院・協力施設

1年次	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	循環器内科	泌尿器科	小児科	産科 婦人科	救急科		麻酔・ 疼痛 緩和科	整形外科	脳神経 内科	消化器 内科	総合内科	消化管 外科
2年次	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	放射線科	放射線 治療科	小児科	リウマチ 膠原病 内科	整形外科	心身 医療科	地域医療	呼吸器 外科	糖尿病 内分泌 代謝内科	整形外科		リハビリ テーション 科

【プログラムB】 1年目福島医大・2年目協力病院プログラム(定員4名)

1年次	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	脳神経内科		総合内科		心臓 血管外科	血液内科	糖尿病 内分泌 代謝内科	小児科	救急科		麻酔・ 疼痛 緩和科	産科 婦人科
2年次	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	内科	消化器科	呼吸器 内科	循環器科	整形外科	放射線科	精神科	地域医療	小児科	腎臓内科	内科	皮膚科

【プログラムC】 1年目協力病院・2年目福島医大プログラム(定員4名)

1年次	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	救急科		消化器 内科	一般内科	内科	糖尿病 内科	循環器 内科		麻酔科		小児科	精神科
2年次	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	循環器 内科	乳腺外科	産科 婦人科	呼吸器 外科	救急科	地域医療	脳神 経外科	呼吸器 内科	検査部	腎臓 高血圧 内科	眼科	感染 制御部

【プログラムD】 小児科・産婦人科・周産期プログラム(定員4名)

1年次	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	小児科	皮膚科	救急科			消化器 内科	循環器 内科	脳神経 内科	リウマチ 膠原病 内科	腎臓 高血圧 内科	病理 診断科	
2年次	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	地域医療	心身 医療科	産科婦人科		小児外科		整形外科	小児科			耳鼻 咽喉科	小児科

研修プログラムの特徴

training program

01

19ある全ての基本領域で基幹施設として専門研修プログラムを運用しています。

02

希望する専門医資格が取得できるよう、基本領域の各プログラム責任者等と相談の上、最適な研修計画に基づき研修を行います。



麻酔科研修中



内視鏡研修中

03

専門医資格取得に必要な症例・症状等を確保するため、当院と研修協力病院で研修を行います。

研修協力病院は原則各学会の認定施設です。

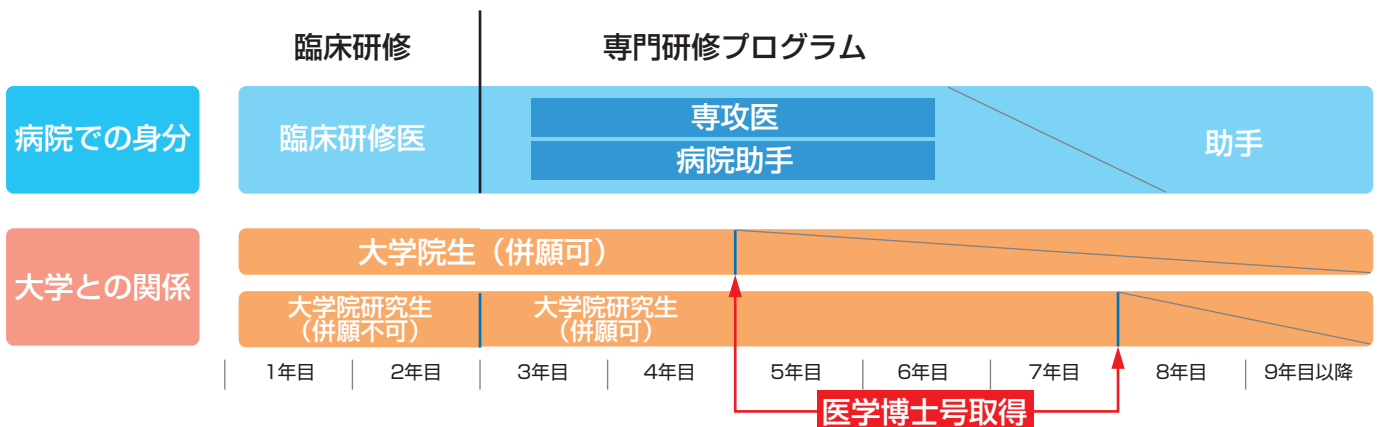
04

大学院・大学院研究生の併願が可能であるため、医師として働きながら、大学院教育を受けることで、より充実した専門研修が可能です。多くの専攻医が医学博士号（PhD）を並行して取得しています。

05

医師のキャリアを見据えた幅広い一貫した教育を支援していきます。

当院の臨床研修制度の全体像



専門研修プログラム一覧

附属病院では、平成30年度からスタートした専門医研修において、19全ての基本領域で、基幹施設として基本領域プログラムを運用しています。

当院において専門医研修を開始すれば、全ての基本領域・サブスペシャリティ領域の専門医を取得することができる予定です。

※日本専門医機構において、基本領域19専門医制度とサブスペシャリティ領域23専門医制度が認定されていますが、サブスペシャリティ領域は最終決定しているものではありません。

【サブスペシャリティ領域】〈3年間〉 ※最大2年間は基本領域と重複可

- 消化器内科（肝臓内科、消化器内視鏡） ●循環器内科 ●呼吸器内科 ●血液内科
- 内分泌代謝・糖尿病内科（内分泌代謝内科、糖尿病内科） ●脳神経内科
- 腎臓内科 ●膠原病・リウマチ内科 ●アレルギー ●感染症 ●老年科 ●腫瘍内科
- 消化器外科 ●呼吸器外科 ●心臓血管外科 ●小児外科 ●乳腺 ●内分泌外科
- 放射線治療 ●放射線診断 ●放射線カテーテル治療（認定予定）
- 集中治療（認定予定） ●脊椎脊髄外科(認定予定)

※その他の領域についても現在専門医機構で要件などを検討中

【基本領域（19領域）】〈3～5年間〉

- 内科 ●外科 ●皮膚科 ●産婦人科 ●耳鼻咽喉科 ●脳神経外科 ●麻酔科
- 小児科 ●精神科 ●整形外科 ●眼科 ●泌尿器科 ●放射線科 ●救急科
- リハビリテーション科 ●形成外科 ●病理 ●臨床検査 ●総合診療科

【臨床研修】〈2年間〉

【サブスペシャリティ連動研修】

<卒後年数>	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目
標準タイプ			基本領域専門医研修			サブスペシャリティ専門医研修			
サブスペシャリティ連動（重点）タイプ			基本領域専門医研修						
				サブスペシャリティ専門医研修					
			基本領域専門医研修				基本領域とサブスペシャリティの連動		
					サブスペシャリティ専門医研修				



臨床研修医(2年次)
矢部 秀尚

皆さんは研修病院をどのように選ぶでしょうか。福利厚生が手厚い病院、指導医からのフィードバックが多く、教育体制が整った病院など、様々な観点から研修病院を探し、自分に合った病院を選ぶことと思います。私の研修している福島県立医科大学附属病院には、他には無い強みがあります。それは、最高水準の医療体制のもとで、たくさんの症例に触れることができる、県内で唯一の大学病院であるという点です。プログラムも充実し、自分に合った研修計画を立てることができます。大学病院での研修は、モチベーション次第で2年間を非常に有意義なものとしてすることができますが、受動的な研修になってしまうと貴重な経験を気付かずに素通りしてしまいます。自主自律の精神に基づき、計画的に研修を進めることができる方に向いている研修病院と言えるのではないのでしょうか。

私はこの1年間でCommon Diseaseから希少疾患まで幅広く経験し、大学病院特有の高度な手技に立ち会う機会も多くありました。これらの経験は専攻医、更にその先でも非常に有意義なものになると考えています。難解な疾患に頭を悩ませることもありますが、指導医が多く教育体制が確立しているため、適切なフィードバックをいただけるのも魅力の一つと言えます。病院見学の際は、研修医に声をかけて、具体的な研修生活について聞いてみてくださいね。

私達と共に切磋琢磨し、医師としての素晴らしいスタートダッシュを切りませんか。



臨床研修医(2年次)
岩本 真由子

大学病院の初期研修ってどんないいところ、よくないところがあるのかな？市中病院と比べてどんな違いがあるのかな？と思っている方はたくさんいると思います。昨今の福島県の流れでは、市中病院を希望する方も多いようですが、大学病院だっているところはたくさんあります！

そこで福島県立医科大学の初期研修について、他県出身、他県の大学卒業生の私からですが、ちょこっとだけ皆様にお話したいと思います。

長々とお話すると読んでもらえないかもしれないので、以下簡単にまとめます。

「いいところ」

- ①手技と自主勉強どちらもできる！（執刀できる機会もあるかも）
- ②研修ローテーションは自分で自由に決められる！
- ③多様な科が揃っている！
- ④福利厚生、休日がしっかりある！
- ⑤他大学からの研修医も多い！
- ⑥専攻医（年齢の近い）の先生が多く、学べることが多い！
- ⑦自分の興味ある科はより深く学べる！
- ⑧大学の様々な医局を見て3年目以降の進路を決められる！
- ⑨たくさんの先生と仲良くなれる！

「ちょっといまいちかもしれないところ」

- ①Commonな症例が少ない…→外部の市中病院も研修できるので大丈夫です！
- ②お給料が少ない…→一般的な大学病院にしては少なくない！必要物品の補助金や日当直のご飯代、研修開始時のiPad mini支給等、他の面での支援も！
- ③手技が少ない…→専攻医の先生や教えてくださる先生が多い分、逆にできることもあります！

それでも市中病院の初期研修に魅力があるのもわかります。実際、私も市中病院での研修も捨てがたく、大学病院とのたすきがけという選択をしました。たすきがけであれば、どちらのいいところも経験できるのではないのでしょうか。

もしちょっとでも気になった方がいれば、実習や病院見学の際にぜひ研修医に声をかけてみてください！（勇気がいるかとは思いますが、研修医が大変喜びます。）

皆様の大事な初期研修選びに、少しでもいいヒントを与えることができれば幸いです。それでは大学病院でお待ちしております！



MESSAGE



専攻医1年次
(整形外科)
見城 剛史

福島県立医科大学附属病院の整形外科専攻医になり、早くも2か月が過ぎようとしています。新しい環境での勤務にまだ慣れず、診療に対して研修医時代よりも大きな責任を負っていることを実感しています。その中で、優しく熱心にご指導して下さる上級医の先生方がいて、まだまだ出来ないことばかりですが、少しずつ成長している自分も感じることが出来ています。

私は整形外科医である父の姿を見て育ち、昔から漠然と自分も同じ道に進むのだという思いがありました。初期研修で整形外科を経験し、全身の運動器を扱う多様さに魅力を感じ入局を決めました。実際に整形外科での勤務が始まると、想像していたよりも忙しい日々が待っていました。病棟業務や手術をはじめ、一般外来や救急外来、カンファランスの準備など日々こなさなくてはならない業務が目白押しでした。しかし当院では優しく頼れる先生方ばかりで、多くの指導を受けることができます。私は他大学の出身ではありますが、専門研修を行うにあたり出身大学は関係なく丁寧に指導いただけており、どんな方でも受け入れられる準備が整っています。

福島県立医科大学附属病院には専門医を目指すうえで最適なプログラムや充実した研修環境が整っており、密度の濃い専門研修を行うことが可能です。福島県で働きたいという方、充実した専門研修を行いたい方は、ぜひ当院の専門研修プログラムを選択してみてくださいはいかがでしょうか。迷っている方はぜひ一度、見学に来られて当院や医局の雰囲気などを実際に感じていただければと思います。皆様と働けることを心よりお待ちしております。



MESSAGE



専攻医1年次
(呼吸器内科)
針金 莉奈

私は、福島県立医科大学で6年間の大学生活を過ごしました。本学卒業後は、どのような専門に進んでも医療に貢献できる、総合力のある医師を目指して、福島赤十字病院で研修を行いました。福島赤十字病院は、福島県立医科大学と連携しており、二次救急疾患の研修が充実しているため、一般診療・当直に必要な幅広いスキルを学ぶことができました。専攻医となった今でも、日赤で学んだ知識が大変役立っています。

今年の春から呼吸器内科に入局し、熱く優しく頼もしい上級医の先生方のもとで学ばせていただいております。私は、内科医としての基礎を固めつつ、呼吸器内科医としてspecialityを構築していくにあたり、本学の内科プログラムは大変充実していると考え、当プログラムを選択いたしました。実際、呼吸器内科医として実臨床で経験を積みつつ、CV挿入や抗菌薬使用の講習会など、内科医としての総合的な技術を学ぶことができ、恵まれた環境で日々研鑽させていただいております。

また、安定した待遇で、大学院・大学院研究生として学べることもこのプログラムの魅力の一つです。私は学生時代より、MD-PhD生として基礎病理学講座に所属し、研究に携わらせていただいております。医師としてのスキルアップのサポートも手厚く、医局の先生方も臨床と研究を両立させており、研究を介した医療貢献に役立っているようです。

アレルギー疾患や膠原病、腫瘍など幅広い疾患を扱う呼吸器内科で、福島の医療に貢献できるよう、今後とも精進して参ります。

- 1) 循環器病に関する高度な専門的医療と幅の広い内科領域の診療をバランスよく実践する
- 2) 臨床の現場での問題提起を基にした循環器病学の先進的基礎・臨床研究
- 3) 最新の知識と技術による救急医療を含む、あらゆる内科的患者への対応能力を養う研修

指導医(スタッフ)紹介



病院長
竹石 恭知

群馬県立前橋高等学校卒業
昭和62年 山形大学医学部卒業
研修病院・研修施設
石巻赤十字病院
Good Samaritan Hospital (LA)
University of Cincinnati
Case Western Reserve University
INSERM
University of Göttingen
臨床専門分野
循環器内科学
研究分野
1) 心不全の分子機序
2) 細胞内シグナル伝達
3) 画像診断
趣味：スキー、スキューバダイビング

学会活動

- 1) 日本心臓病学会(代表理事)
- 2) 日本心不全学会(理事)
- 3) 日本心臓核医学学会(前理事長)
- 4) 国際心臓研究学会(副理事長)
- 5) Fellow of the American Heart Association (FAHA)
- 6) Fellow of the European Society of Cardiology (FESC)
- 7) Fellow of the American College of Cardiology (FACC)
- 8) International Society for Heart Research (FISHR)
- 9) Circulation Journal (Associate Editor)
- 10) Journal of Cardiology (Former Editor-in-Chief)



教授
石田 隆史

広島学院高等学校卒業
昭和62年 広島大学医学部医学科卒業
平成6年 広島大学大学院医学系研究科修了
研修病院・研修施設
静岡県立総合病院、University of Washington
臨床専門分野
1) 循環器疾患全般
2) 動脈硬化
3) 高血圧
研究分野
1) 心血管疾患とDNA損傷
2) 心血管疾患と老化
3) 細胞内シグナル伝達



保健科学部臨床検査学科
兼務(教授)
義久 精臣

千葉県立千葉東高等学校卒業
平成10年 福島県立医科大学卒業
研修病院・研修施設
福島県立医科大学
臨床専門分野
1) 循環器内科学
2) 心不全
3) 睡眠時無呼吸症候群
研究分野
1) 心不全と併存疾患
2) 心臓病と生活習慣病
3) 心臓病と睡眠時無呼吸症候群



地域医療支援センター
兼務(教授)
中里 和彦

福島県立磐城高等学校卒業
平成4年 福島県立医科大学卒業
研修病院・研修施設
福島県立医科大学
臨床専門分野
1) 虚血性心疾患
2) 肺高血圧症
3) カテーテルインターベンション
研究分野
1) 急性冠症候群
2) 肺高血圧症



副部長(講師)
及川 雅啓

宮城県立仙台第一高等学校卒業
平成12年 福島県立医科大学卒業
研修病院・研修施設
福島県立医科大学
臨床専門分野
1) 循環器病学
2) 心臓イメージング
研究分野
1) 心不全の分子機序
2) 腫瘍循環器
趣味：天体観察、野鳥観察



ふたば救急総合医療支援センター
兼務(准教授)
杉本 浩一

福島県立磐城高等学校卒業
平成9年 福島県立医科大学卒業
研修病院・研修施設
福島県立医科大学
臨床専門分野
1) 循環器病学
2) 肺循環
研究分野
1) 肺高血圧症



講師
金城 貴士

福島県立安積高等学校卒業
平成13年 山形大学医学部卒業
研修病院・研修施設
福島県立医科大学
臨床専門分野
1) 循環器病学
2) 臨床電気生理学
研究分野
1) 臨床電気生理学
趣味：ゴルフ



部長(准教授)
八巻 尚洋

福島県立福島高等学校卒業
平成9年 福島県立医科大学卒業
研修病院・研修施設
福島県立医科大学
臨床専門分野
1) 循環器病学
2) カテーテルインターベンション
研究分野
1) 心筋保護
2) イメージング



学内講師
佐藤 崇匡

宮城県立仙台第一高等学校
平成14年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 循環器病学
2) 心不全
3) 補助循環
研究分野
1) 運動生理



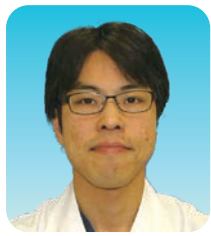
地域先端循環器病治療学講座兼務(准教授・医局長)
小林 淳

宮城県立仙台第二高等学校卒業
平成10年 福島県立医科大学卒業
研修病院・研修施設
福島県立医科大学
臨床専門分野
1) 循環器病学
2) 心臓超音波
研究分野
1) 画像診断
2) 心臓弁膜症
趣味：テレビのスポーツ観戦



心臓調律制御医学講座兼務(准教授)
山田 慎哉

福島県立原町高等学校卒業
平成15年 岩手医科大学卒業
臨床専門分野
1) 循環器病学
2) 臨床電気生理学
研究分野
1) 臨床電気生理学
趣味：野球観戦



地域先端循環器病治療学講座
兼務(講師)

三阪 智史

福島県立安積高等学校卒業
平成16年 山形大学医学部卒業
研修病院・研修施設
総合南東北病院、福島県立医科大学、
King's College London

臨床専門分野
1) 循環器内科学
2) 睡眠時無呼吸症候群
3) 心不全

研究分野
1) 心血管疾患のトランスレーショナル研究
2) 心不全の分子メカニズム
3) 心血管疾患と臓器連関



学内講師
清水 竹史

福島県立福島高等学校卒業
平成20年 富山大学医学部卒業
研修病院・研修施設
医療生協わたり病院
福島県立医科大学

臨床専門分野
1) 循環器病学
2) カテーテルインターベンション
研究分野
1) 虚血性心疾患

専門研修プログラム

【循環器】

	修得すべき手技や手術経験目標数など
1年次 (卒業3年)	内科全般の領域にわたる診察及び患者さんとの信頼関係の構築、及び循環器専門医療の実践(150) 急性冠症候群や急性心不全を含む救急医療の実践(30) 中心静脈栄養(10) 冠動脈造影、カテーテルアブレーションを含めた心臓カテーテル検査(第二術者)(50) EPSを含めた心電図解析(150) 通常型ペースメーカーの植え込み(第二術者)と管理(10) 心臓リハビリテーションの実施 画像診断 体表面心エコー(100) 経食道エコー(10) 心臓核医学(150) 冠動脈CT(30) 1回以上の学会発表
2年次	上記に加えて、冠動脈造影、カテーテルアブレーションを含めた心臓カテーテル検査(第一術者)(30) 通常型ペースメーカーの植え込み(第一術者)(10) 1回以上の学会発表と1つの症例報告
3年次	上記に加えて、経皮的冠動脈形成術(第二術者)(30) 他科的疾患を複数合併した循環器患者のトータルケア(50)
4年次	経皮的冠動脈形成術(第一術者)(30) 慢性心不全・心臓突然死に対するペースメーカー(CRT-D)療法(第二術者)(10)

大学院・留学について

当大学の規定に沿った大学院進学が可能であり、おすすめ致します。専門医と博士号の同時取得が可能です。国内外の留学もみなさんにおすすめしています。留学例としては、ワシントン大学、カリフォルニア大

学、ロチェスター大学、ノースウェスタン大学、エラスムス大学、ベルン大学、ローザンヌ大学、キングスカレッジ・ロンドン、ASKLEPIOS Klinik St. Georg (ドイツ)、Taipei Veterans General Hospital (台湾)、ケベック大学、国立循環器病センター、榊原記念病院、心臓血管研究所などがあります。

専門医受験資格のために必要とされる技能・手技目標

- ・内科専門医
基幹病院(大学)と連携病院で3年以上のプログラム研修に参加すること。試験は症例病歴要約提出+筆記試験となる。
- ・循環器専門医
内科専門医を取得後に受験可能。試験は症例病歴要約提出+筆記試験となる。

連携施設

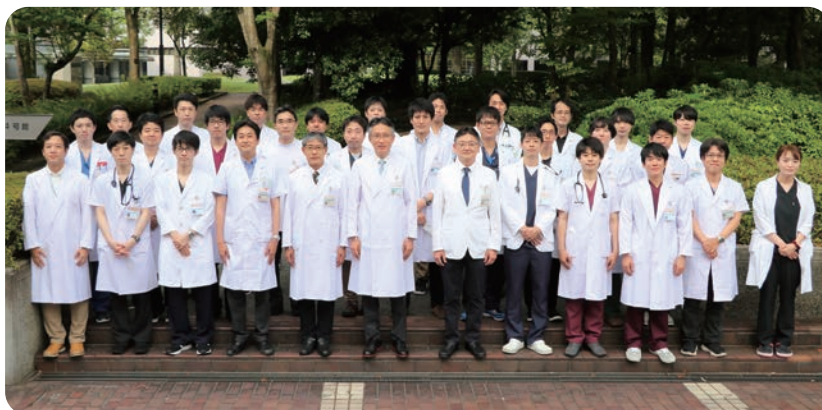
関連病院名	所在地	指導医名	職名
1 星総合病院	郡山市	越田 亮司	循環器内科部長
2 太田西ノ内病院	郡山市	小松 宣夫	循環器センター長
3 総合南東北病院	郡山市	小野 正博	循環器科科長
4 大原総合病院	福島市	齋藤 修一	副院長
5 福島赤十字病院	福島市	大和田尊之	副院長
6 済生会福島総合病院	福島市	山口 修	医長
7 白河厚生総合病院	白河市	齋藤 富善	副院長
8 須賀川病院	須賀川市	津田 達徳	顧問
9 福島県立医科大学会津医療センター	会津若松市	玉川 和亮	循環器内科講師
10 福島労災病院	いわき市	吉成 和之	主任部長
11 公立相馬病院	相馬市	安藤 勝也	診療部長
12 米沢市立病院	米沢市	上北 洋徳	第一内科長
13 竹田総合病院	会津若松市	鈴木 聡	科長

指導医からのメッセージ

専門医取得等の目先の目標だけでなく、皆さんが活躍するこれからの約50年間の未来を見据えて、救急医療から老年医療まで内科医として幅広く活躍できるように協力させていただきます。

循環器疾患に関しては、虚血性心疾患、末梢動脈疾患、構造的な心疾患、肺高血圧症などの心血管疾患や不整脈、心不全、その危険因子である睡眠時無呼吸、高血圧、糖尿病、脂質異常症などを系統立てて、包括的に診療できるシステムを構築しています。

臨床・基礎研究や留学経験を通じて、指導的立場からリーダーシップを発揮する医療者の育成に熱心に取り組んでいます。関連施設が充実し、何よりも若い人材を大切に当科で共に学んでいきましょう。



- 1) 血液がんに対する高度な専門的医療と幅の広い内科領域の診療をバランスよく実践する。
- 2) 造血幹細胞移植を通じてあらゆる内科的疾患への対応能力を養う研修。
- 3) 臨床の現場での問題提起を基にした血液病学の先進的基礎・臨床研究。

指導医(スタッフ)紹介



血液内科
部長(主任教授)
池添 隆之

愛光学園(愛媛県)卒業
平成5年 高知医科大学医学部卒業
研修病院・研修施設
高知医科大学
Cedars-Sinai Medical Center, UCLA
School of Medicine
臨床専門分野
1) 造血器腫瘍
2) 造血幹細胞移植
3) 血栓・止血
研究分野
1) 白血病の新規治療標的分子の探索
2) 血管内皮細胞学
3) 移植後合併症の予防法の開発
趣味: トレッキング、ジョギング

学会活動

- 1) 日本内科学会(評議員)
- 2) 日本血液学会(評議員)
- 3) 日本造血・免疫細胞療法学会(評議員)
- 4) 日本臨床腫瘍学会(評議員)
- 5) 日本血栓止血学会(理事)
- 6) American Society of Hematology
- 7) American Society for Cancer Research



医局長(講師)
木村 哲

福島県立安積高等学校卒業
平成10年 杏林大学卒業
研修病院・研修施設
福島県立医科大学
臨床専門分野
1) 血液病学
2) HIV感染症
研究分野
1) 動脈硬化



助手 **深津 真彦**

福島県立会津高等学校卒業
平成26年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 血液病学
研究分野
1) 血液病学

講師 **小山 大輔**

福島県立安積高等学校卒業
平成19年 自治医科大学卒業
臨床専門分野
1) 造血器腫瘍
2) 分子標的療法
研究分野
1) 造血器疾患
2) 細胞内代謝



助手 **林 清人**

千葉県市川高等学校卒業
平成23年 川崎医科大学卒業
臨床専門分野
1) 造血器腫瘍
2) 造血幹細胞移植
研究分野
1) 造血器腫瘍
趣味: 読書



助教 **高橋 裕志**

福島県立磐城高等学校卒業
平成15年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 血液病学
研究分野
1) 血液病学



助手 **佐野 隆浩**

福島県立安積高等学校卒業
平成25年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 血液病学
研究分野
1) 血液病学 造血幹細胞制御
趣味: スキー、ダイビング



助教 **高野 幹**

福島県立福島高等学校卒業
平成25年 岩手医科大学卒業
臨床専門分野
1) 血液内科学
研究分野
1) 多発性骨髄腫の細胞株を用いた基礎研究
趣味: 温泉巡り



助手 **浅野奈緒美**

福島県立会津高等学校卒業
令和2年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 血液病学
研究分野
1) 血液病学
趣味: 歌うこと

専門研修プログラム

【血液】

	修得すべき手技や手術経験目標数など
知識	<ul style="list-style-type: none"> 血液疾患における診断法と化学療法、造血幹細胞、分子標的療法を含めた治療法 単純X線、CT、MRI、PET等の読影と診断 感染症治療、輸血などの支持療法 悪性リンパ腫等の病理組織的知識 放射線療法及び外科的処置の知識 EBMに基づいて血液疾患患者の治療計画と見通しを立て、個々の患者に応じた適切な治療管理をコーディネートできる
実技	<ul style="list-style-type: none"> 末梢血液塗抹標本の作成と鏡検 骨髓穿刺および塗抹標本の作成と鏡検、骨髓生検 髄液検査及び抗腫瘍漬の髄腔内注入 種々の画像読影 造血幹細胞採取（骨髓採取および末梢血幹細胞採取） 化学療法 免疫抑制療法 造血幹細胞移植 全身管理 心中静脈カテーテル挿入
学術・研究	<ul style="list-style-type: none"> 年1回以上の学会発表及びその論文作成 研究（臨床研究、橋わたし研究、基礎研究）

大学院・留学について

当大学の規定に沿った大学院進学が可能であり、おすすめ致します。専門医と博士号の同時取得が可能です。

国内外の留学もみなさんにおすすめしています。

留学例としては、カリフォルニア州立大学ロサンゼルス校、シンガポール国立大学などがあります。

専門医受験資格のために必要とされる技能・手技目標

・内科専門医

認定内科医を保有し、学会指定研修教育病院で3年間以上の研修歴があること。試験は約20例の症例病歴要約提出＋専門医筆記試験となる。

・血液専門医

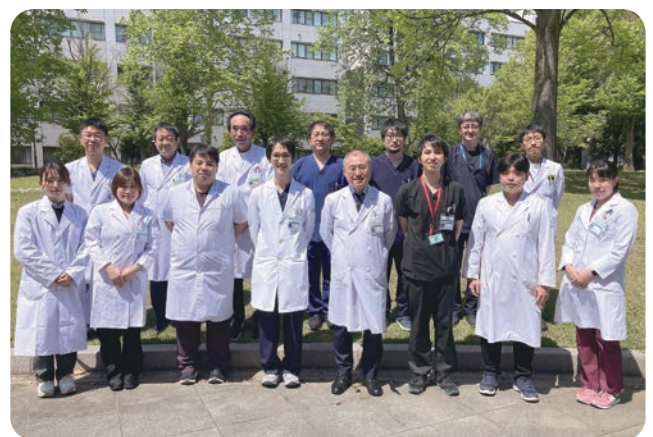
認定内科医を保有し、卒後6年以上の臨床研修（そのうち3年以上は日本血液学会指定研修施設で研修）＋日本血液学会会員歴が3年以上であること。また、臨床血液学に関係した筆頭者として学会発表又は論文が2つ以上あること。試験は15例の診療実績記録＋専門医筆記試験となる。

連携施設

	関連病院名	所在地	指導医名	職名
1	北福島医療センター	伊達市	甲斐 龍幸	血液疾患センター長
2	太田西ノ内病院血液疾患センター	郡山市	斎藤由理恵	血液疾患センター次長
3	白河厚生総合病院	白河市	三田 正行	血液腫瘍センター長
4	福島県立医科大学会津医療センター	会津若松市	大田 雅嗣	血液内科教授
5	いわき市医療センター	いわき市	濱崎 洋一	血液内科主任部長

指導医からのメッセージ

血液内科では貧血などの日常しばしば遭遇する良性疾患から、白血病をはじめとする血液がんまで幅広く診療を経験することができます。大多数の血液がんの患者さんには中心静脈カテーテルを挿入して抗がん剤治療を行いますから、その手技を研修期間中に習得することができます。抗がん剤治療後は感染症をほぼ必発するため、抗生剤の適正な使用法を習熟することが可能です。わたしたちの施設では、造血幹細胞移植をコンスタントに毎月2～3例行っており、抗がん剤や免疫抑制剤の使用法のみならず、疼痛緩和における麻薬の使用法などについても学ぶ機会に恵まれます。移植後は感染症だけでなく、電解質異常、肝障害や腎障害など、さまざまな合併症を併発するため全身管理についても深く学べます。また、私たちは目の前の患者さんを治療するだけではなく、今後さらに血液がんの治療成績を改善するために基礎研究も盛んに行っています。希望者には国内外を問わず若い時期からの留学も積極的に勧めており、globalに活躍する人材の育成に努めています。新専門医制度に対応するために平成28年度に新たに設けられた講座です。是非、若いみなさんと一緒に頑張っていきたいと思っています！



- 1) 消化器診療を専門領域として担当している。
- 2) 充実した指導医による消化器疾患の診療教育を行っている。
- 3) 内科、消化器、内視鏡、肝臓の認定医、専門医、指導医の資格を取得できる。

指導医(スタッフ)紹介



部長(主任教授)
大平 弘正

福島県立磐城高等学校卒業
昭和62年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 自己免疫性肝疾患の診断と治療
2) 肝細胞癌の内科的治療
3) ウイルス性肝炎の治療
研究分野
1) 自己免疫性肝疾患の病態解析

学会活動

- 1) 日本内科学会(評議員・指導医・総合内科専門医)
- 2) 日本消化器病学会(理事・評議員・指導医・専門医)
- 3) 日本肝臓学会(評議員・指導医・専門医)
- 4) 日本消化器内視鏡学会(支部評議員・専門医)
- 5) 日本消化器免疫学会(理事)
- 6) 日本消化管学会(専門医)
- 7) 日本膵臓学会(指導医)
- 8) 日本老年医学会(指導医・専門医)



副部長(准教授)
高木 忠之

福島県立磐城高等学校卒業
平成9年 秋田大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 消化器内科、胆膵疾患
2) 消化器内視鏡治療
研究分野
1) 膵癌の診断と治療
2) 新たな内視鏡手技の開発
3) 食道・胃静脈瘤の内視鏡診断と治療



助教 杉本 充

福島県立福島高等学校卒業
平成19年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 消化器内科
2) 胆膵疾患
研究分野
1) 膵癌の診断



准教授 高橋 敦史

福島県立磐城高等学校卒業
平成10年 福島県立医科大学卒業
平成14年 福島県立医科大学大学院
医学研究科修了
臨床専門分野
1) 自己免疫性肝疾患の診断と治療
2) 肝癌の診断と治療
3) 慢性肝炎・肝硬変の診断と治療
研究分野
1) 自己免疫性肝疾患の臨床研究
2) 非アルコール性脂肪肝疾患の病態



助教 林 学

福島県立磐城高等学校卒業
平成20年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 消化器内科
2) 肝細胞癌治療
研究分野
1) 自己免疫性肝疾患の病態



講師 阿部 和道

新潟県立新潟南高等学校卒業
平成11年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 消化器内科
2) 自己免疫性肝疾患の診断と治療
3) 肝炎、肝癌の診断と内科的治療
研究分野
1) 自然免疫と疾患(マウス肝疾患モデル)
2) 自己免疫性肝疾患の病態解明



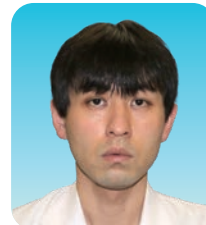
助教 川島 一公

私立海城高等学校(東京都)卒業
平成22年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 消化器内科
2) 消化管内視鏡治療
研究分野
1) 大腸疾患の診断・治療
2) 新規内視鏡治療の開発



助教 鬼澤 道夫

福島県立安積高等学校卒業
平成13年 岩手医科大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 消化器内科
2) 炎症性腸疾患の診断と治療
研究分野
1) 炎症性腸疾患治療の最適化に関する研究
2) 大腸癌の病態解明に関する研究
3) 腸と全身疾患の関連に対する研究



助教 佐藤 雄紀

福島県立福島高等学校卒業
平成23年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 消化器内科
2) 胆膵疾患
研究分野
1) 膵癌の診断



学内講師 鈴木 玲

福島県立原町高等学校卒業
平成16年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 消化器内科・一般内科
2) 胆膵疾患の診断と治療
研究分野
1) 胆膵癌の早期診断マーカーの検索に関する研究
2) 胆膵癌の抗腫瘍感受性に関する研究
3) 新たな治療内視鏡に関する研究
趣味: 読書、ランニング、サイクリング、スイミング



助教 藤田 将史

福島県立福島高等学校卒業
平成23年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 消化器内科
2) 肝疾患
研究分野
1) 自己免疫性肝疾患の病態



助手 入江 大樹

福島県立福島高等学校卒業
 臨床専門分野
 1) 消化器内科
 2) 胆膵疾患
 研究分野
 1) 胆膵癌の化学療法

専門研修プログラム

【大学病院と地域中核病院にて研修を行う】

	修得すべき手技や手術経験目標数など
1 年次 (卒業3年)	<p>基本的な消化器検査手技を通じて、各種消化器病の病態と治療を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 腹部超音波検査：年間100例の検査に携わり超音波解剖と原理を理解する。 2. 上部消化管内視鏡検査：通常観察を中心に、上部内視鏡検査を行う(年間200件以上)。また、治療内視鏡の介助も行い、緊急時の対応もできるようにする。下部消化管内視鏡・胆膵内視鏡に関しては、介助を中心にを行い、各種検査・治療手技を理解することに重点を置く。 3. 消化管X線透視検査：上部消化管および下部消化管に対するX線透視検査の基本的技術を学ぶ(上下部で40例)。また、読影技術も学ぶ。 4. 上記のほか各種検査治療手段(肝生検、PEIT、腹部血管造影、PTBD、イレウス管挿入など)の介助に入り、治療手技の基本を学ぶ。
2 年次	<p>1年次に学んだ各種検査についてはさらに症例を重ねて研鑽を積む。特に腹部超音波検査と上部消化管内視鏡検査は、年間200例以上を術者として施行する。また、下部消化管内視鏡検査も術者として学び、年間20例以上は施行する。胆膵内視鏡や治療に関しては介助を中心に行うが、簡易な手技(胃ポリペクトミーなど)に関しては術者として施行することを目標とする。また、1年次同様に肝生検、PEIT、腹部血管造影、PTBD、イレウス管挿入などの各種検査治療手技も介助者として手技の基本を学び術者となることへの十分な知識と経験を積む。</p>
3 年次	<p>過去2年間で行ってきた各種検査についてはさらに症例を重ねて研鑽を積む。胆膵内視鏡に関しては、年間20症例以上は術者として手技に携わる。また、比較的簡便な治療内視鏡手技も術者として施行できるようにする。(APCによる焼灼手技、内視鏡的局所注入による治療など)。また、その他の消化器疾患に対する検査治療手技に関しては、比較的簡便な手技は指導医の立会いの下で術者としても携わり広く経験を積む。</p>
4 年次	<p>これまでに学んできた消化器診療手段をもう一度基本から応用手技まで見直し、後期研修最終学年として後輩への指導も含めて一般的な消化器検査治療手技は独り立ちできるようにする。超音波内視鏡についても学び、年間20症例は術者として施行し、超音波内視鏡下生検も経験する。この他、経皮的な穿刺手技(肝生検、PEIT、PTBD)なども介助のみならず術者として施行できるようにする。この最終学年では、単に消化器診療手技だけでなく、総合的な治療戦略も理解・立案できるようにして、視野の広い消化器専門医を目指す。</p>

大学院・留学について

大学院生・大学院研究生との併願を認めており、専門医と博士号の同時取得が可能です。国内(国立がんセンター、神奈川県立がんセンター、栃木県立がんセンター、久留米大学、東京医科歯科大学、愛知県がんセンター)、国外(NIH、Yale、MUSC、UCSD、Florida、Texas)留学の実績があります。

専門医受験資格のために必要とされる技能・手技目標

消化器病学会専門医・消化器内視鏡学会専門医・肝臓学会専門医の取得を目指し、各種消化器病に対する幅広い知識を身につけ、適切な治療方針を立案できるようにし、かつ標準的な治療手技を身につけることを目標とする。特に、消化器内視鏡学会専門医取得のためには、上部消化管内視鏡検査が1,000件以上、下部消化管100件以上、治療内視鏡20例の経験が必要であり、治療内視鏡手技に関してはレポート提出が求められている。ポリペクトミーといった基本的な治療手技をはじめとして、消化管出血に対する内視鏡的止血、消化管異物除去、内視鏡的粘膜剥離術、胆管結石治療、悪性狭窄に対する内視鏡的ステント挿入、など、幅広い内視鏡治療手技を身につけていただく。

連携施設

	関連病院名	所在地	指導医名	職名
1	大原綜合病院	福島市	渡辺 晃	消化器内科主任部長
2	福島赤十字病院	福島市	黒田 聖仁	内科・消化器科部長
3	済生会福島綜合病院	福島市	赤塚 英信	副院長
4	公立藤田綜合病院	国見町	近藤祐一郎	院長
5	太田西ノ内病院	郡山市	迎 慎二	副院長
6	星綜合病院	郡山市	石野 淳	消化器内科部長
7	公立岩瀬病院	須賀川市	片倉 響子	副院長
8	公立相馬綜合病院	相馬市	熊川 宏美	名誉院長
9	塙厚生病院	塙町	佐川 恵一	院長
10	福島労災病院	いわき市	江尻 豊	副院長
11	会津医療センター	会津若松市	澁川 悟朗	消化器内科部長

指導医からのメッセージ

消化器内科は基本的な内科系の知識・技量が備わった上でその専門性が初めて発揮される診療科です。後期研修を幅広い診療を行う当講座でぜひ学んでみてください。

- 1) 膠原病診療を専門領域として担当している。
- 2) 充実した指導医による、リウマチ、膠原病、アレルギー疾患の診療教育を行っている。
- 3) 内科、リウマチ、アレルギー学会の認定医、専門医、指導医の資格を取得できる。

指導医(スタッフ)紹介



部長(主任教授)
右田 清志

長崎県立長崎北高等学校卒業
昭和58年 長崎大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 関節リウマチ
2) 膠原病
3) 自己炎症疾患
研究分野
1) 自己炎症疾患の病態解明
2) 関節リウマチ滑膜炎の分子機構

学会活動

- 1) 日本内科学会(指導医・総合内科専門医)
- 2) 日本リウマチ学会(評議員、指導医、専門医)
- 3) 日本臨床免疫学会(評議員)
- 4) 日本肝臓学会
- 5) 日本炎症再生医学学会
- 6) 日本自己炎症学会(理事)



准教授
佐藤 秀三

山形県立鶴岡南高等学校卒業
平成14年 福島県立医科大学卒業
平成20年 福島県立医科大学大学院
医学研究科修了
臨床専門分野
1) 膠原病
2) 関節リウマチ
研究分野
1) 全身性エリテマトーデスの病態
2) 自己免疫疾患の新規治療の開発



助教 藤田 雄也

兵庫県立長田高等学校卒業
平成27年 長崎大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 膠原病
2) 関節リウマチ
3) 自己炎症病態
研究分野
1) 関節リウマチの活動性指標
2) 自己炎症疾患の病態解明



講師 浅野 智之

福島県立福島高等学校卒業
平成17年 福島県立医科大学卒業
平成27年 福島県立医科大学大学院
医学研究科修了
臨床専門分野
1) 膠原病
2) 関節リウマチ
研究分野
1) 中枢神経ループスの診断マーカー
2) 関節エコーによる画像診断



助手 松本 聖生

平成30年 福島県医科大学卒業
臨床専門分野
1) 膠原病
2) 関節リウマチ
3) 自己炎症性疾患
研究分野
1) 関節リウマチの病態
趣味 御朱印集め



病院助手
松岡 直紀

福島県立福島高等学校卒業
平成24年 杏林大学医学部医学科卒業
臨床専門分野
1) 膠原病
2) 自己炎症疾患
研究分野
1) 全身性エリテマトーデスの病態



助手 吉田 周平

福島県立磐城高等学校卒業
平成31年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 膠原病
2) 大型血管炎
3) 自己炎症性疾患
研究分野
1) 自己炎症疾患の病態解明



助教 天目 純平

学校法人作新学院高等学校卒業
平成25年 秋田大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 膠原病
2) 関節リウマチ
研究分野
1) 間質性肺炎合併筋炎における予後不良
因子の同定
趣味: 海外旅行

専門研修プログラム

【大学病院と地域中核病院にて研修を行う】

	修得すべき手技や手術経験目標数など
研修1年目	<p>専門医：日本リウマチ学会リウマチ専門医 知識：プライマリーケアに関する隔たりのない知識を身につける。 基本的な病態（炎症、虚血、変性、腫瘍性・非腫瘍性増殖など）を理解する。 臨床免疫（生体防御、自己免疫反応）について理解する。 関節リウマチ、膠原病の病態に関する基礎知識を理解する。</p> <p>実技：リウマチ・膠原病に特徴的な身体所見（心、肺、皮膚、粘膜、関節、筋等）の取り方を習得する。 緊急処置あるいは外科的処置の適応を判断できる。 内科的クリティカルケア（心肺蘇生、動脈穿刺、中心静脈栄養管理等）ができる。 指導医と共に入院患者を受け持ち、治療に参加する（経験到達目標症例20例）。</p> <p>学術研究：学術集会において症例報告の演者として発表する。</p>
研修2年目	<p>専門医：日本リウマチ学会リウマチ専門医 知識：プライマリーケアに関する隔たりのない知識を身につける。 リウマチ・膠原病疾患の診断基準を理解する。 ステロイド、免疫抑制薬、抗リウマチ薬の作用機序および副作用を理解する。</p> <p>実技：診断基準に即してリウマチ・膠原病疾患の診断ができる。 免疫学的検査の評価ができる。 指導医と共に入院患者を受け持ち、治療に参加する（経験到達目標症例20例）。</p> <p>学術研究：学術集会において症例報告の演者として発表する。</p>
研修3年目	<p>専門医：日本リウマチ学会リウマチ専門医 知識：リウマチ・膠原病疾患の診断基準および治療法を理解する。 臨床研究論文を理解する。</p> <p>実技：診断基準に即してリウマチ・膠原病疾患の診断ができる。 リウマチ・膠原病疾患の治療法について説明できる。 指導医と共に入院患者を受け持ち、治療に参加する（経験到達目標症例20例）。 指導医と共に外来患者の診察をする。</p> <p>学術研究：学術集会において症例報告の演者として発表し、論文を作成する。 分担者として臨床あるいは基礎研究に参加する。</p>

【週間スケジュール例（大学）】

月	午前／病棟・外来業務	午後／症例検討会
火	午前／病棟・外来業務	午後／病棟業務
水	午前／病棟・外来業務	午後／病棟業務
木	午前／教授回診	午後／関節エコー・抄読会
金	午前／病棟・外来業務	午後／論文作成

大学院・留学について

大学院生・大学院研究生との併願を認めており、専門医と博士号の同時取得が可能です。国内（筑波大学）、国外（サウスカロライナ医科大学、カリフォルニア大学サンディエゴ校）留学の実績があります。

専門医受験資格のために必要とされる技能・手技目標

- ・日本リウマチ学会が認定した教育施設において通算3年以上の研修を行い学会の定める30単位以上を取得すること。
- ・日本専門医制評価・認定機構が認定している基本領域学会の認定あるいは専門医の資格を有すること。

連携施設

	関連病院名	所在地	指導医名	職名
1	福島赤十字病院	福島市	宮田 昌之	リウマチ・膠原病センター長
2	公立藤田総合病院	国見町	鈴木 修三	内科部長兼教育研修センター長
3	済生会川俣病院	川俣町	大庭 敬	副院長
4	済生会川俣病院	川俣町	渡辺 浩志	院長
5	太田西ノ内病院	郡山市	鈴木 英二	リウマチ科部長
6	福島労災病院	いわき市	佐々島朋美	リウマチ・膠原病内科主任部長

指導医からのメッセージ

リウマチ・膠原病学は基礎研究の成果がどんどん臨床に応用され、まさに“bench to bedside”を実感できる時代を迎えています。最先端の研究に携われる一方、臨床においては内科医として基本的な知識・技量を身につけないと専門性を発揮することはできません。総合診療と専門診療の両方を高いレベルで実践したい方には是非おすすめします。



診療科(講座)紹介

腎臓高血圧内科は体液維持を専門とする内科の分野です。体液維持の要となる腎臓を守るため、その疾患である慢性腎臓病や急性腎障害の治療にあたります。腎臓を侵す全身性疾患である糖尿病、尿酸代謝異常、膠原病関連疾患にも対応します。また、相対的・絶対的に機能が追い付かなくなった腎臓に替わって体液管理を代行します。具体的には輸液療法を介した水・電解質・酸塩基平衡管理、血管内容量と細胞外液量の相対的異常によって引き起こされる血圧異常や溶質を規定する塩である骨の代謝異常に対する薬物治療、更に腎臓の機能が廃絶した場合はこれを完全に代行する血液透析や腹膜透析などを施行します。体液維持は全身管理の基本であるため、他臓器の疾患治療に協力する機会が多いことも腎臓高血圧内科の特徴です。

指導医(スタッフ)紹介



主任教授
風間 順一郎

米国ベイ・ハイスクール／新潟第一高等学校卒業
昭和62年 新潟大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 腎臓病
2) 血液浄化療法
3) 骨粗鬆症
研究分野
1) 尿毒症病態の解析
2) 骨ミネラル代謝学



助教 小田 朗
(留学中)

青雲高等学校(長崎県)卒業
平成25年 福島県立医科大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 腎臓病学
研究分野
1) 透析



人工透析センター部長(准教授)
田中 健一

東京都立町田高等学校卒業
平成13年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 腎臓病学・透析
研究分野
1) 慢性腎臓病・腎不全下での心血管合併症の成因



助手(兼務)
岩崎 剛史

福島県立安積高等学校卒業
平成26年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 腎臓病学
2) 透析学
研究分野
1) 骨ミネラル代謝学



准教授
木村 浩
(先端域生活習慣病治療学講座)(兼務)

福島県立福島高等学校卒業
平成18年 福島県立医科大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 腎臓病、高血圧
研究分野
1) 大規模データベースを用いた慢性腎臓病進行抑制に関する因子の疫学的研究
趣味：旅行、英会話



助手(兼務)
齋藤 浩孝

福島県立白河高等学校卒業
平成27年 福島県立医科大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 腎臓病学
研究分野
1) 腎臓病
趣味：飲酒、ライブ・フェス、テニス、漫画、ハイビスカス



講師 東 淳子

京都府 京都教育大附属高等学校卒業
平成12年 京都大学卒業
臨床専門分野
1) 腎臓内科学
研究分野
1) 腎組織再生、腎繊維化、糸球体障害
趣味：庭いじり



病院助手
藤原もも子

水戸葵陵高等学校(茨城県)卒業
平成28年 福島県立医科大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 腎臓病学
研究分野
1) 腎臓病



学内講師(兼務)
渡邊 公雄

福島県立福島高等学校卒業
平成18年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 腎臓内科学全般
研究分野
1) 慢性肝臓病と脳機能に関わる臓器連関障害
趣味：子ども(3姉妹)とお出かけ



助手(兼務)
佐藤 敦也

いわき秀英高校(福島県)卒業
平成30年 福島県立医科大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 腎臓病学
研究分野
1) 腎臓病



助手(兼務)
渡邊 凱

仙台育英学園 秀光中等教育学校(宮城県)卒業
平成30年 福島県立医科大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 腎臓病学
研究分野
1) 腎臓病
趣味: 音楽鑑賞、テニス

専門研修プログラム

	修得すべき手技や手術経験目標数など
1年次	輸液療法、血圧管理、腎疾患患者の病棟管理。
2年次	上記に加え、腎疾患患者・高血圧患者の外来管理、血液透析療法(アクセス作成・アクセス維持を含む)、腹膜透析療法(テンコフカテーテル挿入を含む)。
3年次	上記に加え、腎生検病理組織診断、代謝性骨疾患の管理。
4年次	総合内科専門医、腎臓専門医、透析専門医、高血圧専門医の取得。希望によってはアフェレンス専門医、骨粗鬆症専門医の取得も可能。

大学院・留学について

大学院進学可。テーマは進行性糸球体疾患研究、尿毒症病態解析、骨ミネラル代謝研究、新規血液浄化デバイスの開発など。

国内留学：新潟大学腎研究施設

国外留学：米国ヴァンダービルト大学、米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校、豪州メルボルン大学など。

専門医受験のために必要な技能・手技

輸液による水・電解質・酸塩基平衡管理、降圧薬の使い分け、骨粗鬆症治療薬の使い分け、糸球体病理組織診断、血液透析アクセスの設置と管理、血液透析法、血液濾過法、血漿交換法、血液吸着法、腹膜透析カテーテルの設置と管理、腹膜透析法。

連携施設

大原総合病院、福島赤十字病院、福島西部病院、公立藤田病院、太田西ノ内病院、星総合病院、白河厚生病院、会津医療センター、竹田総合病院、坂下厚生病院、有隣病院、福島労災病院、常磐病院、公立相馬病院など

指導医からのメッセージ

腎臓高血圧内科は細胞外液の量と組成を管理する内科です。その要となる腎臓の疾患を治療するだけでなく、薬物、輸液、血液透析・腹膜透析療法などの手段を用いることで腎臓に替わって細胞外液環境を調節します。細胞外液の組成は体外との出納だけでなく、もう一つの巨大コンパートメントである細胞内液や塩である骨にも大きく依存します。また、代謝やこれを司るホルモンのフィードバックも重要です。これら全てを視野に入れる腎臓高血圧内科は、臓器内科というよりも、むしろ体液調節という「システムの内科」と考えた方がしっくりくるかもしれません。したがってその守備範囲はたいへんに広く、一線病院では総合内科の即戦力になりますし、高度先進医療の現場では守りの要として欠かせないポジションになっています。実際に、前任地で私は生体肝移植、新規抗がん剤治験、脆弱性骨折予防などの多彩なプロジェクトに腎臓内科医の立場で参加してきました。北海道・東北地方は伝統的に腎臓内科医を養成する基盤が弱く、腎臓内科医が量質ともに不足しています。この事実は腎疾患の診療レベルを停滞させるだけでなく、高度先進医療の発展にも暗い影を差すように危惧されます。腎臓高血圧内科を学び、この状況を打破することで、福島県の医療レベルを向上させましょう。

診療科(講座)紹介

当科では、一般内科における標準的診療を基本としながら、糖尿病、代謝、内分泌の分野で高度・専門医療の実践をめざします。糖尿病・内分泌・代謝内科分野の基礎的分野から臨床的分野まで、幅広くまた深く関わることで、ひとりの医師として必要なすべての要素を身につけ、医師として充実したキャリアを送ることを究極の目標としています。

指導医(スタッフ)紹介



部長(教授)
島袋 充生

沖縄県立名護高等学校卒業
昭和62年 琉球大学医学部医学科卒業
臨床専門分野

1) 糖尿病・内分泌・代謝

研究分野

1) 糖尿病・内分泌・代謝疾患の成因、合併症



助手 山口 瑞希

福島県立福島高等学校卒業
平成29年 福島県立医科大学医学部卒業
臨床専門分野

1) 糖尿病・内分泌・代謝

研究分野

1) 糖尿病・内分泌・代謝疾患の成因、合併症



助手(副部長)
鴻野 央征

福島県立安積高等学校卒業
平成24年 福島県立医科大学医学部卒業
臨床専門分野

1) 糖尿病・内分泌・代謝

研究分野

1) 糖尿病・内分泌・代謝の成因、合併症



助手 滝口 善規

福島県立磐城高等学校卒業
平成29年 福島県立医科大学医学部卒業
臨床専門分野

1) 糖尿病・内分泌・代謝

研究分野

1) 糖尿病・内分泌・代謝疾患の成因、合併症



助教 田辺 隼人

駿台甲府高等学校(山梨県)卒業
平成25年 福島県立医科大学医学部卒業
臨床専門分野

1) 糖尿病・内分泌・代謝

研究分野

1) 糖尿病・内分泌・代謝疾患の成因、合併症



助手 佐藤 雅紘

福島県立安積高等学校卒業
平成30年 福島県立医科大学医学部卒業
臨床専門分野

1) 糖尿病・内分泌・代謝

研究分野

1) 糖尿病・内分泌・代謝疾患の成因、合併症



助教 齋藤 悠

福島県立福島高等学校卒業
平成27年 福島県立医科大学医学部卒業
臨床専門分野

1) 糖尿病・内分泌・代謝

研究分野

1) 糖尿病・内分泌・代謝疾患の成因、合併症



助手 根本 雄飛

日本大学東北高等学校卒業
平成30年 福島県立医科大学医学部卒業
臨床専門分野

1) 糖尿病・内分泌・代謝

研究分野

1) 糖尿病・内分泌・代謝疾患の成因、合併症



病院助手
渡邊 桐子

昭和薬科大学附属高等学校(沖縄県)卒業
平成28年 佐賀大学医学部卒業
臨床専門分野

1) 糖尿病・内分泌・代謝

研究分野

1) 糖尿病・内分泌・代謝疾患の成因、合併症



助手 加藤 瞳

埼玉県立大宮高等学校卒業
令和3年 福島県立医科大学医学部卒業
臨床専門分野

1) 糖尿病・内分泌・代謝

研究分野

1) 糖尿病・内分泌・代謝疾患の成因、合併症



助手 堀田 悠貴

宇都宮短期大学附属高等学校卒業
平成28年 東北大学医学部医学科卒業
臨床専門分野

1) 糖尿病・内分泌・代謝

研究分野

1) 糖尿病・内分泌・代謝疾患の成因、合併症



助手 取出 俊平

三重県立津高等学校卒業
令和3年 福島県立医科大学医学部卒業
臨床専門分野

1) 糖尿病・内分泌・代謝

研究分野

1) 糖尿病・内分泌・代謝疾患の成因、合併症



専攻医 猪狩 翔吾

福島県立磐城高等学校卒業
 平成31年 福島県立医科大学医学部卒業
臨床専門分野
 1) 糖尿病・内分泌・代謝
研究分野
 1) 糖尿病・内分泌・代謝疾患の成因、合併症

専門研修プログラム

糖尿病・内分泌・代謝内科専門医コース

	修得すべき手技や手術経験目標数など
1年次 (卒業後3年)	糖尿病・内分泌・代謝内科分野における代表的な疾患を経験し、診断と治療の基本を幅広く身につける。
2年次	代表的な疾患については単独で診断治療計画を立案し実行する。また特殊な症例の診断と治療にも指導医のガイダンスに従い積極的に参加する。
3年次	特殊な診断と治療技術（グルコースクランプ、負荷試験、サンプリング）等の習得をする。特に興味ある分野についての臨床研究を立案し実施する。
4年次	臨床症例についての経験と知見を深めるとともに、臨床研究をまとめて国内外で学会発表を行い、英文誌に論文発表を行う。入院症例、外来症例について初期研修医に診断治療計画の立案を指導する。

大学院・留学について

大学院：入局者は希望する場合全員が大学院に進学し、経験ある指導者の指導を受けながら研究活動を行います。研究課題は興味ある分野の中から経験豊富な指導者のアドバイスで決めていただきます。ひろく臨床的応用と直結した魅力のある研究を目指しています。

留学：研究上の必要性や興味ある分野の研究を深めるために、国内外に留学して臨床や基礎研究活動を行うを奨励します。

専門医受験資格のために必要とされる技能・手技目標

内科認定医、内科専門医、糖尿病専門医、内分泌専門医等の専門医受験資格を得るため綿密に組み立てられたプログラムに沿った研修を行うことができます。研修の内容には各専門医受験の際に必要な知識がすべて網羅されており、専門医受験時に必要な症例記録を、経験豊富な上級医の指導の下に作成することにより、糖尿病・内分泌代謝内科の広い範囲にわたる臨床症例を経験し本物の実力を身につけることができます。

連携施設

大原総合病院、福島赤十字病院、福島西部病院、公立藤田病院、太田西ノ内病院、星総合病院、白河厚生病院、会津医療センター、竹田総合病院、坂下厚生病院、有隣病院、福島労災病院、常磐病院、公立相馬病院など

指導医からのメッセージ

当科では、一般内科を基本とした上で、糖尿病、内分泌、代謝分野での高度・専門的医療を目指しています。この専門分野に属する主な疾患である糖尿病、脂質異常症やその合併症である腎臓疾患、心臓・脳血管疾患は各々圧倒的に高い罹患率を有し、年々増加の一途を辿っている現代の国民病と言えます。これらのほとんどが全身病であるという特徴をもち、病因、治療ともに患者の生活（ライフスタイル）と密接に関連しています。福島県をはじめ日本あるいは世界で糖尿病・内分泌代謝疾患の専門的診療をおこなえる人材が今後益々求められています。わたしたちとともにたくさん仲間をふやし、国民病にたち向かっていきましょう。



医局会（抄読会）の様子

診療科(講座)紹介

- 1) 神経症候学、神経解剖学、神経生理学及び臨床神経学を基盤とした演繹的思考、またそれに基づいた医学的手技を身に着け、神経疾患救急から慢性疾患に至るまで対応できる優秀な神経内科専門医を養成することを目標としている。
- 2) とくに急性期疾患の病態把握と対処を重要視している。
- 3) 臨床神経生理学の分野で、国内トップクラスの診療をしている。
- 4) 当教室における神経内科専門医試験の合格率は全国トップクラスであり、受験資格を有する者全員が合格している。

指導医(スタッフ)紹介



教授(部長)
金井 数明

私立麻布高等学校(東京都)卒業
平成4年 京都大学農学部卒業
平成11年 千葉大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 臨床神経学
2) 臨床神経生理学
3) 臨床遺伝学
研究分野
1) 運動ニューロン疾患
2) 神経変性疾患
3) 末梢神経疾患
4) てんかん



助手 阿部 暖

江戸川学園取手高等学校(茨城県)卒業
平成27年 福島県立医科大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 臨床神経学
趣味: TCG



講師(副部長)
中原登志樹

埼玉県立越谷北高等学校卒業
平成9年 福島県立医科大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 臨床神経学
研究分野
1) パーキンソン病



助手 黒見祐美子

青森県立弘前高等学校卒業
平成23年 福島県立医科大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 臨床神経学



講師 松田 希

福島県立安積高等学校卒業
平成10年 福島県立医科大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 臨床神経学、臨床神経生理学
研究分野
1) 末梢神経疾患
2) 骨格筋イメージング



助手 阿部亜妃子

青森県立弘前高等学校卒業
平成27年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 臨床神経学



助教 井口 正寛

作陽高等学校(岡山県)卒業
平成14年 日本大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 臨床神経学



助手 板垣 裕也

福島県立福島高等学校卒業
平成28年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 臨床神経学



助手 吉澤 茉莉

岩手県立盛岡第一高等学校卒業
平成19年 秋田大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 臨床神経学

専門研修プログラム

	修得すべき手技や手術経験目標数など
1年次 (卒業3年)	神経診断学や検査手技等、神経内科医としての基礎となる医療技術は勿論のこと、全身状態のアセスメントや栄養管理法など、内科医として必要な知識や全身管理技術の習得にも重点を置いています。
2年次	市中病院での研修等を交え、外来診療のノウハウなど、臨床医として必要な知識と技術を更に高めます。この時期に内科認定医試験を受験しますが、当科で研修した医師は全員が内科認定医試験に合格しています。
3年次	高次救命救急センターでの研修も含めて、プライマリーケアや最先端医療、高度医療技術を身につけます。これらを経て初期研修医や中期研修医の指導役となります。本人の希望に合わせて、研究のテーマを決定する。
4年次	病棟を統括するチーフレジデントを経験します。チーフレジデントは直接患者を受け持たず、全入院患者を把握して方針の決定に携わり、入退院の管理を行うほか、診療報酬に関するノウハウの習得や学生指導役も行います。

大学院・留学について

希望者には大学院への進学を優遇しています。その際も、臨床医としてのレベルを維持するためカンファレンスや抄読会への参加ができるような工夫をおこなっています。また、収入の確保にも十分な配慮を施しています。

多くの施設との共同研究を行っていて、研究テーマについては本人の希望に応じて決定しています。

専門医受験資格のために必要とされる技能・手技目標

取得できる専門医は以下の通りです。

1. 内科専門医
2. 神経内科専門医
3. 総合内科専門医
4. 臨床神経生理学学会専門医
5. 日本てんかん学会専門医
6. 日本脳卒中学会専門医

このうち、内科専門医と神経内科専門医は受験資格を得るために組み立てられたプログラムに沿った研修を行うことができます。その他の専門医はそれぞれの専門に合わせ適宜取得が可能です。

連携施設

	関連病院名	所在地	指導医名	職名
1	総合南東北病院	郡山市	山本 悌司	神経科学部門部長
2	大原総合病院	福島市	斎藤 直史	脳神経内科主任部長
3	柘記念病院	二本松市	本間 真理	脳神経内科部長
4	松村総合病院	いわき市	熊巳 真澄	脳神経内科診療部長
5	太田熱海病院	郡山市	山根 清美	脳神経センター長
6	竹田総合病院	会津若松市	石田 義則	脳神経内科科長
7	福島赤十字病院	福島市	中村耕一郎	脳神経内科部長
8	太田西ノ内病院	郡山市	門脇 傑	脳神経内科部長
9	国立病院機構福島病院	須賀川市	杉浦 嘉泰	病院長

指導医からのメッセージ

病棟医師の体制は9人＋初期研修医数名で構成されています。平日は8時半から病棟回診を行い、検査・治療の検討を行い1日が始まります。毎週木曜日には教授総回診があり、定期的にケースカンファレンスを行っております。それぞれの専門性を持ったスタッフにより、医局全体で討論を繰り広げ、常に世界トップレベルの医療と研究、そして研修プログラムを目指しております。

担当する患者は、大学病院という特性から世界で数例目という非常に貴重な症例が集まる一方で、めまい・頭痛のような一般的な症例も多数集まることという県立病院の特性も備えています。即ち、超急性期脳梗塞をはじめとする多様な一般的な症例を経験するとともに、ごく稀な症例も経験できます。「大学病院なので、一般的な脳血管障害、頭痛、めまいの経験が少なくなる」という心配は全く不要です。このような充実した症例の集積は全国でも例がなく、県立である大学病院のメリットといえます。また、一定期間研修協力病院での研修を行い、数多くの神経内科症例も経験していただきます。

治療に関しては、各学会が提示しているガイドラインに沿った治療を行うとともに、治療法が確立していない希少疾患に対しては、最新の論文を十分に検討し、時には倫理委員会に諮問しながら、evidence making medicineを実践しております。検査に関しては、髄液検査、頸部血管エコー・経食道心エコーなどのエコー検査、神経伝導検査や筋筋電図のような神経生理検査、筋・神経生検など神経内科医にとって必要な一通りのテクニックを習得することができます。この他、世界に数力所しか有していない特別な磁気刺激装置を用いた神経疾患の治療トライアルも行っております。

医局には各自専用の机、本棚、ロッカーが用意されます。大学病院の当直の際は、必ず指導医レベルの医師がサポートする体制であり、神経内科医として経験の浅い医師でも安全で確実な診療を行うことができます。ともに働き、ともに学ぶ先生方を募集中です！

- 1) 次世代を担う呼吸器科医を診療・研究を通して育成する
- 2) 指導医のサポートのもと、主体的に考え実施する医師を養成する
- 3) オープンな気風で研修医が誰からも指導を受けやすい環境である

指導医(スタッフ)紹介



教授 柴田 陽光

東京都立国立高等学校卒業
平成3年 山形大学医学部卒業
平成7年 山形大学大学院医学研究科修了
平成11年 シンナティ子供病院医学センター Research Fellow
平成13年 山形大学医学部附属病院 助教
平成18年 山形大学医学部附属病院 講師
平成22年 山形大学医学部附属病院 病院教授兼任
平成29年 福島県立医科大学医学部呼吸器内科学講座 主任教授
臨床専門分野
1) 呼吸器疾患全般
2) COPDの診断と治療
研究分野
1) 呼吸機能の疫学
2) COPDのバイオマーカー
3) 肺胞マクロファージの呼吸器病における役割の探究
趣味: スキー、天体観測



医局長 助教 峯村 浩之

筑波大学附属駒場高等学校(東京都)卒業
平成17年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 肺癌の診断と治療
2) 緩和医療学
研究分野
1) 肺癌の薬物療法
2) 肺癌の分子病態学



准教授 谷野 功典

北海道札幌南高等学校卒業
平成5年 北海道大学医学部卒業
平成14年 北海道大学大学院医学研究科修了
平成15~18年 ワシントン大学留学
臨床専門分野
1) びまん性肺疾患の診断と治療
2) 急性肺障害の診断と治療
研究分野
1) 肺疾患における細胞外マトリックスの役割
2) 肺障害と修復のメカニズム
3) 肺再生医療



会津医療センター 助教 鈴木 康仁

福島県立福島高等学校卒業
平成22年 福島県立医科大学卒業
平成28年 福島県立医科大学医学部大学院 医学研究科修了
臨床専門分野
1) 気管支喘息・COPDの診断と治療
2) 臨床アレルギー学
研究分野
1) 呼吸ガス分析と管理への応用 (NO, H2S)
2) アレルギー疾患の分子病態
趣味: ゴルフ



講師 金沢 賢也

神奈川県立厚木高等学校卒業
平成6年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 肺癌の診断と治療
2) 呼吸器インターベンション
研究分野
1) 肺癌の薬物療法
2) 呼吸器内視鏡診断学



外来病棟医長 助教 佐藤 佑樹

福島県立安積高等学校卒業
平成22年 札幌医科大学卒業
臨床専門分野
1) 呼吸器疾患全般
2) 間質性肺炎の診断と治療
研究分野
1) 間質性肺炎の病態解明
2) 間質性肺炎の治療法の確立
趣味: 音楽鑑賞



講師 斎藤 純平

海城高等学校(東京都)卒業
平成8年 福島県立医科大学卒業
平成22~25年 インベリアルカレッジ留学
臨床専門分野
1) 臨床アレルギー学
2) 気管支喘息COPDの診断と治療
研究分野
1) 呼気分析の診断への応用
2) 咳モニターの臨床応用
3) 慢性咳嗽の診断と治療



助手 東川 隆一

西大和学園高校(奈良県)卒業
平成22年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 呼吸器疾患全般
2) 間質性肺炎の診断と治療
研究分野
1) 間質性肺炎の病態解明
2) GATA2遺伝子異常に伴う免疫不全の治療
趣味: 落語



病院助手 福原奈緒子

福島県立会津女子高等学校卒業
平成15年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) びまん性肺疾患の診断と治療
研究分野
1) 特発性肺線維症におけるプロテオグリカンの役割



助手 河俣 貴也

群馬県立高崎高等学校卒業
平成26年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 間質性肺炎
研究分野
1) サイトメガロウイルス
趣味: ブーツ収集



学内講師 二階堂雄文

福島県立福島高等学校卒業
平成16年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) びまん性肺疾患の診断と治療
2) 呼吸器感染症
研究分野
1) びまん性肺疾患における糖鎖の役割
2) 急性肺障害の病態・治療



助手 力丸 真美

福島県立福島高等学校卒業
平成26年 福島県立医科大学(医学部)卒業
臨床専門分野
1) 呼吸器疾患全般
2) 気管支喘息の診断と治療
研究分野
1) アレルギー疾患の病態
2) 呼吸を用いた気道炎症の評価と臨床への応用
趣味: 読書

新専門医コース(サブスペシャリティ重点コース)

	修得すべき手技や手術経験目標数など
1年次 (卒後3年)	呼吸器診断学の基礎となる検査およびcommon diseaseの診断治療について十分理解する。年間100例の詳細な画像診断、呼吸機能検査の解釈50例、30例以上の喀痰のグラム染色を行う。4年間を通じ、主治医として各種疾患(計300例以上)を受け持つ。
2年次	呼吸器研修もより専門的になる。術者として年50例の気管支鏡(2年目以降で150例)、最低20例の胸水ドレナージ、超音波検査を30例以上経験する。症例数の多い肺癌の化学療法と緩和療法、肺炎、喘息について重点的に習得する。
3年次	難易度の高い症例の経験やより侵襲的な手技を習得する。内科的胸腔鏡を術者として3年目以降10例、侵襲的/非侵襲的換気法を3年目以降各20例以上経験する。積極的に学会参加・発表も行い、成果は論文化する。この年次終了時点で内科専門医の受験資格が得られる。
4年次	この年次ではより難しい症例の研修を行う。また初期研修医の指導も行い、自分の理解の不十分な点を確認する。内視鏡的治療(YAGレーザー、APCレーザー、高周波治療、ステント挿入)を術者として各3例以上施行。この年次終了時点で呼吸器専門医の受験資格が得られる。

大学院・留学について

大学院は本人の希望により希望年度での入学が可能である。

専門医受験資格のために必要とされる技能・手技目標

- 1) 日本呼吸器学会専門医
学会ホームページアドレス <http://www.jrs.or.jp/>
・内科専門医取得後3年間以上の日本呼吸器学会認定施設での臨床研修。
・申請時に4年間以上日本呼吸器学会会員であること。
・呼吸器病学関係の論文3篇以上および呼吸器関連学会での発表3篇以上。
- 2) 呼吸器内視鏡学会認定医
学会ホームページアドレス
<http://www.jsre.org/index.html>
・日本呼吸器内視鏡学会在籍5年以上。[この規定があるためできるだけ早期の入会が望ましい]
・5年間に術者または助手として従事した気管支鏡診療件数150例以上。
・本学会総会参加が5年間で2回以上。
・気管支鏡セミナーまたは支部会主催の講習会出席が5年間で1回以上。
- 3) アレルギー専門医
学会ホームページアドレス <https://www.jsaweb.jp/>
・5年以上継続して学会員であること。
・基本領域の学会(日本内科学会)の専門医(認定医)資格の認定を受けていること。
・基本領域の臨床研修を含め通算6年以上の臨床研修歴を要する。ただし、通算3年以上は学会入会後とし、自身が所属する基本領域の本学会認定アレルギー専門医教育研修施設等において、本学会認定指導医又は専門医のもとでの、アレルギー専門医カリキュラムに従ったアレルギー学の臨床研修を要する。
・最近の5年間に自ら診療しているアレルギー疾患患者40名分の診療実績書および、この内2例については症例報告書を提出する。
・最近の5年間にアレルギー学の業績が50単位以上あることが求められる。
- 4) がん治療認定医
学会ホームページアドレス <https://www.jbet.jp/>
・所属する基本領域の学会の認定医又は専門医を有すること。
・緩和ケア研修会を修了していること。
・日本がん治療認定医機構の定める『研修カリキュラム』に基づくがん治療研修(通算2年以上のフルタイム研修)を修了し、指導責任者による証明がなされていること。

連携施設

	関連病院名	所在地	指導医名	職名
1	大原総合病院	福島市	海瀬 俊治	診療顧問
2	太田西ノ内病院	郡山市	松浦 圭文	呼吸器センター長
3	済生会福島病院	福島市	勝浦 豊	副院長
4	会津医療センター	会津若松市	久米 裕昭	教授(感染症・呼吸器内科)
5	公立藤田総合病院	伊達郡	鈴木 修三	副院長(教育研修センター長)
6	寿泉堂総合病院	郡山市	前田 真作	呼吸器科部長
7	坪井病院	郡山市	坪井 永保	理事長
8	竹田総合病院	会津若松市	穴沢 予識	呼吸器内科科長
9	総合南東北病院	郡山市	長谷衣佐乃	呼吸器内科科長

指導医からのメッセージ

我が国の人口の高齢化に伴い、肺癌や慢性閉塞性肺疾患患者が増加しております。それに伴い、これらの疾患の診療にあたる呼吸器内科診療の需要は高まっています。加えて、2020年に発生した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対しても、呼吸器内科は診療の中心を担っています。このように、社会的に呼吸器内科への需要は高まっているものの、その数は全国的に不足しているのが現状です。

福島県においては、平成11年に初代教授 棟方充先生が本講座を開設以来、呼吸器専門医を育て、世界に向けて基礎研究・臨床研究の成果を発信し、福島県の呼吸器診療の向上に努めてきました。

現在、柴田陽光教授の元、閉塞性肺疾患、間質性肺疾患、肺癌、そしてCOVID-19の診療と研究に医局員が一丸となって邁進しております。

当科の特徴として、グループ制で患者さんの診療を行うのではなく、後期研修医のうちから受け持ちとなる主治医制をとっていることがあげられます。指導医の指示をまつのではなく、主体的に考え、判断することができる医師を育てるのが目標です。

このプログラムを通じて、患者さんに真摯に向き合い、自ら決断、行動できる医師を育てることが私たちの使命です。呼吸器内科医を目指す研修医の皆さんの参加をお待ちしています。



診療科(講座)紹介

原発臓器に関わらず様々ながん患者に対する薬物療法を身につけることができ、日本ではまだまだ足りないがん薬物療法専門医（腫瘍内科専門医）の取得が可能です。

指導医(スタッフ)紹介



部長(教授)
佐治 重衡

岐阜県立岐阜北高校卒業
平成4年 岐阜大学医学部卒業
平成11年 岐阜大学大学院医学研究科修了
平成11年 カロリンスカ医科大学
(スウェーデン)
平成15年 M.D.アンダーソンがんセンター
(米国)

臨床専門分野
1) がんの薬物療法(特に乳がん)
研究分野
1) がん分子標的治療薬の臨床開発
2) 乳がんのホルモン療法
3) 核内受容体とステロイドホルモン研究
趣味: 登山、ウルトラマラソン

学会活動

- 1) 日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医・指導医・評議員・理事
- 2) 日本乳癌学会 乳腺専門医・指導医・評議員・理事
- 3) 日本がん分子標的治療学会 評議員
- 4) American Society of Clinical Oncology 会員
- 5) European Society for Medical Oncology 会員
- 6) American Association for Cancer Research 会員



講師 徳田 恵美

私立桜蔭高等学校(東京都)卒業
平成14年 東京医科大学卒業
平成23年 順天堂大学大学院修了

臨床専門分野
1) がんの薬物療法(特に乳がん)
2) 乳がんの治療診断
研究分野
1) 乳がんのホルモン療法について
2) 各種分子標的治療薬が乳がん細胞に与える影響の解明
趣味: ランニング、スキー、旅行



副部長(助教)
木村 礼子
(臨床腫瘍センター兼任)

京都府立南陽高校卒業
平成17年 福島県立医科大学卒業
平成26年 京都府立医科大学大学院修了

臨床専門分野
1) がんの薬物治療(特に消化器)
2) がん遺伝子パネル検査
3) 早期上部消化管癌の内視鏡診断
研究分野
1) 福島県がん罹患動向についての疫学的研究



助教 名取 穣

福島県立原町高校卒業
平成19年 東京大学大学院理学研究科修了
平成28年 横浜市立大学医学部卒業

臨床専門分野
1) がんの薬物療法
研究分野
1) 乳がんのHER3関連研究
2) 腫瘍免疫学の研究
趣味: 空手



助手(非常勤)
佐々木 栄作

千葉県立東葛飾高校卒業
平成7年 信州大学医学部卒業
研修病院・研修施設
東京都立駒込病院
臨床専門分野
1) がんの薬物療法(特に消化器、希少がん)
研究分野
1) 腫瘍免疫学の研究
趣味: 音楽鑑賞、料理

専門研修プログラム

乳がん・消化器がん・甲状腺がん・希少がんをはじめ、各がん種における薬物療法を中心としたがん治療の診療スキルを身につけた上で、がん治療のエキスパートである「がん薬物療法専門医(腫瘍内科専門医)」の取得を目指します。

当科では新内科専門医制度に沿った研修プログラムとして、総合内科専門医取得後の腫瘍内科研修、総合内科専門医取得と並行した腫瘍内科研修どちらにも対応しています。また外科専門医、放射線科専門医などの「がん薬物療法専門医」取得に必要な基本学会の専門医であり、「がん薬物療法専門医」取得を目指す医師の研修も歓迎しています。

	修得すべき手技や手術経験目標数など
1年次	臓器横断的な診断が必要とされるがん診療の基本を身につけるため、腫瘍内科はじめ関係科のローテーションを行う。総合内科専門医取得のために、内科系診療科において内科一般の研修もおこなう。
2年次	内科系診療科のローテーション、緩和医療の修練を行う。指導医のもと、腫瘍内科の診療も経験し、臨床医として必要な知識と技術を高める。
3年次 4年次	外来・入院患者の診療を行いながら、総合内科専門医・がん薬物療法専門医取得を目指す。臨床・基礎研究にも参加し、国内外での学会発表を経験する。学会発表に加え、臨床・基礎研究の論文執筆も行う。

大学院・留学について

大学院へは希望年度に入学が可能です。がんに関する基礎研究や臨床研究で学位取得を目指します。国内や海外の留学も相談に応じます。

専門医受験資格のために必要とされる技能・手技目標

がん薬物療法専門医（腫瘍内科専門医）

- ・5年以上がん治療の臨床研修を行っていること、および、がん治療に関する十分な業績があること（30症例のレポート提出）
- ・臨床腫瘍学に関連した論文1編（共著可）、および当学会での発表1編以上（共著可）
- ・教育セミナーへの出席
- ・総合内科専門医などの資格を有していること。

がん治療認定医

- ・総合内科専門医などの資格を有していること
- ・認定研修施設で2年以上のがん治療研修を修了し、指導責任者からの証明がなされていること。
- ・がん患者20例の症例一覧の提出。
- ・セミナー受講

講座・部門の主な研究

がん分子標的治療薬をはじめとしたがん薬物療法の臨床開発、トランスレーショナルリサーチ
福島県がん罹患動向についての疫学的研究

指導医からのメッセージ

腫瘍内科は2014年9月に開設された新しい講座です。

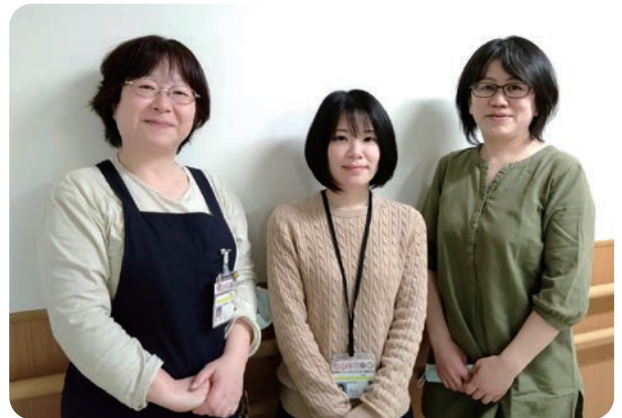
がん薬物療法は、分子標的治療薬などの登場により近年急速に進歩しています。このため、専門性の高い治療を安全かつ効果的に実施できる腫瘍内科医が重要視されています。腫瘍内科医は、がんの薬物治療や副作用への対策はもちろん、がん患者さんの身体的・社会的な苦しみを和らげるために緩和医療やチーム医療（各診療科の医師・看護師・薬剤師・ソーシャルワーカーなど）も行います。専門性の高い治療を実践しながらも、全人的にがん患者さんに対応することができる腫瘍内科の魅力を皆さんに伝え、将来一緒にお仕事できることを楽しみにしています。興味のある方は一度4号館3階の医局にお茶を飲みにいらして下さい。



外来化学療法センター



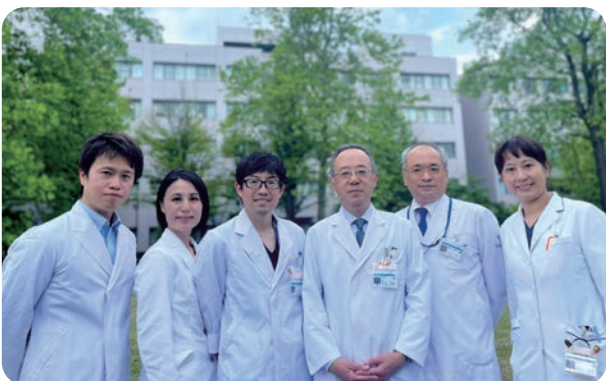
がん相談支援センター



院内がん登録室



がん登録室



診療科(講座)紹介

- 1) 内科新患を担当している。
- 2) 不明熱などの診断困難例のコンサルテーションをうけている。
- 3) 臨床感染症患者のマネージメントを引き受けている。

指導医(スタッフ)紹介



部長(教授)
濱口 杉大

長野県立野沢北高等学校卒業
平成7年 新潟大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 総合内科
2) 熱帯医学・感染症
研究分野
1) 臨床推論
2) 熱帯感染症
3) 高齢者肺炎

学会活動

- 1) 日本内科学会(総合内科専門医部会幹事)
- 2) American College of Physicians Japan Chapter(理事)
- 3) 日本臨床疫学会(理事)
- 4) 日本感染症学会
- 5) 日本プライマリ・ケア連合学会
- 6) 日本病院総合診療医学会



助手
中川 紘明

(臨床研究イノベーションセンター兼務)

函館ラサール高校卒業(北海道)
平成13年 自治医科大学卒業
臨床専門分野
1) 総合内科
2) 臨床推論
研究分野
1) 臨床疫学研究



助手
中本 洋平

岩手県立盛岡第一高等学校卒業
平成25年 新潟大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 総合内科
研究分野
1) 診断学
趣味: ランニング



助手
高橋 世

(ふたば救急総合医療支援センター兼務)

北海道旭川東高等学校卒業
平成17年 札幌医科大学卒業
臨床専門分野
1) 救急
2) 総合内科
研究分野
1) 臨床疫学
2) 老年医学



助手
矢口 貴絵

(総合内科・臨床感染症学講座兼務)

福島県立福島高等学校卒業
平成25年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 総合内科
研究分野
1) 高齢者医療
2) 緩和ケア
趣味: 旅行、食べ歩き



助手
長沼 透

(ふたば救急総合医療支援センター兼務)

国際基督教大学高等学校(東京都)卒業
平成15年 早稲田大学理工学部卒業
平成22年 東北大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 総合内科
研究分野
1) 臨床疫学
2) 健康長寿・終末期医療
趣味: ランニング、子どもと遊ぶ



助手
柳田 真衣

福島県立磐城高等学校卒業
平成29年 福島県立医科大学医学部卒業
臨床専門分野
1) リウマチ膠原病
2) 総合内科
趣味: 美術館巡り、バイオリン、旅行



助手
會田 哲朗

山形県立山形東高校卒業
平成24年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 総合内科
研究分野
1) 臨床推論
2) 診断学
3) 臨床疫学



助手
内藤翔太郎
(地域支援)

平成30年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 総合内科
趣味: 食事、睡眠

専門研修プログラム

福島県立医科大学内科専門医研修プログラムを統括している。初期に病歴聴取・身体診察からの臨床推論を深く学ぶべく、総合内科で研修し、その後内科の基本的診療能力と総合内科に必要なサブスペ領域の知識、技能を習得するため、多施設を含めたローテーションをおこない、最後にそれらの能力発揮の場として総合内科領域の医療機関で研修するというSandwich式の充実した研修内容となっている。

また、総合診療専門医ダブルボード指導医としても対応している。

大学院・留学について

臨床疫学研究、熱帯医学・感染症関連の海外留学(London School of Hygiene & Tropical Medicineなど)の指導、相談をおこなう。

専門医受験資格のために必要とされる技能・手技目標

基本領域内科専門医、総合内科専門医、感染症専門医の取得。特に総合内科専門医は高得点での合格を目指す。

講座・部門の主な研究内容

脊椎感染症、高齢者肺炎、診断精度研究、住民コホートによる観察研究。

主な総合内科研修協力病院

- ・北福島医療センター 総合内科・感染症科
- ・公立藤田総合病院 内科
- ・総合南東北病院 救急集中治療科
- ・帝京大学ちば総合医療センター 内科(リウマチ)
- ・福島労災病院 内科(消化器)

指導医からのメッセージ

総合内科とは、効果的な病歴聴取・身体診察(つまり患者さんから話をきき、診察をする)を中心とした「臨床推論」という専門技術を用いて診療を進めていく内科診療科です。高齢社会を反映して1人で1つ以上の病気を持つ人が増えている中で、複数の病気のバランスをうまく考えながら総合的に診療することを得意とする専門科です。

高度先進医療の役割を担う大学病院では、患者さんの問題点を整理して適切な専門診療科への橋渡しをすることも仕事ですが、入院患者さんの原因不明の発熱の相談をうけたり、患者さんの状態によっては集中治療室で専門治療をおこなったりすることもあります。また診療科をまたぐような分野である感染症診療も得意としております。

このような基本的な内科診療技術は将来の日本の医療を担う若手医師や医学生にとっても大切なものであるため、総合内科では医学教育、臨床研修教育にも力を入れております。

漢方内科

診療科(講座)紹介

現代医学では十分な満足が得られない患者さんに、長い歴史と西洋医学とは異なる診療手段をもつ漢方を活用することで、さらに質の高い医療を提供します。難治な患者さんに対する治療成績の向上を図るとともに、漢方診療普及のための臨床教育も行います。

指導医(スタッフ)紹介



部長(教授)(兼務)
小宮ひろみ

福島県立安積女子高等学校卒業
昭和61年 山形大学医学部卒業
臨床専門分野

- 1) 生殖内分泌
 - 2) 不妊
 - 3) 性差医療
 - 4) 漢方医療
研究分野
- 1) 生殖内分泌

主な業務内容

患者さんは冷え、腰痛・関節痛・背部痛、倦怠感、皮膚搔痒感など種々の症状で受診されていますが、その背景は膠原病・がんなどの難病や、関節、皮膚、婦人科疾患など多様です。現代医学とは異なる観点から、生体の病的状態(「証」)を診断し、漢方治療を行っています。

診療科(講座)紹介

http://www.fmu.ac.jp/byoin/new/sinryoka/kokyu_geka.html

- 1) 肺癌、縦隔腫瘍、嚢胞性肺疾患等に対する呼吸器外科診療を専門に行う講座です。
- 2) 手術の半数以上は低侵襲手術である胸腔鏡手術で行っています。
- 3) 近年の肺癌患者数は増加の一途にあり、外科系講座ではありますが術前導入化学療法や術後補助化学療法、再発時の化学療法等、積極的に行っています。
- 4) 腫瘍免疫や肺癌の分子生物学に関する基礎研究を精力的に行い、国内外に継続して発信しています。
- 5) 肺癌を中心とした臨床試験・治験に多数参加しており、日本の肺癌診療をリードする施設のひとつといえます。
- 6) 進行癌・再発癌に対しても諦めない治療を提供しつつ、関連施設とも協力し、全人的な緩和医療に対する教育や実践にも力をいれています。
- 7) 教室の基礎研究を通じて講座員全員の学位取得を行い、臨床では外科専門医取得後にサブスペシャリティの呼吸器外科専門医取得を行います。

指導医(スタッフ)紹介



呼吸器外科部長
(教授)
鈴木 弘行

福島県立会津高等学校卒業
平成2年 福島県立医科大学卒業
研修病院・研修施設
白河厚生総合病院、磐城共立病院、ピッツバーグ大学
臨床専門分野
1) 呼吸器外科
2) 縦隔外科
3) 癌に対する免疫療法
4) 肺癌化学療法
研究分野
1) 肺癌の分子生物学
2) 癌免疫
3) 腫瘍学
趣味: B級グルメ、ワインと日本酒愛好

学会活動

- 1) 日本外科学会(指導医・専門医・代議員)
- 2) 日本胸部外科学会(指導医・評議員)
- 3) 日本呼吸器外科学会(指導医・専門医・評議員・理事)
- 4) 日本肺癌学会(評議員)
- 5) 日本がん免疫学会(評議員)
- 6) 日本癌病態治療研究会(副理事長)
- 7) 日本バイオセラピー学会(理事・評議員・定款検討・Scientific Committee・次世代教育委員)
- 8) 日本免疫治療学会(理事・学術誌編集委員)
- 9) American Society of Clinical Oncology
- 10) International Association for the study of lung cancer
- 11) American Association for Cancer Research



教授
濱田 和幸

鹿児島県立鹿屋高等学校卒業
平成12年 秋田大学医学部卒業
研修病院・研修施設
昭和大学病院 腫瘍内科、カリフォルニア大学
サンディエゴ
臨床専門分野
1) がん薬物療法(腫瘍内科学)
研究分野
1) がん免疫療法
2) がんにおけるメチオニン代謝
趣味: クラシック音楽鑑賞、水泳



助教・学内講師
武藤 哲史

福島県立会津高等学校卒業
平成19年 福島県立医科大学卒業
研修病院・研修施設
竹田総合病院、福島赤十字病院、
福島労災病院
臨床専門分野
1) 呼吸器外科
2) 肺癌薬物療法
研究分野
1) 腫瘍免疫学
2) 肺癌分子生物学
趣味: 料理



呼吸器外科副部長
(講師)
岡部 直行

山形県立酒田東高等学校卒業
平成18年 福島県立医科大学卒業
研修病院・研修施設
福島赤十字病院、竹田総合病院、米沢市立病院、
福島労災病院
臨床専門分野
1) 呼吸器外科
2) 肺癌薬物療法
3) 縦隔腫瘍
研究分野
1) 肺癌の分子生物学
2) 腫瘍免疫学
趣味: 釣り(ルアーフィッシング)



助教
渡部 晶之

福島県立会津高等学校卒業
平成22年 福島県立医科大学卒業
研修病院・研修施設
白河厚生総合病院、会津医療センター
福島労災病院、いわき市医療センター
臨床専門分野
1) 呼吸器外科
2) 肺癌薬物療法
研究分野
1) 腫瘍免疫学
2) 腫瘍分子生物学
趣味: 日本酒探索・キャンプ



助教・学内講師
松村 勇輝

埼玉県立浦和高等学校卒業
平成17年 東北大学医学部卒業
研修病院・研修施設
山形県立中央病院、国立がん研究センター
東病院、コーネル大学
臨床専門分野
1) 呼吸器外科
2) 肺癌薬物療法
研究分野
1) 腫瘍免疫学
2) 肺癌の分子生物学
3) 腫瘍病理学
趣味: ジョギング

専門研修プログラム

	修得すべき手技や手術経験目標数など
1年次	福島県立医科大学附属病院でローテート ・関連施設で実臨床業務、地域医療に従事 ・外科専門医取得のため、他の外科系講座でもローテート
2年次	関連施設で実臨床業務、地域医療に従事 ・あるいは、福島県立医科大学附属病院でローテート ・肺癌の診断・初期治療、緩和医療の実際を経験する ・大学院入学可能
3年次	福島県立医科大学附属病院または関連施設で研修 ・学位研究開始も可能 ・日本外科学会専門医取得へ
4年次	学位論文作成も可能 ・呼吸器外科専門医受験準備；論文作成、試験問題対策

大学院・留学について

随時、大学院に入学できます；基本的に講座員は全員大学院に入学します。

また、留学も可能です（応相談）。

過去の留学先として、ピッツバーグ大学、メリーランド大学、ワイルコーネル大学、メモリアル・スローン・ケタリングがんセンターがあります。

専門医受験資格のために必要とされる技能・手技目標

日本外科学会専門医受験には、日本外科学会に修練開始登録を行い、350例以上の手術手技（うち120例以上は術者）を経験する必要があります。最短で修練開始後4年を経た時点で専門医予備試験である筆記試験が受験可能となります。その後、認定試験（面接試験）に合格すれば、外科専門医取得となります。外科専門医取得後にサブスペシャリティの呼吸器外科専門医取得へ向けて修練を継続します。

連携施設

	関連病院名	所在地	指導医名	職名
1	竹田総合病院	会津若松市	塩 豊	科 長
2	いわき市医療センター	いわき市	福原 光朗	主任科長
3	白河厚生総合病院	白 河 市	長谷川剛生	部 長
4	福島赤十字病院	福 島 市	管野 隆三	部 長
5	総合南東北病院	郡 山 市	藤生 浩一	科 長
6	坪井病院	郡 山 市	原口 秀司	院 長
7	会津医療センター	会津若松市	樋口 光徳	教 授
8	大原総合病院	福 島 市	星野 実加	主任部長

ほか、外科専門医取得に必要な消化管・肝胆膵・乳腺・甲状腺・小児・心臓血管手術を経験できる施設で研修できるよう、外科学講座全体でバックアップしています。

指導医からのメッセージ

肺癌・縦隔腫瘍・嚢胞性肺疾患に対する外科治療を中心とする呼吸器外科ですが、腫瘍免疫・肺癌の分子生物学についての基礎研究も精力的に行い、外科診療にとどまらず肺癌治療全般に関わる診療科となっております。外科ですので手術はもちろん、各人の個性に応じた仕事の進め方が可能です。長期的視野に立ち人間関係・全体の和を重んじ、ワークライフバランスも重視しているため、結婚・出産・育児を想定する方も十分に能力を発揮することが可能です。ともに診療・研究に従事できることを楽しみにしています。

診療科(講座)紹介

- 1) 食道から肛門までの消化管疾患の集学的外科治療を専門に行う講座です。
- 2) 食道癌、胃癌、大腸癌の鏡視下手術やロボット手術を中心とした低侵襲治療から抗がん剤治療、緊急手術への対応、がん患者への緩和的治療など総合的な外科医の育成を行う。
- 3) 院内、県内外の関連施設での研修を通して、外科専門医、消化器外科専門医の取得と同時に、学位(医学博士)の取得を行います。

指導医(スタッフ)紹介



教授 河野 浩二

山梨県立甲府南高等学校卒業
昭和62年 山梨医科大学卒業
山梨医科大学 博士(医学)
スウェーデンカロリンスカ医科大学 医学博士
臨床専門分野
1) 消化管外科、特に、食道外科、胃外科
研究分野
1) がん免疫療法の開発、QOL向上を
目指した外科再建術の開発

学会活動

- 1) 日本外科学会(代議員・指導医・専門医)
- 2) 日本消化器外科学会(指導医・専門医・消化器がん外科治療認定医)
- 3) 日本癌治療学会(理事・代議員)
- 4) 日本食道学会(理事・評議員・食道外科専門医・食道科認定医)
- 5) 日本胃癌学会(代議員)
- 6) 日本癌学会(評議員)
- 7) 日本臨床外科学会(評議員・福島県支部長)
- 8) 日本消化器病学会(学会評議員・指導医・専門医)
- 9) 日本バイオセラピー学会(理事長・評議員)
- 10) 日本癌病態治療研究会(理事・世話人)
- 11) 癌免疫外科研究会(世話人)
- 12) 大腸癌研究会(世話人)



准教授 佐瀬善一郎

福島県立会津高等学校卒業
平成12年 福島県立医科大学卒業
研修病院・研修施設
福島県立医科大学、都立駒込病院胃外科、
ピッツバーグ大学
臨床専門分野
1) 胃外科
2) 食道外科
3) 内視鏡外科(含 ロボット外科)
研究分野
1) 癌免疫
2) 消化器癌の分子生物学
趣味: キャンプ、スキー



講師(兼務)
岡山 洋和

栃木県立栃木高校卒業
平成15年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 下部消化管(大腸・直腸・肛門)
研究分野
1) 消化器癌の治療



病院教授(兼務)
門馬 智之

福島県立福島高等学校卒業
平成12年 佐賀医科大学卒業
臨床専門分野
1) 腫瘍外科(内視鏡外科、ロボット外科)
2) 遺伝性腫瘍
研究分野
1) 腫瘍学
趣味: 芝生の手入れ、ラグビー



学内講師
小野澤寿志

群馬県立前橋高等学校卒業
平成16年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 下部消化管外科(大腸・直腸・肛門)
2) 内視鏡外科
研究分野
1) 消化器癌の治療



講師 齋藤 元伸

埼玉県立松山高等学校卒業
平成13年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 腫瘍外科(消化器・一般外科)
2) がんゲノム医療
研究分野
1) ゲノム生物学
2) 個別化医療の開発
趣味: ゴルフ、ジョギング、スイミング



学内講師
花山 寛之

栃木県立大田原高等学校卒業
平成17年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 上部消化管外科(食道、胃)
2) 内視鏡外科(含 ロボット外科)
研究分野
1) 消化器癌の治療



講師 坂本 渉

神奈川県立横浜緑ヶ丘高等学校卒業
平成14年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 下部消化管(大腸・直腸・肛門)
2) 内視鏡外科(含 ロボット外科)
研究分野
1) 消化器癌の治療
趣味: トライアスロン、スキー



助教 千田 峻

岩手県立一関第一高等学校卒業
平成21年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 下部消化管外科
2) 内視鏡外科
研究分野
1) 消化器癌の治療
趣味: スノーボード、バスケット、中華料理

専門研修プログラム

	修得すべき手技や手術経験目標数など
3年次	<ul style="list-style-type: none"> 当科診療グループ（上部消化管・下部消化管）をローテート 他の外科系講座でのローテート 関連施設での研修 大学院入学も可能
4年次	<ul style="list-style-type: none"> 当科診療グループ（上部消化管・下部消化管）をローテート 他の外科系講座でのローテート 関連施設での研修
5年次	<ul style="list-style-type: none"> 当科診療グループでの専門研修 関連施設での専門研修 学位研究の開始 日本外科学会専門医取得
6年次以降	<ul style="list-style-type: none"> 専門医として病棟、外来での診療および後輩の指導 関連施設での専門研修および後輩の指導 学位取得 消化器外科専門医専門医取得の準備

* 卒後5年（5年次）までは、福島県立医科大学外科専門医プログラムに基づいて研修が行われる。

大学院・留学について

希望者は、3年次から大学院へ入学が可能であり、外科専門医修練と並行して学位研究が可能である。

留学先としては、シンガポール大学、カロリンスカ研究所（スウェーデン）、アメリカ国立衛生研究所（NIH）などがある。

専門医取得のために必要とされる手技・研修目標

外科専門医取得には、350例以上の手術手技を経験（うち術者として120例以上の経験）が必要である。各領域の手術経験の最低症例数が決められており、消化管および腹部内臓は50例以上が必要である。

（* 福島県立医科大学のプログラムは、約35施設の連携施設を要し、手術総数は、12,000例を越え、十分な症例を経験することが可能である。）

その他、研究業績として、筆頭演者として適当と認められた学術集会または学術刊行物に研究発表または論文発表していることが必要である。

3年間のプログラムを修了することで、5年次終了時には、外科専門医として認定される。

外科専門医修練期間から、サブスペシャリティの研修も開始可能であり、早期の消化器外科専門医の取得を目指します。

連携施設

	関連病院名	所在地	指導医名	職名
1	大原総合病院	福島市	小山 善久	院長
2	福島赤十字病院	福島市	遠藤 豪一	外科部主任部長
3	北福島医療センター	伊達市	佐藤 尚紀	消化器疾患センター長
4	公立藤田総合病院	国見町	木暮 道彦	外科顧問
5	総合南東北病院	郡山市	寺西 寧	院長
6	太田西ノ内病院	郡山市	石井 芳正	腫瘍センター長
7	寿泉堂総合病院	郡山市	浦住幸治郎	副院長
8	星総合病院	郡山市	野水 整	総長院長
9	公立岩瀬病院	須賀川市	土屋 貴男	院長
10	会津医療センター 外科学講座	会津若松市	齋藤 拓朗	教授
11	会津医療センター 小腸・大腸・肛門科学講座	会津若松市	遠藤 俊吾	教授
12	会津中央病院	会津若松市	井上 典夫	外科統括部長
13	福島労災病院	いわき市	武藤 淳	副院長
14	いわき市医療センター	いわき市	川口 信哉	副院長
15	白河厚生総合病院	白河市	大木 進司	院長

指導医からのメッセージ

福島県は広く、外科医の高齢化、偏在化の問題があり、優秀な外科医の需要が高まっています。当科では、一人でも多くの外科専門医、消化器外科専門医の輩出に努め、県内中核医療機関と協力して、福島県全体の外科のレベル向上に努めています。次世代の優秀な外科医を育成するために、日々のカンファレンスや技術的修練はもちろんのこと、何よりも「病む人の気持ちを」大切にする全人的教育を行っています。

充実した環境での教育、研修、および熱心な指導医とともに、優れた医療人として研鑽を積みましょう。当科での経験により、全国レベルで通用する外科医に必ずやなれることを約束いたします。

外科医を目指す研修医のみなさん、我々と一緒に輝かしい将来に向かって邁進しようではありませんか。

診療科(講座)紹介

- 1) 診療では、肝臓、胆道、膵臓、脾臓などの肝胆膵領域に対する外科的治療を専門として、集学的な治療を担当しています。高難易度手術、低侵襲手術としての腹腔鏡手術、肝移植や膵移植を行っています。県内唯一の脳死肝移植認定施設です。
- 2) 肝再生、膵島移植、がん免疫、肝胆膵領域癌の分子生物学的分野などについて研究を行っています。
- 3) 他の外科系講座、県内の研修病院と協力・連携し、研修医のみなさんの希望をマッチングした研修を行っています。

指導医(スタッフ)紹介



部長(主任教授)
丸橋 繁

群馬県立渋川高等学校卒業
平成6年 大阪大学卒業
研修病院・研修施設
大阪大学消化器外科、大阪府立成人病センター、ペイラー大学
臨床専門分野
1) 肝胆膵外科
2) 移植外科(肝・膵)
研究分野
1) 肝再生・移植
2) 腫瘍学
3) 肝胆膵領域癌の外科治療
趣味: ランニング、音楽鑑賞



講師 **小船戸康英**

私立城北埼玉高等学校卒業
平成15年 福島県立医科大学卒業
研修病院・研修施設
星総合病院、太田西ノ内病院、寿泉堂病院
臨床専門分野
1) 腫瘍外科(肝胆膵外科)
研究分野
1) 腫瘍学



教授(兼務)
見城 明

福島県立磐城高等学校卒業
平成4年 福島県立医科大学卒業
研修病院・研修施設
京都大学附属病院移植外科、南東北病院
臨床専門分野
1) 肝胆膵
2) 移植外科
研究分野
1) 肝胆膵領域癌の外科治療、集学的治療
2) 生体肝移植



学内講師 **芳賀淳一郎**

福島県立福島高等学校
平成15年 昭和大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 肝胆膵・移植領域
研究分野
1) 膵島移植の基礎実験
趣味: アニメ観賞



外科研修支援担当
(教授)(兼務)
木村 隆

福島県立安積高等学校卒業
平成8年 福島県立医科大学卒業
研修病院・研修施設
県立会津総合病院、公立岩瀬病院、
東京大学医科学研究所、ピッツバーグ大学
臨床専門分野
1) 消化器外科(特に肝胆膵外科)
2) 癌治療
3) 免疫療法
研究分野
1) 癌の分子生物学
2) 腫瘍免疫学



学内講師
佐藤 直哉

攻玉社高等学校卒業
平成17年 福島県立医科大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 肝胆膵領域の外科癌治療
2) 肝臓移植、膵臓移植、膵島移植
研究分野
1) 膵島移植に関する基礎研究
2) 肝胆膵領域の外科臨床研究
趣味: 釣り、バスケットボール(最近は観戦)、ジョギング



講師(兼務)
石亀 輝英

青森県立八戸高等学校卒業
平成13年 福島県立医科大学卒業
研修病院・研修施設
米国NIH、大原総合病院、寿泉堂病院
臨床専門分野
1) 腫瘍外科
研究分野
1) 消化器癌領域における新規バイオマーカーの探索

専門研修プログラム

	修得すべき手技や手術経験目標数など
1年次	<ul style="list-style-type: none"> 入院症例を中心とした診療・手術を担当します 他の外科系講座でのローテーションができます 関連施設での研修ができます（3年次までを考慮して研修計画をします） 大学院入学も可能です
2年次	<ul style="list-style-type: none"> 入院症例を中心とした診療・手術を担当します 他の外科系講座でのローテーションができます 関連施設での研修ができます（3年次までを考慮して研修計画をします） 大学院入学も可能です
3年次	<ul style="list-style-type: none"> 入院症例を中心とした診療・手術を担当します 他の外科系講座でのローテーションができます 関連施設での研修ができます（3年次までを考慮して研修計画をします） 学位研究を開始します 日本外科学会専門医取得を目指します
4年次	<ul style="list-style-type: none"> 日本外科学会専門医として病棟、外来での診療を担当します 日本外科学会専門医として後輩外科医の指導を行います 関連施設での専門研修および後輩の指導を行います 学位取得を目指します 消化器外科専門医専門医取得の準備を開始します

大学院・留学について

希望者は、1年次から大学院へ入学が可能です。臨床では外科専門医取得を目指した研修をしながら、医学博士の学位取得を目指した研究ができます。

留学先では、癌の基礎研究として東京大学医科学研究所、腫瘍免疫学の研究としてピッツバーグ大学、移植医療の研修としてベイラー大学、マイアミ大学、ウィスコンシン大学、メリーランド大学、臍島移植の研究としてアルバタ大学、ミネソタ大学などの実績があります。

専門医受験のために必要とされる技能・手技目標

外科専門医受験資格には、350例以上の手術手技を経験（うち120例以上は術者としての経験が必要）する必要があります。そのほかに、業績として、筆頭演者として適当と認められた学術集会または学術刊行物に、研究発表または論文発表をしていることも必要です。

最短で2年次（卒後4年）で予備試験（筆記試験）が受験可能で、3年次（卒後5年）に認定試験（面接試験）に合格することで外科専門医が取得可能です。

さらにサブスペシャリティとしての消化器外科専門医取得を目指します。

連携施設

	関連病院名	所在地	指導医名	職名
1	大原総合病院	福島市	小山 善久	病院長
2	福島赤十字病院	福島市	遠藤 豪一	外科部主任部長
3	公立藤田総合病院	国見町	木暮 道彦	外科顧問
4	総合南東北病院	郡山市	寺西 寧	病院長
5	太田西ノ内病院	郡山市	石井 芳正	外科部長
6	寿泉堂総合病院	郡山市	浦住幸治郎	副院長
7	星総合病院	郡山市	野水 整	病院長
8	公立岩瀬病院	須賀川市	土屋 貴男	病院長
9	会津医療センター	会津若松市	齋藤 拓朗	教授
10	会津中央病院	会津若松市	島貴 公義	外科部長
11	福島労災病院	いわき市	武藤 淳	副院長
12	米沢市立病院	山形県米沢市	菅野 博隆	外科科長

指導医からのメッセージ

肝胆膵・移植外科は、外科専門医や消化器外科専門医を基本としております。このため、肝胆膵・移植外科講座では、第一に外科専門医、消化器外科専門医を取得するための教育・研修を行っています。また、専門性の高い外科領域ではありますが、大学附属病院を中心として県内の関連病院と連携して、研修医のみなさんに円滑な研修を提供していこうと努めています。さらに、専門医の取得をめざしながら、研究も両立することができる全国でも画期的なプログラムがあります。臨床や研究での学会活動も早期から経験することができ、誠意あふれる指導医の元で論文執筆もすることでできます。

このような充実した環境で教育、研修を受け、心技体が一体となった優れた医療人として研鑽を積んでいただければ、必ずや全国レベルで通用する外科医になれることを約束いたします。

当講座のモットーは、①Inquirers: 好奇心を持って探求し学びを楽しむ人、②Thinkers: 批判的・創造的な思考が出来る人、③Caring and warm-hearted: 他者に対して思いやりのある人を育てる、ことです。

外科医を目指す、チャレンジ精神と熱意溢れる研修医のみなさん、私たちと一緒に輝かしい外科の将来を見据えた夢と一緒に探求しようではありませんか。一緒に診療・研究ができることを期待しながら、お待ちしております。

診療科(講座)紹介

- 1) 乳腺疾患、主に乳癌の治療を専門に行う講座です。
- 2) 外科学一般を基礎として、乳癌診療に必要な画像診断、外科的治療、薬物療法、緩和療法などの知識を有する総合的な外科医の育成を行っています。
- 3) 院内、県内外の関連施設での外科研修を通して、外科専門医、乳腺専門医の取得、学位(医学博士)の取得を支援しています。

指導医(スタッフ)紹介



部長(主任教授)
大竹 徹

福島県立安積高等学校卒業
平成2年 福島県立医科大学医学部卒業
平成6年 福島県立医科大学大学院修了
臨床専門分野
1) 乳腺外科
2) 乳癌の薬物療法
3) 乳癌検診
研究分野
1) 乳癌の乳管内進展の3次元的病理解析

学会活動

- 1) American Society of Clinical Oncology(ASCO, full member)
- 2) 日本外科学会 専門医/指導医
- 3) 日本乳癌学会 専門医/指導医/評議員/倫理委員会委員
- 4) 日本乳癌検診学会 評議員/倫理委員会委員
- 5) 日本乳房オンコプラスチックサージェリー学会 評議員/倫理・利益相反委員会委員/教育・研修委員会委員
- 6) 日本遺伝性腫瘍学会 評議員/倫理審査委員会委員
- 7) 日本病理学会 学術評議員
- 8) 日本外科病理学会 評議員



副部長(講師)
立花和之進

福島県立安積高等学校卒業
平成16年 福島県立医科大学医学部卒業
平成24年 福島県立医科大学大学院修了
臨床専門分野
1) 乳腺外科
2) 乳癌の薬物療法
3) 乳癌検診
研究分野
1) 腫瘍学



助教 星 信大

福島県立喜多方高等学校卒業
平成23年 福島県立医科大学医学部卒業
令和2年 福島県立医科大学大学院修了
臨床専門分野
1) 乳腺外科
2) 乳癌の薬物療法
3) 乳癌検診
研究分野
1) 腫瘍学



学内講師
岡野 舞子

岩手県立盛岡第一高等学校
平成17年 福島県立医科大学医学部卒業
平成24年 福島県立医科大学大学院修了
臨床専門分野
1) 乳腺外科
2) 乳癌の薬物療法
3) 乳癌検診
研究分野
1) 腫瘍学



病院助手 阿部 貞彦

福島県立原町高等学校卒業
平成25年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 乳腺外科
2) 乳癌の薬物療法
3) 乳癌検診
研究分野
1) 腫瘍学



助教 野田 勝

福島県立福島高等学校卒業
平成20年 山形大学医学部医学科卒業
平成29年 福島県立医科大学大学院修了
臨床専門分野
1) 乳腺外科
2) 乳癌の薬物療法
3) 乳癌検診
研究分野
1) 腫瘍学



博士研究員・病院助手
村上 祐子

福島県立安積黎明高等学校卒業
平成23年 福島県立医科大学医学部卒業
令和2年 福島県立医科大学大学院修了
臨床専門分野
1) 乳腺外科
2) 乳癌の薬物療法
3) 乳癌検診
研究分野
1) 腫瘍学

専門研修プログラム

	修得すべき手技や手術経験目標数など
1年次	<ul style="list-style-type: none"> 当科診療グループ（乳腺外科）をローテート 他の外科系講座でのローテート 関連施設での研修 大学院入学も可能
2年次	<ul style="list-style-type: none"> 当科診療グループ（乳腺外科）をローテート 他の外科系講座でのローテート 関連施設での研修
3年次	<ul style="list-style-type: none"> 当科診療グループでの専門研修 関連施設での専門研修 学位研究の開始 日本外科学会専門医取得
4年次	<ul style="list-style-type: none"> 専門医として病棟、外来での診療および後輩の指導 関連施設での専門研修および後輩の指導 学位取得 乳腺専門医専門医取得の準備

大学院・留学について

希望者は、1年次から大学院入学が可能であり、外科専門医取得と並行して学位取得が可能です。

留学先としては、MDアンダーソン癌センター（米国）、ロズウェルパーク癌研究所（米国）などがあります。

専門医受験のために必要とされる技能・手技目標

外科専門医受験資格には、350例以上の手術手技を経験（うち120例以上は術者としての経験が必要）する必要があります。そのほかに業績として、筆頭演者として適当と認められた学術集会または学術刊行物に、研究発表または論文発表をしていることが必要である。

最短で2年次（卒後4年）で予備試験（筆記試験）が受験可能であり、3年次（卒後5年）に認定試験（面接試験）に合格することで外科専門医が取得可能です。

さらにサブスペシャリティとしての乳腺専門医取得を目指します。



連携施設

	関連病院名	所在地	指導医名	職名
1	大原総合病院	福島市	小山 善久	院長
2	福島赤十字病院	福島市	鈴木 恭一	院長
3	北福島医療センター	伊達市	安田 満彦	乳腺疾患センター長
4	公立藤田総合病院	国見町	近藤祐一郎	院長
5	総合南東北病院	郡山市	寺西 寧	病院長
6	太田西ノ内病院	郡山市	石井 芳正	外科部長
7	寿泉堂総合病院	郡山市	浦住幸治郎	副院長
8	星総合病院	郡山市	野水 整	総長院長
9	公立岩瀬病院	須賀川市	土屋 貴男	病院長
10	会津医療センター	会津若松市	斎藤 拓郎	教授
11	会津中央病院	会津若松市	井上 典夫	外科統括部長
12	福島労災病院	いわき市	武藤 淳	副院長

指導医からのメッセージ

当講座は消化管外科、肝胆膵・移植外科、甲状腺内分泌外科、乳腺外科と幅広い診療部門を有していた旧器官制御外科学講座（第2外科）より、外科の講座再編に伴い2016年11月に誕生しました。

乳腺外科では検診、診断、外科治療、薬物療法などを通じて、乳癌と闘う方を様々な角度から支援するとともに、県内外の関連施設と連携して優れた乳腺専門医を数多く養成しています。科学的な研究成果に基づき最先端の乳癌診療を提供できるように、またそれに必要な深い人間性も兼ね備えるべく、皆で診療・教育・研究に一丸となって取り組んでいます。

福島県のみならず、日本全国、世界での活躍を目指す皆さんをお待ちしています。



診療科（講座）紹介

小児外科は16歳未満の小児に対し、消化器・一般外科の診療を行う科です。ただしその内容は成人外科のそれとは大きく異なります。小児外科で扱う疾患には体表や内臓の先天性な形成異常が多いことが特徴です。その手術時期、手術法、一期的手術か多段階手術かの選択なども、原疾患の病態や児の全身状態を考えた綿密な治療戦略を練る必要があります。また小さなお子さん、特に新生児や乳児では各臓器の機能が未熟な段階であるため、個々の生理機能を考慮した丁寧な周術期管理を要します。また当然ながらそのお子さんのその後の数十年にわたる社会生活を過ごすうえでのQOLを考慮した治療を行わなければならない、この点も小児外科の特徴といえます。

指導医（スタッフ）紹介



部長（教授）
田中 秀明

北海道立帯広柏葉高校卒
平成4年 東京大学医学部医学科卒業
臨床専門分野
1) 小児外科
2) 肝移植、腎移植
研究分野
1) 低侵襲手術、小児外科手術における顕微鏡下手技の応用
2) 小児外科、移植外科関連病態への再生医療
趣味：ドライブ



病院助手
町野 翔

福島県立会津高等学校卒業
平成28年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 小児外科一般
趣味：スポーツ、旅行



講師 清水 裕史

宮城県立仙台第一高等学校卒業
平成15年 福島県立医科大学卒業
研修病院・研修施設
総合南東北病院、福島労災病院、兵庫県立こども病院、アルバータ大学
臨床専門分野
1) 小児外科
2) 新生児外科
3) 小児がん
研究分野
1) 臓器移植
2) 細胞シート工学、異種移植
趣味：読書、映画鑑賞、ドライブ



病院助手 二見 徹

東邦大学附属東邦高等学校卒業
平成30年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 小児外科一般
趣味：旅行



助手 尾形 誠弥

福島県立福島高等学校卒業
平成25年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 小児外科一般
趣味：旅行、筋トレ、球技系

専門研修プログラム

まず日本外科学会専門医制度に従い(今後新専門医制度に移行予定)外科専門医を取得してもらいます。このため1年次より本学の外科専門医プログラムに入り、本学もしくはその関連施設において外科専門医取得のための修練が開始されます。3～4年で外科専門医取得に必要な臨床的技術および経験数が得られます。その間に本学附属病院にて小児外科に数ヶ月から1年間専従することで豊富な症例が経験でき、将来の小児外科専門医取得につながる基本的な臨床能力も取得することができます。

後期研修終了後に本学の附属病院にて小児外科医としての本格的なトレーニングが開始されます。外科専門医取得の後、更に日本小児外科学会の定める所定の臨床経験や業績を積み、筆記試験に合格した後に小児外科専門医になることができます。

大学院・留学について

小児外科専門医の取得に必要な臨床経験が得られたのちに大学院に入学、学内外の研究室と提携し基礎研究に取り組んでもらいます。ただし入学時期については本人の希望を加味し、また科内の他の人事との兼ね合いもありますので、個々の状況により流動的です。

臨床においても国内のhigh volume centerと提携し幅広い経験ができれば国内留学が可能です。現スタッフはカナダやオーストラリアでの研究や臨床での留学の実績があり、これらの国を含めた欧米への海外留学も可能です。

専門医受験資格のために必要とされる技能・手技目標

小児外科専門医取得に必要な条件の一部として、以下の手術経験を有することが必要；小児外科手術150例以上の執刀経験、新生児20例以上の手術経験(うち少なくとも10例は執刀経験とし、残りは助手でも可)、5歳以下乳幼児100例以上の執刀経験、鼠径ヘルニア類100例以上の執刀経験、鼠径ヘルニア類以外50例以上の執刀経験。詳細は日本小児外科学会ホームページ(<http://www.jsps.gr.jp/>)を参照してください。

連携施設

外科専門医取得のための協力病院については、本学の外科専門医プログラムの情報を参照してください。小児外科としては国立成育医療研究センター、埼玉県立小児医療センターなど。

指導医からのメッセージ

私たちは手術を行う場合、治療効果を保ちつつ基本的には傷は小さく目立たないように、また全体の侵襲が少しでも低減する術式を行うようにしています。腹腔鏡や胸腔鏡下の術式を積極的に行いますが、難易度の高い手術においては必要に応じて小開腹下の操作を追加するなど、安全性、確実性を優先したhybrid手術を行う方針としています。また小児の悪性固形腫瘍に対する集学的治療における外科手術の役割は大きく、特に重要臓器や血管を巻き込むような腫瘍に対しては、開腹もしくは鏡視(補助)下に加え顕微鏡下手技を加えたより綿密なアプローチを行う方針としています。

2016年末に開設したみらい棟にある総合周産期母子医療センターとこども医療センターは福島県の周産期および小児医療の中心的役割を今後も担います。PICUでは高度な集中治療を要する病態への診療体制が整っています。私田中はこれまで国内外で脳死および生体ドナーからの肝移植、腎移植にも携わってまいりました。関連する診療科の先生方と協力しつつ、それら臓器不全に対する小児の移植医療も進めていきたいと考えています。

小児外科を志したいという若い先生が増えてくれることを願っています。新入医局員の皆さんに満足のいく教育や研究のチャンスを与えられるようにすることが、私の使命と考えています。

こどもたちの笑顔のために、またそのこどもたちが成長し、この地域や社会を支える大人になっている姿を思い描きながら、一緒に小児外科をやりたいでしょう！

診療科(講座)紹介

当診療科では、甲状腺を含めた内分泌疾患を中心に内科的な診断、マネージメントを行います。下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎の代表的臓器疾患に加え、肥満、やせ、低血糖症、性腺機能異常、カルシウム代謝異常など幅広く診療を行います。また、甲状腺を含めた内分泌腫瘍の治療方針の検討や術前術後の内科的管理を積極的に行って参ります。

指導医(スタッフ)紹介



部長(教授)
古屋 文彦

私立駿台甲府高校(山梨県)卒業
平成10年 群馬大学医学部医学科卒業
臨床専門分野
1) 甲状腺科
2) 糖尿病・内分泌代謝内科
研究分野
1) 甲状腺ホルモン代謝
2) 慢性炎症
趣味: 旅行、城郭考古学



副部長(教授)(兼務)
鈴木 悟

私立桐朋高等学校(東京都)卒業
昭和63年 信州大学医学部医学科卒業
米国シカゴ大学Thyroid Study Unit
臨床専門分野
1) 甲状腺科
2) 糖尿病内分泌代謝内科
3) 老年医学
研究分野
1) 甲状腺ホルモン輸送、作用
2) 甲状腺癌遺伝子治療
3) ビタミンの抗老化作用について
趣味: サッカー



講師
鈴木 聡

福島県立福島高等学校卒業
平成8年 福島県立医科大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 甲状腺科
2) 超音波診断
研究分野
1) 甲状腺ホルモン作用
2) 成長による甲状腺超音波所見の変化
趣味: 子育て、家庭菜園

各種サブスペシャリティ取得のために 内科専門医+総合内科専門医

当科には指導医3名が在籍しています。内分泌疾患の症例は複数の疾患を合併することから他領域の多くの症例を経験することができます。内科専門医取得に必要な症例の研修が行えます。

指導医からのメッセージ

当科には上記の他に、小児内分泌内科指導医1名が在籍しています。内分泌外科との合同カンファレンス(毎週木曜日)糖尿病内分泌内科との合同カンファレンス(毎火曜日)、院内全診療科からの講師を招聘してのグランドカンファレンス(毎月第2火曜日)、核医学科との合同カンファレンス(毎月)行っており、全診療科横断的な見地から総合的に個々の症例の検討をしています。多くの症例を、最新の専門的知識と技能について直接指導を受けることができます。専門医取得までのタイムスケジュール
甲状腺内分泌内科で行われるサブスペシャリティ研修(3年)では、1年目は糖尿病内分泌内科における入院患者の診療を中心に研修を行い、甲状腺内分泌センターでの外来診療を指導医とともにを行います。

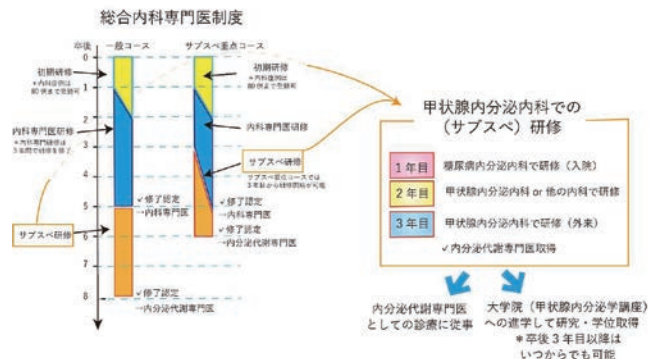
甲状腺内分泌学講座での研修

研修医・学生の方へ

甲状腺・内分泌内科では、内分泌・代謝内科領域の疾患を中心に診療を行っています。内分泌疾患、生活習慣病、内分泌領域の腫瘍の臨床や基礎研究に興味がある方の入局を募っています。

甲状腺内分泌内科での研修の特徴

現在、内分泌代謝専門医・指導医が3名在職し甲状腺内分泌診療センターにおいて専門外来を行っており、糖尿病内分泌内科と協力しながら外来・入院の研修プログラムを整えています。学会発表や症例報告、基礎・臨床研究の論文作成の体制もあります。



診療科(講座)紹介

- 【臨床】** 甲状腺を中心とした、内分泌外科領域の診断、治療を行います。
- 【研究】** 甲状腺癌の発生、進展に関する分子生物学的研究／甲状腺、副腎内視鏡手術の最適化に関する研究／回診支援ロボットの開発研究
- 【研修】** 学内および県内、県外の協力病院での研修を有機的に行います。
日本甲状腺学会、日本内分泌・甲状腺外科学会、日本超音波医学会の専門医の取得が出来ます。

指導医(スタッフ)紹介



部長(兼任)
鈴木 弘行

福島県立会津高等学校卒業
平成2年 福島県立医科大学卒業
研修病院・研修施設
白河厚生総合病院、磐城共立病院、ピッツバーグ大学
臨床専門分野
1) 呼吸器外科
2) 縦隔外科
3) 癌に対する免疫療法
4) 肺癌化学療法
研究分野
1) 肺癌の分子生物学
2) 癌免疫
3) 腫瘍学
趣味: B級グルメ、ワインと日本酒愛好



学内講師 水沼 廣

宮城県角田高等学校卒業
昭和63年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 外科一般



講師 鈴木 聡

福島県立福島高等学校卒業
平成8年 福島県立医科大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 腫瘍外科・内分泌外科
2) 超音波診断
3) 癌化学療法
研究分野
1) がんの個別化医療
趣味: 子育て、家庭菜園



学内講師
松本 佳子

福島県立安積女子高等学校卒業
平成19年 福島県立医科大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 腫瘍外科・内分泌外科
2) 内視鏡外科、超音波診断
3) 家族性腫瘍
研究分野
1) 癌遺伝子の発現
趣味: ダイビング、山登り、温泉巡り



助手 塩 功貴

福島県立磐城高等学校卒業
平成29年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 甲状腺・内分泌外科
研究分野
1) がんゲノム
趣味: ポケモン

専門研修プログラム

	修得すべき手技や手術経験目標数など
1年次 (卒後3年)	・当科各診療グループをローテート ・当科関連教育施設での研修 各施設で症例数が異なるが十分な手術経験を習得できる。
2年次	・当科各診療グループをローテート ・当科関連教育施設での研修 各施設で症例数が異なるが十分な手術経験を習得できる。
3年次	・当科各診療グループを選択、専門研修 ・当科関連教育施設での専門研修 ・研究班に所属、学位取得 ・日本外科学会専門医を取得
4年次	・専門医として病棟及び外来診療、後輩の指導 ・当科関連教育施設での後輩の指導 ・研究班に所属、学位取得 ・甲状腺学会専門医などを取得

大学院・留学について

- 1) 卒後臨床研修修了後に大学院に進学し、研究を行う。
- 2) 学位取得前後に外科臨床研修も行う。
- 3) さらに研究を進めるため留学を推奨する。

専門医受験資格のために必要とされる技能・手技目標

甲状腺腫瘍(癌、腺腫、悪性リンパ腫、未分化癌)の手術療法、化学療法
甲状腺機能亢進症の内科的、外科的マネジメント
副甲状腺機能亢進症の内科的マネジメント
副甲状腺腫瘍(癌、腺腫)の手術療法
甲状腺、副甲状腺疾患に対する内視鏡外科
下垂体疾患の内科的マネジメント
副腎疾患の内科的マネジメント、手術療法、内視鏡外科

指導医からのメッセージ

甲状腺・内分泌疾患は、内科、外科が協調して診療にあたることで、最大の効果が得られるものと心得ています。甲状腺内分泌学講座では内科、外科医が協調して、診療、研究にあたっています。このため、疾患の多角的アプローチ法を学び、病態、治療法の深い理解を得ることが出来ます。

外科専門医を取得するために必要な研修も受けることができます。また現在進行中の、福島県県民健康調査に伴う甲状腺超音波検査を、放射線医学県民健康管理センターと協調して行っています。世界に類を見ない大規模な甲状腺超音波検査に参画できる貴重な機会です。是非、一緒に診療を行い、そこから得られる成果を世界に発信していきましょう。

診療科(講座)紹介

URL <http://www.fmu.ac.jp/home/cvsurg1/index.html>

- 1) 教室の方針：他科との連携をはかりながら明るく楽しく仕事をこなし、10年で一人前になれるよう教育する方針です。
- 2) 東北屈指の手術数：最近5年間の手術数は増加の一途を辿っています。現在、開心術は、200例、総手術数は350例です。手術枠の増加に伴い今後も増加が見込まれます。また、関連病院全体の手術数も増加しており、十分に症例数は確保できます。
- 3) 全国屈指の手術成績：心拍動下冠動脈バイパス手術や大血管のステントグラフト治療、順行性脳灌流を用いた脳保護、また、僧帽弁形成術や下肢静脈瘤に対する半導体レーザー治療など低侵襲でQOLの高い手術をめざし、手術成績は良好です。

指導医(スタッフ)紹介



部長(教授)
横山 斉

新潟県立新潟高等学校卒業
昭和58年 東北大学医学部卒業
東北大学大学院卒業(医学博士)
国立水戸病院
東北大学医学部附属病院
青森県立中央病院
Medical College of
Pennsylvania/Hahneman University
臨床専門分野
1) 心臓血管外科(冠動脈、弁膜症、胸部大動脈)
研究分野
1) 心拍動下手術
2) 低侵襲手術
3) 心臓移植
趣味：スキー、ゴルフ

学会活動

- 1) 日本心臓血管外科学会(理事長)
- 2) 日本冠動脈外科学会(理事)
- 3) 日本胸部外科学会(評議員)
- 4) 日本循環器学会(理事)
- 5) 日本移植学会
- 6) 日本人工臓器学会
- 7) 日本冠疾患学会(理事)
- 8) 日本血管外科学会
- 9) 日本脈管学会
- 10) International Society of Cardiovascular Surgery
- 11) International Society for Minimally Invasive Cardiothoracic Surgery



副部長(講師)
高瀬 信弥

福島県立安積高等学校卒業
平成元年 福島県立医科大学卒業
医学博士(福島県立医科大学)
カリフォルニア大学、サンディエゴ校留学
臨床専門分野
1) 心臓血管外科(冠動脈、大血管(ステントグラフト)、弁膜症、不整脈)
2) 末梢血管手術、血管内治療
3) 心不全治療(植込型人工心臓・ハートシート)
研究分野
1) 虚血性疾患における血管新生療法
2) 大血管外科におけるステントグラフトの応用・改良
3) 心房細動における外科治療の改良
4) 微小循環における内皮・白血球相互作用の研究
趣味：自転車、ランニング、登山、アマチュア無線



助手 **新城 宏治**

福島県立安積高等学校卒業
平成22年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 成人心臓血管外科
研究分野
1) 外科トレーニング教育
趣味：熱帯魚飼育、ガーデニング、キャンプ



講師 **若松 大樹**

栃木県立栃木高等学校卒業
平成11年 福島県立医科大学卒業
福島県立会津総合病院
臨床専門分野
1) 心臓血管外科(先天性心疾患)
研究分野
1) 小児心臓手術
2) 弁膜症の治療
3) 冠動脈疾患を有する腹部大動脈瘤の治療
趣味：スポーツ観戦、ツーリング



助手 **石田 圭一**

私立開成学園開成高等学校卒業
平成23年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 成人心臓血管外科全般
研究分野
1) 大動脈弁複合体の画像解析
趣味：ワークアウト、映画、植物



助教(学内講師)
瀬戸 夕輝

私立栄光学園高等学校(神奈川県)卒業
平成15年 福島県立医科大学卒業
平成23年 福島県立医科大学大学院卒業
平成25年 ニュルンベルグクリニック病院
血管外科留学
臨床専門分野
1) ステントグラフト治療(胸部、腹部)
研究分野
1) 慢性B型大動脈解離に対するステントグラフト治療
2) 分枝再建を伴うステントグラフト治療
趣味：ピアノ、水泳



助手(外科専攻医、心臓血管外科修練医)
近内 政美

平成14年 福島県立安積高校卒業
平成29年 福島県立医科大学卒業
趣味：映画鑑賞

助教 **山本 晃裕**

福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 成人心臓血管外科
研究分野
1) 重症心不全
趣味：読書、筋トレ



助手(外科専攻医、心臓血管外科修練医)
永田 恵実

平成24年 桜蔭学園卒業
平成30年 東京医科歯科大学卒業
趣味：ダイビング、温泉巡り

専門研修プログラム

	修得すべき手技や手術経験目標数など
1 年次 (卒業3年)	1) 胸骨正中切開および閉胸 (術者20例) 2) 人工心肺装着 (第一助手10例) 3) ペースメーカー手術 (助手10例) 4) 中心静脈カテーテル挿入 (術者30例) 5) 末梢動脈吻合、静脈瘤 (術者各10例) 6) 地方会発表
2 年次	1) 人工心肺装着 (術者20例) 2) 低リスク心臓手術 (第一助手10例) 3) ペースメーカー手術 (術者10例) 4) 末梢動脈バイパス術 (術者10例) 5) 静脈瘤手術 (術者10例)
3 年次	1) 単純心奇形手術 (術者5例) 2) 低リスク心臓手術 (第一助手10例) 3) 胸骨正中切開および閉胸 (指導助手10例) 4) 人工心肺装着 (指導助手10例) 5) 腹部大動脈瘤 (術者5例) 6) 末梢血管手術 (術者および助手20例) 7) 全国学会発表
4 年次	1) 大動脈弁置換術、単純心奇形手術 (術者10例) 2) 中リスク心臓手術 (第一助手20例) 3) 腹部大動脈瘤手術 (術者および指導助手10例) 4) 末梢血管手術 (術者30例) 5) 論文作成発表

大学院・留学について

【海外学会参加について】

後期研修2年次には5月に開催される米国胸部外科学会に参加し、世界の最先端の技術にふれる。

【大学院について】

後期研修システムの中に学位併願型コースがあり、外科専門医取得と博士号取得が同時に可能となっている。勿論、希望する研修医には1年次に大学院の試験を受けて、2年次から大学院に入学することは可能である。しかし現状は、臨床研修で専門医取得の目安がつきより深い研究に興味のでる3～4年次から大学院に入学している研修医が多い。

【留学について】

外科専門医、心臓血管外科専門医を取得し、博士号を取得した後に、本人の希望があれば海外、国内を問わず是非留学していただきたいと考えている。専門性を高め、広い視野を得る意味で大変重要な経験であり、その経験を是非大学の発展のために還元していただきたい。

専門医受験資格のために必要とされる技能・手技目標

- 1) 医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につけ、患者さんと信頼関係を築くことができる。心臓血管外科診療の適切なインフォームドコンセントを得ることができる。真摯な態度で他科の医師およびコメディカルスタッフと触れ合い、協力して診療にあたることことができる。心臓血管外科診療はチーム医療であることを理解し、協働性をもって指導医および下級医と接することができる。研修医や学生に診療の指導をすることができる。
- 2) 心臓血管外科学の進歩に合わせた生涯学習を行なう方略の基本を習得し実践できる。臨床および研究に対する問題解決のため自ら資料の収集や文献検索を行うことができる。カンファレンスや学会で自分の意見を積極的に述べ、また質問することができる。学会や学術出版物に症例報告や臨床研究の結果をまとめて発表することができる。学術出版物や研究発表について、これを理解し批判的吟味をすることができる。
- 3) 心臓血管外科領域における局所解剖および病態生理を理解し、集中治療および全身管理を行なうことができる。救急・救命医療について理解し、循環器領域の急変時蘇生術および対処を的確に行なうことができる。緊急手術の適応を的確に判断でき、これに対応できる。
- 4) 心エコー、Swan-Ganzカテーテルの挿入をスムーズに

行なうことができ、循環動態を的確に評価することができる。心臓カテーテル検査や心血管造影検査を習熟し、心臓血管外科領域の画像診断にも精通しており、診断治療の計画を立てることができる。

- 5) 開胸閉胸術、血管露出術、血管吻合術、体外循環の構築および離脱、基本的心臓手術手技を習熟している。先天性心疾患、後天性心疾患、大血管疾患、末梢血管疾患、心不全、不整脈などの病態生理を理解し、心臓血管外科診療に必要な基礎知識を習熟しており、臨床に即した対応ができる。

連携施設

	関連病院名	所在地	指導医名	職名
1	太田西ノ内病院	郡山市	高橋 皇基	部長
2	星総合病院	郡山市	高橋 昌一	部長
3	総合南東北病院	郡山市	緑川 博文	部長
4	福島赤十字病院	福島市	籠島 彰人	部長
5	福島第一病院	福島市	小川 智弘	部長
6	米沢市立病院	米沢市	佐藤 洋一	科長
7	いわき市医療センター	いわき市	入江 嘉仁	部長

指導医からのメッセージ

●**医局の雰囲気**：教授を筆頭に若いスタッフが多く、和気あいあいとした雰囲気。皆元気がよく、カンファレンスでも年齢に関係なく自由に意見を述べられる雰囲気です。また、他科との連携が良好で、循環器内科と心臓血管外科は同じ病棟に移転し循環器センターとして内科外科の垣根をとりはらって臨床に臨んでいます。麻酔科やコメディカルとの連携も良好で、それが良好な手術成績の一因でもあります。2008年からドクターヘリ、救命救急センターの運用が開始された結果、緊急手術も著増しており、ますます手術症例が増えると同時に他科との連携が求められています。

●**臨床研修について**：若い医師が手術に入る機会を多くしようと医局全体で考えています。手術症例数は増加の一途を辿っており、研修協力病院も増加しています（星総合病院、太田西ノ内病院、いわき市医療センター、会津中央病院が参加）。10年で一人前の外科医に育てるために、術者の経験も振り分けています。指導医による指導体制の下、医局の中堅（心臓外科専門医修練中＝主治医クラス）が診療の中心となり、研修医も大学や関連病院での手術機会に恵まれています。大学病院全体で、研修医の雑用を減らすべく取り組んでいます。消化器および呼吸器、小児外科などの研修は大学内でも関連病院でも各外科系講座が連携しています。

●**心臓血管外科について**：当科においては2001年に新しい教室になってから魅力的な心臓血管外科を確立すべく教授を先頭に頑張ってきました。手術成績が良好なので術後管理もルーチン化し手術数が増えるという良い循環になっています。よって、若手から手術をする機会が増えると同時に、以前より時間的余裕もできました。また経済的にも医師・研修医の生活が安定するよう配慮されています。福島県はまだ心臓血管外科医が不足しています。高齢化が進む中で症例数は増加し、今後ますます社会に求められる専門科です。一度経験すれば、心臓外科の「やりがい」のすばらしさ、「人の命を救う実感」に人生を賭ける仕事であることがすぐに分かります。医学生・研修医を問わず進路相談などいつでも歓迎します。

- 1) 脳腫瘍や脳血管障害を中心に、脳神経外科全ての疾患を対象として24時間体制で診療にあたっています。
- 2) 機能的手術、血管内手術、神経内視鏡手術、術中MRIなど、常に最新の治療に取り組み、覚醒下手術、頭蓋底外科手術では国内をリードしています。
- 3) 教育重視が講座の方針です。若手も積極的に手術を行います。チーフレジデント制を採用し、総合力を身につけます。
- 4) 女性医師の割合が多く、また男性医師には積極的に育休を取得してもらっています。

指導医(スタッフ)紹介



部長(教授)
藤井 正純

愛知県立旭丘高等学校卒業
平成4年 名古屋大学医学部卒業

臨床専門分野

- 1) 脳腫瘍
- 2) 覚醒下手術、画像誘導手術
- 3) 頭蓋底外科手術

研究分野

- 1) 神経ネットワークと脳機能解析
- 2) 新しいナビゲーション手術の開発
- 3) 神経線維腫症 2 型
- 4) 脳腫瘍の基礎研究

趣味: スキー、将棋

学会活動

- 1) 日本脳神経外科学会(指導医)
- 2) 日本脳神経外科コンgres
- 3) American Association of Neurological Surgeons
- 4) 日本術中画像情報学会(理事)
- 5) 日本頭蓋底外科学会(理事)
- 6) 日本Awake surgery学会(運営委員)
- 7) 日本脳腫瘍の外科学会(理事)
- 8) 日本高次脳機能障害学会(代議員)
- 9) 日本コンピュータ外科学会(評議員)
- 10) 日本脳腫瘍学会(会員)
- 11) 日本小児脳神経外科学会(会員)
- 12) 日本ヒト脳機能マッピング学会(会員)



准教授
小島 隆生

山口県立宇部高等学校卒業
平成7年 名古屋大学医学部卒業

臨床専門分野

- 1) 脳血管障害
- 2) 脳血管内治療

研究分野

- 1) 脳血管内治療における診断と手技の開発
- 2) 脳梗塞急性期治療と診療システム

趣味: 運動(サッカー、スキー)



助教
バキットムダシル

アブドゥルモニエム・ハソナ高等学校(スーダン国)卒業
平成13年 University of Medical Sciences and Technology(スーダン国)卒業

臨床専門分野

- 1) 脳神経外科一般

研究分野

- 1) 神経画像
- 2) 認知神経科学
- 3) 神経解剖学
- 4) 脳内ネットワーク
- 5) 脳腫瘍

趣味: ドキュメンタリー鑑賞、旅行



准教授
市川 優寛
(ふたは救急総合医療支援センター業務)

愛知県立豊橋南高等学校卒業
平成9年 筑波大学医学専門学群卒業

臨床専門分野

- 1) 機能的脳神経外科
(てんかん、疼痛、不随意運動)

2) 脳神経外科救急

研究分野

- 1) てんかん
- 2) パーキンソン病
- 3) 難治性疼痛

趣味: 散歩



助手
前田 卓哉

北海道立室蘭米高校卒業
平成18年 福島県立医科大学卒業

臨床専門分野

- 1) 脳血管障害
- 2) 脳血管内治療

研究分野

- 1) 脳血管内治療

趣味: 読書、スポーツ観戦



講師
神宮字伸哉

山梨県立甲府南高等学校卒業
平成14年 新潟大学医学部卒業

臨床専門分野

- 1) 脳腫瘍
- 2) 神経内視鏡手術
- 3) 頭蓋底外科手術

研究分野

- 1) 脳腫瘍
- 2) 神経内視鏡手術

趣味: ラーメン食べ歩き



助教
黒見 洋介

学校法人桐蔭学園高等学校(神奈川県)卒業
平成22年 福島県立医科大学卒業

臨床専門分野

- 1) 脳血管障害
- 2) 機能的脳神経外科

研究分野

- 1) 脳腫瘍
- 2) 機能的脳神経外科

趣味: チェロ



講師
岩楯 兼尚

学校法人市川学園市川高等学校(千葉県)卒業
平成17年 順天堂大学医学部卒業

臨床専門分野

- 1) 脳神経外科一般
- 2) 術中モニタリング
- 3) 学生教育

研究分野

- 1) 術中神経モニタリング
- 2) 脳腫瘍

趣味: 家族と自然で遊ぶ



助教
伊藤 裕平

埼玉県立浦和高等学校卒業
平成26年 福島県立医科大学卒業

臨床専門分野

- 1) 脳血管障害

研究分野

- 1) 脳血管障害

趣味: 漫画を読む



助教 蛭田 亮

福島県立磐城高等学校
平成26年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 脳腫瘍
2) 覚醒下手術
研究分野
1) 機能的MRI、術中MRI
2) 術中電気生理学的モニタリング
3) レーザー光源の臨床応用
趣味：バドミントン



助手 東田 綾子

東京都立西高等学校卒業
平成26年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 脳神経外科一般
2) 小児脳神経外科
研究分野
1) 小児脳神経外科
趣味：料理、絵、お酒



助手 長井健一郎

千葉県立千葉高等学校卒業
平成27年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 脳神経外科一般 2) 脳腫瘍
3) 小児脳神経外科
研究分野
1) 脳腫瘍 2) グリオーママウスモデル
3) 脳腫瘍診断マーカー
趣味：歴史、考古学、バイク

専門研修プログラム

	修得すべき手技や手術経験目標数など
1年次 (卒後3年)	手技：一般的疾患の術前後管理、脳血管撮影、手術室セットアップ 術式：穿頭術、シャント手術、開閉頭、外傷血腫除去術、一般的顕微鏡手術助手 手術経験目標：術者として30例
2年次	手技：専門的疾患の術前後管理、術中モニタリング 術式：脳表腫瘍摘出術、顕微鏡手術基本手技、内視鏡手術基本手技、内視鏡血腫除去術、頭蓋底・小児・機能・血管内・脊椎脊髄手術助手 手術経験目標：術者として30例
3年次	特記事項：チーフレジデントとしての病棟管理 術式：脳腫瘍摘出術、脳動脈瘤クリッピング術、頭蓋底・小児・機能・血管内・脊椎脊髄手術基本手技 手術経験目標：術者として40例
4年次	特記事項：チーフレジデント補佐、国内外短期留学 術式：深部脳腫瘍摘出術、脳動脈瘤クリッピング術、頭蓋底・内視鏡・小児・機能・血管内・脊椎脊髄など専門手術の一部 手術経験目標：術者として50例

大学院・留学について

希望者は大学院に進学し、学位取得に向けた研究を行う。専攻医中にも専門的手術研修のために国内外短期留学の機会を設ける。5年次以降に後期専門医（subspeciality）教育を受け、希望に応じて国内及び海外留学を選択できる。

専門医受験資格

- ・4年以上日本脳神経外科学会の正会員であること。
- ・卒後臨床研修2年の後、専門研修プログラムのもとで通算4年以上研修していること。

- ・下記の症例経験目標を満たし、筆頭演者として発表2回以上、筆頭著者として論文採択1編以上あること。
- 1) 症例の管理経験：脳腫瘍30例、脳血管傷害40例、外傷20例、脊椎・脊髄10例、小児5例、機能的疾患5例、その他10例
- 2) 手術手技経験：穿頭術ないし脳室ドレナージ10例（術者）、シャント手術10例（術者）、開頭・閉頭手技10例（術者）30例（助手）、椎弓切除ないし形成手技3例（術者または助手）、顕微鏡手技5例（術者）35例（助手）
- 3) 手術経験：脳腫瘍20例、脳動脈瘤・AVM手術10例、脳内血腫除去術5例、頭蓋内外バイパス術・血栓内膜剥離術5例、外傷性頭蓋内血腫除去術5例、脊椎・脊髄手術5例*、小児手術3例*、機能系手術3例*、脳動脈瘤塞栓術3例*、頸部内頸動脈ステント留置術3例*、内視鏡手術3例*（*見学でも可）

連携施設

	関連病院名	所在地	指導医名	職名
1	南東北福島病院	福島市	佐藤 園美	科長
2	柎記念病院	二本松市	佐藤 直樹	部長・臨床教授
3	福島赤十字病院	福島市	鈴木 恭一	院長・臨床教授
4	太田西ノ内病院	郡山市	川上 雅久	副院長・臨床教授
5	公立藤田総合病院	国見町	佐藤 昌宏	副院長・臨床教授
6	星総合病院	郡山市	小林 亨	部長・臨床教授
7	南相馬市立総合病院	南相馬市	及川 友好	院長・臨床教授
8	寿泉堂総合病院	郡山市	紺野 豊	部長・臨床教授

指導医からのメッセージ

基礎的知識や技能を身につけるだけでなく、患者さんを診療していく上での基本的な心構えや、広い視野にたった判断力と洞察力および社会人としての常識を身につけてください。

脳神経外科は忙しい診療科ですが、やりがいにも溢れています。また、脳神経外科は脳血管傷害や頭部外傷など救急診療で欠かせない分野です。脳神経外科医局はチームワークがよく、医学生や研修医をチームの仲間として指導します。是非脳神経外科を選択して、脳神経外科研修では何事にも積極的にチャレンジしてください。



診療科(講座)紹介

URL <http://www.fmu.ac.jp/home/orthopedics/>

- 1) 脊椎外科、関節外科、骨軟部腫瘍、マイクロサージャリー、スポーツ整形外科の分野でトップレベルの治療を行っている。
- 2) 新たな最小侵襲手術の開発に取り組み実績を挙げている。
- 3) 高齢者の運動器疾患に対する病態解明と治療法の開発を行っている。

指導医(スタッフ)紹介



松本 嘉寛

鹿児島大・サール学園卒業
平成7年九州大学医学部卒業
研修病院・研修施設
九州中央病院、九州大学病院、バーナム研究所
臨床専門分野
1) 脊椎外科・骨軟部腫瘍・腫瘍生物学
研究分野
1) 脊椎脊髄疾患の集学的治療
2) 骨軟部腫瘍の病態解明
3) 医療DXを用いたロコモティブシンドロームの予防
趣味：サッカー、テニス、ランニング

学会活動

- 1) 日本整形外科学会(代議員、専門医、骨軟部腫瘍医)
- 2) 日本脊椎脊髄病学会(評議員、指導医、専門医)
- 3) 日本骨軟部肉腫研究会(幹事)
- 4) 日本サルコーマ治療研究会(評議員)
- 5) 日本軟骨代謝学会(評議員)
- 6) 日本結合組織学会(評議員)
- 7) 日本癌治療学会(がん治療認定医)
- 8) Journal of Bone Oncology (Editorial Board)
- 9) International Cancer Conference Journal (Associate Editor)



副理事
保健科学部学部長
(教授)(兼務)
矢吹 省司

福島県立安積高等学校卒業
昭和62年 福島県立医科大学卒業
平成6年 医学博士取得
臨床専門分野
1) 脊椎・脊髄外科
2) 運動器リハビリテーション
3) 運動器疼痛
研究分野
1) 脊椎内視鏡手術、運動器の痛みの基礎と臨床
2) 脊椎疾患に対するブロック療法
3) 運動療法の効果



東白川整形外科アカデミー兼務
(教授)
箱崎 道之

福島県立磐城高等学校卒業
平成12年 自治医科大学卒業
平成19年 医学博士取得
臨床専門分野
1) 骨軟部腫瘍外科
研究分野
1) 骨軟部腫瘍に対する新規治療法の開発・研究



医療人育成・支援センター長
(教授)(兼務)
大谷 晃司

埼玉県立川越高等学校卒業
平成2年 福島県立医科大学卒業
平成10年 医学博士取得
臨床専門分野
1) 脊椎・脊髄外科学
研究分野
1) 脊髄・神経根障害の基礎的・臨床的研究
2) 高齢者の整形外科
3) 運動器疾患の疫学的研究
4) 転倒・骨折予防



ふたば救急総合医療支援センター兼務
(准教授)
渡邊 和之

福島県立福島高等学校卒業
平成13年 福島県立医科大学医学部卒業
平成19年 医学博士取得
臨床専門分野
1) 脊椎・脊髄外科



リハビリテーション医学講座兼務
(准教授)(兼務)
大内 一夫

福島県立福島高等学校卒業
平成3年 福島県立医科大学卒業
平成17年 医学博士取得
臨床専門分野
1) 足の外科、靴医学、リハビリテーション
2) 医療安全管理
医学研究分野
1) 足の解剖
2) 医療安全管理
3) 靴による足の障害



講師(兼務)
加藤 欽志

富山県立高岡高等学校卒業
平成15年 福島県立医科大学卒業
平成21年 医学博士取得
臨床専門分野
1) 脊椎・脊髄外科
2) スポーツ外傷・障害の診断と治療
研究分野
1) 腰痛の病態と疫学
2) スポーツにおける腰部障害の診断と治療



准教授
二階堂琢也

福島県立福島高等学校卒業
平成8年 福島県立医科大学卒業
平成13年 医学博士取得
臨床専門分野
1) 脊椎・脊髄外科
2) 腰痛の診断と治療
研究分野
1) 脊髄腫瘍の分子生物学的研究
2) 骨組織発生の分子生物学的研究
趣味：サッカー



学内講師
佐々木信幸

栃木県立宇都宮高等学校卒業
平成16年 福島県立医科大学卒業
平成22年 医学博士取得
臨床専門分野
1) 手外科
2) マイクロサージャリー
3) 重度四肢外傷
研究分野
1) 手外科疾患治療
2) 重度四肢外傷治療および機能再建



学内講師 **小林 洋**

福島県立会津高等学校卒業
平成16年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 脊椎・脊髄外科
研究分野
1) 脊椎低侵襲手術
趣味：アウトドア全般



助教 **小林 良浩**

福島県立会津高等学校卒業
平成21年 福島県立医科大学卒業
平成28年 医学博士取得
臨床専門分野
1) 脊椎・脊髄外科



助教 **金内 洋一**

福島県立磐城高等学校卒業
平成22年 福島県立医科大学卒業
平成29年 医学博士取得
臨床専門分野
1) 骨軟部腫瘍外科
研究分野
1) 骨軟部腫瘍の診断と治療
2) 異型脂肪腫様腫瘍の治療
趣味：サッカー、家庭菜園、珈琲



助教 **亀田 拓哉**

福島県立会津高等学校卒業
平成22年 福島県立医科大学卒業
平成29年 医学博士取得
臨床専門分野
1) 手の外科 2) マイクロサージャリー
研究分野
1) 腱障害におけるTRPチャンネルの関与
2) 手外科疾患治療
趣味：テニス



助手 **佐藤 俊介**

埼玉平成高等学校卒業
平成23年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 重度四肢外傷、多発外傷 2) 整形外傷
3) マイクロサージャリー
研究分野
1) 整形外傷治療、重度四肢外傷、骨折治療
趣味：音楽鑑賞



助手 **新田 夢鷹**

福島県立原町高等学校卒業
平成25年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 股関節 2) スポーツ整形 3) 外傷
研究分野
1) 人工股関節置換術、股関節周囲解剖
趣味：サッカー、ラグビー



助教 **安達 友希(旧姓:伏見)**

福島県立磐城桜が丘高等学校卒業
平成26年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 手の外科
2) マイクロサージャリー
研究分野
1) 手の外科疾患
趣味：旅行



助手 **草野 敬悟**

福島県立磐城高等学校卒業
平成27年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 股関節
研究分野
1) 股関節・人工関節
趣味：旅行



助手 **小川 到**

私立茨城高等学校卒業
平成29年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 骨軟部腫瘍外科
研究分野
1) 骨軟部腫瘍の診断と治療
趣味：筋力トレーニング、珈琲

専門研修プログラム

日本整形外科学会ホームページ参照

専門研修プログラム修了要件

- ・研修開始時点から日本整形外科学会会員であること。
- ・1ヶ月の研修を1単位とする単位制。全カリキュラムを脊椎、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍の10の研修領域に分割し、基幹施設および連携施設をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得。
- ・3年9か月で45単位を修得。
- ・教育研修会受講30単位
- ・1回以上の学会発表、また筆頭筆者として1編以上の論文

連携施設

	関連病院名	所在地	指導医名	職名
1	大原綜合病院	福島市	佐藤 勝彦	理事長
2	福島赤十字病院	福島市	村上 和也	部長
3	公立藤田綜合病院	国見町	関口 泰史	部長
4	総合南東北病院	郡山市	鹿山 悟	部長
5	福島県総合療育センター	郡山市	松尾 洋平	部長
6	星綜合病院	郡山市	遠藤康二郎	部長
7	公立岩瀬病院	須賀川市	橋本 慶太	部長
8	白河厚生綜合病院	白河市	鈴木 幹夫	副院長
9	会津中央病院	会津若松市	サッキヤイソラマン	部長
10	福島県立医科大学会津医療センター	会津若松市	白土 修	教授
11	有隣病院	喜多方市	丸谷 雅人	副院長
12	松村綜合病院	いわき市	田山 信敬	診療部長
13	医療法人舟山病院	米沢市	中村 武	副院長
14	寿泉堂綜合病院	郡山市	山田 仁	部長
15	いわき市医療センター	いわき市	安永 亨	部長
16	坂下厚生綜合病院	会津坂下町	菊地 忠志	副院長
17	南東北福島病院	福島市	田地野崇宏	本部長
18	竹田綜合病院	会津若松市	中島 聡一	科長

大学院・留学について

希望者は、大学院に入学できる。希望者には、国内研修や海外留学を積極的に斡旋し、バックアップしている。

指導医からのメッセージ

脊椎脊髄疾患の診断と治療、運動器慢性疼痛に対する集学的治療、関節外科手術、マイクロサージャリー、外傷に対する再建、骨軟部腫瘍治療などあらゆる運動器疾患に対して科学的根拠をもって診療に当たっています。さらに野球、サッカー、バスケットボールなどプロスポーツ選手や小中高大生のアスリートに対するメディカルチェックや治療にも積極的に取り組んでいます。経験できる症例数が多いため、整形外科疾患の知識、手術手技など短期間で高いレベルのスキルを身につけることができるという特徴があります。そして、指導医は自信と誇りを持って丁寧に指導することを心がけています。また、基礎研究や臨床研究にも積極的に取り組んでいます。何より医局の雰囲気良く、気軽に何でも相談できる先輩医師がたくさんいます。

診療科(講座)紹介

URL <http://fukushima-keisei.jp>

- 1) 形成外科領域の基礎から高度先端医療まで幅広い診療を行っている。
- 2) 頭蓋顔面外科や再建外科などのチーム医療を推進している。
- 3) 疾患に偏りがなく、すべての研修医が専門医取得に必要な経験を充分につむことが可能。

指導医(スタッフ)紹介



部長(教授)
小山 明彦

福島県立安積高等学校卒業
平成3年 福島県立医科大学医学部卒業
平成15年 北海道大学大学院医学研究科博士課程終了 医学博士
臨床専門分野
1) 先天性形態異常(唇裂口蓋裂、小耳症など)
2) 頭蓋顔面外科
研究分野
1) 唇顎口蓋裂における顎発育に関する研究
2) ケロイドの発生機序と病態制御に関する研究
趣味: バスケットボール、ドライブ、ゴルフ、食

学会活動

- 1) 日本形成外科学会(評議員、学術委員長 専門医委員)
- 2) 日本形成外科手術手技学会(理事)
- 3) 日本頭蓋顔面外科学会(理事、学術委員長)
- 4) 日本創傷外科学会(理事、渉外・広報委員長)
- 5) 日本口蓋裂学会(国際委員)
- 6) 日本美容外科学会(JSAPS)
- 7) 日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会
- 8) 日本顔面神経学会
- 9) 北日本形成外科学会(評議員)
- 10) International Society of Craniofacial Surgery



副部長(准教授)
齋藤 昌美

福島県立安積高等学校卒業
平成3年 福島県立医科大学医学部卒業
医学博士
臨床専門分野
1) 再建外科全般
2) マイクロサージャリー
研究分野
1) 穿通枝動脈の解剖学的研究と超薄型皮弁開発
趣味: 映画鑑賞



助手 曾根 良子

青山学院高等部卒業
平成25年 東京女子医科大学卒業
臨床専門分野
1) 一般形成外科
2) 先天異常: 唇裂口蓋裂、頭蓋顔面外科
研究分野
1) 唇裂口蓋裂の術前矯正・一期手術における形態機能評価
趣味: 球技全般、ゴルフ、旅行、YouTube鑑賞



講師 藤田 宗純

私立東海高等学校(愛知県)卒業
平成17年 北海道大学医学部卒業
平成30年 北海道大学大学院医学研究科博士課程修了 医学博士
臨床専門分野
1) 血管腫・血管奇形
2) 乳房再建
3) 瘢痕・ケロイド
研究分野
1) ケロイドにおける炎症制御機構に関する基礎研究
2) 血管奇形の血液凝固異常に関する臨床研究
趣味: ランニング・マラソン、フィギュアスケート鑑賞、食べ歩き



助手 佐藤 順紀

福島県立福島高等学校卒業
平成28年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 一般形成外科
2) 再建外科・頭蓋顔面外科
研究分野
1) 創傷治療
趣味: ワイン、食、バスケットボール



助手 北村 成紀

福島県立福島高等学校卒業
平成25年 福島県立医科大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 顔面神経麻痺
2) リンパ浮腫
3) 胸郭形成
研究分野
1) 脂肪由来幹細胞の安定した増殖方法の研究
2) 皮膚悪性腫瘍に対する新規診断マーカーの研究
趣味: 油彩画、彫像



助手 永峰 恵介

福島県立安積高等学校卒業
平成24年 福島県立医科大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 一般形成外科
2) 外傷・熱傷
3) 慢性創傷
4) 瘢痕・ケロイド
5) 血管腫・血管奇形
研究分野
1) 熱傷後治癒過程における感染症の影響に関する研究
趣味: ドライブ、音楽鑑賞



専門研修プログラム

	修得すべき手技や手術経験目標数など
1年次 (卒後3年)	組織に対する愛護的操作 形成外科の皮膚縫合 Z形成術、W形成術 植皮術、皮膚採取（各種ダーマトームの使用） 良性腫瘍切除
2年次	局所皮弁移植 悪性腫瘍切除 熱傷治療 ティッシュエクспанション法 指（趾）形成術
3年次	遠隔皮弁移植、筋皮弁移植 神経縫合 片側唇顎口蓋裂手術 新鮮顔面骨折整復術 微小血管吻合（ラット）
4年次	穿通枝皮弁移植 小耳症手術 両側唇顎口蓋裂手術 陳旧性顔面骨折整復術 微小血管吻合（臨床）

大学院・留学について

大学院 あり（現在、大学院生2名）

留 学 希望に応じて積極的に支援します。

専門医受験資格のために必要とされる技能・手技目標

1. 初期臨床研修修了後、4年間の専門研修プログラム
2. 300症例の手術経験
3. 試験審査（筆記試験及び口頭試験）

連携施設

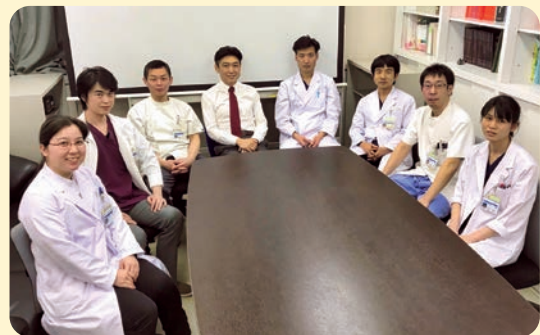
	関連病院名	所在地	指導医名	職 名
1	北海道大学病院	札幌市	山本 有平	教 授
2	南東北病院	郡山市	北原 正樹	部 長
3	福島赤十字病院	福島市	浅井 笑子	部 長
4	太田西ノ内病院	郡山市	福屋 安彦	部 長
5	いわき市医療センター	いわき市	檜垣 仁志	部 長
6	公立岩瀬病院	須賀川市	阪場 貴夫	部 長
7	市立札幌病院	札幌市	川島 邦裕	部 長
8	函館中央病院	函館市	木村 中	部 長
9	白河厚生病院	白河市	平野 真希	医 長

指導医からのメッセージ

形成外科はケガや腫瘍あるいは先天的な疾患などが原因で体に生じた組織欠損や変形を対象とし、あらゆる技術を駆使して、機能はもちろん、形態的にもより正常に、より美しく再建することを目的とし、みなさまの生活の質“Quality of Life”の向上に貢献する外科系の専門領域です。

具体的な治療対象は、切り傷・擦り傷・顔面の骨折などの外傷、唇裂口蓋裂、耳介変形、胸郭変形、多指症・合指症などの先天性形態異常、皮膚の良性および悪性腫瘍、傷あと・ケロイド、やけど、床ずれや下肢の皮膚潰瘍、でべそ、あざ、そして乳房再建のような他科における手術後の組織欠損や変形の再建など、非常に多岐にわたります。このように形成外科は、臓器別に名を冠せられた科とは異なり、組織の種類に縛られず、非常に多くの疾患を扱います。そして、いわば臓器の縦割りの現在の医療・医学の世界に、横断的に関わり、特殊な外科的技術を提供したり、分野間の橋渡しの役割をしたり、チーム医療で新たな医療・医学の発展に寄与するという重要な役割があります。

私たちの教室は、1998年に開設され、これまでさまざまな分野にわたって、精力的に臨床と研究に励んでいます。若い方々のさらなる参画を待っています。



診療科(講座)紹介

- 1) 臨床研修：周産期・婦人科腫瘍・内分泌（不妊症）すべてにバランスが取れた臨床医を育てる。
- 2) 研究：臨床医ならではのアイデアで世界レベルの研究を目指す。
- 3) 留学：学位取得後は、原則的には皆に留学のチャンスを与える。

指導医(スタッフ)紹介



産科部長(主任教授)
藤森 敬也

宮城県立角田高等学校卒業
昭和63年 福島県立医科大学卒業
平成4年 福島県立医大大学院卒業
臨床専門分野
1) 産婦人科一般
2) 周産期医学
3) 胎児診断・治療
4) 超音波診断学
研究分野
1) 胎児生理学(胎児behavior)

学会活動

- 1) 日本産科婦人科学会 評議員
- 2) 日本妊娠高血圧学会 評議員
- 3) 日本周産期・新生児医学会 評議員



性差医療センター部長(教授)(兼務)
小宮ひろみ

福島県立安積女子高等学校卒業
昭和61年 山形大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 生殖内分泌
2) 不妊
3) 性差医療
4) 漢方医療
研究分野
1) 生殖内分泌



婦人科副部長(講師)
古川 茂宜
(地域産婦人科支援講座兼務)

福島県立福島高等学校卒業
平成16年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 婦人科腫瘍学
研究分野
1) 婦人科腫瘍学



遺伝診療部部長(病院教授)
渡邊 尚文

福島県立福島高等学校卒業
平成8年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 婦人科腫瘍学
2) 遺伝カウンセリング
研究分野
1) 婦人科腫瘍学



准教授(兼務)
安田 俊

栃木県立宇都宮高等学校卒業
平成16年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 周産期医学
研究分野
1) 周産期医学
2) 胎児生理学



婦人科部長(教授)
添田 周

東京都立国立高等学校卒業
平成9年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 婦人科腫瘍学
2) 婦人科血管撮影
研究分野
1) 婦人科腫瘍学
2) 産婦人科IVR



助手 磯上 弘貴 (地域産婦人科支援講座兼務)

福島県立磐城高等学校卒業
平成26年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 周産期
研究分野
1) 周産期



生殖医療センター長
菅沼 亮太

常総学院高等学校(茨城県)卒業
平成9年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 生殖内分泌
2) 不妊
研究分野
1) 生殖内分泌
2) 不妊



助手 大越 千弘

福島県立磐城高等学校卒業
平成26年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 生殖医療
研究分野
1) 生殖医療



産科副部長(講師)(兼務)
山口 明子

千葉県立東葛飾高等学校卒業
平成13年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 生殖内分泌
研究分野
1) 生殖内分泌



助手 福田 冬馬

福島県立安積高等学校卒業
平成26年 自治医科大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 周産期医学
研究分野
1) 周産期医学



助手 岡部 慈子

埼玉県立川越女子高等学校卒業
平成27年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 婦人科腫瘍学
研究分野
1) 婦人科腫瘍学



助手 佐藤 哲

福島県立福島高等学校卒業
平成27年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 婦人科腫瘍学
研究分野
1) 婦人科腫瘍学
趣味：野球



助手 三浦 秀樹

福島県立橋高等学校卒業
平成27年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 産科婦人科学



助手 加藤 麻美

千葉日本大学第一高等学校（千葉県）卒業
平成28年 日本大学卒業
臨床専門分野
1) 婦人科腫瘍学
研究分野
1) 婦人科腫瘍学
趣味：音楽鑑賞、野球観戦



助手 鴻地 由大

桐朋高等学校（東京都）卒業
平成29年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 産科婦人科学
研究分野
1) 産科婦人科学
趣味：野球



助手（兼務）
神 季

江戸川学園取手高等学校（茨城県）卒業
平成26年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 産科婦人科学
研究分野
1) 産科婦人科学
趣味：刺繍、テニス



助手（兼務）
池添 祐貴

栃木県立宇都宮高等学校卒業
平成30年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 産科婦人科学
研究分野
1) 産科婦人科学
趣味：ドライブ、写真



助手 佐藤 雄翔
(周産期・小児地域医療支援講座兼務)

福島県立相馬高等学校卒業
平成30年 自治医科大学卒業
臨床専門分野
1) 産科婦人科学
研究分野
1) 産科婦人科学
趣味：ラーメン



助手（兼務）
村松 七生

福島県立橋高等学校卒業
平成30年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 産科婦人科学
研究分野
1) 産科婦人科学

専門研修プログラム

	修得すべき手技や手術経験目標など
1年次 (卒業3年)	産婦人科の基本診療（大学病院ならびに関連病院にて研修） 産科：帝王切開術執刀（10） 婦人科：腹式単純子宮全摘術執刀（5）
2年次	産婦人科の基本診療（関連病院にて研修）産科：帝王切開術執刀（20） 婦人科：腹式単純子宮全摘術執刀（10） 婦人科悪性腫瘍術の助手 学会発表 （福島地方部会・東北連合地方部会・北日本連合地方部会）
3年次	大学院研修 研究テーマ選択（腫瘍学、内分泌学、不妊症、胎児生理学、子宮筋 生理学） 学会発表（産婦人科学会総会を目標） 産科：帝王切開術執刀（20） 婦人科：腹式単純子宮全摘術執刀（10） 悪性腫瘍術執刀（5）
4年次	大学院研修 専門医取得を目標 研究テーマ別に研究・発表 積極的に海外学会にて発表

大学院・留学について

大学院入学を歓迎しています。研究内容として、腫瘍学、内分泌学、不妊症、胎児生理学、子宮筋生理学より選択していただいております。学位終了後、基本的には、皆に国内留学・海外留学のチャンスを与えております。

専門医受験資格のために必要とされる技能・手技目標

専門医受験資格のために必要とされる技能・手技目標
1. 日本産科婦人科学会に3年以上（医師免許取得5年以上）会員であること
2. 分娩150例（分娩症例は帝王切開術による分娩を含む）
3. 手術症例（執刀・助手）50例（産科手術や小手術は除く）
4. 主治医として診断から治療まで管理した婦人科・産科症例10症例
5. 腫瘍・生殖・周産期各分野1症例ずつ計3症例について症例レポート報告
6. 主たる学会出席、学会発表および研究論文の記入
3年間の研修で専門医受験資格が得られます。
専門医試験は3年間終了後の翌年7月です。

連携施設

	関連病院名	所在地	指導医名	職名
1	会津中央病院	会津若松市	武市 和之	院長
2	大原綜合病院	福島市	若木 優	部長
3	公立岩瀬病院	須賀川市	平岩 幹	部長
4	寿泉堂綜合病院	郡山市	鈴木 博志	部長
5	竹田綜合病院	会津若松市	金 彰午	部長
6	福島赤十字病院	福島市	矢澤 浩之	部長
7	星綜合病院	郡山市	加藤 克彦	部長
8	太田西ノ内病院	郡山市	野村 泰久	部長
9	いわき市医療センター	いわき市	三瓶 稔	部長
10	白河厚生綜合病院	白河市	山内 隆治	副院長

指導医からのメッセージ

日本産科婦人科学会専門医以外に、サブスペシャリティとして、婦人科腫瘍専門医、周産期専門医（母体・胎児部門）、婦人科内分泌専門医、女性医学専門医が取得可能です。さらに、日本臨床細胞診専門医、日本超音波医学会専門医・指導医、婦人科内視鏡専門医、臨床遺伝専門医が取得可能（当教室ではそれぞれの専門医がおります）です。

診療科(講座)紹介

URL <http://www.fmu.ac.jp/home/pediatrics/index.html>

- 1) 小児の健全な発育・発達を支援するために、小児に係るあらゆる疾病を診る総合診療科です。
- 2) 一般小児科診療、小児救急医療から、未熟児・新生児 (NICU)、集中治療 (PICU)、循環器、感染症、神経、血液・悪性腫瘍、腎・代謝・内分泌疾患などの特殊専門医療まで、幅広く研修出来ます。
- 3) 難治性疾患の病態や治療法を研究し、高度な医療を実践して、病める子供たちを救いたいと考えている皆さんに加わっていただきたいと思っております。

指導医(スタッフ)紹介



小児科部長(教授)
細矢 光亮

山形県立山形東高等学校卒業
昭和58年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野

- 1) 小児感染症
- 2) 小児神経疾患

研究分野

- 1) 中枢神経系感染症の診断と治療
- 2) 急性脳症の病態解明と治療
- 3) 小児感染症の臨床疫学研究

学会活動

- 1) 日本小児科学会 代議員、理事、監事
- 2) 日本小児感染症学会 評議員、理事
- 3) 日本感染症学会 評議員
- 4) 日本神経感染症学会 理事
- 5) 日本臨床ウイルス学会 幹事
- 6) 日本小児神経学会 評議員



周産期・小児地域医療支援講座
教授
桃井 伸緒

福島県立福島高等学校卒業
昭和60年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野

- 1) 小児循環器

研究分野

- 1) 先天性心疾患
- 2) カテーテル治療



学内講師
鈴木 雄一

福島県立原町高等学校卒業
平成15年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野

- 1) 小児神経疾患
- 2) 小児心身症

研究分野

- 1) 急性脳症の髄液中液性マーカー
- 2) 神経性やせ症の疫学研究および臨床研究



准教授(兼務)
橋本 浩一

福島県立安積高等学校卒業
平成4年 福島県立医科大学卒業
平成8年 福島県立医科大学大学院修了
臨床専門分野

- 1) 感染症

研究分野

- 1) ウイルス感染症の診断と治療
- 2) 呼吸器感染症の病態解明



助教 小野 敦史

福島県立会津高等学校卒業
平成16年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野

- 1) 小児腎臓病

研究分野

- 1) 慢性腎炎
- 趣味 ジムカーナ (JAFモータースポーツ)



准教授 佐藤 晶論

福島県立相馬高等学校卒業
平成8年 福島県立医科大学卒業
平成12年 福島県立医科大学大学院修了
臨床専門分野

- 1) 小児感染症

研究分野

- 1) インフルエンザ (ウイルス感染症) の病態解明と制御
- 2) ウイルス感染症における免疫応答
- 3) 中枢神経感染症の病態解明



助教 渡部 真裕

福島県立会津高等学校卒業
平成18年 自治医科大学医学部卒業
平成25年 福島県立医科大学大学院修了
臨床専門分野

- 1) 小児救急・集中治療
- 2) 小児感染症

研究分野

- 1) 呼吸器ウイルス感染症の重症化メカニズムの解明



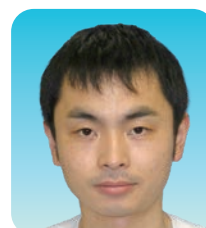
講師 青柳 良倫

福島県立福島高等学校卒業
平成12年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野

- 1) 小児循環器

研究分野

- 1) 先天性心疾患



助教 大原 喜裕

福島県立福島高等学校卒業
平成19年 愛知医科大学医学部卒業
臨床専門分野

- 1) 小児悪性腫瘍

研究分野

- 1) 小児末梢血幹細胞採取法の開発
- 趣味 料理をすること

専門研修プログラム

	修得すべき手技や手術経験目標数など
1年次 (卒後3年)	大学病院にて、未熟児・新生児グループ、集中治療グループ、循環器グループ、感染症・神経グループ、血液・腫瘍グループ（小児腫瘍内科）、腎・アレルギー・代謝グループをそれぞれ3カ月間まわり、各グループで主治医として入院患者を受け持つ。頻度の高い疾患について、診断及び治療学を学び、基本的な医療面接、診察、検査、治療、指導法を修得する。
2年次	1年次に引き続き、大学病院にて、各グループをまわりながら、基本的な医療面接、診察、検査、治療、指導法を修得する。大学病院における研修期間の途中、あるいは研修終了後に、関連病院において6か月間の新生児医療研修を行う。
3年次	関連病院にて、頻度の高い疾患や小児救急疾患については、主治医として多数の患者を受け持ち、一般小児医療の経験を重ねる。また、指導医のもと、未熟児・新生児医療、特殊専門医療などを体得する。
4年次	関連病院にて、それまでの経験を活かし、主治医として多彩な患者を受け持つとともに、初期研修医や2-3年次の後期研修医の指導も行う。小児医療全般についての広い知識と経験を背景に、各種健診や母子保健指導などの小児保健活動を実践する。

大学院・留学について

本人の希望により、大学院への進学が可能である。

また、意欲のあるものは、診療・研究レベルの一層の向上を目指し、国内・国外において、研修（留学）することが出来る。

専門医受験資格のために必要とされる技能・手技目標

日本小児科学会専門医取得には、日本小児科学会および日本専門医機構が認定する小児科研修プログラムに従い一定期間研修し、その後に筆記試験および口答試験に合格する必要がある。当大学病院が基幹施設となり、福島県内の9つの関連病院と連携し、福島県立医科大学小児科専門研修プログラムを形成している。

専門医取得に必要な技能・手技目標は、下記の通りである。

- 1) 小児の各年齢的特性を理解し、正しい手技による診察を行い記載する。
- 2) 注射、採血、導尿、腰椎穿刺、骨髄穿刺、蘇生、胃洗浄、静脈点滴などの技能を修得する。
- 3) 患児の問題を正しく把握し、病歴、診察所見より必要な検査を選択し、診断をくだす。
- 4) 患児の性、年齢、重症度に応じた適切な治療計画を速やかに立て、これを実行できる。
- 5) 小児科学全般にわたる疾患を大きな偏りなく受け持つて診療に従事し、受け持った症例の病歴を要領よくまとめる。各分野群毎に、少なくとも2症例を含む。

[遺伝疾患、染色体異常、先天奇形、栄養障害、代謝性疾患、消化器、先天代謝異常、内分泌疾患、免疫異常、膠原病、リウマチ性疾患、感染症、新生児疾患、呼吸器疾患、アレルギー、循環器疾患、血液疾患、腫瘍、腎・泌尿器疾患、生殖器疾患、神経疾患、筋疾患、精神疾患（精神・行動異常）、心身症]

その他の専門医取得は、各学会の規定による。当院は、日本腎臓学会認定教育施設、日本アレルギー学会認定教育施設、日本血液学会教育認定施設、日本周産期新生児医学会認定基幹研修施設などであり、日本腎臓病学会専門医、日本感染症学会専門医、ICD認定医、日本アレルギー学会専門医、日本血液学会認定医、日本小児神経学会認定医などの取得が可能である。

連携施設

	関連病院名	所在地	指導医名	職名
1	大原総合病院	福島市	鈴木 重雄	副院長
2	寿泉堂総合病院	郡山市	金子 真利	部長
3	星総合病院	郡山市	佐久間弘子	部長
4	太田西ノ内病院	郡山市	今村 孝	部長
5	福島県総合療育センター	郡山市	森田 浩之	所長
6	公立岩瀬病院	須賀川市	小田 慎一	部長
7	白河厚生総合病院	白河市	村井 弘通	部長
8	竹田総合病院	会津若松市	長澤 克俊	科長
9	公立相馬総合病院	相馬市	伊藤 正樹	部長
10	いわき市医療センター	いわき市	本田 義信	部長

指導医からのメッセージ

少子化が進行する中、大切な子供は小児科専門医に診察してもらいたいという認識が高まり、小児科医のニーズは近年ますます増えています。このような中、当科では次世代を担う子供たちの身体的、精神的な健康を守るべく、臨床と研究の両面で、共に働き、勉強し合える医師を募集しています。

小児科医は、子供の成長、発達、健康を全人的に診療する総合診療医であることから、当科では県内に広がる関連病院と連携して、一般臨床に強い小児科医の育成に力を入れています。加えて、医学の進歩に伴い小児疾患の概念が多岐に別れ、それに対する治療についても高い専門性が要求されている現状を鑑みて、各専門領域（新生児、循環器、血液・悪性腫瘍、神経・感染症、腎泌尿器・代謝・内分泌・アレルギー）の指導医のもと、最新の知識と治療を研修できるプログラムを実践しています。また、必要に応じて、国内および国外へ留学し、さらに知識を高めることも可能です。

将来、一般小児科医を目指す場合でも、専門性の高い疾患をバランスよく診ておくことは重要なことであり、それが実現できる当科では、一般病院や偏った専門性をもつ大学病院では得られない研修をすることが可能です。

おおらかな自然が広がる福島の地で共に研修し、その高い空の下を駆け回る子供たちの健康を守りたいと願う専攻医が数多く集うことを期待しております。

- 1) 小児血液疾患、小児がんの集学的治療を幅広く行っています。特に再発・難治性がんに対する免疫細胞療法としてのハプロ移植の研究と治療実践を行っています。
- 2) 新たな細胞治療の開発、新規治療薬の開発、多数の臨床試験を実施しています。
- 3) 思春期若年成人に発症した希少がんの治療、晩期合併症に対する長期フォローアップ体制を整備し、実施しています。
- 4) 国内の先進的小児血液・がんの研究・治療施設を目指し、教育・指導に力を入れています。

指導医(スタッフ)紹介



部長(教授)
佐野 秀樹

福島県立会津高等学校卒業
平成6年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 小児血液・腫瘍
2) 造血細胞移植
3) 小児骨軟部肉腫
研究分野
1) 固形腫瘍の臨床試験開発
2) 難治性白血病に対する造血細胞移植

学会活動

- 1) 日本小児科学会
- 2) 日本小児血液・がん学会 評議員
- 3) 日本造血細胞移植学会、評議員
- 4) 日本血液学会
- 5) 日本小児がん研究グループ
ユーイング肉腫委員会



副部長(准教授)
望月 一弘

長野県立諏訪清陵高等学校卒業
平成9年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 小児血液・腫瘍
2) 造血細胞移植
研究分野
1) 造血細胞移植と免疫
2) がん細胞免疫療法の開発



助教 高橋 信久

栃木県立栃木高等学校卒業
平成20年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 小児血液・腫瘍
2) 造血細胞移植
趣味: バスケットボール、キャンプ



学内講師
小林 正悟

桐蔭学園高等学校(神奈川県)卒業
平成15年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 小児血液・腫瘍
2) 造血細胞移植
3) 腫瘍感染症
研究分野
1) 白血病再発のメカニズム



助手 工藤 新吾

北海道立札幌南高等学校卒業
平成25年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 小児血液・腫瘍
2) 造血細胞移植
趣味: 山登り、囲碁



非常勤講師
伊藤 正樹

福島県立福島高等学校卒業
平成3年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 小児血液・腫瘍
2) 晩期合併症
研究分野
1) CMLの病態解明と治療開発
2) 造血細胞移植後の造血回復

専門研修プログラム

1. 研修対象者

小児血液・がん専門医を志す小児科医（小児科専門医取得後、あるいは同時並行）

* 1 小児科専門医取得前であっても研修は可能、その場合は小児血液・がん専門医取得に必要な小児科専門医を取得するための準備を並行して行う。

2. 一般目標

小児血液疾患および小児がんの子どもたちに質の高い専門医療を提供するために、小児血液疾患および小児・AYAがん領域に関する幅広い知識と十分な経験および錬磨された技能を習得した医師を育成する。

3. 研修プログラム

① 1～5年次：小児科専門医＋血液・腫瘍基礎プログラム
小児科専門医を持たない後期研修医を対象とする。

初期研修2年終了後より開始し、3年間の小児科研修を経て②の基礎プログラム（2～3年）を開始する。なお、他施設で小児科研修を行っている場合は、小児科基礎コース3年から他施設での研修期間を差し引いた期間を基礎プログラムの期間とする。

② 3～5年次：血液・腫瘍基礎プログラム

小児科専門医を取得したものを対象とする。

主に初発の急性白血病の化学療法。溶血性貧血や再生不良性貧血、特発性血小板減少性紫斑病、血友病などの非腫瘍性血液疾患の治療。固形腫瘍（神経芽腫、肝芽腫、ウィルムス腫瘍など）の治療。HLA一致造血幹細胞移植、自家末梢血幹細胞移植、緩和医療、臨床研究へ参加する。主治医（または副主治医）として研修し、血液専門医

やがん治療認定医を取得し、小児血液・がん専門医の取得も可能。

③ 6～8年次：血液・腫瘍上級プログラム

基礎プログラムを終了したものを対象にし、小児血液がん専門医や造血細胞移植認定を目指すプログラム。ハプロ移植や、早期臨床試験、治験への参加、基礎研究（学位取得）、再発症例や難治症例の治療、チーム医療のリーダーとして緩和医療のカンファランスを開催、国際学会での発表などより高度なスキルを習得し、次世代の日本の小児血液腫瘍をけん引するような人材を育成することを目指す。

大学院・留学について

腫瘍関連講座と連携し大学院進学、または学位取得。国内、海外留学を積極的に奨励。

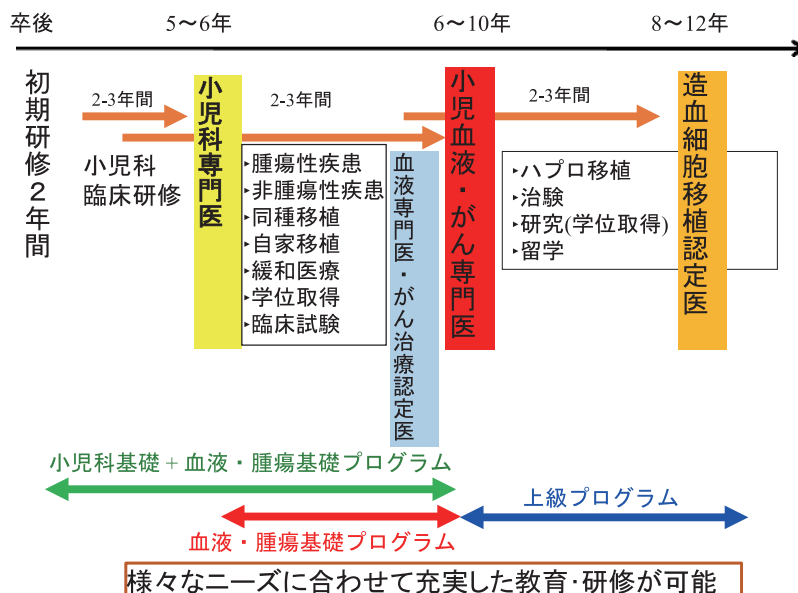
専門医受験資格のために必要とされる技能・手技目標

研修プログラムに従い研修することで、小児がん研究・治療に必要な手技、資格、業績が取得可能。

指導医からのメッセージ

子どもが「がんで死ぬ」、こんな理不尽なことはありません。世界から一人でも多くの小児がん患者を救うことを目指しています。まず、福島から始めましょう。

小児血液・がん専門医コース



診療科(講座)紹介

URL <http://www.fmu-opt.net>

- 1) 眼科学の幅広い領域に対応できる診療体制を整えています。
- 2) より良い視機能を提供するために、最新の診療器機をそろえ、的確な診断と治療法の選択、そして治療手技の向上と開発を進めています。
- 3) 広い視野をもった臨床・基礎研究を行い、一流英文雑誌に多数掲載されています。

指導医(スタッフ)紹介



部長(教授)
石龍 鉄樹

福島県立安積高等学校卒業
昭和59年 福島県立医科大学医学部卒業
医学博士
臨床専門分野
1) 網膜硝子体疾患の手術治療
研究分野
1) 網膜硝子体疾患の画像診断

学会活動

- | | |
|---------------|---------------|
| 1) 日本眼科学会 | 9) 日本眼腫瘍学会 |
| 2) 日本網膜硝子体学会 | 10) 米国眼科学会 |
| 3) 日本眼循環学会 | 11) アジア太平洋眼学会 |
| 4) 日本微小循環学会 | |
| 5) 日本眼科手術学会 | |
| 6) 日本抗加齢医学会 | |
| 7) 日本視覚電気生理学会 | |
| 8) 日本眼薬理学会 | |



副部長(准教授)
向井 亮

神奈川県立柏陽高等学校卒業
平成14年 群馬大学医学部卒業
医学博士
臨床専門分野
1) 網膜硝子体疾患
研究分野
1) 視神経を含めた網膜硝子体疾患
趣味: 水泳、家庭菜園



助手 笠井 暁仁

福島県立安積高等学校卒業
平成22年 福島県立医科大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 網膜硝子体疾患
2) 白内障
研究分野
1) 網膜・強膜手術
趣味: 旅行、ワイン



講師 森 隆史

宮城県立古川高等学校卒業
平成10年 愛知医科大学医学部卒業
医学博士
臨床専門分野
1) 斜視・弱視
2) 眼窩疾患、涙道疾患
研究分野
1) 斜視・弱視



助手 笠井 彩香

福島県立橋高等学校卒業
平成22年 岩手医科大学卒業
臨床専門分野
1) 斜視・弱視
研究分野
1) 網膜硝子体疾患
趣味: 旅行



助手 板垣可奈子

福島県立福島女子高等学校卒業
平成13年 福島県立医科大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 加齢黄斑変性
研究分野
1) 加齢黄斑変性



助手 前原 紘基

群馬県立前橋高等学校卒業
平成25年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 角膜疾患
研究分野
1) 角膜・ドライアイ
趣味: 旅行、ウイスキー、サウナ



助教 菅野 幸紀

福島県立磐城高等学校卒業
平成18年 福島県立医科大学医学部卒業
福島県立医科大学大学院修了・医学博士
臨床専門分野
1) 網膜硝子体疾患
研究分野
1) 網脈絡膜疾患



助手 飯高 佑介

市立いわき秀英高等学校卒業
平成24年 福島県立医科大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 緑内障
研究分野
1) 緑内障
趣味: カメラ



助教 加藤 寛

福島県立会津高等学校卒業
平成27年 福島県立医科大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 網膜硝子体疾患
研究分野
1) 加齢黄斑変性
趣味：読書



助手 本庄純一郎

埼玉県私立開智高等学校卒業
平成27年 福島県立医科大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 神経眼科
2) 黄斑疾患
研究分野
1) 加齢黄斑変性
趣味：城郭巡り



助手 田中啓一郎

暁星高等学校（東京都）卒業
平成28年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 加齢黄斑変性・腫瘍
研究分野
1) 加齢黄斑変性・腫瘍
趣味：温泉・旅行

専門研修プログラム

	修得すべき手技や手術経験目標数など
1年次 (卒後3年)	眼科臨床に必要な基礎的知識を習得する。眼科手術助手200例以上、そのうち、外眼手術（麦粒腫・霰粒腫手術、内反症手術、斜視手術）およびレーザー手術、内眼手術（白内障手術）を執刀 ・一般の初期救急医療に関する技術の修得 ・眼科診断技術および検査の修得 ・眼科治療技術の修得 ・豚眼による白内障手術トレーニング 症例検討会、眼病理検討会、抄読会、各種学会等への出席。学会（集談会等を含む）報告を演者として1報以上発表。
2年次	症例検討会、眼病理検討会、抄読会、各種学会等への出席。学会（集談会等を含む）報告を演者として1報以上発表。
3年次	2年次に加えて 眼科に関する論文を、単独または筆頭著者として1篇以上投稿。
4年次	3年次に加えて 眼科専門外来（角結膜、緑内障、白内障、網膜硝子体・ぶどう膜、屈折矯正、弱視・斜視、神経眼科、眼窩・眼付属器）における診療の一員として眼科各専門分野のより深い知識と診断・治療を学ぶ。

大学院・留学について

- ・大学院に進んで臨床研究や基礎研究が可能
研究テーマ：「黄斑疾患・網膜硝子体疾患に関する画像診断、病態解明、治療の開拓」「眼内増殖、血管新生の機序」「眼科領域悪性腫瘍の病理」など
- ・留学（ニューヨーク、ヒューストン、フィラデルフィアなどの海外および国内）

専門医受験資格のために必要とされる技能・手技目標

専門医認定試験を受けるためには、認定研修施設において専門医制度規則施行細則で定められた4年以上の眼科臨床研修を行うことが必要です。

福島県立医科大学眼科専門研修プログラムでは、専門研

修基幹施設である当院と、地域の中核病院群および地域医療を担う病院群の計17施設において、それぞれの特徴を活かした眼科研修を行い、日本眼科学会が定めた研修到達目標や症例経験基準に揚げられた疾患や手術を経験します。

- ・症例数：手術については、執刀者、助手を含ませて総数100例以上、そのうち、外眼手術、内眼手術、およびレーザー手術が、それぞれ執刀者として20例以上。
- ・必要となる要件：眼科に関する論文を、単独または筆頭著者として1篇以上、および学会（集談会等を含む）報告を演者として2報以上発表。

連携施設

卒後臨床研修協力病院	所在地	医師名	職名
1 大原総合病院	福島市	鈴木 勝浩	主任部長
2 北福島医療センター	伊達市	石橋 誠一	医 長
3 保原中央クリニック	伊達市	菊池 重幸	病 院 長
4 済生会福島総合病院	福島市	鈴木美佐子	医 長
5 福島赤十字病院	福島市	山田 文子	部 長
6 太田総合病院付属 太田西/内病院	郡山市	齋藤 国治	部 長
7 寿泉堂総合病院	郡山市	神田 尚孝	部 長
8 星総合病院	郡山市	平井 香織	部 長
9 竹田総合病院	会津若松市	近藤 剛史	医 長
10 坂下厚生総合病院	河沼郡	原田 学	科 長
11 塙厚生病院	東白川郡	荒木 聡	部 長
12 福島労災病院	いわき市	鈴木 説子	主任部長
13 白河厚生総合病院	白河市	伊勢 重之	科 長
14 相馬中央病院	相馬市	古田 実	眼科診療部長
15 いわき市医療センター	いわき市	齋藤 昌晃	主任部長
16 東京女子医科大学病院	東京都	飯田 知弘	部長(教授)
17 東北大学病院	仙台市	中澤 徹	科長(教授)

指導医からのメッセージ

当院は、上述の眼科研修プログラム基幹施設に認定されております。

- ・当講座では、眼科専門医制度の規定に従って、専門医資格取得の要件を満たすために、6つの専門領域（角結膜、緑内障、白内障、網膜硝子体・ぶどう膜、屈折矯正・弱視・斜視、神経眼科・眼窩・眼付属器）に、専門外来を担当する眼科専門医を眼科研修委員として配し、研修委員の指導の下、豊富な症例の中から定められた期間内に幅広い知識と高度な技量を習得することができます。加えて他科診療連携委員の指導により、全身疾患における他科と眼科領域の連携を図ることにより、眼科領域にとどまらない広い視野の獲得を目指します。
- ・当施設の定める研修カリキュラムに沿って、基礎知識の習得に始まり、検査・診察を通して疾患に対する考え方を養うことに重点を置き、加えて実技や手術トレーニングを数多く取り入れて眼科専門医に必要な技量の獲得を目指します。併せて学会発表、論文作成を通して高度な専門知識を身につける姿勢を養います。
- ・研修の初期には、眼科の基本診療に関するクルズスを設けており、これによって短期に基本的知識や手技を習得することができます。
- ・最新の診断器機や治療器械を備えており、手術件数も年間1000件を超え、豊富な症例から最先端の診断技術や治療を学ぶことができます。
- ・各学会で多数の演題を発表し、優れた研究は海外の一流雑誌に多数掲載されています。「優れた臨床能力を身につける一番の近道は研究をすることである」という考えから、研究に要する臨床データの活用や英語論文作成の際の専任スタッフによる支援など、研究に際してもよりよい環境を提供します。

診療科(講座)紹介

URL <https://www.fmu.ac.jp/home/dermatol/index.html>

- 1) アレルギー性皮膚疾患、乾癬、膠原病、血管炎の診断・治療
- 2) 悪性黒色腫など皮膚悪性腫瘍の治療、レーザー治療
- 3) 炎症性皮膚疾患、皮膚悪性腫瘍、遺伝性皮膚疾患を対象とする臨床研究・基礎研究

指導医(スタッフ)紹介



部長(教授)
山本 俊幸

桐朋高等学校(東京都)卒業
昭和63年 東京医科歯科大学医学部卒業
臨床専門分野
日本皮膚科学会認定皮膚科専門医
1) 膠原病(とくに強皮症)
2) 乾癬、掌蹠膿疱症
研究分野
1) 皮膚硬化の発症機構の解析
2) 自己免疫疾患の病態

学会活動

- 1) 日本皮膚科学会 代議員
- 2) 日本研究皮膚科学会 評議員
- 3) 日独皮膚科学会 評議員
- 4) 日本乾癬学会 評議員
- 5) 日本臨床皮膚科学会
- 6) 日本皮膚悪性腫瘍学会 評議員



医療安全管理部部長
(准教授)
大塚 幹夫

東京都立九段高等学校卒業
平成4年 福島県立医科大学医学部卒業
日本皮膚科学会認定皮膚科専門医
日本皮膚科学会認定皮膚悪性腫瘍指導専門医
臨床専門分野
1) 皮膚悪性腫瘍の治療(手術、化学療法)
2) 皮膚リンパ腫の治療
3) 熱傷
研究分野
1) 皮膚悪性腫瘍の臨床病態



助教 **猪狩 翔平**

福島県立福島高等学校卒業
平成25年 福島県立医科大学医学部卒業
日本皮膚科学会認定皮膚科専門医
臨床専門分野
1) フットケア
研究分野
1) 接触皮膚炎の病態解明



副部長(講師)
花見 由華

福島県立相馬高等学校卒業
平成13年 福島県立医科大学医学部卒業
日本皮膚科学会認定皮膚科専門医
臨床専門分野
1) 食物アレルギー
2) 接触皮膚炎
研究分野
1) 皮膚免疫アレルギー
2) 皮膚悪性腫瘍の病態解明



助教 **伊藤 崇**

福島県立福島高等学校卒業
平成25年 福島県立医科大学医学部卒業
日本皮膚科学会認定皮膚科専門医
臨床専門分野
1) 脱毛症
2) 乾癬
研究分野
1) 好酸球性筋膜炎の病態解明
2) 創傷治癒



助手 **菊池 信之**

福島県立安積高等学校卒業
平成16年 岩手医科大学医学部卒業
歯科医師免許
日本皮膚科学会認定皮膚科専門医
臨床専門分野
1) 皮膚腫瘍
研究分野
1) 皮膚悪性腫瘍
2) 壊疽性膿皮症



助手 **山本美友貴**

福島県立橘高等学校卒業
平成26年 福島県立医科大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 皮膚アレルギー検査
2) レーザー治療
研究分野
1) 皮膚免疫アレルギー
2) 血管腫の診断と治療



学内講師
石川 真郷

桐朋高等学校(東京都)卒業
平成23年 福島県立医科大学医学部卒業
日本皮膚科学会認定皮膚科専門医
臨床専門分野
1) 皮膚病理
研究分野
1) 創傷治癒

専門研修プログラム

	修得すべき手技や手術経験目標
1年時 (卒後3年)	<ul style="list-style-type: none"> 皮膚所見のとり方、治療の選択方法などを学ぶ。 病棟入院患者の診察、処置の基本について学ぶ。 ステロイド療法の適応・使用法・副作用に習熟する。 皮膚病理の基本所見、common diseases の病理組織に習熟する。 術前・術後の全身管理、術後疼痛管理を学ぶ。 皮膚外科の基本を学ぶ。 皮膚科の基本検査（真菌検査、パッチテスト等）について理解する。
2年時 (卒後4年)	<ul style="list-style-type: none"> 上級医の指導を受けながら、外来診療を実践できる。 入院患者の診療に担当医として主体的に携わる。 熱傷患者の状態を把握し、病態に応じた適切な対処ができる。 細菌感染、薬疹などの急性疾患の診断と初期対応が適切にできる。 終末期患者を受け持ち、ターミナルケアの基本知識を学び実践する。
3年時 (卒後5年)	<ul style="list-style-type: none"> 指導医のもと、デブリードメント、減張切開を実際に行う。 レーザー治療の適応、操作法、注意点について学ぶ。 蛍光抗体法の原理・手技を理解し、実施できる。 紫外線療法、冷凍凝固法を安全・確実に実行できる。
4・5年時 (卒後6年)	<ul style="list-style-type: none"> 皮膚科全般について専門医にふさわしい幅広い知識を備える。 外来および入院患者の主治医として適切な医療を実践できる。 適切な手術計画を立案し、指導医とともに実践できる。 皮膚科全般における検査手技・治療手技を安全かつ確実に実行できる。



大学院・留学について

研究も臨床も両方しっかりやりたい方には大学院入学を勧めています。当教室では臨床をしながら、研究日や臨床の空いた時間に研究を行うことで、専門医取得と学位取得を同時に目指すことができます。この仕組みにより専門医と学位の両方を取得するまでの期間を短縮できます。

我々の教室では研究テーマを1つに絞らずに、各々の教員が興味あるテーマを自由に選び、臨床と研究とをあまり分けずに、入りやすいところから始められるようにしています。現在は、強皮症と乾癬の研究を中心に皮膚悪性腫瘍、皮膚アレルギーなどの研究に取り組んでいます。基礎医学系の教室へ勉強に行くことも可能です。

専門医受験資格のために必要とされる技能・手技目標

以下の要件を満たすことが必要です。

- (1) 5年間以上の研修期間を満たす。
- (2) 1つの研修基幹施設と1つ以上の研修連携施設での

研修を行う。

- (3) 「研修の記録」の形式的評価票、年次総合評価票が埋められ、指導医の確認を受けている。
- (4) 15症例の経験症例（入院・外来）レポートを作成。
- (5) 10例の手術症例レポートを作成。
- (6) 医療安全、感染対策、医療倫理の必修項目を受講。
- (7) 日本皮膚科学会主催講習会、学会発表、論文発表単位により、前実績単位60単位を取得。

※詳細は日本皮膚科学会のホームページをご参照ください。

連携施設

	関連病院名	所在地	指導者名	職名
1	福島赤十字病院	福島市	元木 良和	部長
2	福島県立医科大学 会津医療センター	会津若松市	鈴木 重行	部長
3	竹田綜合病院	会津若松市	岸本 和裕	部長
4	白河厚生総合病院	白河市	佐藤 正隆	副部長

指導医からのメッセージ

皮膚科で扱う疾患は炎症性疾患、感染症、腫瘍、遺伝性疾患、外傷など多岐にわたります。これらの疾患についての専門的知識を取得し、十分な診療経験を積み、皮膚科専門医を取得することを目的としています。同時に、基本的な臨床力が身につくこと、皮膚科の基本だけでなく皮膚科サブスペシャリティを広く経験できることも大切にしています。

診断から治療まで自分達で一貫して行っているため、子供から高齢者まで、いろいろな患者さんを最初から最後まで診ることができます。また、臨床だけでなく研究活動も盛んで、多くのサブスペシャリティもあるため、何に興味があるのかいま分からなくても、自分にあった領域が見つかります。

優秀な皮膚科医を育てることは教室の重要な役割の1つで、充実した教育環境を提供できるよう日々努力しています。ぜひ、私たちと一緒に勉強しませんか。意欲ある先生と一緒に仕事ができることを心待ちにしています。



診療科(講座)紹介

- 1) 前立腺癌をはじめとする泌尿器悪性腫瘍、下部尿路機能障害および腎移植に関する先端医療
- 2) 下部尿路機能障害、前立腺肥大症、女性骨盤底障害に対する臨床研究および分子生物学的手法を用いた基礎研究
- 3) 新しい時代のニーズに応え、質の高い医療を提供できる泌尿器科専門医を育成する

指導医(スタッフ)紹介



部長(教授)
小島 祥敬

平成7年 名古屋市立大学卒業
臨床専門分野
1) 腹腔鏡下手術、ロボット支援手術
2) 尿路悪性腫瘍
3) 小児泌尿器科
研究分野
1) ゲノム薬理学に基づく前立腺肥大症に対するオーダーメイド医療
2) 生殖内分泌学 (遺伝子治療・環境ホルモン)

学会活動

- 1) 日本泌尿器科学会 代議員
- 2) 日本排尿機能学会 理事
- 3) 日本泌尿器内視鏡学会 理事
- 4) 日本小児泌尿器科学会 評議員
- 5) 日本アンドロロジー学会 評議員
- 6) 泌尿器科分子・細胞研究会 評議員
- 7) 日本癌治療学会 会員
- 8) 日本内視鏡外科学会 会員
- 9) 日本夜尿症学会 会員
- 10) 日本分子生物学学会 会員
- 11) Société Internationale d'Urologie Active Member
- 12) American Urological Association International Member
- 13) International Continence Society Member
- 14) The Endourological Society Member



准教授 小川 総一郎

埼玉県立川越高等学校卒業
平成15年 福島県立医科大学医学部卒業
臨床専門分野
1) ロボット支援手術 2) 内視鏡手術
3) 精巣腫瘍 4) 男性不妊症
5) 性機能障害
研究分野
1) 男性不妊症 2) 尿路性器腫瘍
趣味 旅



助教 星 誠二

平成25年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 泌尿器悪性腫瘍
研究分野
1) 泌尿器悪性腫瘍



講師 赤井 畑秀則

福島県立福島高等学校卒業
平成17年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 排尿障害
研究分野
1) 排尿障害



助手 松岡 香菜子

平成26年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 泌尿器科一般
研究分野
1) 排尿機能



学内講師 秦 淳也

平成22年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 腎移植
2) 排尿障害 (前立腺肥大症)
研究分野
1) 排尿障害 (前立腺肥大症)



助手 小名木 彰史

平成28年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 泌尿器科
研究分野
1) 泌尿器科



助手 佐藤 雄一

平成19年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 泌尿器悪性腫瘍
2) 小児泌尿器疾患
3) 泌尿器内視鏡手術
研究分野
1) 前立腺肥大



助手 丹治 亮

岩手県立盛岡第一高等学校卒業
平成27年 山形大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 前立腺肥大症
研究分野
1) 前立腺肥大症
趣味 ガーデニング



助教 胡口 智之

平成23年 獨協医科大学卒業
臨床専門分野
1) 泌尿器科悪性腫瘍
研究分野
1) 泌尿器科悪性腫瘍

専門研修プログラム

1年次研修病院	専攻医の研修内容	執刀手術
福島県立医科大学 附属病院 もしくは 連携施設	<ul style="list-style-type: none"> 泌尿器科専門知識として発生学、局所解剖、生殖生理、感染症、腎生理学、内分泌学を学ぶ。 診察：外来および入院患者の病歴聴取から症状を把握し鑑別診断から診断にいたるまでのプロセスを習得する（具体的な症状に関しては専攻医研修マニュアルの16ページを参照）。 検査：腹部診察と超音波画像検査、検尿、前立腺、精巢の触診が自ら行うことができる。尿道膀胱鏡検査と尿管カテーテル法、ウロダイナミックス（尿流測定、膀胱内圧測定）、各種生検法（前立腺、膀胱、精巢）、X線検査（KUB、DIP、膀胱造影、尿道造影）が自ら行うことができる。 手術：疾患および各患者の医学的背景に応じて適切な手術方法を選択することができる。診療科でのカンファレンスでプレゼンテーションを行うことができる。患者および家族に手術に関する説明を行うことができる。施行された術式に関しては詳細な手術記録を記載し術後のカンファレンスでプレゼンテーションを行う。研修終了に必要な手術術式および件数に関しては専攻医研修マニュアルの24ページを参照する。 基本的診療能力（コアコンピテンシー）：良好な医師患者関係を築くことができる。医療安全、医療倫理、感染対策に関する考え方を身につける。チーム医療の重要性を理解する。 学術活動：日本泌尿器科学会総会、地区総会、地方会へ積極的に参加する。学会主催の卒業教育プログラムを受講する。 	術者として 経尿道的膀胱腫瘍 切除術
		8
		経尿道的前立腺切 除術
		2
		経尿道的膀胱碎石術
		2
		陰嚢手術（陰嚢水腫 根治術、精巢固定 術、去勢術）
		2
		経皮的腎瘻造設術
		3
経皮的膀胱瘻造設術		
2		
助手として 開腹手術（腎、前立 腺、膀胱、その他）		
5		
腹腔鏡手術（副腎、 腎、前立腺、その他）		
8		
ロボット支援手術 （前立腺、その他）		
10		
男子不妊症		
2		
小児泌尿器科手術		
2		
女性泌尿器科手術		
2		
腎移植手術		
1		
2,3年次研修病院	専攻医の研修内容	執刀手術
連携施設 もしくは 福島県立 医科大学 附属病院	<ul style="list-style-type: none"> 1年次に習得した泌尿器科専門知識をさらに発展させ、臨床応用ができる。 検査：以下の検査に関して指示、依頼を行い、または指導医のもとで実施し、自ら結果を判定または評価することができる。内分泌学的検査（下垂体、副腎、精巢、副甲状腺）、精液検査、ウロダイナミックス（ブレッシャープフロースター）、腎生検、腎尿管鏡検査、X線検査（逆行性腎盂造影、順行性腎盂造影、血管造影、CTなど）、核医学検査（PET、レノグラム、腎シンチ、骨シンチ、副腎シンチ、上皮小体シンチ）、腎機能検査（クレアチニンクリアランス、分腎機能検査など）、MRI検査 手術：泌尿器科的処置として膀胱タンポナーデに対する凝血塊除去や毛尿尿道的膀胱凝固術、急性尿閉に対する経皮的膀胱瘻造設術、急性腎不全に対する急性血液浄化法、double Jカテーテル留置、経皮的腎瘻造設術を行うことができる。また研修先の診療拠点病院の専門としている手術に関しては上級医の指導のもとさらに積極的に手術に関与することを目標とする。 基本的診療能力（コアコンピテンシー）：良好な医師患者関係を築くことができる。実際の診療およびチーム医療の一員として泌尿器科診療能力をさらに向上させる。同僚および後輩へ教育的配慮ができる。 学術活動：学会において症例報告を行う。臨床研究の重要性や手法について理解する。 	術者として 経尿道的膀胱腫瘍 切除術
		20
		経尿道的前立腺手術
		10
		陰嚢手術（陰嚢水腫 根治術、精巢固定 術、去勢術）
		5
		体外衝撃波結石破 砕術
		5
		内視鏡下結石破砕術 （TUL/PNL）
		5
腎瘻造設術		
5		
腎摘除術		
5		
膀胱瘻造設術		
3		
助手として 腹腔鏡下手術		
5		
開腹手術（腎、前立 腺、膀胱、その他）		
6		
内視鏡下結石破砕術		
5		
4年次研修病院	専攻医の研修内容	執刀手術
福島県立 医科大学 附属病院 もしくは 連携施設	<ul style="list-style-type: none"> 2-3年次に習得した泌尿器科専門知識および泌尿器科専門技能をさらに発展させ、臨床応用ができる。 4年次は再度大学病院での研修を行う。2-3年目での連携病院における一般的泌尿器疾患に対する経験をもとにさらに専門性の高いあるいは複雑な症例に対するマネージメントを習得する。特に福島県立医科大学泌尿器科では尿路上皮癌悪性腫瘍に対する腹腔鏡下手術、ロボット支援手術を多数行っているためこれらの手術に対する経験を深める。さらに腎移植術、男子不妊症、小児泌尿器科疾患、女性泌尿器科疾患に対する特徴的な治療を積極的にに行っているためこれらの研修を希望する場合にはこれらの手術を重点的に経験してもらうことができる。 将来的にサブスペシャリティとする分野に関し積極的に症例に取り組むとともに学会やインターネットを通じてより高度で専門的な内容を見につける。 基本的診療能力（コアコンピテンシー）：良好な医師患者関係を築くことができる。チーム医療において責任をもってリーダーシップを発揮できる。医療安全や院内感染対策の診療科担当者をサポートできる。 学術活動：臨床研究を行い自ら学会発表、論文発表を行う。 	術者として 経尿道的膀胱腫瘍 切除術
		8
		経尿道的前立腺手術
		2
		陰嚢手術（陰嚢水腫 根治術、精巢固定 術、去勢術）
		2
		腎摘除術
		1
		経皮的腎瘻造設術
		2
経皮的膀胱瘻造設術		
5		
助手として 開腹手術（腎、前立 腺、膀胱、その他）		
5		
腹腔鏡手術（副腎、 腎、前立腺、その他）		
8		
ロボット支援手術 （前立腺、その他）		
10		
男子不妊症		
2		
小児泌尿器科手術		
2		
女性泌尿器科手術		
2		
腎移植手術		
1		

大学院・留学について

臨床系大学院進学を希望する方には、後期研修医として給料をもらいながら4年間で学位（博士号）と泌尿器科専門医を一緒に取得できる本学独自のコースが用意されています。また、当科には国際的に高い評価を受けている研究が多いので、専門医になった後でも容易に学位を取得することができます。現在までに、研究を終えた医局員は全員

が学位を取得しております。さらに、国際学会での発表の機会も多く、将来は当科と連携しているアメリカやヨーロッパの大学へ留学することも可能です。

専門医受験資格のために必要とされる技能・手技目標

- 1) 泌尿器科専門医の取得に必要な研修期間は、卒業臨床研修2年に泌尿器科専門医研修4年間を加えた計6年間です。
- 2) 2年間の卒業臨床研修終了後の4月から6月の間に、研修施設と日本泌尿器科学会専門医制度審議会に「研修開始宣言」を行い、専門研修を開始します。
- 3) 専門研修3年間で修了すると泌尿器科専門医の受験資格が得られます。したがって、専門医研修4年目の8月に実施される資格試験に合格し、翌年3月31日まで研修を修了すると泌尿器科専門医を取得できます。
- 4) 経験した症例及び手術件数をまとめた診療実績記録を提出する必要があります。
- 5) 卒業・生涯教育プログラム、学会発表、学会参加により教育研修単位を100単位以上取得しなければなりません。
- 6) 泌尿器科専門医を取得することにより、「泌尿器科腹腔鏡技術認定医」の受験資格を得ることができます。

連携施設

関連病院名	所在地	指導医名	職名
1 公立藤田総合病院	国見町	村木 修	科長
2 総合南東北病院	郡山市	橋本 樹	科長
3 星総合病院	郡山市	亀岡 浩	部長
4 太田西ノ内病院	郡山市	柳田 知彦	部長
5 公立相馬総合病院	相馬市	馬目 雅彦	診療部長
6 大原総合病院	福島市	吉田 純也	部長
7 済生会福島病院	福島市	鈴木 孝行	部長
8 寿泉堂総合病院	郡山市	千葉 茂寿	部長
9 竹田総合病院	会津若松市	細井 隆之	科長
10 塙厚生病院	塙町	中野 路子	部長
11 枳記念病院	二本松市	松岡 久光	部長
12 太田熱海病院	郡山市	伊東 賢二	部長
13 公立岩瀬病院	須賀川市	植村 元秀	部長

指導医からのメッセージ

今、泌尿器科は国内・国外を問わず大変注目される時代になりました。その背景として、今世紀に入って泌尿器科疾患が急増していることを挙げるすることができます。例えば、欧米男性に多い前立腺癌は、今後、日本において癌死をもたらす悪性腫瘍の中でその増加率が第一位になることが予測されています。前立腺癌に対して私たちが行っているロボット支援前立腺全摘除術の件数は全国トップレベルであり、また術後QOL向上を目指した取り組みは、世界的にも高い評価を受けています。また、頻尿や尿失禁のようにQOLを損なう疾患も実に多くなり、高齢化社会では深刻な問題になってきました。これらは、前立腺肥大症、過活動膀胱、腹圧性尿失禁と呼ばれる疾患ですが、特に過活動膀胱については、おおよそ810万人もの患者さんのいることが最近の疫学調査から明らかにされています。このように患者数の多さを例にしても、泌尿器科専門医のニーズが高まっています。

そこで、研修医の皆さんには、新しい時代を担う泌尿器科については是非考えていただき、泌尿器科専門医への道を選択なさるように自信をもってお奨めします。福島県立医科大学泌尿器科の後期研修（専門医研修）の特徴は、様々な泌尿器疾患の個性を尊重した指導を行なっている点にあります。診療の現場では指導医と研修医は納得がいくまで良く話し合い、治療方針の決定や手術手技の指導がなごやかで自由な雰囲気のもとで行なわれております。また、当科の専門医研修は大学附属病院と症例が多く選別された教育指定病院で研修をすることになります。

診療科(講座)紹介

- 1) 頭頸部癌の集学的治療を幅広く行っています。進行癌では再建手術を含めた拡大切除や化学放射線療法が、早期癌では診断の工夫と低侵襲な経口的切除術が特徴的です。また、癌や難治性の腫瘍性疾患に対する新たな治療や診断法を探る研究を行っています。
- 2) 耳科では鼓室形成術や人工内耳手術、小児難聴のスクリーニング、鼻科では副鼻腔内視鏡手術やアレルギー性鼻炎に対する舌下免疫療法、咽喉科では睡眠時無呼吸症候群、喉頭科では音声障害や嚥下障害に対する診断から包括的治療まで、幅広く診療し、研究も行っています。

指導医(スタッフ)紹介



部長(教授)
室野 重之

金沢大学附属高等学校(石川県)卒業
平成4年 金沢大学医学部卒業
金沢大学大学院医学系研究科修了(医学博士)
臨床専門分野
1) 頭頸部悪性腫瘍の診断と治療
2) 咽喉頭腫瘍の経口手術
3) 嚥下障害・音声障害
研究分野
1) ウイルスによる頭頸部癌発癌(EBV・HPV)
2) 頭頸部癌の転移メカニズム
3) 喉頭乳頭腫の新規薬物療法
趣味: 山歩き、山スキー

学会活動

日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会(福島県地方部会長)(代議員)
日本癌学会(会員) 日本アレルギー学会(会員)
日本頭頸部外科学会(評議員)
日本頭頸部癌学会(代議員)
日本気管食道科学会(評議員)
日本喉頭科学会(理事)
日本口咽頭科学会(評議員)
日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会(理事)
耳鼻咽喉科臨床学会(運営委員)
日本内分泌外科学会(会員)



副部長(准教授)
今泉 光雅

愛知県立豊橋東高等学校卒業
平成14年 福島県立医科大学卒業
福島県立医科大学大学院医学研究科修了(医学博士)
臨床専門分野
1) 嚥下障害の診断と治療
2) 中耳及び人工内耳手術
3) 音声障害の診断と治療
研究分野
1) 嚥下障害の早期発見
2) iPS細胞を用いた気管・喉頭の再生
3) 人工聴覚器



助手 菊地 大介

福島県立磐城高等学校卒業
平成20年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 神経耳科学
2) 小児性難聴の診断と治療
研究分野
1) 先天性難聴の疫学
2) ウイルス感染と難聴



講師 野本 美香

福島県立福島女子高等学校卒業
平成12年 福島県立医科大学卒業
医学博士(福島県立医科大学)
臨床専門分野
1) 鼻・副鼻腔疾患の診断と治療
2) 小児難聴
研究分野
1) 喉頭・気管の再生医学
趣味: 読書



助手 川瀬 友貴

福島県立会津高等学校卒業
平成21年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 頭頸部悪性腫瘍の診断と治療
2) 音声障害の診断と治療
研究分野
1) ウイルスによる頭頸部癌発癌
2) センチネルリンパ節における免疫応答
趣味: スポーツ観戦(主に格闘技)、水泳



講師 池田 雅一

栃木県立足利高等学校卒業
平成19年 福島県立医科大学卒業
福島県立医科大学大学院医学研究科修了(医学博士)
臨床専門分野
1) 頭頸部悪性腫瘍の診断と治療
研究分野
1) ウイルスによる頭頸部癌発癌
2) iPS細胞を用いた気管・喉頭の再生
趣味: つり



助手 佐藤 廣仁

福島県立福島高等学校卒業
平成21年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 鼻・副鼻腔疾患の診断と治療
2) 副鼻腔炎の内視鏡手術
研究分野
1) スギ花粉症の疫学
2) 副鼻腔真菌症の免疫応答
趣味: ドライブ



助教 垣野内 景

栄光学園高等学校(神奈川県)卒業
平成24年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 鼻・副鼻腔炎の診断と治療
2) 耳鼻咽喉科一般
研究分野
1) 細胞・分子生理学
2) 頭頸部癌の発癌メカニズム
趣味: 医史学、鉄道模型、天体観測



助手 尾股 千里

福島県立白河高等学校卒業
平成25年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 中耳疾患の診断と治療
2) 鼻・副鼻腔疾患の診断と治療
研究分野
1) 頭頸部癌の発癌メカニズム
2) 副鼻腔真菌症の免疫応答
趣味: 水泳



助手 橋本 千織

福島県立会津高等学校卒業
平成26年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 鼻・副鼻腔疾患の診断と治療
2) 副鼻腔炎の内視鏡手術
研究分野
1) 副鼻腔真菌症の免疫応答
趣味：旅行

専門研修プログラム

(1) 研修概要

「命」と「機能」を守るというコンセプトに基づき、耳、鼻・副鼻腔、口腔・咽頭・喉頭、頭頸部の全ての診療分野において、外科的治療のみならず内科的治療も含め、高度急性期医療から地域の医療活動まで幅広い知識と臨床能力を習得します。

(2) 特色

耳鼻咽喉科の各領域に多くの指導医があり、1人1人がしっかりと全分野において偏りのない研修を受けることができます。専門医取得が、ゴールではなく、サブスペシャリティを見据えた専門医としてのキャリアのスタートとなる研修を提供します。現在、新専門医制度のサブスペシャリティ領域の候補に頭頸部がん専門医がありますが、頭頸部癌に限らず、耳科、鼻科、咽頭科、喉頭科のいずれも将来の専門にすることが可能です。

また、単なる技術屋を養成するのではなく、医師としての基礎となる課題探索能力や課題解決能力を、ひとつひとつの症例について深く考え、論文等の情報を収集し、症例報告や論文としてまとめることを通しても養います。

(3) 指導医からのメッセージ

耳鼻咽喉科は命と機能を守り「生きる」を支える科です。老若男女全てに対応し、診断から治療まで完結できることが特徴です。内科系から外科系まで幅広い分野で活躍し、キャリアを形成することができます。

感覚器・機能性疾患、機能外科、機能温存を重視した癌治療に興味のある方は、ぜひ耳鼻咽喉科を選択してください。

(4) 連携施設

関連施設名	所在地	指導医名	職名
1 大原総合病院	福島市	鹿野 真人	副院長
2 福島赤十字病院	福島市	多田 靖宏	部長
3 済生会福島総合病院	福島市	鈴木 知子	医長
4 太田西ノ内病院	郡山市	鈴木 政博	部長
5 寿泉堂総合病院	郡山市	山辺 智	部長
6 星総合病院	郡山市	松見 文晶	部長
7 白河厚生総合病院	白河市	石川 浩男	部長
8 福島医大会津医療センター	会津若松市	小川 洋	教授
9 福島労災病院	いわき市	鈴木 康士	主任部長

(5) 研修プログラム

4年間で専門医取得に必要とされる以下の研修到達目標を達成します。

①疾患の管理経験：以下の疾患について、外来・入院患者の管理経験を主治医ないし担当医（受け持ち医）として実際に経験し指導医の指導監督を受ける。

難聴・中耳炎（25例）、めまい・平衡障害（20例）、顔面神経麻痺（5例）、アレルギー性鼻炎（10例）、副鼻腔炎（10例）、外傷・鼻出血（10例）、扁桃腺炎（10例）、嚥下障害（10例）、口腔・咽頭腫瘍（10例）、喉頭腫瘍（10例）、音声・言語障害（10例）、呼吸障害（10例）、頭頸部良性腫瘍（10例）、頭頸部悪性腫瘍（20例）、リハビリテーション（難聴、めまい・平衡障害、顔面神経麻痺、音声・言語、嚥下）（10例）、緩和医療（5例）

②基本的手術手技の経験：術者あるいは助手として経験する（①の症例との重複は認める）。

●耳科手術20例以上（鼓膜形成術、鼓室形成術、乳突削開術、人工内耳、アブミ骨手術、顔面神経減荷術）
●鼻科手術40例以上（内視鏡下鼻副鼻腔手術）
●口腔咽喉頭手術40例以上（扁桃摘出術：20例以上）（舌、口腔、咽頭腫瘍摘出術：5例以上）（喉頭微細手術、嚥下機能改善手術、誤嚥防止手術、音声機能改善手術：15例以上）
●頭頸部腫瘍手術30例以上（頸部郭清術：10例以上）（頭頸部腫瘍摘出術〔唾液腺、喉頭、頸部腫瘍等〕：20例以上）

③個々の手術経験：術者として経験する（①、②との重複は認める）。

扁桃摘出術（10例）、鼓膜チューブ挿入術（10例）、喉頭微細手術（10例）、内視鏡下鼻副鼻腔手術（20例）、気管切開術（5例）、良性腫瘍摘出術（リンパ節生検を含む）（10例）

④学術活動：論文の執筆、学会発表を行う。

日本耳鼻咽喉科学会ならびにその関連学会で3回以上の学術発表筆頭著者として1編以上の学術論文の執筆

(6) 週間スケジュール例

専門研修基幹施設（福島県立医科大学附属病院）における週間計画の基本例

	月	火	水	木	金
午前	手術 病棟 外来	外来 病棟	手術 病棟 外来	病棟回診 外来 病棟	手術 病棟 外来
午後	手術 病棟	検査 病棟	手術 病棟	検査 病棟	手術 病棟
		医局会 抄読会 重点症例検討会		症例検討会	

大学院・留学について

大学院では、エプスタイン・バーウイルス（EBV）やヒトパピローマウイルス（HPV）など「ウイルスと癌」に関する研究を講座の主要なテーマとして進めています。専門研修の期間中に大学院に入学することもでき、専門医取得後早期に学位を取得することが可能です。研究の視点は臨床に必ず活かしますので、大学院入学をお勧めします。これまで研究、臨床において国内外への留学実績があり（ノースカロライナ大学・ウィスコンシン大学・グルッポオトロジコ・愛知県がんセンター・国立がんセンター東病院）、さらに他施設との連携を進めていきます。

専門医受験資格のために必要とされる技能・手技目標

福島県立医科大学耳鼻咽喉科は、新専門医制度において、基幹病院として耳鼻咽喉科専門研修プログラムを提供しています（ホームページからご参照下さい）。専門研修プログラムでは、9つの連携病院とともに、耳鼻咽喉科専門医受験資格には十分な性能・手技を取得することが出来ます。

指導医からのメッセージ

耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の先進的かつ専門性の高い医療を行っています。頭頸部癌治療では、再建手術から低侵襲な経口的手術、さらにはエビデンスに基づく化学放射線療法や独創的な動注化学療法まで、根治性と機能温存を追求しています。耳領域では、難聴に対する鼓室形成術や人工内耳手術、さらには小児難聴の診断と療育の実績も有しています。鼻領域では難易度の高い症例での鼻内視鏡手術を、喉頭領域では嚥下障害の診断に加え、嚥下機能改善手術や誤嚥防止手術を積極的に行い、また発声障害に対する音声改善手術にも取り組んでいます。何より福島県の耳鼻咽喉科医療の発展のために中心的な役割を担い、若手医師の育成に努めます。

臨床研修では、耳鼻咽喉科診療の幅広い理解を目指すとともに興味ある分野を深く掘り下げたい方にも柔軟に対応します。耳鼻咽喉科医を目指す方はもちろん、他科に進む方にも有益な研修を提供します。

臨床研修後には、新専門医制度での耳鼻咽喉科専門研修プログラムを選択できます。

医学部6年生のアドバンストBSLでは、学生の希望を取り入れつつ、臨床研修と遜色ない実習を行います。

診療科(講座)紹介

- 1) 小児から高齢者までの多様な精神・心身医学疾患を取り扱います。専門外来も開設しています。
- 2) 他職種のチーム医療を重視して実践しています。豊富な治療メニューを用意しています。
- 3) 認知生理学、薬理学、遺伝学、病理組織学、社会心理学、児童精神医学、災害精神医学など様々な研究チームが互いに融合して、多角的に精神疾患を研究しています。
- 4) 小児から高齢者まで、脳の生物学研究から心理社会療法まで、関心に応じた研究テーマを選択できます。

指導医(スタッフ)紹介



准教授(部長)
三浦 至

山形県立山形東高等学校卒業
平成12年 山形大学医学部医学科卒業
臨床専門分野
1) リエゾン精神医学
2) 緩和ケア
3) 精神科薬物療法
研究分野
1) 臨床精神神経薬理学
趣味：野球



助手 **野崎 途也**

福島県立福島高等学校卒業
平成19年 福島県立医科大学医学部医学科卒業
臨床専門分野
1) 精神医学全般
研究分野
1) 精神生理学
趣味：旅行



准教授(副部長)(兼務)
板垣俊太郎
(大学健康管理センター所長)

福島県立福島高等学校卒業
平成13年 福島県立医科大学医学部医学科卒業
研修病院・研修施設
福島医科大学、双葉厚生病院
臨床専門分野
1) 児童思春期精神医学
研究分野
1) 児童精神医学
2) 精神生理学
趣味：ドライブ、散策



助手 **志賀可奈子**

平成25年
いわき明星大学大学院人文学研究科修了
臨床専門分野
1) 臨床心理学全般
研究分野
1) 臨床心理学全般



助教 **佐藤亜希子**

福島県立安積女子高等学校卒業
平成22年 山形大学卒業
臨床専門分野
1) 精神医学一般
研究分野
1) 児童青年精神医学
趣味：芸術鑑賞など



助手 **穴戸 理紗**

福島県立安積黎明高等学校卒業
平成30年 福島県立医科大学医学部医学科卒業
臨床専門分野
1) 精神医学一般
研究分野
1) 死後脳研究/統合失調症
趣味：読書、旅行



助教 **森 湧平**

福島県立安積高等学校卒業
平成28年 福島県立医科大学医学部医学科卒業
臨床専門分野
1) 精神医学全般
2) 日本精神神経学会専門医
研究分野
1) 臨床神経生理学(事象関連電位)
趣味：音楽鑑賞、旅行



助手 **錫谷 研**

福島県立福島高等学校卒業
平成30年 福島県立医科大学医学部医学科卒業
臨床専門分野
1) 精神医学全般
研究分野
1) 臨床神経生理学(事象関連電位)
2) スポーツ精神医学
趣味：柔道、ピアノ、スキー、旅行



助手 **松本 貴智**
(大学健康管理センター兼務)

福島県立原町高等学校卒業
平成8年 東京国際大学教養学部卒業
平成10年 東京国際大学大学院社会学研究科修了
臨床専門分野
1) 精神力動的的精神療法
2) 心身医学
研究分野
1) パーソナリティ障害への精神力動的的精神療法
2) 精神力動的アセスメントと治療の有用性
趣味：ゴルフ、野球



助手 **小林 有里**

福島県立福島高等学校卒業
平成31年 福島県立医科大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 精神医学一般
研究分野
1) 臨床精神神経薬理
2) 児童精神医学
趣味：音楽鑑賞など



助手 鈴木 悠平

福島県立福島高等学校卒業
平成31年 福島県立医科大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 精神医学全般
研究分野
1) 臨床精神神経薬理学
趣味：サウナ

専門研修プログラム

	修得すべき手技や手術経験目標数など
1 年次 (卒後3年)	精神科専門医コース ・ 診断面接法を学び、基本技法を習得する ・ 薬物療法と薬物による副作用への対処法の薬理学的基礎を理解する ・ 脳波検査、脳脊髄液検査を自身で施行できる技術を習得する ・ 脳波と脳画像の判読ができるようになる ・ 支持的精神療法、認知行動療法、デイケア治療の基礎を学び、自身で施行できる技術を習得する ・ 成人の各種精神疾患、心身症の診断と治療を経験する ・ 精神科医療の法的規範について学ぶ 児童精神医学専門医コース ・ こどもの心診療センターで児童の新患の予診を担当する
2 年次 (卒後4年)	精神科専門医コース ・ 治療面接法を学び、その技法を習得する ・ 特殊な薬物療法の薬理学的基礎を理解し、施行技術を習得する ・ 脳波と脳画像の判読に習熟する ・ 各種精神療法を学び、自身で体験する ・ 修正電気けいれん療法を自身で施行できるように技術を習得する ・ 小児や思春期の各種精神疾患、心身症、人格障害、リエゾン精神医学症例の診断と治療を経験する ・ チーム医療の統括に必要な知識を学び、統括役を経験する ・ 精神科救急症例の診断と治療を経験する ・ 精神科医療の法的規範についての理解を更に深める 児童精神医学専門医コース ・ こどもの心診療センターで児童の新患の予診を担当する
3 年次 (卒後5年)	精神科専門医コース ・ 市中の精神科病院に勤務する ・ 市中精神科病院にて慢性精神疾患の治療と社会復帰を経験する ・ 市中精神科病院にて措置入院の症例を主治医として受け持つ ・ 他職種とのチーム医療の統括を市中病院にて経験する 児童精神医学専門医コース ・ こどもの心診療センターで児童の新患を担当する
4・5年次 (卒後6、7年)	精神科専門医コース ・ 精神保健指定医および精神科専門医の資格取得のために受験する ・ 福島医大病院心身医療科にて後期研修医の指導を担当する ・ 精神神経学会専門医試験を受験する (精神科専門医コースは卒後5年次も福島医大病院心身医療科にて後期研修医の指導を担当する) 児童精神医学専門医コース ・ こどもの心診療センターで児童の新患を担当する ・ 児童精神医学を研修可能な施設に週に一度勤務する ・ オプションとして福島医大病院で3ヶ月の一般小児科研修が可能である

大学院・留学について

大学院には後期研修開始時点からの入学を勧めている。臨床の中で経験できるテーマにて博士論文を作成するように指導する。

連携施設

	関連病院名	所在地	指導医名	職名
1	板倉病院	福島市	海野 幸浩	院長
2	一陽会病院	福島市	寺山 賢次	院長
3	桜ヶ丘病院	福島市	渡部 康	院長
4	清水病院	福島市	角田 耕也	院長
5	東北病院	本宮市	落合紳一郎	院長
6	福島赤十字病院	福島市	山本慎之助	副部長
7	福島松ヶ丘病院	伊達市	山本 俊昭	院長
8	富士病院	福島市	大野 篤志	院長
9	村上病院	福島市	村上 敦浩	院長
10	あさかホスピタル	郡山市	佐久間 啓	院長
11	寿泉堂松南病院	須賀川市	今泉 修一	院長
12	針生ヶ丘病院	郡山市	金森 良	院長
13	福島県立ふくしま医療センターこころの杜	矢吹町	橘高 一	院長
14	星ヶ丘病院	郡山市	竹内 賢	院長
15	会津西病院	会津若松市	羽金 淑江	院長
16	竹田総合病院	会津若松市	星野 修三	副院長
17	新田目病院	いわき市	菅野 智行	院長
18	長橋病院	いわき市	本多 幸作	院長
19	雲雀ヶ丘病院	南相馬市	熊倉 徹雄	院長
20	舞子浜病院	いわき市	本田 教一	院長
21	福島県立医科大学会津医療センター	会津若松市	川勝 忍	教授
22	福島県総合療育センター	郡山市	増子 博文	発達障害センター長
23	泉保養院	いわき市	李 創鎬	院長

指導医からのメッセージ

●三浦 至から

21世紀は心の医学の時代です。心の病気に悩む人々は高齢者から小児まで、また家庭・職場・学校といった生活の場に広くおられ、増加の一途をたどっています。それらの患者さんたちは皆さんが精神科・心身医学の専門医になってくれるのを心待ちにしています。21世紀の心の医学を一緒に切り開いていきましょう。精神医学は、教育(学校医、児童相談所、学校保健)、行政・社会(地域精神保健、保健所、精神医療審査会、介護審査会)、司法(精神鑑定、異常心理学)、産業(産業医、職場のメンタルヘルス)、身体医学関連(リエゾン精神医学、精神腫瘍学)、研究(ニューロサイエンス、児童精神医学、社会精神医学、司法精神医学、病跡学(芸術)、実験心理学、精神生理学、薬理学、認知科学)など書ききれないほど多岐に渡る分野に関連し、研修期間中またはその後にも自分の道を模索することも可能な柔軟性のある分野です。また、福島医大心身医療科では屋根瓦方式のチーム医療が実践されており、労働よりも教育が優先されている理想的な環境です。さらに、作業療法も導入された上に、臨床心理士の研修コースも併設され、カウンセリング、デイケアの実践を、大学でありながら体験することが出来ます。震災後の心のケアチームの活動もありますし、是非ここでの後期研修を強くお勧めします。

診療科(講座)紹介

URL <http://www.fmu.ac.jp/home/rad/main.html>

- 1) 放射線診療のすべてを実践できる体制となっている。
- 2) CT・MRIや核医学検査（PET-CT、PET-MRI）が画像診断の中心となる。
- 3) CT透視下による診断・治療、血管造影検査での診断・治療手技を学べる。

指導医(スタッフ)紹介



部長(教授)
伊藤 浩

福島県立磐城高等学校卒業
平成元年 福島県立医科大学卒業
平成5年 東北大学大学院医学研究科修了
臨床専門分野
1) 放射線診断
2) 核医学
研究分野
1) 脳神経核医学
2) 分子イメージング



助手 黒岩 大地

長野県飯山北高等学校卒業
平成23年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 画像診断、IVR
研究分野
1) 画像診断、IVR



教授 福島 賢慈

大阪府立桜塚高等学校卒業
平成11年 大阪医科大学卒業
臨床専門分野
1) 放射線画像診断・核医学
研究分野
1) 循環器画像診断
趣味：自転車・映画鑑賞・音楽



助手 末永 博紀

平成25年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 画像診断
研究分野
1) 画像診断



准教授
石井 士朗

芝浦工業大学付属柏高等学校(千葉県)卒業
平成12年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 画像診断
2) インターベンショナルラジオロジー
研究分野
1) 画像診断
2) 核医学画像診断



助教 関野 啓史

平成21年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 画像診断
研究分野
1) 画像診断、IVR



助手 長谷川 靖

福島県立安積高等学校卒業
平成9年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 画像診断
研究分野
1) 画像診断

専門研修プログラム

当科での後期研修は新専門医制度に基づき、「“オール福島”放射線科専門研修プログラム」の名称で実施しています。研修期間は3年間以上とし、1年次（卒後3年）は研修基幹施設である福島県立医科大学附属病院放射線科にて研修します。その後3年次までに1年間以上日本医学放射線学会認定の総合修練機関（後期研修連携施設を参照。但し一部施設は対象外）で研修を行うことが必須となります。

3年間の研修後に放射線専門医認定試験の受験資格が与えられます。放射線専門医資格取得から2年間のサブスペシャリティ領域研修を経て放射線診断専門医認定試験の受験資格が与えられます。

大学院・留学について

後期研修・専攻医として、同時に大学院入学が可能である。

博士号取得には最短コースとなります。

専門医受験資格のために必要とされる技能・手技目標

日本専門医機構が認定する「放射線科専門医研修カリキュラム」に準拠しています。

- A. 専門研修カリキュラムに定める11領域80疾患群100症例のうち90%以上の症例を経験する。
- B. 下記に示す検査・読影・治療法を経験する。

モダリティ・手技	目標症例数
X線単純撮影	400例
消化管X線検査	60例
超音波検査	120例
CT	600例
MRI	300例
核医学検査	50例

治療法	経験症例数	内 訳	
IVR	30例	血管系	10例以上
		非血管系	5例以上
放射線治療	30例	脳・頭頸部	5例以上
		胸部・乳腺	4例以上
		腹部・骨盤	4例以上
		骨軟部	4例以上

連携施設

	連携施設名	所在地	指導医名	職 名
1	会津医療センター	会津若松市	歌野 健一	放射線科医長
2	会津中央病院	会津若松市	嶋原 武志	放射線画像診断科部長
3	いわき市医療センター	いわき市	山崎 宙士	主任科長
4	太田西ノ内病院	郡 山 市	小林 弘子	放射線科部長
5	大原綜合病院	福 島 市	森谷 浩史	副院長
6	白河厚生病院	白 河 市	浦部 真平	放射線科部長
7	坪井病院	郡 山 市	岡崎 篤	放射線科部長
8	竹田綜合病院	会津若松市	間島 一浩	副院長
9	総合南東北病院	郡 山 市	高井 良尋	南東北BNCT 研究センター長
10	福島赤十字病院	福 島 市	菊田 学	放射線科部長

指導医からのメッセージ

放射線科診断に関しては、日本核医学会、日本IVR学会による専門医制度も運用されています。前者ではPET核医学認定は医師国家試験合格後5年目、核医学専門医は医師国家試験合格後7年目に受験資格が与えられます。後者は8年目に規定の症例数等の申請で受験資格が与えられます。

また放射線診断分野も、神経放射線、頭頸部・胸部・心臓・腹部・骨軟部等の臓器別専門分野、さらに救急放射線や、小児放射線、あるいは、肺癌学会、肝癌研究会のような疾患や診断機器に関する研究会・学会もあり、興味ある分野の専門性をもつ領域の研鑽を積むことができます。



診療科(講座)紹介

- 1) 放射線治療に特化した診療科(講座)として、平成26年8月1日に開講しました。
- 2) 平成29年に最新型の放射線治療機器(ライナック)を導入致しました。また、県内の関連施設と連携し、通常の放射線治療(3次元原体照射)から、高精度放射線治療・3次元画像誘導小線源治療・粒子線治療・等、放射線治療のすべてを実践できる体制となっています。
- 3) 画像診断部門・核医学部門との連携により、放射線科専門医、及び、放射線治療専門医を取得するための体制が整っています。
- 4) 博士号取得、海外留学を積極的に推進しています。

指導医(スタッフ)紹介



部長(教授)
鈴木 義行

桐朋高校(東京都)卒業
平成7年 群馬大学医学部卒業
平成13年 群馬大学大学院医学系研究科修了
臨床専門分野
1) 放射線治療
2) 粒子線治療
3) がんの免疫療法
研究分野
1) 放射線生物学
2) 腫瘍免疫学
趣味: ゴルフ、自転車競技観戦

学会活動

- 1) 日本医学放射線学会 代議員
- 2) 日本放射線腫瘍学会 代議員
- 3) 日本バイオセラピー学会 理事
- 4) 日本免疫治療学会 理事、大会長(2025)
- 5) 外務省 国際原子力機関(IAEA)/アジア地域協力協定国内対応委員会 委員
- 6) 国際原子力機関(IAEA)
RAS 2022 001 プロジェクト責任者



教授 **田巻 倫明**
(健康リスクコミュニケーション学講座兼任)

Middlesex school
(高等学校・米国マサチューセッツ州)卒業
平成10年 Stanford大学卒業
平成15年 群馬大学医学部卒業
平成21年 群馬大学大学院医学系研究科修了
臨床専門分野
1) 放射線治療
2) 粒子線治療
3) 小線源治療
研究分野
1) 婦人科放射線治療
2) 小線源治療
3) 免疫放射線治療
趣味: ゴルフ、ウクレレ



准教授 **佐藤 久志**
(保健科学部兼任)

福島県立福島高等学校卒業
平成5年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 放射線治療
2) 緊急被ばく医療
研究分野
1) 放射線腫瘍学 一般
2) 放射線災害医療
趣味: 革細工、電車での旅



副部長(准教授)
吉本 由哉
(アスタチン核種治療研究講座特任教授)

慶應義塾志木高等学校(埼玉県)卒業
平成14年 慶應義塾大学大学院理工学研究科修了
平成20年 群馬大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 放射線治療
2) がんの免疫療法
研究分野
1) 腫瘍免疫学
2) 腫瘍生物学
趣味: 登山、庭いじり

専門研修プログラム

	修得すべき手技や手術経験目標数など
1年次 (卒業3年)	大学病院（総合修練機関）において、ローテート研修 画像診断：CT・MRI・一般撮影の読影 核医学：一般核医学検査の読影・PET検査の読影 IVR：術前マッピングや血管塞栓への参加
2年次	放射線治療：放射線生物学・放射線免疫学・放射線物理等の基礎的知識の習得・基本的な放射線治療計画の実施と患者管理・放射線防護・緊急被ばく医療・法規・被ばく管理などの実習
3年次	放射線治療：特殊照射（IMRT・SBRT）・小線源治療などの計画・実施・化学療法併用の患者管理 核医学：RI治療への参加
4年次	8月に放射線科専門医試験 試験合格後、放射線治療専門医受験のため、2年間の高度専門的な研修（粒子線治療施設などでの研修含む） （放射線治療専門医試験は6年次で受験可能）

大学院・留学について

大学院には、原則、入学する事を勧めている。放射線腫瘍学は医学部・初期研修中に研修をする機会が乏しいことから、後期研修を2年程度進め、放射線治療学の基礎を学んだ後に大学院に進学するのが研究を進めるうえでスムーズと考えられる。しかしながら、後期研修と大学院進学を同時にすすめることも制度上可能であり、本人の希望を尊重する。

海外（国内）留学に関しては、大学院を修了・学位取得後に留学する事を推奨している。留学先としては、平成29年以内に本学と米国オハイオ州立大学医学部放射線治療学講座との間に交流・協力協定が締結され、留学希望者の全員が、サポートを得ながら留学できるよう準備を進めている。もちろん、本人の希望により、他の留学先を紹介することも可能である（米国ハーバード大、シンガポール大学、放射線医学総合研究所など）。

専門医受験資格のために必要とされる技能・手技目標

「放射線治療専門医」を取得するためには、まずは、放射線治療・放射線診断・核医学・放射線生物学・関連法令などの、いわゆる広義の放射線医学を3年間にわたり広く研修した後に「放射線科専門医」試験を受験する。合格後、2年間の放射線治療専門の研修を行った後に、「放射線治療専門医」試験を受験し、合格すると「放射線治療専門医」と認定される。

- 1) 放射線治療に関する手技の習得（放射線科専門医・放射線治療専門医）
- 2) CT、MRI、単純X線写真の診断読影技術の習得（放射線科専門医）
- 3) 核医学検査の検査手技と読影技術の習得（放射線科専門医）
- 4) 血管撮影・IVRの手技および読影技術の習得（放射線科専門医）

連携施設（“オール福島”放射線科専門研修プログラム）

	関連病院名	所在地	指導医名	職名
1	福島県立医科大学会津医療センター	会津若松市	歌野 健一	教授
2	会津中央病院	会津若松市	嶋原 武志	部長
3	太田総合病院附属太田西ノ内病院	郡山市	小林 弘子	部長
4	大原総合病院	福島市	森谷 浩史	副院長
5	白河厚生総合病院	白河市	浦部 真平	副院長
6	慈山会医学研究所付属坪井病院	郡山市	岡崎 篤	部長
7	竹田総合病院	会津若松市	間島 一浩	副院長
8	脳神経疾患研究所附属総合南東北病院	郡山市	高井 良尋	センター長
9	福島赤十字病院	福島市	菊田 学	部長

指導医からのメッセージ

放射線腫瘍学は単に“治療技術”を習得するだけでなく、放射線生物学・腫瘍病理学・腫瘍免疫学などの基礎的学問から、画像診断学・外科学・腫瘍内科学・などの臨床医学まで、癌治療に関わる広い知識を必要とする学問である。そのため、“一人前”になるには長い年月の研修を必要とするが、その分専門性は高く、特に、粒子線治療・小線源治療といった治療法は、我が国が世界の指導的役割を果たしており、国内のみならず、国際的にも広く活躍の場が広がっている。また、高齢化の進む我が国において、低侵襲な癌治療の一つとして放射線治療は重要性を増しているが、残念ながら放射線治療専門医は全国で1000名程度にとどまっており、全国的に人材不足の状態が続いている。高い志を持った、放射線治療医を目指す、後期研修医の参加を希望する。

診療科(講座)紹介

- 1) 核医学科を担当し、外来・入院診療を行う。
- 2) RI病棟および核医学科外来で核医学治療（標的RI治療、RI内用療法）を行う。

指導医(スタッフ)紹介



部長(教授)(兼務)
織内 昇

福島県立磐城高校卒業
昭和60年 群馬大学卒業
平成2年 群馬大学大学院医学系研究科修了
臨床専門分野
1) 核医学、放射線医学
研究分野
1) 標的RI治療、分子イメージング
趣味：スポーツ、読書、旅行



教授(兼務)
志賀 哲

群馬県立桐生高等学校卒業
平成5年 北海道大学卒業
臨床専門分野
1) 核医学
研究分野
1) 核医学治療、核医学診断（特に脳腫瘍）
趣味：映画鑑賞、写真



准教授(兼務)
石井 士朗

芝浦工業大学附属柏高校（千葉県）卒業
平成12年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 画像診断、核医学
研究分野
1) PET、核医学診断
趣味：ガーデニング



助教(兼務)
菅原 茂耕

仙台育英学園秀光中等教育学校(宮城県)卒業
平成23年 国立大学法人群馬大学医学部
医学科卒業
令和2年 福島県立医科大学大学院
博士課程修了
臨床専門分野
1) 核医学治療・診断
2) 画像診断
研究分野
1) 核医学治療・診断
趣味：水泳、スポーツ観戦、キャンプ

専門研修プログラム

	修得すべき手技や手術経験目標数など
1年次	放射線診断専門医取得のため、放射線科を兼務して臨床研修を積む。核医学専門医、PET核医学認定医や癌治療認定医の取得も可能である。
2年次	放射線診断専門医取得のため、放射線科を兼務して臨床研修を積む。核医学専門医、PET核医学認定医や癌治療認定医の取得も可能である。
3年次	放射線診断専門医取得のため、放射線科を兼務して臨床研修を積む。核医学専門医、PET核医学認定医や癌治療認定医の取得も可能である。
4年次	放射線診断専門医取得のため、放射線科を兼務して臨床研修を積む。核医学専門医、PET核医学認定医や癌治療認定医の取得も可能である。

大学院・留学について

研究分野に応じて関連する講座の大学院に入学して学位取得を目指す。現在、放射線腫瘍学講座の大学院に在籍し、先端臨床研究センターで指導を受けて研究を行い学位を取得した事例がある。

海外留学を奨励するが、研究の基礎を習得して学位を取得した後、さらに興味のある研究を発展させるために留学するのが良いと考えている。

専門医受験資格のために必要とされる技能・手技目標

日本専門医機構が認定する日本医学放射線学会の専門医取得が基本となる。そのために必要となる技能・手技は、学会HPにアクセスして専門研修プログラムを参照のこと。

後期研修中に3年間で放射線科の基礎として、放射線診療全般(診断、核医学、治療)における基礎知識、臨床放射線科医としてわきまえておくべき放射線物理学、放射線生物学、放射線安全管理(放射線防護)を習得し、4年目に放射線科専門医認定医試験を受験して合格すると放射線科専門医となる。さらに2年間、画像診断学、核医学、IVRを研修して放射線診断専門医認定試験を受験し、合格すると放射線診断専門医となる。

核医学専門医は、医師としての臨床経験が初期臨床研修の2年間を含めて6年以上あり、日本核医学会専門医教育病院で核医学診療を5年以上経験していることが受験資格で試験に合格すると核医学専門医に認定される。

連携施設

放射線診断専門医の取得を目指すため、放射線科と共通の連携施設で研修を積む。

指導医からのメッセージ

核医学の診療を行いながら、新しい核医学画像診断としての分子イメージングと、核医学治療(RI内用療法、標的RI治療)の研究を行っています。小型、中型2台のサイクロトロンを所有して医学研究や診療を行っている大学は他にありません。またPET/MRIを診療に広く活用している大学も国内では希少です。これら最新のインフラを活用して研究を行っています。サイクロトロンで核種を製造、精製する物理や放射化学の専門家、標識薬剤を合成する放射薬学の専門家、動物用のPET/SPECT/CT装置や臨床用PET/MRI装置を駆使して新規放射性薬剤の有効性や安全性の研究を行う基礎医学や画像工学の専門家を擁して、臨床のニーズを具体化、実際にモノを作ってそれを試す人的リソースと設備が揃っています。恵まれた設備を生かして国内でこの分野をリードする研究機関、研究者と連携しています。

以下の研究が走っています。

- ① 診断では分子イメージングと呼ばれる標的分子を特異的に画像化する手法の開発を行っています。サイクロトロンを活用して放射性核種を製造し、新たな放射性薬剤を開発して新規の分子イメージングを開発します。中型サイクロトロンによる新規核種の放射性薬剤を開発できるため、他施設の追従を許さない研究が可能です。
- ② PET/MRI装置はハイエンドの装置であり、画像工学の研究からPET/MRI診断の臨床的有用性の研究まで幅広い研究が可能です。
- ③ 核医学治療では、従来からのI-131やY-90に加えて、Lu-177などのβ線核種による治療が注目されています。本学のサイクロトロンでは、β線よりも治療効果に優れたα線核種アスタチン(At-211)の製造を行っています。At-211標識MABGによる治療の医師主導治療を行うとともにさらなる新規治療の開発を目指して国内外の大学や研究機関と連携しています。

診療科(講座)紹介

- 1) 臨床：あらゆる手術の周術期管理、痛みの緩和、重症患者救命のための集中治療によって、患者のQOLの向上を目指す。
- 2) 研究：基礎医学と共同し、生命科学の最先端を探求する。
- 3) 研修：研修医は麻酔だけにとどまらず、集中治療やペインクリニックの研修も行い、付加価値を持った麻酔科医を養成する。

指導医(スタッフ)紹介



集中治療部
部長(主任教授)
井上 聡己

京都私立花園高等学校卒業
平成5年 奈良県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 臨床麻酔
2) 集中治療
研究分野
1) 脳虚血、低体温、麻酔関連のアウトカム調査
趣味：読書、模型

学会活動

- 1) 日本麻酔科学会 代議員
- 2) 日本集中治療医学会 評議員
- 3) 日本ペインクリニック学会 特任評議員
- 4) 日本臨床麻酔学会
- 5) 日本蘇生学会
- 6) 日本心臓血管麻酔学会 評議員
- 7) 日本神経麻酔集中治療学会 評議員



麻酔・疼痛緩和科部長(教授)
黒澤 伸

宮城県仙台第一高等学校卒業
昭和62年 秋田大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 麻酔(特に脳死移植)
2) ペインクリニック
3) 集中治療医学
研究分野
1) 全身麻酔薬が免疫に及ぼす影響
趣味：ジャズレコード収集



手術部副部長(助手)
大石理江子

福島県立福島女子高等学校卒業
平成18年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 麻酔一般、ペインクリニック
研究分野
1) 経皮的トータルヘモグロビン測定機器の精度検証
2) Cadaverを用いた耳介側頭神経ブロックの方法の検討
趣味：電車の旅



手術部部長(准教授)(兼務)
小原 伸樹

岩手県立盛岡第一高等学校卒業
平成12年 福島県立医科大学卒業
研修病院・研修施設
福島県立医科大学附属病院、竹田綜合病院、会津中央病院
臨床専門分野
1) 麻酔一般
研究分野
1) 静脈麻酔薬・鎮痛薬の薬物動態・薬学的研究
趣味：マラソン



講師 **佐藤 薫**

石川県立小松高等学校卒業
平成7年 福島県立医科大学卒業
平成16年 福島県立医科大学大学院修了
研修病院・研修施設
福島県立医科大学附属病院、太田西ノ内病院
臨床専門分野
1) 緩和医療
2) ペインクリニック
研究分野
1) 心臓の虚血再還流障害とエクトヌクレオチダーゼの関連について
趣味：スキー



集中治療部副部長(講師)
箱崎 貴大

福島県立磐城高等学校卒業
平成15年 自治医科大学卒業
臨床専門分野
1) 麻酔科学
研究分野
1) 麻酔薬の耐性
趣味：靴磨き、お酒



助教 **中野 裕子**

豊島岡女子学園高等学校(東京都)卒業
平成16年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 麻酔一般
研究分野
1) テブレノンの生体に及ぼす影響について
趣味：スキー、美術鑑賞



麻酔・疼痛緩和科副部長(助教)
細野 敦之

福島県立福島高等学校卒業
平成16年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 麻酔
研究分野
1) 麻酔薬の耐性形成におけるカンナビノイド受容体の影響
趣味：ドライブ、漫画



助教(兼務)
井石 雄三

福島県立福島高等学校卒業
平成19年 山形大学卒業
臨床専門分野
1) 麻酔
研究分野
1) DCEBIOの筋肥大効果
趣味：筋トレ、料理

専門研修プログラム

	修得すべき手技や手術経験目標数など
1年次 (卒後3年)	手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA 1～2の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導のもと、安全に周術期管理を行うことができる。
2年次	1年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪いASA 3の患者の周術期管理やASA 1～2の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行うことができる。また、心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術などを経験する。
3年次	心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術などを経験し、様々な特殊症例の周術期管理を指導医の指導のもと、安全に行うことができる。また、ペインクリニック、集中治療、緩和医療など関連領域の臨床に携わり、知識・技能を修得する。
4年次	3年目の経験をさらに発展させ、さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的に問題のない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い症例、緊急時などは適切に上級医をコールして、患者の安全を守ることができる。

大学院・留学について

【大学院】

現在4名の大学院生が在籍している。
主な研究テーマ

- ①全身麻酔薬の神経薬理作用の研究
脳内神経伝達物質放出や脊髄の痛覚伝導に及ぼす麻酔薬の影響をマイクロダイアリース法や免疫組織学的手法を用いて研究し、麻酔メカニズムの解明を目指している。
- ②脳虚血に対する脳保護や疾患モデルに対する脳虚血の影響についての研究
ラットに用いた全前脳虚血モデルや虚血脳虚血モデルを用いて研究し、脳虚血に対する様々な薬剤や食品などの保護効果を調べたり、ある疾患モデルに対し脳虚血がどのような影響をもたらすかを研究している。
- ③静脈麻酔薬・鎮痛薬の薬物動態・薬力学的研究
プロポフォール、デクスメトミジンおよびアセトアミノフェンの、投与方法や患者特性による薬物動態および薬力学への影響について研究し、より安全・有効な麻酔薬の投与方法の確立を目指している。

【留 学】

アメリカ：ユタ大学 薬力学・薬物動態解析研究
オーストラリア：モナシュ大学 集中治療についての研究
その他、小児麻酔や心臓麻酔、ペインクリニックなどの研鑽のため国内留学も行っている。

専門医受験資格のために必要とされる技能・手技目標

1) 麻酔科標榜医

以下の基準で認められる。

- 基準1 医師免許を得た後、麻酔に関する適当な指導者のいる病院で当該指導者の下に2年以上専ら麻酔の業務に関する修練を経たもの。
- 基準2 医師免許を得た後、2年以上の麻酔の業務に従事し、かつガス麻酔器を使用して300例以上の麻酔の経験を有するもの。
- 基準3 上の2つに該当しないもので、上の2つに掲げるものと同等以上の麻酔に関する労力及び技能を有するもの。

当院での研修では、基準1により申請することで取得できる。

2) 麻酔科認定医

申請時に日本麻酔科学会正会員であり、麻酔科標榜医あるいは麻酔科標榜医の申請中であれば、申請により取得できる。

3) 麻酔科専門医

4年間の麻酔科専門研修プログラムを終了後、認定審査を受けることができ、これに合格すれば、日本専門医機構が認定する麻酔科専門医を取得できる。

連携施設

	関連病院名	所在地	指導医名	職 名
1	福島県立医科大学会津医療センター	会津若松市	村山 隆紀	教 授
2	公立藤田総合病院	国 見 町	丸 浩明	部 長
3	福島赤十字病院	福 島 市	出羽 明子	部 長
4	大原総合病院	福 島 市	根本 千秋	部 長
5	総合南東北病院	郡 山 市	服部 尚士	部 長
6	星総合病院	郡 山 市	武藤ひろみ	部 長
7	寿泉堂総合病院	郡 山 市	今泉 剛	部 長
8	公立岩瀬病院	須賀川市	村川 雅洋	総 院 長
9	会津中央病院	会津若松市	渡部 和弘	部 長
10	竹田総合病院	会津若松市	荻野 英樹	科 長
11	白河厚生総合病院	白 河 市	岡崎美智弥	部 長
12	いわき市医療センター	いわき市	赤津 賢彦	主 任
13	米沢市立病院	山 形 県	松本 幸夫	副 院 長

指導医からのメッセージ

当科は麻酔（手術患者の周術期管理）、集中治療、ペインクリニック、緩和医療の4つを柱に診療を行っています。現在は、スタッフ23名がそれぞれの専門性を生かした指導体制をとっています。平成18年度以降に新臨床研修制度を修了して当科に進んだ後期研修医は平成31年度までに42名で、令和3年度は3名、4年度は9名、5年度は6名を迎えました。関連病院は県内に12施設、山形県に1施設あり、いずれも地域の中核医療機関としてアクティブな病院です。その他に、小児麻酔や心臓麻酔、ペインクリニックなどの研鑽のため、県外の専門病院へ国内留学も行っています。ぜひ、われわれの仲間となり、麻酔科専門医、集中治療専門医、ペインクリニック専門医、緩和医療専門医を目指しませんか。「麻酔科医」ほど現代のニーズにマッチした医師はありません。



診療科(講座)紹介

- 1) 病理部門は、生検・細胞診・剖検による病理学的診断に基づき、疾患の確定診断、病因・本態の究明、治療効果の判定、診療の妥当性の検討等を行う医療の基幹的な専門科目であり、質の高い医療を提供するためには、欠くことのできない診療部門です。
- 2) 指導医にくわえ、病理病態診断学講座の病理専門医、細胞診専門医がそれぞれ得意とする専門分野の指導に当たります。

指導医(スタッフ)紹介



部長(教授)
橋本 優子

福島県立福島女子高校卒業
平成4年 福島県立医科大学卒業
平成8年 福島県立医科大学大学院卒業
臨床専門分野
1) 外科病理診断学
2) 血液病理
3) 細胞診断学
研究分野
1) 悪性リンパ腫の病理

学会活動

- 1) 日本病理学会 評議員
- 2) 日本リンパ網内系学会 評議員
- 3) 日本血液学会
- 4) 日本癌学会
- 5) 日本臨床細胞学会
- 6) 日本乳癌学会
- 7) 日本婦人科病理学会
- 8) 日本甲状腺病理学会
- 9) 国際病理アカデミー日本支部
- 10) 日本小児病理研究会会員



学内講師 喜古雄一郎

福島県立福島高校卒業
平成17年 福島県立医科大学卒業
平成23年 福島県立医科大学大学院卒業
臨床専門分野
1) 外科病理診断学
2) 乳腺病理
研究分野
1) リンパ節の病理
2) 乳癌の発生機序



助手 岡 佑香

茨城県立水戸第一高等学校卒業
平成23年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 外科病理診断学
研究分野
1) 悪性リンパ腫の病理



助教 鈴木エリ奈

福島県立福島女子高校卒業
平成21年 北里大学卒業
臨床専門分野
1) 外科病理診断学
研究分野
1) 卵巣癌の病理



助手 山田 匠希

福島県立安積高等学校卒業
平成26年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 外科病理診断学
研究分野
1) B細胞性リンパ腫の病理



助教 川名 聡

福島県立安積高等学校卒業
平成21年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 外科病理診断学
2) 血液病理学
3) 小児腫瘍病理学
研究分野
1) 血液病理学
2) 小児腫瘍病理学



助手 小林 靖幸

福島県立葵高等学校卒業
平成27年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 外科病理診断学
研究分野
1) 実験病理学

専門研修プログラム

【病理診断科】

	修得すべき手技や手術経験目標数など
1～2年次 (卒後3・4年)	基本的な知識の習得 病理診断業務の実践(剖検、生検・外科切除検体の病理診断、迅速診断、細胞診、特殊技能：特殊染色、電子顕微鏡、免疫組織化学、分子病理) 院内Clinico-Pathological Conference：CPCへ参加 学会への参加 死体解剖資格取得
3年次 (卒後5年)	病理診断業務の実践 院内CPCの企画・運営 学会・研究会における症例報告、学術誌への論文発表 病理専門医・細胞診専門医取得 病理解剖30例、生検診断5,000例(うち50例の迅速診断を含む)以上の経験 人体病理に関する学会報告・論文が3編以上 **日本病理学会 病理専門医研修要綱を参照

大学院・留学について

病理病態診断学講座と連携し、大学院進学・国内外留学を積極的に勧めています。病理診断科スタッフには米・独への留学経験者がおります。

文科省基礎研究医活性化事業に採択された東大、順大、福島医大学院生交流プログラム「つなぐ」が終了後も継続実施されています。今後も東大・順大と交流が行われます。

専門医受験資格のために必要とされる技能・手技目標

●死体解剖資格

(死体解剖保存法第2条第1項第1号による認定)

医師免許取得後、申請時直近5年以内に、2年以上、20体以上の解剖業務経験を有する者。

●病理専門医

1. 日本国の医師免許。
2. 死体解剖保存法による死体解剖資格。
3. 出願時3年以上継続して日本病理学会会員であること。
4. 卒後臨床研修を修了後、日本病理学会の認定する研修施設において3年以上の人体病理学を実践し経験をもち、その期間中に次の各項の研修を終了していること。また、その期間中に病理診断に関わる研修を修了していること。
 - a. 病理解剖を行い、病理解剖学的診断を附したものの24例以上の経験。
 - b. 病理組織学的診断を附した生検(外科切除標本を含む)5,000例(50例の迅速診断を含む)以上を経験。
5. 人体病理学に関する原著論文または学会報告が3編以上。

●細胞診専門医

1. 医師・歯科医師資格取得後5年以上の者。
2. 日本臨床細胞学会会員歴3年以上の者。
3. 細胞診断学ならびに細胞病理学に関する論文3編以上をもち、そのうち1編は筆頭者であること。発表論文の中で少なくとも1編は論文査読制のとられているものを対象とする。
4. 日本臨床細胞学会活動の顕著な実績、および教育委員会の主催するセミナー参加は細胞診専門医委員会の審議を経て論文1編に該当するものとみなされる。

*但し、日本病理学会認定病理医が細胞診専門医試験を受験する際には、(1)論文3編の提出は不要、(2)会員歴は2年以上

連携施設

	関連病院名	所在地	指導医名	職名
1	竹田総合病院	会津若松市	山口 佳子	病理診断科長
2	福島県立医科大学会津医療センター	会津若松市	鈴木 理	臨床検査部長
3	白河厚生総合病院	白河市	野沢 佳弘	病理センター長
4	太田西ノ内病院	郡山市	小田島 肇	病理部長
5	福島赤十字病院	福島市	田崎 和洋	検査部長
6	大原総合病院	福島市	内海 康文	主任部長
7	坪井病院	郡山市	五十嵐誠治	病理診断科部長
8	いわき市医療センター	いわき市	浅野 重之	病理診断センター長
9	南東北病院	郡山市	佐久間秀夫	病理診断科長

指導医からのメッセージ

病理診断科は、生検・細胞診・剖検による病理学的診断に基づき、病気の確定診断、病因・本態の究明、治療効果の判定、診療の妥当性の検討等を行なう医療の基幹的な専門科目であり、質の高い医療を提供するためには欠くことのできない診療部門です。

病理診断科研修プログラムでは、一般病理診断業務に必要な、各領域にわたる幅広い知識、様々な技術の習得をふまえ、その結果としての病理専門医および細胞診専門医資格の取得を目指します。病理診断科スタッフを含め、病理病態診断学講座の病理専門医8名、細胞診専門医8名で指導に当たります(うち指導医5名)。

1年間の院内生検：約8,000件、術中迅速診断：約800件、臨床との合同切り出し：随時、細胞診：約8,000件、病理解剖：約30件と研修に十分な検体数です。近年3名が専門医を取得しています。県内外の病理医との交流も盛んで、診断困難例や希少症例を互いにコンサルテーションし、病理診断の向上に努めています。また、WSIを用いたコンサルテーションシステムも県内に付設され遠隔病理診断を実施しています。



診療科(講座)紹介

- 1) 県民に対する救急医療サービスの充実および向上を目的に、福島県立医科大学附属病院・高次救急センターの運営・整備強化を担う診療科として新設され、平成5年10月1日から診療を開始し、平成20年1月、救命救急センターを開設。同時にドクターヘリの運行を開始。平成24年からは高度救命救急センターとなる。
- 2) スタッフは部長、副部長の他、20名のスタッフで構成。
- 3) 取り組み課題として
 - ①救命救急センターの診療の質の向上
 - ②救急搬送システムの確立
 - ③天災・人災に対する災害医療の整備
 - ④効率的なドクターヘリ運用
 - ⑤医療従事者における救急医療の標準化

指導医(スタッフ)紹介



部長(教授)
伊関 憲

私立城北高等学校(東京都)卒業
平成6年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 救急医学
2) 集中治療学
3) 臨床中毒学
研究分野
1) 分子生物学
2) 蘇生学

学会活動

- | | |
|--------------|------------------|
| 1) 日本救急医学会 | 9) 日本呼吸療法医学会 |
| 2) 日本臨床救急医学会 | 10) 日本ペインクリニック学会 |
| 3) 日本集中治療学会 | |
| 4) 日本外傷学会 | |
| 5) 日本麻酔科学会 | |
| 6) 日本中毒学会 | |
| 7) 日本航空医療学会 | |
| 8) 日本集団災害医学会 | |



教授(放射線災害医療学講座)(兼務)
長谷川有史

新潟県立新潟高等学校卒業
平成5年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 救急医学
2) 外科学
3) 放射線災害医療
研究分野
1) 大腸がんの発癌関与する遺伝子群
2) ヒト脳のプロテオミクス解析
3) 医学教育



助手 鈴木 剛

福島県立安積高等学校卒業
平成20年 秋田大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 救急医学
2) 外科学
研究分野
1) 集中治療領域の栄養管理
2) 外傷と凝固障害



教授(地域救急医療支援講座)(兼務)
小野寺 誠

岩手県盛岡第一高等学校卒業
平成5年 岩手医科大学卒業
臨床専門分野
1) 救急医学
2) 臨床中毒学
研究分野
1) 中毒学(自然毒、農薬毒)
2) 緊急内視鏡治療



助手 三澤 友誉

私立東海高等学校(愛知県)卒業
平成27年 山形大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 救急医学
2) 外傷外科学
研究分野
1) 外傷
2) 疫学



副部長(学内講師)
塚田 泰彦

栃木県立栃木高等学校卒業
平成8年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 救急医学
2) 集中治療学
3) 麻酔科学
研究分野
1) 災害医療



助手 大山亜紗美

宮城県立仙台第二高等学校卒業
平成28年 山形大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 救急医学
2) IVR
3) 外傷
研究分野
1) 救急医学一般



助教 岩淵 雅洋

岩手県立水沢高等学校卒業
平成13年 山形大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 集中治療医学
2) 麻酔科学
研究分野
1) 集中治療医学
2) 麻酔科学全般



助手 全田 吏栄

山形県立米沢興譲館高等学校卒業
平成28年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 救急医学
研究分野
1) 救急医学一般

専門研修プログラム

	修得すべき手技や手術経験目標数など
1年次 (卒後3年)	①救急疾患に関する初期治療の知識 ②急性期病態の把握 ③救急疾患の初期治療の実際 ④心血管緊急処置 (BLS/ICLS/ACLS) ⑤心エコー・腹部エコーの検査手技 ⑥外傷の初療治療 (JPTEC/JATEC)
2年次	①急性期疾患の鑑別診断の知識 ②救急疾患の診断と治療の実際 ③人工呼吸器による呼吸管理、腎不全時の血液浄化法の実際 ④外傷初期初療 (JATEC) に沿った治療ができる ⑤心血管緊急処置 (ACLS) に沿った治療ができる
3年次	サブスペシャリストとしての他科研修
4年次	①救急専門医としての総合的な知識の習得 ②メディカルコントロールの方法の習得 ③サブスペシャリストとしての知識・技術の実践 ④若手医師への指導 ⑤ACLS、JATECのインストラクターの資格取得

大学院・留学について

適宜検討

専門医受験資格のために必要とされる技能・手技目標

日本救急医学会で定める受験資格条件は次のとおり

1. 日本国の医師免許を有すること。
2. 申請時において、継続して3年以上本学会の会員であること。
3. 5年以上の臨床経験を有すること。
4. 専門医指定施設、またはこれに準じる救急医療施設において、救急部門の専従医として3年以上の臨床修練を行った者であること。または、それと同等の学識、技術を習得した者であること。

連携施設

施設名	救命救急センター	都道府県	区分
公立大学法人 福島県立医科大学附属病院	○	福島県	基幹
一般財団法人 太田綜合病院附属太田西ノ内病院	○	福島県	連携
一般財団法人温知会 会津中央病院	○	福島県	連携
いわき市医療センター	○	福島県	連携
東京医科大学病院	○	東京都	連携
那須赤十字病院	○	栃木県	連携
一般財団法人 脳神経疾患研究所附属総合南東北病院		福島県	連携
福島赤十字病院		福島県	連携
福島県厚生農業協同組合連合会白河厚生総合病院		福島県	連携
公立大学法人 福島県立医科大学会津医療センター附属病院		福島県	関連
医療法人 辰星会栞記念病院		福島県	関連
一般財団法人 大原記念財団大原綜合病院		福島県	関連

指導医からのメッセージ

- ①救命救急センターを受診する年間約16,500人の患者さんに対応し、多岐にわたる急性期疾患について学べる。
- ②救急隊の記載した検証票の評価や症例検討会の企画運営することにより、病院前救護体制について理解できる。
- ③BLS、ICLS、ACLS、JPTEC、JATECなどの指導者としての資格を習得し、実際の指導を通して知識や技術を確かなものにできる。
- ④災害・放射線災害にも対応できる能力を身につけ、DMAT隊員として活動できる。
- ⑤日本救急医学会の救急科専門医の認定に必要な項目を研修でき、3～4年終了時には専門医を取得する。
- ⑥サブスペシャリティを考慮した、他科の重点的な研修をする。1年半ないし2年間は積極的に他科研修 (内科、外科など) を推奨する。



DMAT (災害) 等



救急科 集合写真

診療科(講座)紹介

- 1) リハビリテーション科が担当する疾患は、脳卒中、脊髄損傷、神経筋疾患、骨関節疾患、切断、内部障害（呼吸器、循環器疾患）など多岐にわたります。対象も発達途上の幼児から、高齢者まですべての年代に渡ります。同一疾患でも急性期、回復期、生活期の時期によってアプローチの仕方が異なります。患者さんの希望や社会環境によってもリハビリテーションのゴールは異なります。
- 2) このように広い範囲の医療を担い、また病気や外傷の治療だけでなく障害をとらえ、機能の回復、活動性の向上、社会参加に向けての医療をすべて合わせて行うのがリハビリテーション科専門医です。

指導医(スタッフ)紹介



部長(准教授)
大内 一夫

福島県立福島高等学校卒業
平成3年 福島県立医科大学卒業
平成17年 医学博士取得
臨床専門分野
1) 足の外科、靴医学、リハビリテーション
医学研究分野
1) 足の解剖
2) 骨のコラーゲンファイバーの配向性
3) 靴による足の障害
主な研修病院：奈良県立医科大学



准教授 横塚美恵子
(保健科学部 兼務)

栃木県立佐野女子高等学校卒業
平成5年 信州大学医療技術短期大学部卒業
理学療法士
平成14年 博士(障害科学) 東北大学
臨床専門分野
1) 理学療法
研究分野
1) 地域理学療法
2) 物理療法



教授 神先 秀人
(保健科学部 兼務)

洛星高等学校(京都府)卒業
昭和56年 東京都立府中リハビリテーション専門学校卒業
昭和63年 立命館大学人文学科卒業
平成21年 神戸大学大学院後期課程修了
臨床専門分野
1) 骨関節障害(下肢)
2) 高齢者の介護予防
研究分野
1) 歩行分析等を中心とした動作の運動学・運動力学的分析
趣味：美味しい料理を食べ美味しい酒を飲む(お金と時間の許す範囲で…)



准教授 澄川 幸志
(保健科学部 兼務)

島根県立益田高等学校卒業
平成17年 弘前大学卒業
平成19年 弘前大学大学院医学系研究科保健学専攻(修士課程)修了
平成24年 弘前大学医学研究科医学専攻(博士課程)修了
臨床専門分野
1) 身体障害
2) 高齢期障害
研究分野
1) 作業活動の心理的效果に関する研究
2) 作業療法の養成教育に関する研究
趣味：DIY、旅



教授 五百川和明
(保健科学部 兼務)

新潟県立巻高等学校卒業
平成3年 国立療養所犀潟病院附属リハビリテーション学院卒業 作業療法士
平成28年 東北大学大学院医学系研究科修了 博士(障害科学)
臨床専門分野
1) 作業療法
研究分野
1) 作業時の心血管反応
2) 脳卒中患者の機能予後



准教授 藤田 貴昭
(保健科学部 兼務)

新潟県立三条高等学校卒業
平成18年 山形県立保健医療大学卒業
平成29年 群馬大学大学院修了
臨床専門分野
1) 身体障害作業療法
研究分野
1) 脳卒中リハビリテーション
趣味：釣り、麻雀



教授 高橋 仁美
(保健科学部 兼務)

秋田県立角館高等学校卒業
昭和58年 社会医学技術学院理学療法学科卒業
平成23年 秋田大学大学院医学系研究科修了 博士(医学)
臨床専門分野
1) 呼吸理学療法を中心とした内部障害理学療法
2) 運動器理学療法
研究分野
1) 呼吸リハビリテーション
2) COPD患者の身体活動性
趣味：居酒屋探索、横笛演奏(飾山囃子)



講師 川又 寛徳
(保健科学部 兼務)

福島県立磐城高等学校卒業
平成15年 東京都立保健科学大学卒業
作業療法士
平成27年 博士(作業療法士) 首都大学東京
臨床専門分野
1) 作業療法
研究分野
1) 作業行動学
2) 高齢者へのヘルスプロモーション



教授 柴 喜崇
(保健科学部 兼務)

長野県松本丘高等学校卒業
昭和63年 国立療養所東京病院付属リハビリテーション学院理学療法学科卒業
平成19年 桜美林大学大学院国際学研究所博士後期過程老年学専攻卒業
臨床専門分野
1) 理学療法
2) リハビリテーション医学
研究分野
1) 老年学/死生学
2) 予防
3) アクシオンリサーチ
趣味：随時更新



学内講師 佐藤 崇匡
(循環器内科学講座 兼務)

宮城県立仙台第一高等学校卒業
平成14年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 循環器内科
2) 心臓リハビリテーション
研究分野
1) 心不全
2) 運動生理学



教授 森下慎一郎
(保健科学部 兼務)

清風高校(大阪府)卒業
平成9年 神戸総合医療専門学校卒業 理学療法士
平成16年 佛教大学社会学部社会福祉学科卒業
平成24年 兵庫医科大学大学院医学系研究科修了 医学博士
臨床専門分野
1) 内部障害全般
研究分野
1) がんのリハビリテーション
2) 運動生理学
趣味：読書、散歩



副部長(助手)
佐藤 真理

栃木県立宇都宮女子高等学校卒業
平成22年 群馬大学医学部医学科卒業
臨床専門分野
1) リハビリテーション全般
趣味：ランニング

専門研修プログラム

	修得すべき手技や手術経験目標数など
1年次	基本的診療能力およびリハビリテーション科基本的知識と技能の習得を目標とします。リハビリテーション診療に必要な神経学的、運動学的診察手技を習得すること、患者のADL能力を正しく診断できること、患者立脚型評価尺度を正しく使えること、リハビリテーション処方ができることが目標です。
2年次	基本的診療能力の向上に加えて、診療スタッフへの指導にも参画します。特に回復期リハビリテーション病棟での勤務を中心におこなっていただきます。回復期はリハビリテーション科診療の中でもっともダイナミックな所です。ここで障害をもつ患者さんと数多く接し、リハビリテーション科基本的知識・技能を幅広い経験として増やすことを目標としてください。特に1年目の福島県立医科大学病院で経験できなかった技能や疾患群については積極的に治療に参加し経験を積んでください。指導医は日々の臨床を通して専攻医の知識・技能の習得を指導します。専攻医は学会・研究会への参加は、ただ聴講するだけでなく質問などの発言や発表できるように心がけ、関連分野においては自らも専門知識・技能の習得を図ってください。
3年次	カンファレンスなどでの意見の集約・治療方針の決定、予後予測など、チーム医療においてリーダーシップを発揮し患者さんから信頼される医療を実践できる姿勢・態度を習得してください。運動負荷試験、筋電図検査、嚥下機能検査、義肢装具の処方とチェックアウトができることも目標とします。四肢の痙縮に対するボトックス治療や経頭蓋磁気刺激法にも参加してもらいます。3年目の研修病院では整形外科手術や脳神経外科手術にも積極的に参加できるように配慮します。手術後のリハビリテーションを担当する上で、数多くの手術を実際に経験することは、医師のスキルとして必ず役に立つものと考えています。また障害者のQOLを考えてもらう上で、障害者スポーツ大会に積極的にボランティアとして参加する時間も作ります。またリハビリテーション分野の中で8領域(1.脳血管障害・外傷性脳損傷など、2.脊髄損傷・脊髄疾患、3.骨関節疾患・骨折、4.小児疾患、5.神経筋疾患、6.切断、7.内部障害、8.その他[廃用症候群、がん、疼痛性疾患など])の全ての疾患を経験できているかを意識して、実践的知識・技能の習得に当たってください。指導医は日々の臨床を通して専攻医の知識・技能の習得を指導します。専攻医は学会での発表、研究会への参加、DVDなどを通して自らも専門知識・技能の習得を図ってください。

大学院・留学について

大学院に進んで臨床研究や基礎研究が可能です。(現在、博士7名が所属しています)
国内研修や海外留学も積極的に斡旋します。

専門医受験資格のために必要とされる技能・手技目標

日本リハビリテーション医学会専門医として認定を受けられる者は、次に掲げる資格を有し、本医学会の行う試験に合格したものに限る。

- (1) 医師免許取得後5年以上及び日本リハビリテーション医学会加入後3年以上を経過していること
- (2) 日本リハビリテーション医学会の定めた専門医制度卒業研修カリキュラムに基づき認定研修施設において3年以上の研修を行ったものであること
- (3) 日本リハビリテーション医学会における主演者の学会抄録2篇を有すること
- (4) 前号(3)の2篇のうち1篇は、本医学会地方会における会誌掲載の学会抄録または地方会発行の発表証明書をもってこれに代えることができる。
- (5) 自らリハビリテーション医療を担当した30症例の症例報告を提出すること
- (6) 自らリハビリテーション医療を担当した100症例のリストを提出すること

連携施設

	関連病院名	所在地	指導医名	職名
1	医療生協わたり病院	福島市	渡辺亜貴子	部長
2	北福島医療センター	福島市	大槻 剛智	部長
3	福島県立医科大学附属医療センター附属病院	会津若松市	白土 修	部長
4	福島県総合療育センター	郡山市	松尾 洋平	部長
5	あづま脳神経外科病院	福島市	泉 一郎	院長
6	医療法人生愛会	福島市	本間 達也	理事長

指導医からのメッセージ

私たちは2016年4月から開講されました新しい講座です。リハビリテーションはかなり新しい分野の医学です。第2次世界大戦が終わった頃からアメリカで発達してきました。病気が治らない場合に、その病気による障害を少しでも軽くしたり他の方法で代償したりして、患者さんの活動をなるべく保つことが目的です。中国語では復権、韓国語では再活といいますが、日本語では英語をそのままカタカナにしてリハビリテーションと呼ぶようになりました。

リハビリテーションの重要性は皆さんもすでにおわかりと思います。風邪で2日ほど寝込んだだけで、歩いたときに足元がおぼつかなくなる経験はどなたでもあると思います。寝ているときから運動を始め、足腰の筋力を保つ必要があります。特に高齢者は要注意です。何かの病気になったのがきっかけで全身の体力が低下し、元々の病気が良くなってもお家に戻れない状態になる場合が数多くあります。そうなってしまうことをリハビリテーションのスタッフがチーム一丸となって防ぎます。また障害が残りやすい脳卒中や脊髄の病気などに対しては、歩けないとかトイレに行けないとか箸が持てないとかの障害がなるべく少なくなるように関わります。そしてもし障害が残ったとしても、一人の尊厳ある人間として、もともと自分が過ごしていた場所でイキイキと生活できるように、人的資源を活用し様々な生活用具や優れた福祉環境を整えることも私たちの仕事です。その時患者さんのご家族も一緒に幸せにする事にも心がけています。障害者・高齢者の方々が世界でもっとも住みやすい場所として、福島県を作り上げることが私たちの目標です。

リハビリテーション医学としては、正常(スポーツ活動を含む)や異常における身体活動の動作分析をしたり、リハビリテーションの最強のツールである運動を用いて、さまざまな病気・疾患を治したり予防する研究も私たちの仕事です。

診療科(講座)紹介

- 1) 臨床検査医学講座は、臨床検査を切り口としたほぼすべての領域にわたる臨床研究、甲状腺内分泌疾患の基礎・疫学・臨床研究等を行っています。
- 2) また、超音波診断技術を生かして、震災後に福島県にて行われている甲状腺調査の実施および運営にも参加しています。
- 3) 臨床研修で連携している検査部は、「中央採血部門」および臨床検査のうち「検体検査」「生理機能検査」「微生物検査」の実施運営に携わっており、病院運営に不可欠の部門です。
- 4) 研修における指導・教育は、医師および臨床検査技師が当たり、卓越した検査技術および豊富な知識を持った臨床医育成を目指しています。

指導医(スタッフ)紹介



主任教授
志村 浩己

山梨県立巨摩高等学校卒業
昭和61年 山梨医科大学卒業
臨床専門分野
1) 内分泌代謝疾患
2) 臨床検査医学
3) 超音波医学
研究分野
1) 甲状腺超音波診断に関する研究
2) 甲状腺疾患に関する疫学研究
3) 甲状腺疾患関連新規検査の開発
4) 臨床検査に関する臨床研究
趣味：音楽



助教
斎藤 恭一

福島県立磐城高等学校卒業
平成19年 東北大学医学部医学科卒業
臨床専門分野
1) 臨床微生物学
2) 臨床検査医学
3) 感染症学
研究分野
1) 薬剤耐性菌に関する研究
2) 感染症診断に関する研究
3) 病原微生物の検出・同定に関する研究
趣味：パソコン、ドライブ

- 3) 甲状腺疾患の新規検査の開発
- 4) 臨床検査に関する臨床研究
- 5) 薬剤耐性菌に関する研究
- 6) 感染症診断に関する研究
- 7) 病原微生物の検出・同定に関する研究

専門医受検のために必要とされる技能・手技目標

取得できる専門医は以下の通りです。

1. 臨床検査専門医
 2. 超音波専門医
- 臨床検査専門医受験資格のために必要とされる主な技能・手技目標は以下の通りです。
- 1) 5年以上の研修を終了していること(2年間の初期研修期間を含む)
 - 2) 学会が認定する認定研修施設において臨床検査全領域の研修を3年以上終えている事。
 - 3) 筆頭者として臨床検査医学に関する原著論文1編以上、学会報告を合わせ3編以上あること。等
- その他、下記の専門医の取得も可能です。
3. 日本甲状腺学会専門医

専門研修プログラム

	修得すべき手技や手術経験目標数など
1年次	各検査領域のローテーションによる臨床検査に関する基本的知識と判定能力の修得
2年次	将来専門とすることを希望する検査分野を重点的に研修 臨床検査に関するコンサルテーション業務を通じ、臨床検査専門医としての基本を習得する。
3年次	将来のサブスペシャリティ領域専門医取得へ向けた専門的知識、技術の習得 例1) 超音波専門医取得に向けた超音波検査の知識、技能の習得 例2) 他の専門医取得に向けた他臨床科との連携による研修 例3) 内分泌代謝科専門医あるいは甲状腺専門医取得に向けた甲状腺専門外来での研修あるいは県民健康調査「甲状腺検査」への参加

大学院・留学について

主な研究テーマ

- 1) 甲状腺超音波診断に関する研究
- 2) 小児・若年者の甲状腺疾患に関する疫学研究

指導医からのメッセージ

医療は、医療面接、診察、臨床検査の3本の柱により得られた患者さんの情報に基づき行われます。このうち、臨床検査は、現代の医療において広く行われている「証拠に基づいた医療=EBM」の「証拠」を臨床検査により明らかにする非常に重要な位置を占めています。さらに臨床検査医学講座は、超音波診断技術を生かして、震災後に福島県にて行われている甲状腺調査の実施および運営にも深く関与しております。臨床検査医学講座では、臨床検査に関する専門医(臨床検査医学専門医)を養成する研修プログラムを用意するとともに、志望される各分野の専門医に必要な診断技術を習得して頂くための短期間の研修にも柔軟に対応することが可能です。また、甲状腺内分泌疾患の専門医を志す方や甲状腺検査に参加を希望される方も歓迎いたします。

- 1) 臨床：院内の感染制御を担い、また各科の感染症診療をサポートを行う
- 2) 研究：感染症の急性期における生体免疫応答に関する研究
滅菌に関する研究
- 3) 研修：初期研修および感染症専門医を目指す後期研修

指導医(スタッフ)紹介



部長(教授)
金光 敬二

帝京高等学校(東京都)卒業
昭和63年 岩手医科大学卒業
臨床専門分野
1) 感染症学、感染制御学
研究分野
1) 感染症治療学、感染制御学



副部長(准教授)
仲村 究

長崎海星高等学校卒業
平成13年 琉球大学医学部医学科卒業
臨床専門分野
1) 感染症学、感染制御学
研究分野
1) 感染制御学、感染免疫学



助手 原 靖果

安積女子高等学校(福島県)卒業
平成19年 獨協医科大学卒業
臨床専門分野
1) 呼吸器学
2) 感染症学
研究分野
1) 感染制御学

専門研修プログラム

卒後臨床研修後(2年)感染症・感染制御専門医の取得を目的とするコースである。

1年次(卒後3年)には感染症治療は勿論のこと、感染症の病因、病態生理、微生物の概要などを学びながら内科認定医の受験資格を取得できる。2年次から4年次(卒後4年~6年)には更なる感染症専門医療の研修を行い、感染症各論、感染症コンサルテーション、感染制御学などを学び、4年終了時には日本感染症学会専門医の受験資格を取得できる。後期研修4年間のうち希望により、海外研修でマラリア、デング熱、狂犬病などのトロピカルメディスンの研修も可能である。さらに、1~2年次に大学院に入学し専門医研修と同時に4年間の基礎的もしくは臨床的研究により学位取得も可能である。

大学院・留学について

分子病態医科学、分子機能学領域の感染制御学として大学院の授業を行う。

①感染症診断学、②感染症治療学、③感染制御学について学ぶ。

留学については感染症に関して上記海外研修も可能である。

専門医受験資格のために必要とされる技能・手技目標

日本感染症学会専門医研修カリキュラムは次の通り(各項目詳細については省略)

1. 総論
 - 1.1 微生物の概要
 - 1.2 感染症の病因、病態生理
 - 1.3 感染症診断
 - 1.4 抗菌化学療法
 - 1.5 化学療法以外の感染症治療・予防
 - 1.6 感染症関連法規
 - 1.7 院内感染
2. 各論
 - 2.1 臓器別にみた病態、診断、および治療
 - 2.2 各病原体別にみた病態、診断、治療

インフェクションコントロールドクターの要件は次の通り

- 1) 感染対策委員またはそれに準ずる活動の証明があること
- 2) 院内感染対策講習会への参加実績



ミーティング

指導医からのメッセージ

感染症専門医、感染制御専門医ともにまだまだ数が少なく、特に感染症、感染制御については社会のニーズも大きく、今後、ますます発展する分野です。それぞれ内科、外科等の枠を超えて、各科横断的に幅広く活動することが求められますので、それだけやりがいも大きいと言えます。

診療科(講座)紹介

- 1) 輸血の安全性を確保し、適切な輸血が実施できるように支援します。
- 2) HLAをはじめ、遺伝子検査や抗HLA抗体の検査を通じて様々な移植が成功するように支援します。
- 3) 造血幹細胞や免疫細胞の採取・保存・調整などを行い、造血幹細胞移植・細胞治療を支えます。
- 4) 自己血の採血を行い、同種血を使わないで手術や分娩がうまくおこなえるようにします。

指導医(スタッフ)紹介



部長(主任教授)
池田 和彦

福島県立安積高等学校卒業
平成8年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 輸血・移植免疫学
2) 造血幹細胞生物学
研究分野
1) 造血幹細胞
趣味: スキー



准教授 三村 耕作

桐朋高等学校(東京都)卒業
平成8年 富山大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 消化管外科
2) がん免疫療法
研究分野
1) 腫瘍免疫学
趣味: 水泳、スキー



講師 植田 航希

東京学芸大学附属高等学校(東京都)卒業
平成17年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 血液内科学
2) 輸血・移植免疫学
研究分野
1) 腫瘍幹細胞
趣味: サッカー、スキー

研修医、臨床医入学時の研究分野

- ・造血幹細胞生物学
- ・移植免疫学
- ・輸血学
- ・細胞治療学
- ・再生医療学

専門研修プログラム

	修得すべき手技や手術経験目標数など
1年次 2年次	輸血一般、遺伝子学、循環生理学 自己血貯血、造血幹細胞採取・保存・輸注など 移植免疫、組織適合検査、輸血検査 ドナー診察、レシピエントや患者の診察、移植適応の決定 研究の開始
3年次 4年次	1-2年次の内容に加え、 遺伝子検査の応用(シーケンスや定量的PCRなどを含む) 免疫療法、高度な細胞治療 学会発表、論文報告

講座の主な研究対象

- ・造血幹細胞における遺伝子発現調節
- ・輸血による免疫反応
- ・血液製剤および細胞製剤の保存・管理・輸注方法の開発
- ・同種免疫、腫瘍免疫と組織適合性
- ・輸血・献血と行政

講座からのメッセージ

輸血、移植、細胞治療においては、患者さんやドナーさんの診療への関わりと、検査、基礎の知識が幅広く求められます。この点から、他科・他施設との連携も広く相談に応じます。

私たちの講座は輸血医療・輸血医学をリードしてきました。これから、さらに移植医療や細胞治療へと世界が広がっていきます。

大学院・留学について

大学院では、さまざまな分野の研究を行うことが出来ます。研究を中心とした研究も大歓迎です。大学院卒業後、希望があれば欧米などへの留学が可能です。

連携施設

関連病院名	所在地	指導医名	職名
1 福島県赤十字血液センター	福島市	神林 裕行	所長

他のスペシャリティに応じて相談できます。

指導医からのメッセージ

輸血・移植免疫部での研修は様々な分野の臨床に役立つものです。

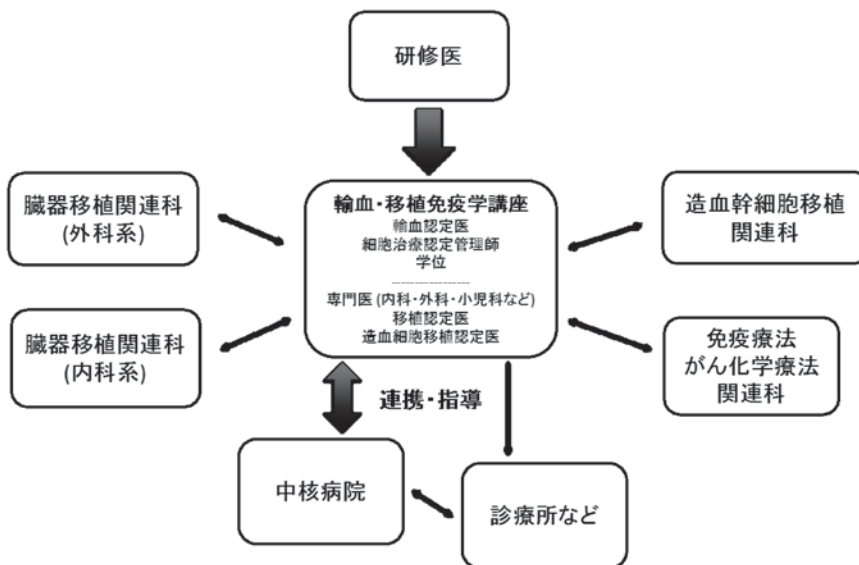
研究では日本の、世界の輸血学、移植免疫学に大いに役立ちましょう。

世界に誇れる拠点を目指しています。

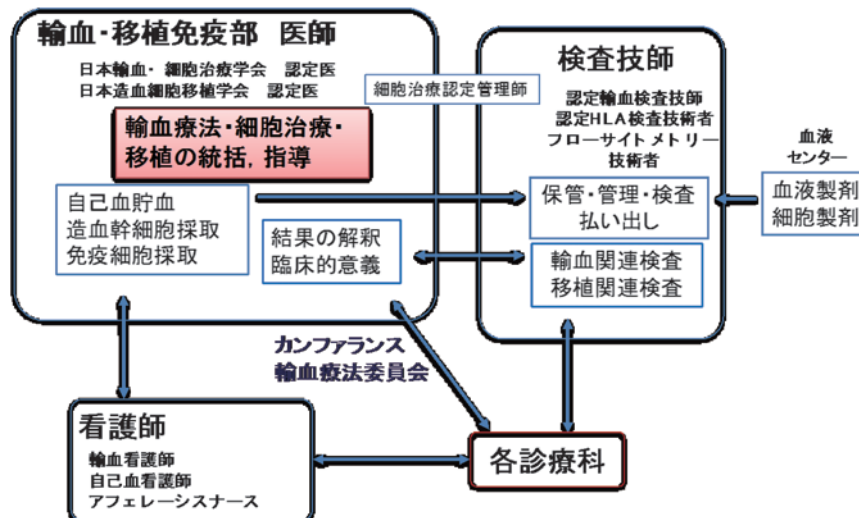


The Department of Blood Transfusion and Transplantation Immunology:
International- Interdisciplinary - Interesting

輸血・移植免疫学講座の役割



輸血・移植免疫部の院内での役割



診療科(講座)紹介

地域・家庭医療学講座では、福島県内に広がる地域基盤型の拠点で診療・教育・研究を行なっています。日本専門医機構認定の「総合診療専門医」の研修プログラム、および日本プライマリ・ケア連合学会の「新・家庭医療専門医」の研修プログラムにも対応しており、両者の専門医資格を取得することが可能です。全国に先駆けて福島県立医科大学が設立した「家庭医療学」を専門とする講座で、大学講座としての利点を活かしながら、地域を基盤とした総合診療医・家庭医（プライマリ・ヘルス・ケアの専門医）を育成するプログラムがあります。

1. 質の高い総合診療専門医を育成するため進化を続ける4年間の研修プログラム
2. 都市部からへき地・被災地まで～思いっきり学べる充実の研修とそれを支える安心の指導体制
3. 家庭医療を教えてこそ家庭医療の理解が深まる～専攻医から積極的に関わる医学生教育
4. ワークライフインテグレーション～研修とプライベート 両者の充実を目指す
5. 定期的な専攻医教育オンラインセッションと集合セミナーで多彩な学習機会を提供

指導医(スタッフ)紹介



講師 菅家 智史

福島県立会津高等学校卒業
平成16年 福島県立医科大学卒業
平成23年 家庭医療専門医取得
平成26年 福島県立医科大学大学院医学研究科修了

臨床専門分野

- 1) 家庭医療
- 2) へき地医療

研究分野

- 1) 家庭医療学
- 2) 臨床教育学

趣味：DIY、トレーディングカード



助教 中村 光輝

福島県立福島高等学校卒業
平成22年 福島県立医科大学医学部卒業
平成28年 家庭医療専門医取得
令和3年 福島県立医科大学大学院医学研究科修了

臨床専門分野

- 1) 家庭医療

研究分野

- 1) 家庭医療学
- 2) 臨床教育学

趣味：温泉



助手 遠藤 芽依

栃木県立宇都宮女子高等学校卒業
平成26年 福島県立医科大学医学部卒業
令和3年 家庭医療専門医取得

臨床専門分野

- 1) 家庭医療

研究分野

- 1) 家庭医療学
- 2) 地域医療学

趣味：温泉旅行



助手 豊田 喜弘

東京電機大学高等学校(東京都)卒業
平成24年 福島県立医科大学医学部卒業
平成29年 家庭医療専門医取得

臨床専門分野

- 1) 家庭医療

研究分野

- 1) 家庭医療学
- 2) 地域医療学

趣味：創意工夫

専門研修協力施設群

番号	専門研修協力施設	所在地	指導体制
1	保原中央クリニック	伊達市	地域・家庭医療学講座 指導医
2	喜多方市 地域・家庭医療センター	喜多方市	
3	ほし横塚クリニック	郡山市	
4	只見町国民健康保険朝日診療所	只見町	
5	かしま病院	いわき市	
6	大原綜合病院	福島市	
7	南相馬市立綜合病院	南相馬市	各科 指導医
8	福島県立医科大学附属病院	福島市	
9	会津医療センター附属病院	会津若松市	
10	白河厚生綜合病院	白河市	
11	公立相馬綜合病院	相馬市	
12	公立藤田綜合病院	国見町	
13	福島赤十字病院	福島市	
14	星綜合病院	郡山市	
15	太田西ノ内病院	郡山市	
16	寿泉堂綜合病院	郡山市	
17	竹田綜合病院	会津若松市	
18	医療生協わたり病院	福島市	

※令和4年3月現在

教育・研究について

総合診療・家庭医療分野の発展は、日本ではまだまだ始まったばかりです。地域・家庭医療学講座では、家庭医療学を医学生・研修医はもちろん、他科医師、他職種にも生かしてもらえるような教育活動に積極的に取り組んでいます。研究活動においても、「孤独」「多職種連携」「他分野との連携」「医学教育における総合診療・家庭医療分野の貢献」など、総合診療領域の臨床現場で直面するテーマについて継続的に取り組んでいます。

専門医受験資格のために必要とされる技能・手技目標

以下の項目について詳細なカリキュラムが用意されています。

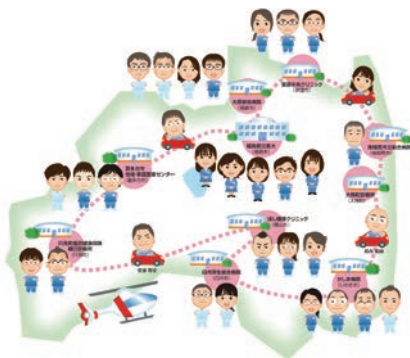
1. 「家庭医・総合診療専門医」を特徴づける能力
患者中心の医療の方法
家族志向のケア
包括的・継続的かつ効率的な医療
地域包括ケア
2. すべての医師が備えるべき能力
診療に関する一般的な能力
コミュニケーション
プロフェッショナリズム
組織・制度・運営に関する能力
3. 家庭医・総合診療専門医が持つ医学的な知識と技術
健康増進と疾病予防
幼小児・思春期のケア
高齢者のケア
終末期のケア
女性の健康問題
男性の健康問題
リハビリテーション
メンタルヘルス
救急医療
臓器別問題



専門研修プログラム

	研修内容		
1年次	総合診療 24ヶ月		
2年次	総合診療I(診療所) + 総合診療II(病院)		
3年次	内科 12ヶ月		
4年次	小児科 3ヶ月	救急科 3ヶ月	選択研修 6ヶ月

*ローテーションの順序は専攻医の希望を考慮して決められます



指導医からのメッセージ

総合診療専門医は、日本専門医機構が認定する19の基本領域専門医の1つです。すべての年齢にわたる地域住民の健康ニーズを守備範囲として、周囲の医療状況に合わせて自分の診療範囲を柔軟に変化させて対応し、患者・住民のwell-beingに寄与することを役割とする専門医です。これからの日本の医療において期待される役割は大きいものの、まだ専門医は少なく、これからの発展が大きく期待されている分野です。

福島県立医科大学では、全国に先駆けて2006年から家庭医療専門研修プログラムを開設し、すでに30人以上の家庭医療専門医を輩出しています。当院の総合診療専門研修プログラムはこの家庭医療専門研修プログラムを基盤として構築されており、日本でも有数の総合診療専門研修プログラムとして毎年多数の専攻医を受け入れています。総合診療・家庭医療を基盤として、在宅医療、緩和医療などより特化した領域に学びを進める医師も研修を受け入れています。

私達と一緒に、この新しく重要な分野を深めていきましょう。
(菅家智史)



診療科（講座）紹介

- 1) 臨床の標榜は、歯科口腔外科で、口腔の奇形、歯性炎症、腫瘍、外傷、顎関節疾患などを扱います。
- 2) 主な研究は、口腔腫瘍、インプラント、顎変形症、口蓋裂に関する臨床研究です。
- 3) 研修は必修研修（1年間）とアドバンスコース（1年間）があり、さらに口腔外科専門医コース（4年）か大学院生（4年）に分かれます。

指導医（スタッフ）紹介



部長（講師）
金子 哲治

新潟南高等学校卒業
平成16年 新潟大学歯学部卒業
日本口腔外科学会専門医・指導医
がん治療認定医（歯科口腔外科）

臨床専門分野

- 1) 口腔癌の治療
- 2) インプラント治療

研究分野

- 1) 口腔癌細胞の抑制研究
 - 2) 細胞門接着分子の研究
- 趣味：ゴルフ



副部長（助教）
菅野 千敬

平成19年 奥羽大学歯学部卒業
平成27年 福島県立医大大学院修了

臨床専門分野

- 1) 口腔癌、薬剤性顎骨壊死

研究分野

- 1) 口腔癌に対する薬物療法
 - 2) 顎骨壊死の臨床的病態解明
- 趣味：ランニング、車いじり

【研修1年目】

	修得すべき手技や手術経験目標数など
経験目標	術者として20症例、入院症例で担当医として 20症例
知識	医の倫理及び患者の心理に関する知識の習得 口腔外科疾患に対する適切な診断、治療及び手術手法の修得 患者の全身管理に関する知識の習得
実技	難抜歯手術、埋伏歯手術、嚢胞の摘出手術、歯根端切除術など
学術・研究	症例報告の演者として学会発表（1） 症例報告の学会誌への論文化（1）

【研修2年目】

	修得すべき手技や手術経験目標数など
経験目標	術者として30症例、入院症例で担当医として 20症例
知識	研修1年目からの積み重ね 2年目の実技ができる治療および手術法の修得
実技	顎骨骨折手術、顎炎ないし蜂窩織炎手術、静脈内鎮静法など
学術・研究	症例報告の演者として学会発表（1） 症例報告の学会誌への論文化（1）

歯科医師臨床研修（1年目）

単独型研修施設として、歯科医師に求められる基本的診療（態度、技術および知識）を身に付け、生涯研修の第一歩とする。

研修は主に当院歯科口腔外科で行うが、協力病院での短期研修もある。

臨床研修後、アドバンスコースへ移行する。

歯科医師臨床研修アドバンスコース（2年目）

特徴は、本院歯科口腔外科（6ヶ月）での研修のほか、本院麻酔科研修（6ヶ月）が組み込まれている点である。歯科口腔外科で、より広範囲の歯科医療を修得する。また、麻酔科での研修では、全身管理に必要な知識、技能を学ぶ。

専門研修プログラム（3年目以降）

臨床研修（2年）終了後、更なる臨床医の養成を目的とする4年間の専門研修プログラムである。

【研修3年目】

修得すべき手技や手術経験目標数など	
経験目標	術者として30症例、入院症例で担当医として 20症例
知識	研修1、2年目からの積み重ね 3年目の実技ができる治療および手術法の修得
実技	顎骨骨折手術、術後性上顎嚢胞摘出術 顎炎/蜂窩織炎手術、インプラント埋入手術
学術・研究	臨床研究論文の演者として学会発表(1) 臨床研究論文の学会誌への論文化(1)

【研修4年目】

修得すべき手技や手術経験目標数など	
経験目標	術者として30症例、入院症例で担当医として 20症例
知識	研修1、2、3年目からの積み重ね 4年目の実技ができる治療および手術法の修得
実技	良性および悪性腫瘍の手術、顎変形症の手術、口蓋裂の手術 骨、皮膚、粘膜などの移植手術
学術・研究	臨床研究論文の演者として学会発表(1) 臨床研究論文の学会誌への論文化(1)

連携施設

関連病院名	所在地	診療科	指導責任者
1 大原総合病院	福島市	歯科口腔外科	(部長) 遠藤 学
2 有隣病院	喜多方市	歯科口腔外科	(科長) 木島 寛
3 会津西病院	会津若松市	歯科	(科長) 松本 孝之
4 大町病院	南相馬市	歯科口腔外科	(科長) 本間 英明
5 竹田総合病院	会津若松市	歯科	(科長) 今泉 貞雄
6 渡辺病院	新地町	歯科口腔外科	(科長) 笹原 健児

指導医からのメッセージ

- ・口腔外科を主に指導しています。
- ・全身管理能力を身につけられます。
- ・療様々な病院歯科を経験できます。

臨床国内留学について

- 口腔癌
- 顎変形症

専門性の高い疾患に対しては国内留学にて手術手技を学ぶことも可能です。

大学院について

- 大学院

後期研修口腔外科専門医コースと大学院生との併願は可能です。

解剖、組織学、基礎病理学、法医部、微生物学において博士号を取得した実績があります。

専門医受験資格のために必要とされる技能・手技目標

- (社)日本口腔外科学会の専門医の要件

- 1) 6年以上の日本口腔外科学会の会員
- 2) 学術論文3編以上、1編は口腔外科学会雑誌に筆頭著者として掲載
- 3) 手術執刀症例は、100例以上
- 4) 入院症例は、担当医として診療に従事した50症例以上



週1回 カンファランス

診療科(講座)紹介

- 1) 放射線災害後の医療・保健活動に関する診療・教育・研究を担う講座として、東日本大震災以降の2011年10月より福島県立医科大学に初めて設置された臨床医学系講座です。
- 2) 診療科としては、放射線健康相談や、WBC検診、浜通りを中心とする被災地での診療支援(内科外来・血液内科外来)などを行っております。
- 3) 保健活動として、県民健康管理センターにおける業務、説明会、出前授業、行政職員や医療関係者に放射線と健康に関する研修などを行っています。
- 4) 教育：医学部3年生の放射線生命医療学
医学部5年生の放射線災害医療BSL
他に災害総合学習センターとともに、研修プログラムなどを実施しています。
- 5) 大学院では、修士博士ともに原発災害後の長期的な医療・健康問題を題材とした研究、災害発生時の医療に関する研究を行ったり、放射線に関する国際機関(フランスIRSNやCEPNなど)とも協力し、研究活動や原子力災害時の知見をまとめ発信する活動を行っています。

指導医(スタッフ)紹介



主任教授
坪倉 正治

灘高等学校(大阪府)卒業
平成18年 東京大学卒業
平成27年 東京大学大学院医学系研究科卒業
臨床専門分野
1) 内科学
2) 血液内科学
研究分野
1) 放射線健康管理学
2) 地域の公衆衛生
趣味：食べる、寝る、ポーとする

助教 アミール 偉
助手 伊東 尚美
助手 山本 知佳

臨床研修プログラム

福島県立医科大学病院の臨床研修プログラムにおいて、1か月間の選択プログラムとして実施しています。その中で、上記1)～6)を経験するようにいたします。

専門研修プログラム

それぞれの専門医コースをとりながら、同時に研修できるようにいたします。

大学院・留学について

大学院

放射線健康リスク予防医学をテーマに、研究課題はそれぞれの大学院生の興味ある分野を中心に選択します。現在2名の博士課程大学院生が研究を行っています。大学院進学希望の方は、どうぞご相談ください。また博士課程だけでなく、修士課程の大学院生も受け入れています。

留学

大学院生には、希望があれば卒業後もしくは大学院中に留学できるように、よい受け入れ先が見つかるように協力いたします。

指導医からのメッセージ

2011年3月の東日本大震災とそれに引き続く福島原発事故は、私たちにたくさんの教訓と将来の医療への課題を突きつけました。地域住民への健康を考える際に重要なのは、放射線だけではなく、生活習慣病や高齢化、過疎化など、社会・生活環境の変化によってもたらされるものが多くあり、その一つ一つに丁寧に対応し続ける必要があります。当講座は原発事故に伴う健康を全般的に俯瞰し、その処方箋となるべく活動する講座ではありますが、少し視点を変えれば、今の日本の医療や災害全般に共通する、数多くの医療・保険・医学的な課題に取り組む講座でもあります。実際の活動も、地域での診療から地域や行政との共同、災害や様々な医療の社会的な課題に関する研究、国際機関での活動など幅広いです。

私たちの講座には様々なバックグラウンド持ち、興味関心も幅広いスタッフ、大学院生が所属しています。是非私たちの取り組みと一緒に参加してみませんか。いつでも連絡をお待ちしています。



放射線健康説明会



医学部5年生BSL



放射線教育

講座・部門紹介

災害こころの医学講座は、関係各位の積極的な支援と協力を受け、2013年10月に開設されました。当講座はその名が示すように、災害が人のこころにどのような影響を及ぼすのか、そして被災者に対してどのような精神保健上のケアや治療が必要となるのか、それを考え、検証し、実施・提言するという役割を担っています。2011年に発生した地震、津波、そしてその後に引き起こされた原発事故は、日本人にとってはもちろん世界でも過去に類例のない複合災害です。本講座開設が福島に横たわる多くの困難を乗り越える、一つの契機になればいいと切に願っていますし、そのためにも関係機関との連携を深め、様々な情報を当講座から発信していきたいと思っています。

指導医（スタッフ）紹介



教授
前田 正治

上智福岡中学高等学校卒業
昭和59年 久留米大学医学部卒業
平成7年 医学博士号取得
臨床専門分野
1) PTSDに関する臨床研究
2) 災害精神医学
3) 精神科リハビリテーション学
研究分野
1) 災害精神医学
2) 社会精神医学



准教授
瀬藤乃理子

兵庫県立御影高等学校卒業
平成3年 神戸大学医療技術短大卒業
平成25年 神戸大学大学院保健学博士課程修了
臨床専門分野
1) 臨床心理学
2) ストレス学
研究分野
1) 遺族支援
2) 支援者のストレス



助教（公認心理師・臨床心理士）
佐藤 秀樹

福島県立相馬高等学校卒業
平成25年 明治学院大学心理学部卒業
平成27年 早稲田大学大学院人間科学研究科修了
臨床専門分野
1) うつ病を対象とした認知行動療法
研究分野
1) 反すうや抑うつの認知行動メカニズムの検討



助教
小林 智之

同志社国際高等学校（京都府）卒業
平成24年 同志社大学文学部卒業
平成29年 同志社大学大学院心理学研究科博士後期課程修了
研究分野
1) 集団間相互作用
2) ステレオタイプ
趣味：カフェ巡り



助手（臨床心理士）
竹林 唯

横浜雙葉高等学校（神奈川県）卒業
平成20年 早稲田大学第一文学部卒業
平成22年 早稲田大学大学院人間科学研究科修了
臨床専門分野
1) 不安症やうつ病を対象とした認知行動療法
研究分野
1) 不安と衝動的行動の関連・介入に関する研究

講座・部門の主な研究内容

- 東日本大震災による福島県住民の精神健康影響の実態・要因等に関する疫学・観察研究
- 被災者の精神健康問題（うつ病、自殺行動等）の予防、介入に関する研究
- PTSD、複雑性悲嘆等トラウマ関連ストレス障害の病態解明・治療開発・効果に関する研究
- あいまいな喪失やレジリエンスについての研究 等

講座・部門からのメッセージ

今般の震災を契機にできた新しい講座です。福島においてはもちろん、大規模災害や大規模事故、事件などがあった場合、被災者や被害者のメンタルヘルスの問題は非常に重要です。PTSDやうつ病などの精神疾患に罹患することも少なくないし、そうでない場合でも長期的に非常に大きな影響が残ります。このようなトラウマを持った人々にどのように対応し、ケアや治療を行うのか、それを実践し研究するのが本講座です。関心がある方はぜひ気軽に研究室まで足を運んでください。一緒に考えていきましょう。



沿岸部での住民への講話（富岡の復興住宅）



ふくしま心のケアセンターとの会議



復興公営住宅・支援者向け研修会の様子



災害こころの医学講座スタッフ

講座・部門紹介

URL http://www.fmu.ac.jp/cms/anatomy1/index_html

神経系の発生を中心に、形態学的あるいは分子発生学的手法を駆使して研究しています。主な研究テーマは運動神経細胞の分化と細胞死、神経経路の形成メカニズム、脳の層構造の構築メカニズムなどです。教育では、骨学を含む肉眼解剖学、発生学、脳解剖学の講義と実習を担当しています。また、これらの教育に欠かせない献体業務と献体登録者団体である福島県立医科大学志らぎく会の事務局を担当しています。教育を通じて学生と最も交流する講座です。

指導者（スタッフ）紹介



教授 八木 沼洋行

福島県立福島高校卒業
昭和58年 東北大学医学部卒業
昭和62年 筑波大学大学院医学研究科修士
教育専門分野
1) 肉眼解剖学
2) 神経解剖学
3) 発生学
研究分野
1) 神経発生学
2) 神経解剖学
3) 臨床解剖学

研修医、臨床医入学時の研究分野

1. より安全な医療の実現や新しい手技・手術法の開発を目指す臨床解剖学的研究
2. 神経系を中心とした発生、発達、再生に関する形態的、実験発生学的研究
3. 発生に関与する分子の機能解明をめざし、遺伝子導入法等を用いて行う分子発生学的研究
4. 神経トレーサー等を用いて神経回路や伝導路の可視化を目指す神経解剖学的研究
5. 神経細胞死の機序の解明を目指す研究

講座・部門の主な研究内容

1. 神経系の発生に関与する分子群の発現様式と機能の解明
2. 発生過程に起こる神経細胞死の機序に関する研究
3. 発生過程の神経系への効率のよい遺伝子導入法の検討
4. 脳形成過程での細胞移動と層構築機構の研究
5. 小脳内領域の形成機序と機能に関する研究
6. 光遺伝学を用いた脳機能解析
7. 臨床解剖学および遺体を用いた手術手技研修に関する研究

講座・部門からのメッセージ

神経発生や再生における様々な現象のメカニズムの解明を目指し数々の手法を駆使して研究を行っています。また、教育専門分野として肉眼解剖学の講義と実習を担当しており、研修医や臨床医の方々に臨床解剖学の教育と研究の機会を提供しています。また、献体遺体を用いた臨床手技研修も実施しております。医療の安全性の向上のため、遺体を用いた様々な手技の修練を行いたいという希望がありましたらご相談下さい。

解剖・組織学講座

講座・部門紹介

URL <http://www.fmu.ac.jp/home/anatomy2/>

当講座では、主に細胞内の分解代謝に関わるリソソームシステムについての研究を行っています。最近では、特に「クラスリンアダプターが関わる増殖因子受容体の分解機構と癌病態への関与」、および「選択的オートファジーの機能解析」に注目しています。代謝経路を可視化する目的で電子顕微鏡解析を得意としており、特定分子の細胞内局在に関する多くの共同研究も行っています。教育は組織学を主とし、一部肉眼解剖学を担当しています。

指導者（スタッフ）紹介



教授 和栗 聡

新潟県立高田高等学校卒業
昭和63年 筑波大学医学専門学群卒業
平成4年 筑波大学大学院医学研究科修士
教育専門分野
1) 人体解剖学
2) 組織学
研究分野
1) 細胞生物学
2) 組織学
3) 神経科学
4) がん研究

研修医、臨床医入学時の研究分野

1. オートファジー／リソソーム分解機構と病態
2. がん関連分子の発現様式と機能解析
3. 特定分子の組織細胞内局在と機能解析

講座・部門の主な研究内容

1. オートファジー機構と病態
2. トランスゴルジ網とエンドソーム間の小胞輸送
3. がん関連分子の細胞生物学的研究
4. 様々な分子の組織細胞内局在解析
5. 凍結超薄切片を用いた免疫電顕法の開発

講座・部門からのメッセージ

研修医を勤めながら、少しでも基礎医学の研究に関わっていたい人、形を見るのが好きな人、あるいは上記研究内容に興味がある人は是非足を運んでください。

講座・部門紹介

生理学は、個体から構成分子まで、様々なレベルで、人体の機能を解明する学問です。それらのレベルの蓄積された知識が有機的につながることで、真に生体機能の理解ができるといえます。疾患の原因を見つけ、治療方法を生み出す上でも、生体機能の理解は必須です。また、臨床医学研究が、どちらかというと臓器に特化した研究を進めていくのに対して、生理学においては、様々な生体機能に共通の原理を見つけていくことも特徴のひとつです。

当講座は、生体における物質輸送の立場から、生体機能および疾患の解明をすすめています。

指導者（スタッフ）紹介



教授 挾間 章博

灘高等学校（兵庫県）卒業
昭和60年 京都大学医学部卒業
平成元年 京都大学大学院修了
教育専門分野
1) 生理学
研究分野
1) イオンチャンネル・トランスポータ
2) ips細胞を利用した細胞分化機構の解明
3) 細胞防御機構におけるイオン環境の役割
4) 上皮間葉移行におけるイオン環境の役割

遊走機能調節

2. iPS細胞を用いた気道上皮細胞分化メカニズム
3. がん細胞の上皮間葉移行メカニズム
4. 細胞（体細胞・生殖細胞）の品質評価法の開発
6. 宇宙医学（微小重力が生体に与える影響）
7. 生理学の知識を活用した一般市民への健康教育

研修医、臨床医入学時の研究分野

1. iPS細胞を用いた気道・心筋・神経分化におけるイオンチャンネルの関与
2. 臓器線維化に関連する線維芽細胞の増殖メカニズムにおけるイオンチャンネルの関与
3. がん細胞の上皮間葉移行におけるイオンチャンネルの関与

講座・部門の主な研究内容

1. イオンチャンネルやトランスポータによる細胞増殖・

講座・部門からのメッセージ

基礎医学研究というと臨床医として活躍する上で縁の無いものだと考える方も多いでしょう。しかし、現在は、基礎医学研究の成果が疾患治療に応用できる時代です。例えば、細胞膜のイオン輸送が、細胞の生死に直結し、特定のイオン輸送をブロックすることで、死に行く細胞を生存に導くことが出来るなど、従来では予想できなかった事実が明らかになっています。当講座では、このような研究を実際の応用にまで進めようとしています。また、研究には年齢は関係ありません。学部生が研究することも歓迎しますし、長年の臨床経験から、「これは不思議だな」と思うことが、新しい発見につながりますので、そのような話題があれば、研究のお手伝いをいたします。

システム神経科学講座

講座・部門紹介

URL <http://www.fmu.ac.jp/home/physiof2/index-j.html>

私たちの「脳」は、約千億個もの神経細胞（ニューロン）が約千兆個ものシナプスで連結した非常に複雑な神経回路を、無数の活動電位と呼ばれる電気信号が伝わっていくことにより、様々な情報処理を実現しています。私たちの「こころ」はこのような脳における高度な情報処理が生み出しているものに他なりません。本講座では、覚醒行動下の動物からの単一ニューロン活動記録や行動解析、あるいはヒトでの機能的脳イメージング等を主な方法論として、脳における情報処理についての研究を行っています。

指導者（スタッフ）紹介



教授 永福 智志

石川県立七尾高等学校卒業
平成2年 富山医科薬科大学医学部卒業
平成6年 富山医科薬科大学大学院医学系研究科修了
教育専門分野
1) 神経生理学
2) システム神経科学・認知神経科学
研究分野
1) 視覚認知・記憶の神経機構（とくに顔認知の神経機構）
2) 社会的認知・社会行動の神経機構
趣味：読書・音楽鑑賞・映画鑑賞

講座・部門の主な研究内容

1. 社会的認知（顔認知・個体関係認知）・社会行動の神経機構
2. 視覚認知・視覚記憶の神経機構
3. 前頭皮質・側頭皮質・大脳辺縁系の機能的連関
4. 統合失調症など精神疾患の病態解明
5. 睡眠・覚醒リズム制御の神経機構

講座・部門からのメッセージ

現在、最先端の脳研究から少しずつながら、私たちの「こころ」を生み出す巧妙な脳の仕組みが明らかになりつつあります。とくに私たちが専門とするシステム神経科学・認知神経科学といった研究領域では、ここ過去20年くらいの間にいくつもの大きなパラダイム・シフトがありました。これまでに「こころ」を生み出す脳の仕組みについて多くの知見が蓄積してきただけではなく、私たちが考える「こころ」の姿そのものが大きく変わりつつあります。このような現在進行形のエキサイティングな研究にリアルタイムで参加したい方はぜひ一度私たちの講座にお越しください。

研修医、臨床医入学時の研究分野

1. 社会的認知・社会行動の神経機構に関する電気生理学的・行動薬理学的研究
2. 前頭皮質と辺縁系の機能的連関に関する電気生理学的・行動薬理学的研究
3. 睡眠・覚醒リズム制御の神経機構に関する電気生理学的・行動薬理学的研究

講座・部門紹介

URL <https://www.fmu.ac.jp/home/biochem1/>

がんによる死亡原因のほとんどは原発巣から他臓器への転移によるといわれています。がん化した細胞は悪性化することで周囲の組織に浸潤し、リンパ節や遠隔の臓器に転移するようになりますが、それらのプロセスは多様であり、その制御機構もきわめて多岐にわたります。生化学講座では、細胞の接着、極性、移動といった基本的細胞機能の視点からがんの浸潤・転移の分子メカニズムの解明を目指して研究を行っています。その糸口としてWntシグナルやインテグリンシグナルに注目し、分子・細胞・個体レベルでの解析を進めています。

指導者（スタッフ）紹介



主任教授 西田 満

秋田県立横手高等学校卒業
平成7年 山形大学理学部卒業
平成12年 北海道大学大学院薬学研究科
博士課程修了
教育専門分野
1) 生化学
研究分野
1) 分子細胞生物学
2) 生化学
趣味：トレッキング、猫鑑賞

研修医、臨床医入学時の研究分野

1. がん細胞の浸潤・転移を制御する細胞内シグナル経路の機能解析
2. がん細胞の挙動を司る細胞間コミュニケーションの解析

講座・部門の主な研究内容

1. がん細胞の浸潤・転移におけるWntシグナルおよびインテグリンシグナルの分子機構解析
2. がん細胞の悪性化プロセスにおけるハイブリットEMTの実態解明

講座・部門からのメッセージ

がんによる死亡の直接的な原因の多くは、他臓器への転移であるといわれており、転移を抑えることができれば、多くのがん患者の命を救うことができます。がん転移を抑える方法を開発するためには、がん細胞の浸潤・転移のメカニズムを理解する必要があります。このような難題に挑戦する情熱のある方の参加を求めています。

免疫学講座

講座・部門紹介

URL <http://www.fmu.ac.jp/home/biochem2/biochem2-top.htm>

免疫とは、自己と非自己を見分け、病原微生物などの非自己を排除する機構です。その機構とその破綻によって引き起こされる疾患を理解し、治療に結びつけるのが免疫学です。当講座では、感染初期にはたらく自然免疫機構（特に補体系）の解明と、自己免疫疾患の解明（特にSLE）に重点をおいた研究を進めています。学内臨床講座はもちろん、海外の研究機関との共同研究を積極的に推進しています。

指導者（スタッフ）紹介



主任教授 関根 英治

福島県立安積高校卒業
平成5年 福島県立医科大学卒業
平成9年 福島県立医科大学大学院
医学研究科修了
教育専門分野
1) 免疫学
研究分野
1) 補体系
2) 自己免疫学
3) リウマチ・膠原病学

研修医、臨床医入学時の研究分野

1. 自然免疫における補体レクチン経路の役割
ー特に補体レクチン経路の分子基盤ー
2. 自己免疫疾患における自然免疫の役割
ー特にループス腎炎における補体レクチン経路と第二経路の関与ー

講座・部門の主な研究内容

1. 補体系におけるMASP-1/3の役割
2. SLEにおけるMASP-1/3の役割
3. 新規抗補体薬の開発

講座・部門からのメッセージ

現在の医学は基礎医学研究の発展の上に成り立っているといっても過言ではありません。当講座は免疫学を中心とした基礎系の講座です。直接臨床経験を積む場は提供できませんが、最先端の生化学的及び分子生物学的手法を常に取り入れて研究を行っています。是非、臨床系の大学院生の方等、基礎的な研究に触れてみたい方の訪問を歓迎します。

講座・部門紹介

URL <http://www.fmu.ac.jp/home/yakuri/top-index.htm>

病態制御薬理医学講座では臨床への還元を第一に、肥満・糖尿病などの生活習慣病、薬物動態、サルコペニアに関する研究を電気生理学ならびに分子生物学的手法を駆使して行っています。国内外の多くの研究機関と共同で世界に発信する研究を行っています。

指導者（スタッフ）紹介



教授
下村 健寿

群馬県立前橋高校卒業
平成9年 福島県立医科大学医学部卒業
平成16年 群馬大学医学部大学院医学研究科修了
平成16~24年 英国オックスフォード大学研究員
平成24~26年 自治医科大学医学部本務大学院講師
日本内科学会内科認定医
教育専門分野
1) 薬理学
2) 電気生理学
研究分野
1) 糖尿病
2) インスリン分泌機序
3) 脳電気生理学

講座・部門の主な研究内容

1. オキシトシン/神経ペプチドの脳における抗生活習慣病作用
2. KATPチャンネルとインスリン分泌機序
3. 新生児糖尿病/DEND症候群の病態機序と治療法
4. 生体内薬物動態

講座・部門からのメッセージ

薬理学という学問には2種類の研究があります。ひとつは薬物を駆使することで生体の生理学的機序を解明する研究。もうひとつには薬物により病気を治すことを目的として行う研究です。当講座では後者の「病気を治す」ことを目標とした研究に主眼を置いて研究をしています。糖尿病・肥満など生活習慣病といった幅広い疾患から、新生児糖尿病・DEND症候群などの希少疾患にいたるまで、患者様の苦しみを改善することを目標に全力で取り組んでいます。

微生物学講座

講座・部門紹介

微生物学講座では、純粋な基礎医学としてウイルス学を研究する傍ら、症例を解析することによって新たな感染症を発掘することに取り組んでいます。これらの研究は福島医大の臨床講座はもとより、国内多くの大学の臨床講座との共同研究として進められています。また、感染症の予防に役立つ健康食品の開発や腸内フローラと疾患の関連についても解析しています。

指導者（スタッフ）紹介



教授 錫谷 達夫

北海道立札幌西高等学校卒業
昭和58年 旭川医科大学卒業
昭和62年 旭川医科大学大学院医学研究科修了
教育専門分野
1) 微生物学
2) 感染症学
研究分野
1) ヘルペスウイルスの分子生物学
2) 新たな細菌・真菌同定法の開発
3) 健康食品と腸内フローラ

講座・部門の主な研究内容

1. 単純ヘルペスウイルス、水痘-帯状疱疹ウイルス、サイトメガロウイルスの分子生物学ならびに疾患発症機序の解明
2. 細菌、真菌感染症の新たな診断法の開発とそれを用いた臨床症例の解析
3. 食品の機能性や抗菌・抗ウイルス作用を持つ物質の探索

講座・部門からのメッセージ

一般細菌検査で行われている「微生物を分離培養し、生化学的性状から同定する」という手段は、一般的な細菌・真菌感染症を診断し、治療法を決定するゴールドン・スタンダードとして広く使われています。しかし、我々に常在している細菌の多くは未だ培地上で培養する方法が確立されておらず、既存の検査法では診断できない感染症が予想外に多く臨床の場に存在します。本講座では微生物の遺伝情報を利用し、培養できない微生物、これまで病原微生物として報告されたことのない微生物、さらには未だ種として登録されていない微生物をも含め、既存の方法では診断できない感染症を臨床の各科と共同で解析しています。感染症に興味をお持ちの方、お待ちしております。

研修医、臨床医入学時の研究分野

1. 各科が抱えるヘルペスウイルス（単純ヘルペスウイルス、水痘-帯状疱疹ウイルス、サイトメガロウイルス）感染症の研究
2. 現行の臨床検査では診断できない細菌、真菌感染症を診断し、新たな微生物による疾患の解明
3. 疾患と腸内フローラの関連について解析

講座・部門紹介

URL <http://www.fmu.ac.jp/home/p2/>

当講座では、病気の原因や病態を明らかにするために、教室員が目指すべき将来像と挑戦し続ける気持ちを持って研究に取り組んでいます。また、細胞生物学や分子生物学・生化学のさまざまな手法を取り入れるなど、テーマごとに最も適切な材料と方法を選択・構築して、研究を進めています。

本講座は、基礎と臨床の垣根を越えて自由に行き来できる自由な雰囲気のある教室であり、研究の重要性・面白さを体感できる場を提供します。研究・教育・病理診断を担う当講座教員は、それぞれ独立した研究者ですが、講座内はもちろん学内外の研究室とも連携して研究を推進しています。

指導者（スタッフ）紹介



教授 千葉 英樹

北海道立室蘭高等学校卒業
昭和63年 札幌医科大学卒業
教育専門分野

1) 病理学

研究分野

1) 実験病理学

2) 細胞生物学

3) 腫瘍学

研修医、臨床医入学時の研究分野

研修医、臨床医は、大学院生または大学院研究生として、原則として講座の研究テーマに沿った形で研究に携わります。研修医や臨床医は、各教員に指導を受けて日々研究に励み、その結果を講座の研究会議で定期的に発表します。また、研究対象としての病気の理解を深めるため、生検・手術材料の病理診断を学ぶこともできます。

講座・部門の主な研究内容

当講座では、「核内受容体」と「細胞間を繋ぐ接着分子」の機能を臓器・疾患横断的に研究しています。主要な研究テーマは、以下のものです。

1. 細胞接着-核内受容体シグナル伝達経路による多彩な生命現象制御
2. がんの悪性形質を左右する新たな核内受容体活性制御機構
3. 細胞間接着分子に着目した新規がん診断マーカーの開発
4. 新規幹細胞ニッチシグナルを利用した組織再生戦略
5. 幹細胞の上皮分化を制御する普遍的エンハンサーの同定
6. カエル原腸胚表皮細胞を用いた生体バリアの高感度ライブイメージング
7. 腎糸球体疾患の新規診断マーカーと治療標的の探索
8. 細胞間接着シグナルによる腸上皮幹細胞の運命決定機構
9. 神経血管ユニットによる新たな血液脳関門制御機構と脳疾患
10. タイト結合分子の機能的選択性と可塑性

講座・部門からのメッセージ

基礎病理学講座は、研究を希望する全ての方に広く門戸を開放しています。医学部学生や大学院生はもちろん、研修医、臨床医、博士研究員も受け入れています。病理学、細胞生物学、腫瘍学などに興味のある方は、大歓迎ですので是非気軽にお問い合わせ下さい。研究に楽しさ・生きがいを見いだし、新しい発想・発見に触れる喜びを共有しましょう。

衛生学・予防医学講座

講座・部門紹介

URL <http://www.fmu.ac.jp/home/hygiene/index.html>

人の健康と環境のかかわりについて、衛生学および予防医学的見地から教育および研究を行っています。講座のモットーは「多様性と総合力」です。各教室員は、自分の研究テーマを持ち、講座内での実験や、地域／産業職場でのフィールド調査、他大学、外国研究者との共同研究などを精力的に行っています。人の健康やQOL（生活の質）の向上を目指した研究方針と、その成果を教育に活かしたり地域社会に還元するための方法を共有するために、スタッフが一緒に学習し協力し合っています。

指導者（スタッフ）紹介



教授 福島 哲仁

島根県立出雲高等学校卒業
昭和59年 島根医科大学（現：島根大学医学部）卒業

昭和63年 島根医科大学大学院修了

教育専門分野

1) 予防医学

2) 産業医学

3) 環境医学

研究分野

1) 産業医学

2) 化学物質の毒性学

3) 生活習慣病の予防医学

4) 医療政策研究、医療の質の評価

5) 行動科学

趣味：散歩、ピアノ

研修医、臨床医入学時の研究分野

1. 生活習慣病に関する予防医学研究
2. 病院などにおける臨床疫学研究
3. 医療経済、地域医療計画、医療政策研究
4. 労働者の安全及び衛生に関する産業医学研究
5. 健康教育、行動科学研究

講座・部門の主な研究内容

1. 予防医学（生活習慣病と運動・栄養・喫煙など）
2. 環境医学（化学的・物理的環境要因の生体影響）
3. 産業医学（労働者の健康と職場環境）
4. 医療経済、地域医療計画、医療政策研究
5. 健康教育、行動科学、健康支援環境に関する研究
6. 生活習慣・睡眠に関わるバイオマーカーの探索
7. 医学教育研究（参加型、体験型、問題解決型医学教育手法の開発）

講座・部門からのメッセージ

予防医学、環境医学、産業医学、臨床疫学、プライマリ・ヘルス・ケアの研究分野での研究を実施する事ができます。これらの分野であれば大学院での研究テーマは基本的に自分で選ぶ事ができます。

これらの分野に関心があり、当講座の大学院にて研究を志望される方は気軽にお問い合わせ下さい。

講座・部門紹介

当講座の特徴は、「人と社会」を対象とした研究を行っている点です。公衆衛生学とは、患者を含め、人々の健康の保持・増進をめざす実践科学です。具体的には、現実の医療現場における課題や社会のさまざまな問題を、(臨床)疫学的手法を用いて分析し、科学的な根拠(Evidence)を示し、解決策の提言を行っています。“Think globally, act locally”をモットーに、「ゆりかごから、看取りまで」をカバーした研究を行っている当講座では、臨床医学講座との共同研究を積極的に推進するとともに、臨床研究の支援を行っています。

指導者(スタッフ)紹介



教授 安村 誠司

東京都立白鷺高等学校卒業
昭和59年 山形大学医学部卒業
昭和63年 山形大学大学院医学研究科修了
教育専門分野
1) 公衆衛生学
2) 疫学
3) 医学統計学
研究分野
1) 生活習慣病の(臨床)疫学
2) 老年学(転倒・骨折他)
3) 政策科学(介護予防)
4) 災害公衆衛生
5) 精神保健
学会活動等
日本学術会議会員、日本公衆衛生学会理事
趣味: ジョギング、映画・演劇鑑賞

講座・部門の主な研究内容

1. 生涯を通じた健康課題
 - 1) 母子保健(妊娠・出産・育児に関する疫学)
 - 2) 生活習慣病の(臨床)疫学
 - 3) 老年学(転倒・骨折、閉じこもり等の(臨床)疫学)
 - 4) 精神保健・健康心理
 - 5) 身体活動
2. 政策科学(介護保険・医療保険制度の見直し)
3. 災害対応関連

研修医、臨床医入学時の研究分野

1. 乳幼児の感染症の関連要因
2. 生活習慣病の治療効果の評価など臨床疫学的研究
3. 健診項目の生命予後の予測妥当性
4. 骨折患者におけるADL、QOLの規定要因
5. 心臓リハビリテーションの有効性など

講座・部門からのメッセージ

患者さんの診断、治療、予後等のデータを分析し、もっとも適切な臨床判断を行うのが臨床疫学です。当講座では、大学院生の専門分野における臨床疫学の習得を目標として、国際誌への論文掲載を目指します。当講座が地域で行っている疫学研究にも参加することにより、市町村/都道府県/国、さらには諸外国とさまざまなレベルの政策形成に関われる可能性もあります。質の高い疫学研究をやりたい方、臨床研究に興味関心のある方は、是非、一度、話しに来て下さい。

法医学講座

講座・部門紹介

法医学は事象の因果関係を考究する応用医学であり、教育・研究とは別に鑑定実務もこなしています。学部教育では異状死体の検案を適切に行える医師を養成すること、大学院教育では研究を通して、方法論を体得することを目標としています。法医学における鑑定実務の中心は異状死体の解剖であり、福島県全域の異状死体の解剖を法医学講座がカバーしています。大学院終了後は鑑定実務の研修を積むこととなります。

指導者(スタッフ)紹介



教授 原田 一樹

昭和62年 山口県立宇部高等学校卒業
平成5年 国立山口大学医学部医学科卒業
教育専門分野
1) 法医学
2) 法医病理学
3) 神経病理学
研究分野
1) 頭部外傷の神経病理(法医神経病理)
2) 小児頭部外傷
3) 乳幼児急性硬膜下血腫(中村I型)
4) ヒト硬膜の組織解剖学
5) 銃器損傷
学会活動等
日本法医学会、日本法医病理学会、日本神経病理学会、日本脳神経外傷学会
趣味: 映画・海外ドラマ鑑賞、お笑いライブ鑑賞、ショッピング

講座・部門の主な研究内容

1. 甲状腺癌の疫学的研究
2. 死後画像診断に関する研究
3. 生体試料中の薬毒物分析に関する研究
4. 死体試料を用いたPOCT機器検査に関する研究

講座・部門からのメッセージ

華々しい研究分野ではなく、実務の責任も重いのですが、自由に研究を行なえ、地域にも貢献できることを強調したいと思います。

研修医、臨床医入学時の研究分野

講座の主な研究テーマの中から選択してもらいますが、自分で行いたい研究テーマがあれば是非提案してください。

講座・部門紹介

当講座は、福島原発事故後の福島県民の低線量被ばくによる人体への影響の調査研究を目的に2011年11月に新設され、低線量域における被ばく線量モニターの開発のため染色体解析による生物学的線量評価方法の確立と精度の向上を図っています。

さらに免疫グロブリン重鎖遺伝子のある14番染色体と他の染色体の相互転座が悪性リンパ腫や多発性骨髄腫の発症の原因の1つと考えられていますが、Bリンパ球の腫瘍化の機序の解明に向け、染色体転座の原因とそれが生じる細胞の特性について研究しています。

指導者（スタッフ）紹介



教授 坂井 晃

修道高等学校（広島県）卒業
昭和61年 愛媛大学医学部医学科卒業
平成5年 広島大学大学院医学系研究科
内科系修了

臨床専門分野

- 1) 放射線生命医療学
- 2) 血液腫瘍学

研究分野

- 1) 放射線生物学
- 2) 血液腫瘍学（特にリンパ系腫瘍）

趣味：テニス、マラソン、水泳、登山、旅行

講座・部門の主な研究内容

- ・低線量被ばくによる染色体への影響解析と生物学的線量評価
- ・正常Bリンパ球由来iPS細胞（BiPSC）を用いた多発性骨髄腫の腫瘍起源異常Bリンパ球の解明

講座・部門からのメッセージ

染色体およびBリンパ球に興味のある方、または広島カープファン（アンチ巨人）の方はお気軽にお立ち寄りください。講座は災害医学・医療産業棟の8階にあり眺めは最高です。

疫学講座

講座・部門紹介

当講座では「県民健康調査」の実施・解析の支援を行うとともに、生活習慣病やストレス関連疾患等に関する様々な疫学研究を他大学とともに共同研究を行っています。また、疫学調査を実施する上で、環境因子の影響の把握及び精度が高く効率的な調査方法を開発し実施しています。当講座においては、単に調査結果を分析するのではなく、地域や関連機関との連携のもとに、調査結果を十分に地域に還元し、地域住民の健康管理に役立てることを使命と考えています。

指導者（スタッフ）紹介



教授 大平 哲也

福島県立磐城高等学校卒業
平成2年 福島県立医科大学医学部卒業
平成11年 筑波大学大学院博士課程医学研究科修了

臨床専門分野

- 1) 内科学
- 2) 心療内科学
- 3) 循環器予防学

研究分野

- 1) 循環器疾患をはじめとする生活習慣病の疫学・予防医学
- 2) 心理的ストレスと疾病との関連についての疫学研究

趣味：ダイエット、ジョギング、テニス

講座・部門の主な研究内容

- ・50年以上続く地域住民における生活習慣病の前向き研究・介入研究
- ・災害後の身体・精神的疾患に及ぼす社会心理的因子についての研究
- ・健康指標の開発（罹患・死亡の経時的な変化を捉える疫学研究）
- ・健康課題の描出方法の開発（地域の健康課題を明示する疫学研究）
- ・地域・職域・臨床の場における生活習慣病・認知症等の前向き研究・介入研究

講座・部門からのメッセージ

疫学は、全ての臨床・予防医学における基礎的な学問です。疫学的な証明がないと疾病と要因の因果関係、検査や治療の妥当性は推定できません。臨床に携わる上で、セミナー、授業等で疫学の知識を蓄えるようにしてください。

研修医、臨床医入学時の研究分野

- ・記述疫学の方法論
- ・循環器系疾患のリスクファクターに関する臨床研究
- ・生活習慣病、精神疾患に関連する社会心理的因子の研究
- ・生活習慣病の予防・コントロールに関する介入研究

講座・部門紹介

当講座は、放射線による人体の被ばく線量に関する調査研究を行う講座として2013年8月に開設されました。原発事故由来の放射線を含め、身の回りの放射線による被ばく線量をよりの確に評価するため、環境から人体に至るまでの様々なパラメータについて調査研究を行っています。

指導者（スタッフ）紹介



教授 石川 徹夫

私立桐蔭学園高等学校（神奈川県）卒業
平成元年 東京大学工学部卒業
平成12年 博士（医学）取得（広島大学）
研究分野
1）放射線測定
2）被ばく線量評価

講座・部門の主な研究内容

1. 県民健康調査・基本調査（事故後初期の外部被ばく線量評価）の支援
2. 原発事故後の放射性物質の環境動態調査及び被ばく線量評価
3. 自然放射線による被ばく線量の評価

講座・部門からのメッセージ

原発事故後は、以前にも増して医師に放射線の知識が求められるようになったように思います。放射線の知識を持った医療人の育成に貢献できればと考えています。

健康リスクコミュニケーション学講座

講座・部門紹介

当講座は、東日本大震災後に開設され、健康や放射線に関するリスクコミュニケーションに関する研究を通じて、主に健康や放射線に関する正確な情報を発信し、福島県内外における健康や放射線に対する悩みや不安を解消し健康増進に繋げることを目的としています。

指導者（スタッフ）紹介



教授 田巻 倫明

Middlesex School（高等学校）卒業
平成10年 Stanford 大学卒業
平成15年 群馬大学医学部卒業
平成21年 群馬大学大学院医学系研究科修士課程修了
臨床専門分野
放射線リスクコミュニケーション、放射線治療
研究分野
1）リスクコミュニケーション学
2）放射線腫瘍学
趣味：ゴルフ、ウクレレ

講座・部門の主な研究内容

- 1) 健康や放射線に関するリスク認知や許容度における心理的、社会的、倫理的因子などの影響の解析と有効なリスクコミュニケーション手法の探索
- 2) ポジティブ心理学と認知行動療法の知見に基づく心身のヘルスプロモーション

講座・部門からのメッセージ

福島県の皆様の健康や放射線に対する不安を軽減し、安心を提供できるような「コミュニケーション」を促進できるよう、教育・研究・実地活動を行っていくことを目標としています。

研修医、臨床医入学時の研究分野

講座の主な研究内容に関連し、健康や放射線に対するリスク評価・認知・コミュニケーションに関連する研究

生体物質研究部門では、細胞外刺激に応答する細胞内の情報の流れを分子レベルで解析することに取り組んでいます。特に、持続的ストレス刺激が惹き起こす異常な細胞増殖や細胞死について、その歪められた情報経路を検出し疾患特有の分子メカニズムを理解することを目指しています。研究の成果を病気の予防や新しい治療法の開発に生かしていこうと考えるからです。

当研究部門は、共同研究を積極的に行い病態メカニズムの解明に取り組んでいます。

研修医・臨床医入学時の研究分野

1. 疾患モデル細胞の樹立
2. 細胞内情報伝達系の解析
3. タンパク質Proteomics解析
4. ゲノム機能解析(ChIP-Seq等)とBioinformatics
5. 発現解析(qPCR, RNA-Seq, Single cell RNA-Seq等)
6. 増殖抑制、免疫抑制等、新規治療法へのアプローチ

講座・部門の主な研究内容

1. 細胞周期関連シグナル分子の機能解析
2. 癌予後予測指標と関連する分子機能の解明
3. 遺伝子発現エピジェネティクス機構の解析
4. 神経変性疾患マウスモデル作出
5. 脂肪酸代謝とミトコンドリア機能の解析

講座・部門からのメッセージ

当研究部門メンバーは大学人としての倫理規定に基づき、教育・研究を通して医学人材の育成に貢献することを最大の責務と考えております。大学院では、単に学位取得が目的ではなく、疾患の根本的理解には基礎研究が必須であり、それら知見が基盤となり疾病の治療に結びつくことを理解し、医学・医療における専門分野を牽引できる人材を育てたいと心がけています。

これまでには内科、皮膚科、呼吸器科、眼科、小児科、整形外科等から多くの大学院生を受け入れ、一緒に研究を進め、全員に学位取得して頂きました。その多くの方々は、臨床および基礎系の重要なスタッフとして活躍し、世界に誇れる成果を出して留学するなど、それぞれの分野で活躍し続けています。

今後とも情熱を持って研究と教育に邁進していきます。興味を持たれた方は、是非一度、研究室を訪ねてください。

当部門では、細胞を構成する分子の細胞内運命と品質管理の制御機構を専門として、細胞内での物質の輸送やダイナミクスを、様々な分子モデルを用いて研究を行い、多くの疾患の元となる細胞機能の解明と原因究明のための手法の開発を目指しています。

研修医、臨床医入学時の研究分野

- ・受精に必要な生殖細胞因子のスクリーニング
- ・遺伝子改変マウスの作成
- ・ストレス下での細胞機能防御に関わる分子作用の解析
- ・走査型電子顕微鏡を用いた超微細形態の観測

講座・部門の主な研究内容

- ・配偶子間の認識と融合の分子メカニズムの解明
- ・病因解明に関わる分子イメージング手法の開発
- ・細胞内膜系での分子ダイナミクス制御の解明

講座・部門からのメッセージ

細胞生物学は、医学の基本をなす重要な学問です。我々は、細胞生物学の研究を通して、様々な医学の分野における新しいプロトコルを作ること、そしてその基盤の創造を目指しています。幸い、当研究室では、様々なサポートにより世界的にトップレベルの設備と技術を備えることができました。最先端の細胞生物学研究手法を用いて、より深い医学の研修を希望される方、お待ちしております。

講座・部門紹介

生体機能研究部門では、遺伝子改変動物の技術を用いて、高次脳機能を制御する神経機構の解明と神経難病に対する疾患モデルの開発に取り組んでいます。特にパーキンソン病や統合失調症などの高次脳機能障害と深く関係する大脳基底核や前頭前野皮質の機能に着目し、分子・細胞のレベルから行動・システムのレベルまで広がる多角的な研究を行っています。また、遺伝子改変技術を応用し、臨床医学系講座との共同研究を積極的に推進しています。

指導者（スタッフ）紹介



教授 小林 和人

愛知県立豊明高等学校卒業
昭和58年 名古屋大学農学部卒業
平成3年 名古屋大学大学院医学研究科修士
教育専門分野
1) 生化学（分子生物学）
研究分野
1) 分子神経生物学
趣味：東北の秘湯巡り

講座・部門の主な研究内容

1. 学習と行動制御を媒介する神経回路機構の解析
2. ドーパミン伝達を調節する分子・細胞機構の解析
3. 神経疾患モデル動物の開発
4. 脳内遺伝子導入のための新しい技術の開発

講座・部門からのメッセージ

本部門ではパーキンソン病や統合失調症など高次脳機能障害の病態の基礎となる脳機能の仕組みについて研究を行っています。これらの研究のために、動物モデルを用いた研究は大変有益です。遺伝子操作を行ったマウスを中心に、トランスジェニックラットや組換えウイルスベクターを用いた研究を進めています。臨床医学講座と共同研究を行っておりますので、大学院研究のサポートや提言をいたします。

研修医、臨床医入学時の研究分野

1. 学習と行動制御の基盤となる神経回路の解析
2. 高次脳機能の基礎となる大脳皮質-基底核回路の解析
3. 疾患モデル動物を用いた病態解析
4. 疾患モデルによる薬剤作用の行動生理学的評価

医療情報部

部門紹介

医療情報部は、平成15年1月から総合医療情報システム（電子カルテ・オーダーリングシステムを含む）を稼働し、平成22年7月にはPACS（医用画像システム）を導入して、総合的な維持管理、及び開発を担当している部門です。全ての診療情報を一元管理することにより、「診療の効率化」、「医療の質の向上」、「患者サービスの向上」、「積極的な情報提供」を目指しています。

指導者（スタッフ）紹介



部長（助手）
井高 貴之

慶應義塾志木高等学校（埼玉県）卒業
平成17年 慶應義塾大学看護医療学部卒業
平成19年 慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科修士
臨床専門分野
1) 健康・医療マネジメント
研究分野
1) 医療情報学

講座・部門からのメッセージ

医療情報部のミッションは、医療情報を適切に管理・保管することに加え、情報システムによる業務改善やデータの利活用を推進し、病院経営に提言を行っていくことが求められます。

医療情報部は、病院で働く全ての職員が安心・安全・効率的な医療提供が実現できるよう情報システムの側面から支援を行っています。

部門紹介

遺伝診療部は2016年5月より、当院の中央診療部の一部門として開設されました。開設の理由は、近年の急速なゲノム研究の進歩に伴い遺伝子解析が可能な疾患と病気になるリスクや薬剤の副作用を予想することが可能になり、これらの遺伝情報は本人のみならず血縁者も共有している情報であるため、結果を取り扱う場合には遺伝学的知識をもった専門医が、診療科を超えて横断的に対応することが必要となったからでした。加えて、臨床遺伝専門医育成機関の研修施設になるためには、独立した診療部門が必要でした。当院は遺伝診療部開設に続いて、臨床遺伝専門医の認定研修施設に登録されています。

指導医（スタッフ）紹介



部長（病院教授）（兼務）
渡邊 尚文

福島県立福島高等学校卒業
平成8年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 婦人科腫瘍学
2) 遺伝カウンセリング
研究分野
1) 婦人科腫瘍学



副部長（病院教授）（兼務）
門馬 智之

福島県立福島高等学校卒業
平成12年 佐賀医科大学卒業
臨床専門分野
1) 腫瘍外科（内視鏡外科、ロボット外科）
2) 遺伝性腫瘍
研究分野
1) 腫瘍学
趣味：芝生の手入れ、ラグビー



講師（兼務）
佐藤 真紀

宮城県立第一女子高等学校卒業
平成9年 福島県立医科大学卒業
平成14年 福島県立医科大学大学院修了
臨床専門分野
1) 周産期・新生児
研究分野
1) 新生児各種疾患におけるステロイド反応性に関する研究



講師（兼務）
郷 勇人

福島県立福島高等学校卒業
平成13年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 新生児
研究分野
1) 新生児慢性肺疾患
2) マイクロRNA



学内講師（兼務）
岡野 舞子

岩手県立盛岡第一高等学校
平成17年 福島県立医科大学医学部卒業
平成24年 福島県立医科大学大学院修了
臨床専門分野
1) 乳腺外科
2) 乳癌の薬物療法
3) 乳癌検診
研究分野
1) 腫瘍学

業務内容、メッセージ等

- 1. 診療内容**
 出生前診断をメインに、染色体異常、先天異常、遺伝性腫瘍、神経・筋疾患、骨系等、循環器、代謝など、あらゆる疾患の遺伝カウンセリングに対応します。2022年は新患が225件、再診は193件であり、合計418例の遺伝カウンセリングを行いました。
- 2. 診療体制**
 遺伝カウンセリングを担当するスタッフは、臨床遺伝専門医を持つ常勤医5名と非常勤2名、認定遺伝カウンセラーが非常勤1名、新型出生前診断を担当している非専門医の産婦人科医3名で主に診療をしています。院内外共に完全予約制です。
- 3. 臨床遺伝専門医の育成**
 当院は臨床遺伝専門医の研修施設になっています。現在、院内外に十数名の先生が登録し研修しています。臨床遺伝専門医を目指す修練医は、各診療科の専門医取得後に開始となります。遺伝カウンセリングへの陪席、定期的な症例検討会やセミナーで開催されるロールプレイへの参加などで研修しています。
- 4. 最後に**
 遺伝学的検査は、以前は1つの遺伝子を検査するだけで時間と費用を必要とし、かつ研究ベースでされていました。しかし現在は、パネル検査に代表されるように多数の遺伝子を網羅的・短時間・低価格、かつコマーシャルベースで提供されており、身近な検査となってきました。さらに癌の治療法を決定するコンパニオン診断として保険収載されるようになり、今後は益々遺伝カウンセリングの必要性は重要となってくるでしょう。興味のある方は、研修や実習の間に是非とも遺伝診療部を覗いてみて下さい。

部門紹介

2018年4月に東北大学病院の関連病院として国から「がんゲノム医療連携病院」の認定を受け、2019年1月に「がんゲノム医療診療部」を設立し、検査体制を整備・運営・支援してきました。

エキスパートパネルと呼ばれる、臨床やゲノム解析領域だけでなく多職種で構成されるチームによって、患者にとってより適した診療方針を検討する会議があり、その時に中心となって活躍する中央診療部門です。また、保険診療の検査については臨床情報を国へ登録するシステムとなっており、これも当部門で行っています。

指導医（スタッフ）紹介



部長（兼務）
佐治 重衡

岐阜県立岐阜北高校卒業
平成4年 岐阜大学医学部卒業
平成11年 岐阜大学大学院医学研究科修了
臨床専門分野
1) がんの薬物療法（特に乳がん）
研究分野
1) がん分子標的治療薬の臨床開発
2) 乳がんのホルモン療法
3) 核内受容体とステロイドホルモン
趣味：登山、マラソン、ウルトラマラソン



副部長（兼務）
齋藤 元伸

埼玉県立松山高等学校卒業
平成13年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 腫瘍外科（消化器・一般外科）
2) がんゲノム医療
研究分野
1) ゲノム生物学
2) 個別化医療の開発
趣味：ゴルフ、ジョギング、スイミング



副部長（兼務）
渡邊 尚文

福島県立福島高等学校卒業
平成8年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 婦人科腫瘍学
2) 遺伝カウンセリング
研究分野
1) 婦人科腫瘍学



学内講師（兼務）
鈴木 玲

福島県立原町高等学校卒業
平成16年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 消化器内科・一般内科
2) 胆膵疾患の診断と治療
研究分野
1) 胆膵癌の早期診断マーカーの検索に関する研究
2) 胆膵癌の抗癌剤感受性に関する研究
3) 新たな治療内視鏡に関する研究
趣味：読書、ランニング、サイクリング、スイミング



教授（兼務）
佐野 秀樹

福島県立会津高等学校卒業
平成6年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 小児血液・腫瘍
2) 造血細胞移植
3) 小児腫瘍病理
研究分野
1) 固形腫瘍の臨床試験開発
2) 難治性白血病に対する造血細胞移植



助教（兼務）
木村 礼子

京都府立南陽高校卒業
平成17年 福島県立医科大学卒業
平成26年 京都府立医科大学大学院修了
臨床専門分野
1) がんの薬物治療（特に消化器）
2) がん遺伝子パネル検査
3) 早期上部消化管癌の内視鏡診断
研究分野
1) 福島県がん罹患動向についての疫学的研究

部門紹介

- 1) 安全かつ効率的で高度な内視鏡診断・治療を目指している。
- 2) 診療は各協力診療科と共同で行い、研修は消化器内科の研修プログラムの中に内視鏡研修として組み込まれている。
- 3) 日本消化器内視鏡学会専門医の取得、そして優れた内視鏡専門医を養成する。

指導医(スタッフ)紹介



部長(病院教授)
引地 拓人

福島県立福島高等学校卒業
平成7年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 上部消化管腫瘍に対する内視鏡診断
ならびに内視鏡治療
2) 消化管疾患に対する超音波内視鏡 (EUS)
ならびにEUS-FNA
3) 食道・胃静脈瘤の内視鏡治療
研究分野
1) 上部消化管腫瘍に対する新たな内視鏡
診断ならびに治療法の開発
2) 超音波内視鏡下穿刺術の新たな手技の
開発
3) 新しい胃がん検診による胃癌死亡率
抑制効果の検証
趣味: 麺類食べ歩き、映画鑑賞、犬の散歩

学会活動

- 1) 日本内科学会: 認定専門医、指導医
- 2) 日本消化器内視鏡学会: 指導医、社団評議員
- 3) 米国消化器内視鏡学会: 国際会員
- 4) 日本消化器病学会: 指導医、学会評議員
- 5) 日本消化管学会: 胃腸科指導医、代議員
- 6) 日本カプセル内視鏡学会: 指導医、代議員
- 7) 日本門脈圧亢進症学会: 技術認定医 (内視鏡治療)、評議員
- 8) PEG・在宅医療学会: 学術評議員
- 9) 日本高齢消化器病学会: 評議員
- 10) 日本消化器がん検診学会: 認定医、代議員、東北支部幹事
- 11) 日本痔臓学会: 指導医
- 12) 日本肝臓学会: 専門医
- 13) 日本ヘリコバクター学会: H.pylori (ピロリ菌) 感染症認定医
- 14) 日本胃癌学会
- 15) 福島医学会



副部長(学内講師)
中村 純

山形県立米沢興譲館高等学校卒業
平成17年 福島県立医科大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 胃癌: 食道癌の内視鏡診断・治療
(ESD)
2) 食道アカラシアの診断・内視鏡治療
(POEM)
3) ESD関連治療手技 (LECSなど)
研究分野
1) 上部消化管 (食道・胃)
趣味: 無趣味



助手 柳田 拓実

福島県立安積黎明高等学校卒業
平成26年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 食道・胃・十二指腸疾患の内視鏡
診断・治療
研究分野
1) 胃癌に対する新規抗補体薬の開発
ならびに抗腫瘍効果の検証
趣味: ギター



助教 橋本 陽

福島県立橋高等学校(旧福島女子高等学校)卒業
平成23年 福島県立医科大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 上部消化管がんの内視鏡診断・治療
(ESD)
2) 胃粘膜下腫瘍の診断および内視鏡治療
(EUS, EUFS-FNA, LECS)
3) 食道アカラシアの診断・内視鏡治療
(POEM)
研究分野
1) 早期胃癌・食道癌の内視鏡診断
趣味: ピアノ



助手 加藤 恒孝

福島県立福島高等学校卒業
平成23年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 胃癌、食道癌の内視鏡診断と治療
2) 食道胃静脈瘤の診断と治療
研究分野
1) 早期胃癌の内視鏡診断
趣味: 育児

URL <http://www.fmu.ac.jp/home/naishifh/index.html>



超音波内視鏡下穿刺吸引法 (EUS-FNA)



早期胃癌に対する内視鏡粘膜下層剝離術 (ESD)



経口内視鏡的筋層切開術 (POEM)

消化器内視鏡専門医の受験資格

- 1) 日本国の医師免許証をもっていること。
- 2) 本学会会員であること。
- 3) 卒業年（医師免許取得年）が2016年～2018年の方で2023年3月末日をもって指導施設または指導連携施設において「専攻医研修カリキュラム登録システム」の研修が全て修了（達成率100%）し、指導医から承認を得ていること。
- 4) 申請時において認定内科医または総合内科専門医、内科専門医、外科専門医または外科認定登録医、放射線科専門医、小児科専門医、救急科専門医、臨床検査専門医のいずれかの資格を有すること。

指導医の申請資格

- 1) 専門医の資格を取得後、3年以上経過しているもので、申請時に指導施設または指導連携施設において常勤していること、かつ消化器内視鏡による診療に従事し、豊富な学識と経験を有し、指導能力を有すること。但し、所属施設が指導施設または指導連携施設に認定されていない場合でも、指導施設または指導連携施設と指導医を同時に申請する場合は、申請可能とする。
- 2) 申請時において8年以上継続本学会員として、消化器内視鏡に関する診療及び研究活動を行っていること。

研修のための教育計画書

1. 内視鏡機器取り扱いに関する知識の習得
2. 内視鏡検査法の基礎知識の習得
 - 1) 内視鏡検査の適応と禁忌の把握
 - 2) 患者とのコミュニケーションおよびインフォームド・コンセント
 - 3) 救急患者に対する初歩的なプライマリーケアの習熟
 - 4) 前処置、前投薬の必要性と注意点
 - 5) 用いる機器や器具の正しい選択と点検
 - 6) 内視鏡検査・内視鏡治療における偶発症とその対策法の把握
3. 内視鏡検査法の基本手技の習得
 - 1) 内視鏡挿入法のポイント
 - 2) 内視鏡観察上のポイント
 - 3) 病変部位の正しい生検法の習得
 - 4) ERCPの基本手技の習得
4. 各種の内視鏡治療における安全かつ効果的な手技の習得
 - 1) 内視鏡治療を始める前に
 - ① 各種内視鏡治療における適応、禁忌、起こり得る偶発症の把握が重要である。
 - ② 各種内視鏡治療は、内視鏡検査を数多く経験し、内視鏡手技に熟練した者が施行すべきであり、術中に合併症が生じた場合には速やかに適切な処置を行える者でなくてはならない。はじめて内視鏡治療を施行する場合は、あらかじめ経験豊富な術者の下で助手を経験し、経験豊富な術者の指導下で行う。
 - ③ 各種内視鏡治療の習得は、はじめは簡単な手技から始め、数多く経験を積んだ後に、さらに高度な手技を要する内視鏡治療へと進めて行く。
5. 各種内視鏡治療手技の習得
 - 1) 食道・胃静脈瘤に対する治療法（硬化療法、結紮術など）
 - 2) 潰瘍出血に対する内視鏡的止血法：エタノール局注法、クリップ止血法など
 - 3) ポリペクトミー
 - 4) 内視鏡的粘膜切除術（EMR）、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）：表在食道癌、早期胃癌、大腸腫瘍など
 - 5) 内視鏡的筋層切開術（POEM）
 - 6) 内視鏡的乳頭切開術（EST）、截石術
 - 7) 内視鏡的胆管ドレナージ（EBD、EMS、ENBD）

- 8) 内視鏡的膵管ドレナージ
- 9) 内視鏡的経皮胃瘻造設術（PEG）
- 10) 異物除去
- 11) 超音波内視鏡関連手技

指導医からのメッセージ

消化器内視鏡は、近年目覚ましい進歩をとげており、出血性胃潰瘍や早期食道癌・胃癌・大腸癌、食道胃静脈瘤、胆管結石など、これまで外科手術でしか治せなかった疾患や内視鏡治療が困難であった疾患も、経口的な内視鏡手術で、安全かつ確実に治せる時代になっています。

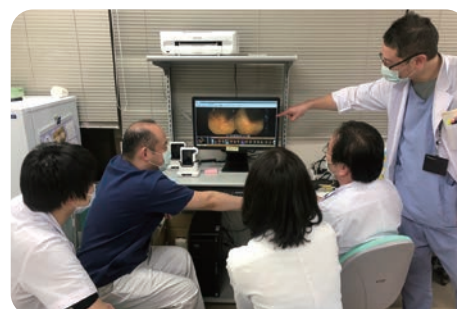
内視鏡診療部は、2005年10月に設置された診療部門で、日本消化器内視鏡学会の指導医や専門医が在籍しています。安全かつ効率的で高度な内視鏡診断・治療を目指して、消化器内科や消化管外科をはじめとする各診療科の先生方と共に、日々の診療を行っています。2022年の1年間の内視鏡件数は、上部消化管4,876件、下部消化管2,240件、胆膵（ERCPなど）350件、シングルバルーン小腸内視鏡49件、カプセル内視鏡35件で、合計7,550件でした。

内視鏡診療部で私たちと仕事をする事により、消化器内視鏡学会の専門医を取得することが可能です。しかし、新専門医制度によって、消化器内視鏡専門医を取得するためには、内科医であれば、福島医大の内科専門医コースのカリキュラムにそって研修を行い、まずは内科専門医の取得が必要です。その上で、消化器病学会のカリキュラムにそった研修を開始して1年後、消化器内視鏡学会のカリキュラムにそって研修を行うこととなります。現在、消化器内視鏡専門医を取得している医師は、内視鏡診療部のほかに、消化器内科、消化管外科に所属をしています。したがって、それぞれの講座に所属しながら、内視鏡診療部内で消化器内視鏡研修を行っていただきます。

皆さんも、私達と一緒に、消化器内視鏡の未来を築いていきましょう。



腹腔鏡・内視鏡合同手術（LECS）



カプセル内視鏡の読影

部門紹介

- 1) 患者さんの障害をアツかい、ADLとQOLを上げるための部門です。
- 2) 全ての領域のリハビリテーションを行っています。
- 3) 病気に伴う二次障害である廃用症候群を予防・治療します。

指導医(スタッフ)紹介



部長(准教授)(兼務)
大内 一夫

福島県立福島高等学校卒業
平成3年 福島県立医科大学卒業
平成17年 医学博士取得
臨床専門分野
1) 足の外科、靴医学、リハビリテーション
医学研究分野
1) 足の解剖
2) 骨のコラーゲンファイバーの配向性
3) 靴による足の障害
主な研修病院：奈良県立医科大学



教授 森下慎一郎
(保健科学部 兼務)

清風高校(大阪府)卒業
平成9年 神戸総合医療専門学校卒業 理学療法士
平成16年 佛教大学社会学部社会福祉学科卒業
平成24年 兵庫医科大学大学院医学系研究科修了 医学博士
臨床専門分野
1) 内部障害全般
研究分野
1) がんのリハビリテーション
2) 運動生理学
趣味：読書、散歩



教授 神先 秀人
(保健科学部 兼務)

洛星高等学校(京都府)卒業
昭和56年 東京都立府中リハビリテーション専門学校卒業
昭和63年 立命館大学人文学科卒業
平成21年 神戸大学大学院後期課程修了
臨床専門分野
1) 骨関節障害(下肢)
2) 高齢者の介護予防
研究分野
1) 歩行分析等を中心とした動作の運動学・運動力学的分析
趣味：美味しい料理を食べ美味しい酒を飲む(お金と時間の許す範囲で…)



准教授 横塚美恵子
(保健科学部 兼務)

栃木県立佐野女子高等学校卒業
平成5年 信州大学医療技術短期大学部卒業 理学療法士
平成14年 博士(障害科学) 東北大学
臨床専門分野
1) 理学療法
研究分野
1) 地域理学療法
2) 物理療法



教授 五百川和明
(保健科学部 兼務)

新潟県立巻高等学校卒業
平成3年 国立療養所犀潟病院附属リハビリテーション学院卒業 作業療法士
平成28年 東北大学大学院医学系研究科修了 博士(障害科学)
臨床専門分野
1) 作業療法
研究分野
1) 作業時の心血管反応
2) 脳卒中患者の機能予後



准教授 澄川 幸志
(保健科学部 兼務)

島根県立益田高等学校卒業
平成17年 弘前大学卒業
平成19年 弘前大学大学院医学系研究科保健学専攻(修士課程)修了
平成24年 弘前大学医学研究科医学専攻(博士課程)修了
臨床専門分野
1) 身体障害
2) 高齢期障害
研究分野
1) 作業活動の心理的効果に関する研究
2) 作業療法の養成教育に関する研究
趣味：DIY、旅



教授 高橋 仁美
(保健科学部 兼務)

秋田県立角館高等学校卒業
昭和58年 社会医学技術学院理学療法学科卒業
平成23年 秋田大学大学院医学系研究科修了 博士(医学)
臨床専門分野
1) 呼吸理学療法を中心とした内部障害理学療法
2) 運動器理学療法
研究分野
1) 呼吸リハビリテーション
2) COPD患者の身体活動性
趣味：居酒屋探索、横笛演奏(飾山囃子)



准教授 藤田 貴昭
(保健科学部 兼務)

新潟県立三条高等学校卒業
平成18年 山形県立保健医療大学卒業
平成29年 群馬大学大学院修了
臨床専門分野
1) 身体障害作業療法
研究分野
1) 脳卒中リハビリテーション
趣味：釣り、麻雀



教授 柴 喜崇
(保健科学部 兼務)

長野県松本丘高等学校卒業
昭和63年 国立療養所東京病院付属リハビリテーション学院理学療法学科卒業
平成19年 桜美林大学大学院国際学研究所博士後期過程老年学専攻卒業
臨床専門分野
1) 理学療法
2) リハビリテーション医学
研究分野
1) 老年学/死生学
2) 予防
3) アクションリサーチ
趣味：随時更新



講師 川又 寛徳
(保健科学部 兼務)

福島県立磐城高等学校卒業
平成15年 東京都立保健科学大学卒業 作業療法士
平成27年 博士(作業療法士) 首都大学東京
臨床専門分野
1) 作業療法
研究分野
1) 作業行動学
2) 高齢者へのヘルスプロモーション



学内講師 **佐藤 崇匡**
(循環器内科学講座 兼務)

宮城県立仙台第一高等学校卒業
平成14年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 循環器内科
2) 心臓リハビリテーション
研究分野
1) 心不全
2) 運動生理学



助教 **三橋 佑平**
(保健科学部 兼務)

北海道立室蘭栄高等学校卒業
平成25年 弘前大学医学部保健学科
作業療法学専攻卒業 作業療法士
平成30年 弘前大学大学院保健学研究科修了
修士(保健学)
臨床専門分野
1) 作業療法
研究分野
1) 心疾患患者の心理面に関する要因の検討



学内講師 **小俣 純一**
(保健科学部 兼務)

函館東高等学校(北海道)卒業
平成16年 千葉リハビリテーション学院
(北海道)卒業
臨床専門分野
1) 運動器
研究分野
1) 脊椎・腰痛・解剖
趣味：e-sports



助教 **田中 善信**
(保健科学部 兼務)

滝川高等学校(北海道)卒業
平成22年 文京学院大学(東京都)卒業
臨床専門分野
1) 作業療法(小児領域)
研究分野
1) 発達障害児の作業療法、地域療育
趣味：料理、スノーボード、DIY



副部長(助手)(兼務)
佐藤 真理

栃木県宇都宮女子高等学校卒業
平成22年 群馬大学医学部 医学科卒業
臨床専門分野
1) リハビリテーション全般
趣味：ランニング

部門紹介

近年がん治療はますます高度化し、個別化医療の時代が到来しています。がん診療にかかわる者には、ますます高度な知識と実践能力が必要とされています。当部門では、がん患者さんが安心して快適にがん治療を受けられるようさまざまな取り組みを行っております。外来化学療法センターの運営を中心として、院内で実施される全ての化学療法が安全に行われるよう、各がん腫の化学療法プロトコルの管理、化学療法実施規準の策定と改善、各科で実施されている腫瘍カンファランス（Cancer board）の運営補助など、がん診療に携わる医療スタッフの横断的サポートを行っております。また、治療にまつわる悩みや金銭的な問題、治療環境の整備など、がん患者さんがかかえるいろいろな問題に対するがん相談支援センター、地域連携パスの運用なども行っております。当院でのがん診療状況を網羅的に記録していく院内がん登録も重要な部門です。放射線治療部門、小児腫瘍部門、そして緩和ケアチームを運営する緩和ケアセンター部門のような専門性の高い診療チームと連携して福島県立医科大学附属病院のがん診療を支えています。

指導医（スタッフ）紹介



センター長（兼務）
腫瘍内科学講座 主任教授
佐治 重衡

岐阜県立岐阜北高校卒業
平成4年 岐阜大学医学部卒業
平成11年 岐阜大学大学院医学研究科修了
臨床専門分野
1) がんの薬物療法（特に乳がん）
研究分野
1) がん分子標的治療薬の臨床開発
2) 乳がんのホルモン療法
3) 核内受容体とステロイドホルモン
趣味：登山、マラソン、ウルトラマラソン

主な業務内容

- 1 外来化学療法室の支援と整備
- 2 院内がん化学療法のプロトコル審査および標準化の支援
- 3 緩和医療の推進とがん患者さんに対する相談支援
- 4 院内がん登録の推進
- 5 地域医療連携パスの支援
- 6 医療スタッフ・学生への教育支援活動
- 7 都道府県がん拠点病院としての窓口



次長（兼務）
呼吸器内科学講座 講師
金沢 賢也

神奈川県立厚木高等学校卒業
平成6年 福島県立医科大学医学部卒業
平成13年 医学博士
臨床専門分野
1) 肺癌、胸部悪性疾患
2) 呼吸器インターベンション
研究分野
1) がん薬物療法の開発
趣味：横紋筋（主に骨格筋）と脳神経（主に大脳皮質）のメンテナンス

部門からのメッセージ

臨床腫瘍センターは平成19年に開設され、がん診療に関する大切な業務に幅広くかかわっています。患者さんへの治療や生活への支援プログラムが中心ですが、教育活動についてもがんプロフェッショナル養成支援プログラムの運営もしています。がん診療のスキルアップに興味のある方は、どうぞお気軽に御相談下さい。



次長（兼務）
麻酔科学講座 講師
佐藤 薫

石川県立小松高等学校卒業
平成7年 福島県立医科大学卒業
平成16年 福島県立医科大学大学院修了
研修病院・研修施設
福島県立医科大学附属病院、太田西ノ内病院
臨床専門分野
1) 緩和医療
2) ペインクリニック
研究分野
1) 心臓の虚血再還流障害とエクトヌクレオチダーゼの関連について
趣味：スキー



臨床腫瘍センター（兼務）
腫瘍内科学講座 助教
木村 礼子

京都府立南陽高校卒業
平成17年 福島県立医科大学卒業
平成26年 京都府立医科大学大学院修了
臨床専門分野
1) がんの薬物治療（特に消化器）
2) がん遺伝子パネル検査
3) 早期上部消化管癌の内視鏡診断
研究分野
1) 福島県がん罹患動向についての疫学的研究

部門紹介

妊娠、分娩、子育て、そして健やかな老後と、女性が健康な一生を過ごす上で必要な医療支援を行なうことをコンセプトに、平成28年4月に新設された全国でも例のないセンターです。全国からトップレベルの医師を招聘し、福島県の周産期医療、女性医学、小児医療の支援と優れた人材育成を行ないます。

指導医（スタッフ）紹介



センター長
高橋 俊文

山形県立山形東高等学校卒業
平成2年 山形大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 生殖内分泌
2) 不妊症
3) 婦人科内視鏡下手術
研究分野
1) 卵子の老化に関する研究
2) 女性医療の均てん化に関する研究



教授
横山 浩之

宮城県仙台第一高等学校卒業
昭和62年 東北大学医学部卒業
平成6年 東北大学大学院医学系研究科卒業
臨床専門分野
1) 小児神経学
研究分野
1) 子どもの行動異常（発達障害、精神障害）の治療的介入の開発
2) 上記の早期発見、早期介入に関するシステム構築の研究



教授
西郡 秀和

東京学芸大附属高等学校卒業
平成5年 群馬大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 周産期医学
2) 遺伝カウンセリング
研究分野
1) 周産期環境と子どもの神経発達に関する研究
2) 周産期メンタルヘルスに関する研究
3) DOHaD



特任教授
神保 正利

聖光学院中学校高等学校（神奈川）卒業
平成4年 昭和大学医学部卒業
平成8年 昭和大学産婦人科大学院卒業
臨床専門分野
1) 周産期医療
研究分野
1) 災害時の産科医療教育プログラムと妊産婦行動支援のための情報ツールの開発

主な業務内容、メッセージ

福島県の産婦人科医、小児科医不足を解消することを目的に、平成28年4月に新設された部門です。

センターは「福島県に住む女性が安心して子どもを産み、育み、そして健康な一生を過ごすための医療支援を行う」ことをコンセプトとしています。

当大学の産科婦人科学講座、小児外科、小児科学講座と密接に連携をとりながら県内の産婦人科・小児科医療の高度化及び研修医の教育強化を行う全国でも類のないonly oneの施設です。

産婦人科・小児科を志す学生・研修医の皆さん、ぜひ私たちと共に新しい産科婦人科学・小児科学の発展に尽くしませんか。

福島県に住む女性が健康な一生を過ごすための医療支援をしながら、安心して子どもを産み、育てる環境をつくりま

小児科医・産婦人科医の招へいと定着とともに、小児科、小児外科、産婦人科が連携し、女性の一生を通じた診療体系を構築します。



部門紹介

- 1) 生殖医療分野の技術革新・応用分野の拡大に併せ、従来の生殖医療（不妊治療）のみならず、妊孕性温存療法や着床前スクリーニング等に幅広く対応する診療部門です。
- 2) 「安心して妊娠・出産・育児のできるふくしま」の実現にむけ、県民の皆様に高水準の生殖医療を提供すると共に、「不妊専門相談センター」を開設し広く県民の皆様の生殖医療に関するお悩みにお答えします。
- 3) 国内初の卵細胞質内精子注入法（ICSI）の成功施設として、今後も難治性不妊症に対する治療方法の確立に向け、基礎研究・臨床研究を行っていきます。

指導医（スタッフ）紹介



部長（兼務）
菅沼 亮太

常総学院高等学校（茨城県）卒業
平成9年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 生殖医療
研究分野
1) ICSI後受精障害に関する研究
2) 生殖補助医療の最適化に関する研究



副部長（兼務）
高橋 俊文

山形県立山形東高等学校卒業
平成2年 山形大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 生殖内分泌
2) 不妊症
3) 婦人科内視鏡下手術
研究分野
1) 卵子の老化に関する研究
2) 多嚢胞性卵巣症候群の診断・治療に関する研究



副部長
佐藤 雄一

平成19年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 泌尿器悪性腫瘍
2) 小児泌尿器疾患
3) 泌尿器内視鏡手術
研究分野
1) 前立腺肥大

● 主な業務内容、メッセージ等

生殖医療センターは令和元年に開設されました。生殖医療内科医、生殖医療外科医、胚培養士、生殖医療看護師、不妊カウンセラー、原疾患治療医など多職種のメンバーによる多角的なサポート体制で診療を行っています。

日本生殖医学会生殖医療専門医取得に関して

当院は認定研修施設です。日本産科婦人科学会認定産婦人科専門医あるいは日本泌尿器科学会認定泌尿器科専門医を取得後に研修開始となります。研修開始申請時に2年以上の会員歴を有する日本生殖医学会会員である必要があります。3年間の研修期間の内の1年間以上、認定研修施設に専任で所属の上で研修を行う必要があります（その他詳細は遠慮なくお問い合わせください）。

- 1) H20. 4月「女性専門外来」から、「性差医療センター」となりました。臨床では、女性特有の病態、日常生活の不調などに注目し、患者のQOLを上げることが目標としています。
- 2) 性差に基づく県民への健康支援また地域啓発活動を行います。
- 3) 性差に関するあらゆる病態に興味をもち、性差医療に関する研究を行います。

指導医（スタッフ）紹介



部長(教授)
小宮ひろみ

福島県立安積女子高等学校卒業
昭和61年 山形大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 生殖内分泌
2) 女性医学
3) 性差医療
4) 漢方医療
研究分野
1) 生殖内分泌

主な業務内容、メッセージ等

完全予約制で30分の診察枠をとり、内科、外科、心身医療科、婦人科の女性医師が担当します。患者の訴えを傾聴し、その後、必要な検査・治療を行います。複数科の女性医師が担当していることから連携を密にするとともに、専門診療科での治療が必要である場合は紹介いたします。

開設以来、乳癌、更年期障害、うつ、漢方などのセミナー開催や、年に1回医療関係者及び一般県民を対象に、「福島県性差医療セミナー」を開催し性差医療への理解を深めています。

「性差医療」とは

- 1) 男女比が圧倒的にどちらかに傾いている病態
 - 2) 発症率は同じでも男女間で臨時的に差をみるもの
 - 3) いまだ生理的、生物学的解明が男性、女性で遅れている病態
 - 4) 社会的な男女の地位と健康の関連などに関する研究
- 以上の解明をすすめ、疾病の診断、治療法、予防措置に反映する医療です。

当センターでは「性差医療」をEvidence-based medicineとして発展させること、及びNarrative-based medicineを実践し患者に寄り添う医療を提供することを目指します。また、性差医療には多くの研究テーマが残されています。これまでの医療を性差という観点から見直していませんか？ 新たな発見があるかもしれません。

小児・AYA(思春期若年成人)がん長期支援センター

部門紹介

- 1) 治療後の身体的晩期合併症に対する評価と治療・フォローアップを行います。
- 2) 心理社会的晩期合併症に対する評価と教育・就労・自立に向けた支援、その他必要とする支援を行います。
- 3) 生殖医療（情報提供と相談支援、妊孕性温存（精子保存、卵子保存）、性腺障害と妊孕性低下に対する温存治療）を行います。

指導医（スタッフ）紹介



部長(教授)(兼務)
佐野 秀樹

福島県立会津高等学校卒業
平成6年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 小児血液・腫瘍
2) 造血細胞移植
3) 小児腫瘍病理
研究分野
1) 固形腫瘍の臨床試験開発
2) 難治性白血病に対する造血細胞移植



副部長(教授)(兼務)
石田 隆史

広島学院高等学校卒業
昭和62年 広島大学医学部医学科卒業
臨床専門分野
1) 循環器内科一般
2) 腫瘍循環器
3) 動脈硬化
研究分野
1) 心血管疾患とDNA損傷



副部長(教授)(兼務)
鈴木 悟

私立桐朋高等学校（東京都）卒業
昭和63年 信州大学医学部医学科卒業
臨床専門分野
1) 糖尿病内分泌代謝
2) 加齢医学
研究分野
1) 甲状腺ホルモン輸送、作用



副部長(教授)(兼務)
高橋 俊文

山形県立山形東高等学校卒業
平成2年 山形大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 生殖内分泌
2) 不妊症
研究分野
1) 卵子の老化

部門紹介

手術室は、外科系、内科系を問わず、すべての診療科が手術や痛みなどの苦痛をともなう検査を行う場所です。手術部はこれらの侵襲的な診療が安全に、かつ円滑に行える環境を提供します。

指導医（スタッフ）紹介



部長(准教授)
小原 伸樹

岩手県立盛岡第一高等学校卒業
平成12年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 麻酔一般
2) ペインクリニック
3) 集中治療
研究分野
1) 静脈麻酔薬・鎮痛薬の薬物動態・薬力学的研究
趣味：マラソン



副部長(助手)(兼務)
大石理江子

福島県立福島女子高等学校卒業
平成18年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 麻酔一般、ペインクリニック
研究分野
1) 経皮的トータルヘモグロビン測定機器の精度検証
2) Cadaverを用いた耳介側頭神経ブロックの方法の検討
趣味：電車の旅

講座・部門からのメッセージ

患者さんが安全に、かつ安心して、手術を中心とした侵襲的な診療を受けられることを最優先にしています。その上で、最先端で高難度な診療が円滑に効率よく行えるように、医師・60名以上の看護師・臨床工学技士・放射線技師・薬剤師・看護助手・受付スタッフ・事務系職員がチーム医療を推進しています。医療技術の進歩に対応すべく、平成29年秋から最新の血管造影装置による血管内治療が可能な手術室（ハイブリッド手術室）、MRI装置を導入した手術室（MRI手術室）、無菌手術室の3室が増設・稼動し、同フロア14室および眼科用2室で運営しています。

臨床研究教育推進部

部門紹介

- 1) 臨床疫学研究発信のための「本質的な素養」を系統的に教育し、研究のデザインと可視化を支援します。
- 2) 医大と関連病院を支援する医療者の皆様に、7つのステップで臨床研究計画を完成させるための「研究デザイン学」を提供しています。
- 3) 医療者の皆様と大学院の学生に、独力で臨床データ解析を実行可能とするための講義・ハンズオン実習を提供しています。

指導医（スタッフ）紹介



部長(特任教授)
栗田 宣明

私立開成学園 開成高校（東京都）卒業
平成16年 東京大学医学部医学科卒業
平成26年 京都大学大学院医学研究科卒業
（医学博士取得）

臨床専門分野
1) 内科（腎臓内科）
2) 透析医療
研究分野
1) 診療データから治療効果を推定する研究
2) 診断・予測支援ツールの開発研究



副部長(特任教授)
大前 憲史

私立灘高等学校（兵庫県）卒業
平成15年 名古屋大学医学部医学科卒業
令和2年 京都大学大学院医学研究科卒業
（社会健康医学博士取得）

臨床専門分野
1) 泌尿器科
研究分野
1) 泌尿器科学・老年医学領域の臨床疫学研究
2) エビデンスの質を評価するためのメタ疫学研究

主な業務内容、メッセージ等

- ・私達は、医療現場での素朴な疑問を、「臨床疫学研究」として回答可能な形に収斂するための教育・支援を行っています。
- ・①診療実態を明らかにする研究、②診察・検査の診断性能を評価する研究、③治療・予防法の効果を評価する研究など、様々あります。
- ・具体的な教育コンテンツや研究活動・実績に御関心ある方は、下記ページをご覧ください。

部局HP <https://direct.fmu.ac.jp>
遠隔学習サイト <https://direct.fmu.ac.jp/moodle/>

部門紹介

- 1) 「母体・胎児部門」と「新生児部門」からなり、互いに連携して高度な周産期医療を必要とする妊婦、新生児の治療を行っています。
- 2) 県内の周産期医療システムの中核として、医療の質の向上と円滑な運営維持のため、地域周産期母子医療センターや周産期医療協力施設と連携を図っています。
- 3) さらに、母子相互愛着形成を促進するための環境整備にも積極的に取り組んでいます。

指導医(スタッフ)紹介



副部長
(周産期小児地域医療支援講座教授)
桃井 伸緒

福島県立福島高等学校卒業
昭和60年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 小児循環器
研究分野
1) 先天性心疾患
2) カテーテル治療



学内講師
小笠原 啓

高知学芸高等学校卒業
平成14年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 新生児
研究分野
1) 新生児学
2) 亜鉛
3) カフェイン
趣味：ジョギング



講師 **山口 明子**

千葉県立東葛飾高等学校卒業
平成13年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 生殖内分泌
研究分野
1) 生殖内分泌



准教授 **安田 俊**

栃木県立宇都宮高等学校卒業
平成16年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 周産期医学
研究分野
1) 周産期医学
2) 胎児生理学



講師 **郷 勇人**

福島県立福島高等学校卒業
平成13年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 新生児
研究分野
1) 新生児慢性肺疾患
2) マイクロRNA



助手 **松岡 亮**

福島県立福島高等学校卒業
平成30年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 産科婦人科学
研究分野
1) 産科婦人科学
趣味：キャッチボール

主な業務内容、メッセージ等

母体・胎児部門は、母体・胎児集中治療室(MFICU)として6床あり、産科病棟と併せて産科で管理されています。県内全域からのハイリスク妊婦や病的胎児の管理、異常分娩・産褥などの高度周産期管理を行い、妊婦、胎児に安全かつ効果的な治療を行っています。また、研究分野でも、早産や胎児生理学の研究は高い評価を得ています。

新生児部門は、新生児集中治療室(NICU)15床、専用後方病床(GCU)12床で構成されています。県内全域から高度な医療を必要とする、特に超低出生体重児や先天性心疾患の児を中心に受け入れています。県内の他施設や、院内の関連各科と連携して質の高い医療を提供すると共に、入院児と家族との繋がり、児の発達促進も重視しています。

痛み緩和医療センター

部門紹介

- 1) 臨床：あらゆる手術の周術期管理、痛みの緩和、重症患者救命のための集中治療によって、患者のQOLの向上を目指す。
- 2) 研究：基礎医学と共同し、生命科学の最先端を探究する。
- 3) 研修：研修医は麻酔だけにとどまらず、集中治療やペインクリニックの研修も行い、付加価値を持った麻酔科医を養成する。

指導医(スタッフ)紹介



副部長(准教授)(兼務)
小原 伸樹

岩手県立盛岡第一高等学校卒業
平成12年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 麻酔一般
2) ペインクリニック
3) 集中治療
研究分野
1) 静脈麻酔薬・鎮痛薬の薬物動態・薬学的研究
2) 局所麻酔中毒
趣味：マラソン

指導医からのメッセージ

痛みに対する集学的な治療と研究を行うことを目指しています。

医療安全管理部は平成15年4月に設置され、医療事故防止対策の業務を行っています。毎月、医療安全管理委員会やリスクマネージャー会議を開催し、医療事故防止に関する対策の検討、立案、実施、履行確認及び医療安全情報の院内への周知を図っています。高水準の医療は、高い技術のみならず安全確保によりはじめて達成されます。しかし医療は高度化するほどリスクを伴い、また結果の完全を保证するものではありません。一方、事故を危惧するあまり萎縮するばかりでは救える人も救えなくなり、反って危険性が増大します。患者さん中心の医療と説明・納得が重要です。我々は真の医療安全とは何かを日々模索しております。

指導医（スタッフ）紹介



部長 大塚 幹夫

東京都立九段高等学校卒業
平成4年 福島県立医科大学医学部卒業
日本皮膚科学会認定皮膚科専門医
日本皮膚科学会認定皮膚悪性腫瘍指導専門医
臨床専門分野
1) 皮膚悪性腫瘍の治療
2) 皮膚リンパ腫の治療
3) 熱傷
研究分野
1) 皮膚悪性腫瘍の臨床病態



副部長（兼務）
岡野 舞子

岩手県立盛岡第一高等学校
平成17年 福島県立医科大学医学部卒業
平成24年 福島県立医科大学大学院修了
臨床専門分野
1) 乳腺外科
2) 乳癌の薬物療法
3) 乳癌検診
研究分野
1) 腫瘍学



副部長（兼務）木村 浩

福島県立福島高等学校卒業
平成18年 福島県立医科大学医学部卒業
平成27年 福島県立医科大学大学院修了
令和4年 京都大学大学院医学研究科
社会健康医学系専攻MCRコース修了
臨床専門分野
1) 腎臓病、高血圧
研究分野
1) 大規模データベースを用いた慢性腎臓病
進行抑制に関する因子の疫学的研究
趣味：旅行、英会話



副部長（兼務）小野 敦史

福島県立会津高等学校卒業
平成16年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 小児科
2) 小児腎臓病
研究分野
1) 慢性腎炎
趣味：ジムカーナ（JAFモータースポーツ）

患者サポートセンター

部門紹介

1) 地域の医療機関と連携し、紹介患者さんの受入れ、当院からの患者さんの紹介を行っています。
2) 早期から多職種と連携し、入院前から退院まで切れ目のない支援を行うP.F.M. (patient flow management) の実施により、患者さんがいつでも最新最良の医療、継続性のある適切な医療を受け、退院後も自分らしく、安心して療養生活を送っていただけるようサポートいたします。

指導医（スタッフ）紹介



部長（病院教授）門馬 智之

福島県立福島高等学校卒業
平成12年 佐賀医科大学卒業
臨床専門分野
1) 腫瘍外科（内視鏡外科、ロボット外科）
2) 遺伝性腫瘍
研究分野
1) 腫瘍学
趣味：芝生の手入れ、ラグビー



副部長（准教授）（兼務）高木 忠之

福島県立磐城高等学校卒業
平成9年 秋田大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 消化器内科、胆膵疾患
2) 消化器内視鏡治療
研究分野
1) 膵癌の診断と治療
2) 新たな内視鏡手技の開発
3) 食道・胃静脈瘤の内視鏡診断と治療



副部長（講師）（兼務）立花和之進

福島県立安積高等学校卒業
平成16年 福島県立医科大学医学部卒業
平成24年 福島県立医科大学医学部大学院修了
臨床専門分野
1) 乳腺外科
2) 乳癌の薬物療法
3) 乳癌検診
研究分野
1) 腫瘍学
趣味：芝生の管理、将棋

指導医からのメッセージ

患者サポートセンターでは、医師、看護師、ソーシャルワーカー、事務が互いに協力し合い、適切な医療を提供するために、院内及び地域の保健・医療・福祉機関等との密接な連携に努めています。それぞれの持つ機能をより効率的に分担、運用していくことで、地域の医療水準の向上に貢献していきたいと考えております。

福島復興を医療面から支える

ふくしま国際医療科学センター

福島復興を医療面から支え、

震災で得た経験や教訓を世界と共有できる未来を目指します。

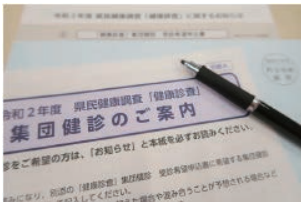
ふくしま国際医療科学センター センター長 挾間 章博



ふくしま国際医療科学センターは、福島復興計画にも位置づけられており、地域社会を医療という分野から再生・活性化し、その復興の姿を世界に向けて発信するための組織として設置されました。本センターには、県民の健康の見守り、先端研究の推進と産業復興、高度医療の提供という3つの役割があり、5つのセンターと2つの部門、ふたば医療支援（ふたば救急総合医療支援センターとして活動）から構成されています。放射線医学県民健康管理センター、健康増進センターでは東日本大震災および原発事故後の県民の健康状態を長期に渡って見守り、県民の健康増進と健康寿命の延伸を目指しています。医療-産業トランスレーショナルリサーチセンター、先端臨床研究センターでは、新しい診断・検査薬、治療薬を開発して医療産業を育て地域復興につなげます。先端診療部門、甲状腺・内分泌センターでは、先進的な医療機器を用いて病気を早期に発見し、各分野が協力して高度で専門的な医療を提供しています。また教育・人材育成部門では、各センターと部門を支え国際機関とも連携して次世代を担う医療人を育成します。

震災そして原発事故から得た経験や教訓を世界の人々と共有し、後世に残していかなければなりません。ふくしま国際医療科学センターに課せられた使命を達成できるよう、たゆまぬ努力を続ける所存です。

県民の健康の見守り



放射線医学県民健康管理センター



健康増進センター

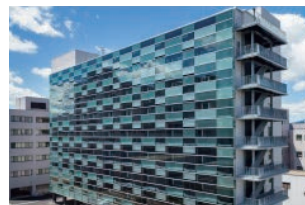


ふたば医療支援

先端研究の推進と産業復興



先端臨床研究センター



医療-産業トランスレーショナルリサーチセンター

高度医療の提供



甲状腺・内分泌センター



先端診療部門

次世代を担う医療人の育成



教育・人材育成部門

東日本大震災に伴い発生した東京電力福島第一原子力発電所の事故による放射性物質の拡散や避難等の影響を踏まえ、福島県は「県民健康調査」を行ってきました。当センターは、福島県の委託を受けてこの調査の実施を担い、県民の健康状態の把握から適切な予防、治療や支援へとつなげ、長期にわたる県民の健康を見守っています。調査の実施に当たっては、国内外の大学や研究・行政機関、学術団体等の協力と支援をいただきながら、本調査の充実、発展に努めております。



センター長

安村 誠司

昭和63年 山形大学医学部卒

専門分野

疫学(災害医学)、公衆衛生学、老年学、生活習慣病予防等

調査開始から12年を経て、「適切な支援のために調査を行う」という原点に立ち返るとともに、令和5年度からスタートした福島国際研究教育機構(F-REI)が取り組む「原子力災害に関するデータや知見の集積・発信」に関する研究を通して情報発信にも力を入れていきます。

今後とも、県民の健康維持・増進の実現のために、本調査がより良い調査となるよう努めてまいります。

適切な支援と積極的な情報発信により
県民の健康維持・増進の実現に貢献する

1 調査の目的

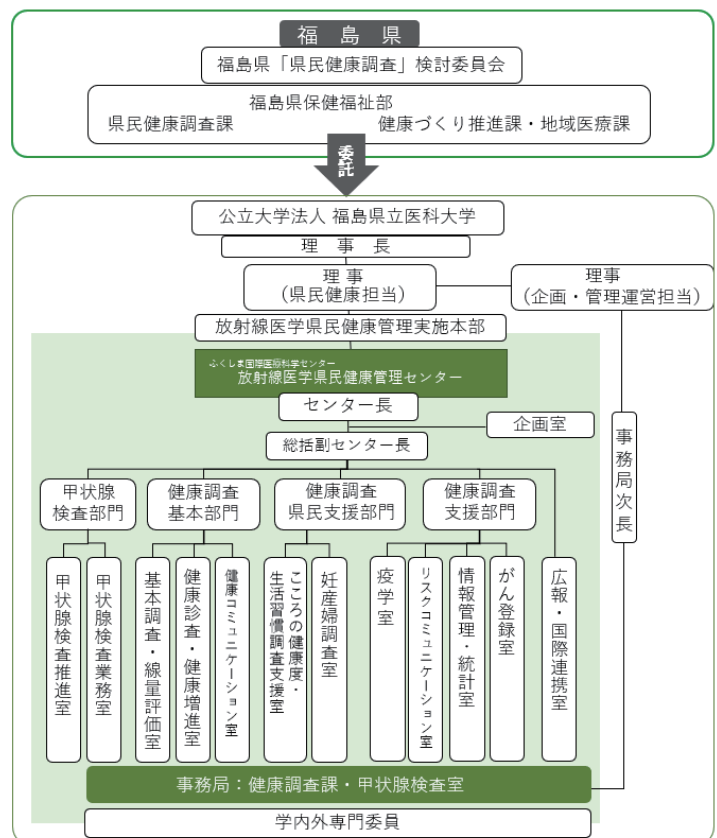
東京電力福島第一原子力発電所の事故による放射性物質の拡散や避難等を踏まえ、県民の被ばく線量の評価を行うとともに、県民の健康状態を把握し、疾病の予防、早期発見、早期治療につなげ、将来にわたる県民の健康の維持、増進を図ることを目的としています。

2 推進体制

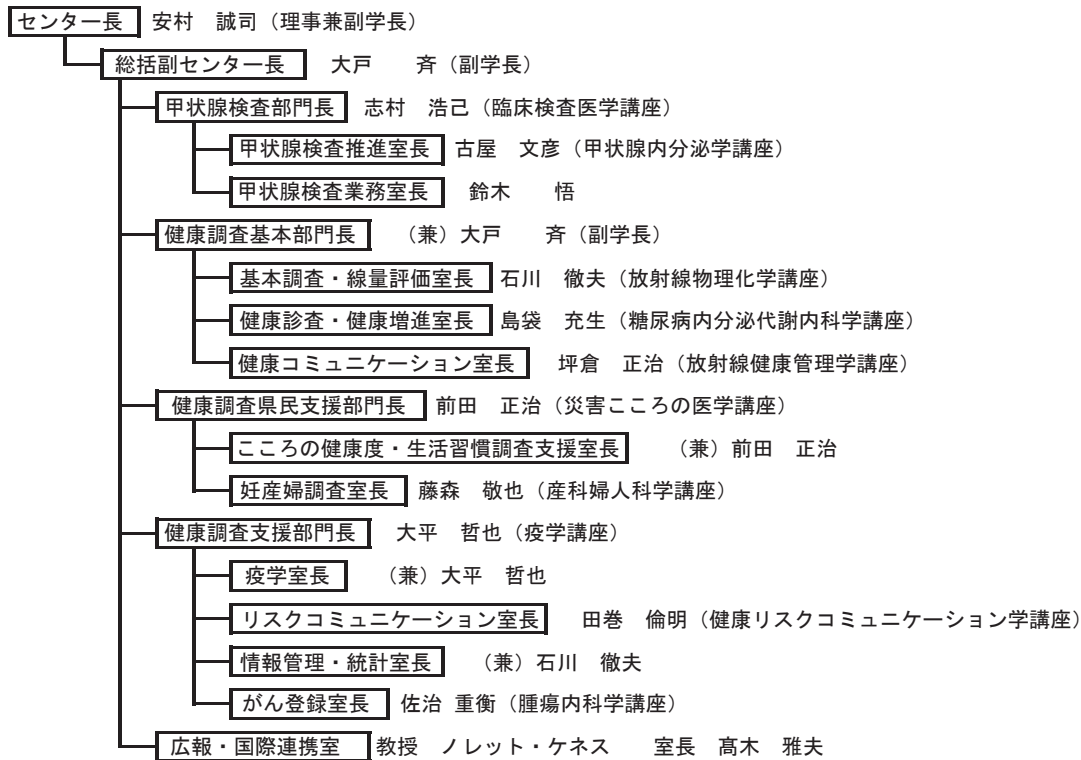
有識者で構成する福島県「県民健康調査」検討委員会の指導・助言のもと、福島県と一体となり推進しています。

平成23年9月に「放射線医学県民健康管理センター」を立ち上げるとともに、平成24年4月には、専従の事務組織として「健康調査課」を設置し、推進体制を確立させました。

また、同11月には総合的な復興事業を担う「ふくしま国際医療科学センター」に位置付けたほか、令和3年4月には4部門12室体制に組織を再編し、調査の推進に向け体制を強化しました。今後も調査の進捗に合わせ、組織の見直し、充実を図ってまいります。



3 スタッフ紹介



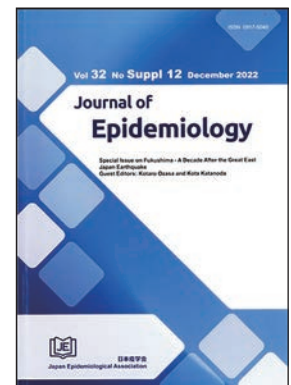
4 トピック

(1) 日本疫学会誌 別冊「福島特集号 - 東日本大震災後の10年」の発刊

日本疫学会の学会誌であるJournal of Epidemiology (以下、JE) の特集号として、県民健康調査のこれまでの成果などをまとめた11本の論文を発表しました。

今回の特集号では、これまでの県民健康調査で得られた資料をもとに、各調査結果の10年間の総括を行うとともに、「健康診査」、「こころの健康度・生活習慣に関する調査(ここから調査)」および「妊産婦に関する調査」については、「基本調査」で測定された個人の外部被ばく線量と健康への影響との関連を検討した結果を初めて論文としてまとめました。

これら11本の英語論文は、ウェブ上で無料公開(オープンアクセス)とし、誰でも閲覧できます。また、これらの論文の全体像を日本語で把握したい方のために、放射線医学県民健康管理センターのホームページに各論文の日本語の概要を掲載しています。



(2) 国際シンポジウム

- 日 時 令和5年3月4日(土)
- テ マ ともに考える福島の健康・暮らし・未来
- 開 催 形 式 オンライン (Zoom) 配信+会場
- 概 要 国内外からお集まりいただいた専門家及び当センター教員により、日本疫学会誌別冊「福島特集号 - 東日本大震災後の10年」で発表した県民健康調査によって得られた科学的知見などを分かりやすく紹介したほか、科学的知見の伝え方や受け手側の情報への接し方など、双方の立場におけるコミュニケーションの在り方について発表・討議が行われました。



日本疫学会
ホームページへ



部門紹介

- 1) 核医学科を担当し、核医学診断（とくにPET/CT, PET/MRI）、核医学治療（RI内用療法）の外来・入院診療を行う。
- 2) サイクロトロンで製造した放射性核種による放射性薬剤の合成と、その臨床応用を目指した研究開発を行う。

指導医（スタッフ）紹介



教授（兼務）
伊藤 浩

福島県立磐城高等学校卒業
平成 元 年 福島県立医科大学卒業
平成 5 年 東北大学大学院医学研究科修了
臨床専門分野
1) 放射線診断
2) 核医学
研究分野
1) 脳神経核医学
2) 分子イメージング
趣味：サイクリング、ランニング



准教授 鷲山 幸信

福島県立藤島高等学校卒業
平成 9 年 金沢大学理学部化学科卒業
平成 11 年 金沢大学大学院自然科学研究科
博士前期課程修了
平成 17 年 金沢大学大学院医学系研究科博士
後期課程修了
臨床専門分野
1) 核医学
研究分野
1) 放射化学
2) 放射線科学



教授 高橋 和弘

秋田県立秋田高等学校卒業
昭和56年 東北大学卒業
昭和58年 東北大学大学院薬学研究科修士
課程修了
臨床専門分野
1) 薬学
2) 核医学
研究分野
1) 放射性医薬品
2) 分子イメージング
趣味：旅行、エスニック料理食べ歩き、星
空観察



講師 西嶋 剣一

山口県桜ヶ丘高等学校卒業
平成 9 年 北海道医療大学薬学部卒業
平成 11 年 北海道医療大学大学院薬学研究
科修了
臨床専門分野
1) 薬学
2) 核医学
研究分野
1) 放射薬品化学
趣味：バスケットボール



教授 織内 昇

福島県立磐城高等学校卒業
昭和60年 群馬大学卒業
平成 2 年 群馬大学大学院医学系研究科修了
臨床専門分野
1) 核医学
2) 放射線医学
研究分野
1) 標的RI治療
2) 分子イメージング
趣味：スポーツ、読書、旅行



講師 右近 直之

北海道札幌月寒高校卒業
平成22年 北海道大学卒業
平成28年 北海道大学医学研究科
博士課程修了
臨床専門分野
1) 医学物理
研究分野
1) 医学物理
2) 放射線物理
3) 分子イメージング
趣味：旅行



教授 趙 松吉

中国吉林省汪清三中高等学校卒業
昭和60年 中国延边大学医学院
医学系医学(日本語班)専攻卒業
平成 2 年 中国白求恩医科大学大学院
修士課程 修了
平成15年 北海道大学大学院医学研究科
博士課程 修了
臨床専門分野
1) 核医学
研究分野
1) 核医学・分子イメージング・分子生物学・
再生医療・核医学治療
趣味：スポーツ・温泉



助教 菅原 茂耕

仙台育英学園秀光中等教育学校(宮城県)卒業
平成23年 国立大学法人群馬大学医学部
医学科卒業
令和 2 年 福島県立医科大学大学院
博士課程修了
臨床専門分野
1) 核医学診断・治療
2) 放射線医学・画像診断
研究分野
1) 核医学診断・治療
趣味：スポーツ観戦、読書、キャンプ、水泳



教授 志賀 哲

群馬県立桐生高等学校卒業
平成5年 北海道大学卒業
臨床専門分野
1) 核医学
研究分野
1) 核医学治療、核医学診断（特に脳腫瘍）
趣味：映画鑑賞、写真



助手 城寶 大輝

富山県立砺波高等学校卒業
平成29年 京都薬科大学薬学部薬学科卒業
臨床専門分野
1) 核医学
2) 薬学
研究分野
1) 放射性医薬品
趣味：野球観戦、映画鑑賞

講座・部門の主な研究内容

初期臨床研修での内容は問わない。臨床のどの分野も核医学の研究に関係するため無駄な経験はなく、むしろそれまでの診療経験を核医学の研究に活かし発展させることができる。

研修医、臨床医入学時の研究分野

核医学の手法を用いた画像診断と標的RI治療（RI内用療法）の開発が主な研究内容である。小型、中型2台のサイクロトロンやPET/MRIなどの先端機器を所有して医学研究や診療を行っている。

- 1) サイクロトロンで製造する放射性核種による新たな放射性薬剤の開発など分子イメージングの研究
- 2) PET/MRI装置を用いた画像工学や新規撮像法の臨床的有用性などの研究
- 3) α 線核種であるAt-211による新規の標的RI治療の開発研究

指導医からのメッセージ

核医学の診療を行いながら、新しい核医学画像診断としての分子イメージングと、標的RI治療（RI内用療法）の研究を行っています。小型、中型のサイクロトロンとPET/MRIを活用して研究を行っています。サイクロトロンで核種を製造、精製する物理や放射化学の専門家、標識薬剤を合成する放射薬学の専門家、動物用のPET/SPECT/CT装置や臨床用PET/MRI装置を駆使して新規放射性薬剤の有効性や安全性の研究を行う基礎医学や画像工学の専門家を擁しており、国内でこの分野をリードする研究機関、研究者と連携しています。

以下の研究が走っています。

- ① 診断では分子イメージングと呼ばれる標的分子を画像化する手法の開発を行っています。サイクロトロンを利用して放射性核種を製造し、新たな放射性薬剤を開発して新規の分子イメージングを開発します。
- ② PET/MRI装置を用いて画像工学の研究からPET/MRI診断の臨床的有用性の研究まで幅広い研究が可能です。
- ③ 治療では、 β 線よりも治療効果に優れた α 線核種であるAt-211の製造が可能であり、すでに製造実績があります。 α 線による癌治療について、臨床応用を目指した非臨床研究や臨床試験を国内の大学や研究機関と連携して行っています。

部門紹介

- 1) 県が構築する福島県健康データベース（FDB）の医療・介護・健診等の健康関連データや脳卒中、心筋梗塞等の発症登録のデータを分析し、科学的な根拠に基づいた評価による報告書を作成しています。
- 2) 分析・評価した結果を基に、県や市町村が行う健康づくり施策等への助言・支援等を行います。
- 3) 県及び市町村の保健事業担当職員の資質向上のための研修会を実施するとともに、社会医学系専門医研修を県と連携して実施し、公衆衛生医師の継続的な確保と育成を支援しています。

指導医（スタッフ）紹介



センター長（兼務）
細矢 光亮

山形県立山形東高等学校卒業
昭和58年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 小児感染症
2) 小児神経疾患
研究分野
1) 中枢神経系感染症の診断と治療
2) 急性脳症の病態解明と治療
3) 小児感染症の臨床疫学研究



講師 佐藤 真紀

宮城県立第一女子高等学校卒業
平成9年 福島県立医科大学卒業
平成14年 福島県立医科大学院修了
臨床専門分野
1) 周産期・新生児
研究分野
1) 新生児各種疾患におけるステロイド反応性に関する研究



副センター長（兼務）
大平 哲也

福島県立磐城高等学校卒業
平成2年 福島県立医科大学医学部卒業
平成11年 筑波大学大学院研究科博士課程修了
臨床専門分野
1) 内科学
2) 心療内科学
3) 循環器予防学
研究分野
1) 循環器疾患をはじめとする生活習慣病の疫学・予防医学
2) 心理的ストレスと疾病との関連についての疫学研究

指導医からのメッセージ

当センターでは、県が社会医学系専門医協会から認定を受けた「社会医学系専門医研修プログラム」に基づく研修を行っています。この研修は、将来の県の保健医療活動の中心となる人材を育成することを目指したもので、県（保健所）と当センターを研修基幹施設とする3年間のコアプログラムを修了すると、社会医学系専門医となることができます。採用後の最初の1年目は、当センターで助教又は助手として業務を行い、2年目は県（保健所）での研修を受けるなど、様々なコースを選択できます。また、希望する場合には当大学大学院に入学し、社会人大学院生として研究することができます。地域医療、社会医学、行政の知識及び経験を得ることにより、将来の本県の保健医療活動を担うことを目指す方をお待ちしています。

甲状腺・内分泌センター

部門紹介

甲状腺・内分泌センターは、甲状腺を含む内分泌疾患の診療を担う内科系と外科系の各々の科を総合する窓口となり、科の枠を越えて専門家が集まり総合的な診療を提供することを目指しています。福島県の委託による県民健康調査 甲状腺検査を通して診療が必要とされた方の受け入れも行っており、先端臨床研究センターに整備されている先進的な機器を使った治療も当センターのスタッフを中心に行うことができます。

指導医（スタッフ）紹介



センター長
鈴木 悟

私立桐朋高等学校（東京都）卒業
昭和63年 信州大学医学部医学科卒業
米国シカゴ大学Thyroid Study Unit
臨床専門分野
1) 甲状腺科
2) 糖尿病内分泌代謝内科
3) 老年医学
研究分野
1) 甲状腺ホルモン輸送、作用
2) 甲状腺癌遺伝子治療
3) ビタミンの抗老化作用について
趣味：サッカー

ふたば救急総合医療支援センター

部門紹介

平成28年4月、双葉地域の二次救急医療の確保と広域的な総合医療支援を目的として、本学は、「ふたば救急総合医療支援センター」を設置しました。平成30年4月に「福島県ふたば医療センター附属病院」が富岡町に開院されたことから、ふたば医療センター附属病院に対する医師派遣、遠隔診療による支援のほか多目的医療用ヘリコプターの運用支援を通して、双葉地域の医療体制整備へ向けて全面的に支援しています。

指導医（スタッフ）紹介



センター長
(教授)(兼務)
河野 浩二

山梨県立甲府南高等学校卒業
昭和62年 山梨医科大学卒業
山梨医科大学 博士(医学)
スウェーデンカロリンスカ医科大学 医学博士
臨床専門分野
1) 消化管外科、特に、食道外科、胃外科
研究分野
1) がん免疫療法の開発、QOL向上を
目指した外科再建術の開発



准教授
市川 優寛

愛知県立豊橋南高等学校卒業
平成9年 筑波大学医学専門学群卒業
臨床専門分野
1) 脳神経外科一般
2) 機能的脳神経外科
(てんかん、疼痛、不随意運動)
3) 脳神経外科救急
研究分野
1) てんかん
2) パーキンソン病
3) 難治性疼痛
趣味：子どもと遊ぶこと



副センター長
(教授)
島田 二郎

茨城県立古河第三高等学校卒業
昭和62年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 災害医学
2) 集中治療医学
3) 救急医学
4) 医学教育
研究分野
1) 災害医療
2) Mgと痛み
3) 救急医療システム



助手 **長沼 透**

国際基督教大学高等学校(東京都)卒業
平成15年 早稲田大学理工学部卒業
平成22年 東北大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 総合内科
研究分野
1) 臨床疫学、健康長寿・終末期医療
趣味：ランニング、子どもと遊ぶ



准教授
杉本 浩一

福島県立磐城高等学校卒業
平成9年 福島県立医科大学卒業
研修病院・研修施設
福島県立医科大学
臨床専門分野
1) 循環器病学
2) 肺循環
研究分野
1) 肺高血圧症



助手 **高橋 世**

北海道旭川東高等学校卒業
平成17年 札幌医科大学卒業
臨床専門分野
1) 救急
2) 総合内科
研究分野
1) 臨床疫学
2) 老年医学



准教授
渡邊 和之

福島県立福島高等学校卒業
平成13年 福島県立医科大学医学部卒業
平成19年 医学博士取得
臨床専門分野
1) 脊椎・脊髄外科

上記教員に加えて、本学医学部11講座のふたば医療センター対応専任教員及び広島大学派遣の内科、救急科の教員がふたば医療センター附属病院における診療を担当しています。

部門からのメッセージ

双葉地域の地域医療に関心がある方、ふたば医療センターの見学を希望される方は、お気軽にご相談ください。

福島県ふたば医療センターの支援

- ふたば医療センター附属病院への医師の派遣調整と診療支援
- ふたば医療センターと連携し、地域医療に関心を持つ学生の受入れや人材の育成を支援
- 双葉地域で開催される研修会・講習会等を支援

双葉地域の住民等への医療支援

- 未治療・重症化予防の個別指導
基礎疾患を有しているながら管理が十分にできていない、或いは医療に結びついていない住民の健康の悪化・重症化予防対策の支援
- 認知症の早期診断・対応の支援強化
双葉地域8町村が設置する認知症初期集中支援チームのチーム会議の開催支援
- 広報紙発行
双葉地域8町村と県内避難者に対し、ふたば医療センターの取組と生活習慣病の予防について情報発信

部門紹介

当センターは、福島県民の命と健康を守る医療者を、臨床研究の学習と実践を通じて元気にし、福島県民の健康寿命を日本のトップレベルにすることを使命に設定し、2013年に理事長直下の組織として福島県立医科大学に設置されました。

臨床研究イノベーションセンターとは

これまで当センターは主に以下の3つの活動を展開してきました。

診療支援：県外から集めた志高く、臨床能力に優れた若手・中堅医師が、福島県の地域医療の支援をしてきました。

臨床研究の人材育成：臨床研究のリテラシーを学習するためのプログラムを福島県立医科大学の全ての職員、大学院生、県内医療者、学外の医師などを対象に提供してきました。

(研究デザイン学、統計学、ヘルスサービス研究)

健康長寿事業：福島県全体の目標である「健康長寿」を達成するためのモデル事業を自治体と連携して企画、実施し、事業の科学的な評価のためにデータベースを構築しました。

県外からの医師確保と臨床研究人材育成の二つの目的のために、これまで日本になかった新しい臨床研究人材育成プログラムである「臨床研究フェロースhip」を開始し、2023年4月までに17名のフェロー、2名の常勤役員、3名の特任教員の県外から若手医師が臨床研究フェローとして着任し、活躍しています。フェローには系統的学習プログラムおよび重層的なメンタリングを提供しました。また当センターは、県外の医師を対象として臨床研究リテラシーを合宿形式で学習する會津藩校日新館「臨床研究デザイン塾™」をフェローが中心となって2013年から開催しています。

さらに、県内の自治体で健康長寿事業への参画を通して臨床研究を実施可能にするためのデータベースを構築し、事業の科学的評価を行い、その研究成果を発信することにより、福島県の医療の質の向上、県民の健康行動の変容、医療政策へのインパクトを与えることを目標としています。

2015年には、イノベーションセンター内に福島県立医科大学寄付講座「白河総合診療アカデミー」を設置し、診療、教育、研究活動を開始しました。総合内科と臨床研究の両方を指導する日本初の後期研修プログラムを開始しました。4人の指導教員が総合内科・救急の指導を行い、センターの教員が臨床研究を指導します。



指導者（スタッフ）紹介



センター長・副学長
福原 俊一
Shunichi Fukuhara

札幌北高等学校(北海道)卒業
昭和54年 北海道大学医学部卒業
Harvard大学院SPH修士課程修了 (MSc)
臨床専門分野
1) 内科学：米国内科学会専門医、MACP
研究分野
1) 臨床疫学、ヘルスサービス研究

東京大学教授、世界医学サミットpresident、
京都大学院 副医学研究科長、等を歴任、
国際QOL学会理事、日本PC連合学会理事、
日本臨床疫学会 代表理事、現在に至る



特任教授
栗田 宜明
Noriaki Kurita

私立開成学園開成高等学校
(東京都)卒業
平成16年 東京大学卒業
臨床専門分野
1) 内科学（腎臓内科）
2) 透析医療学
研究分野
1) 臨床疫学研究



副センター長
濱口 杉大
Sugihiko Hamaguchi

長野県立野沢北高等学校卒業
平成7年 新潟大学卒業
臨床専門分野
1) 総合内科
2) 熱帯医学、感染症
研究分野
1) 熱帯感染症
2) 高齢者肺炎の終末期医療

福島県立医科大学 総合内科 教授、
現在に至る



特任准教授
大前 憲史
Kenji Omae

私立灘高等学校(兵庫県)卒業
平成15年 名古屋大学卒業
臨床専門分野
1) 泌尿器科学
研究分野
1) 泌尿器癌に関わる臨床研究
2) 地域住民を対象とした疫学
研究



特任准教授
福間 真悟
Shingo Fukuma

私立広島学院高等学校卒業
平成14年 広島大学卒業
臨床専門分野
1) 内科学（腎臓内科）
研究分野
1) Clinical Epidemiology
2) Outcome Research



臨床研究フェロー
山本 良平
Ryohei Yamamoto

千葉県立千葉東高等学校卒業
平成22年 東京医科歯科大学卒業
臨床専門分野
1) 救急診療・集中治療
研究分野
1) 臨床疫学全般
趣味：ドラム



特任教授
竹島 太郎
Tarou Takeshima

静岡県立清水東高等学校卒業
平成12年 自治医科大学卒業
臨床専門分野
1) 総合内科
研究分野
1) プライマリ・ケア診療に
おける症状分析
2) 菌血症の臨床予測ルール
の作成



臨床研究フェロー
中川 紘明
Hiroaki Nakagawa

函館ラサール高等学校卒業(北海道)
平成13年 自治医科大学卒業
臨床専門分野
1) 総合内科
2) 臨床推論
研究分野
1) 臨床疫学研究

CMECD : Center for Medical Education and Career Development

医療人育成・支援センターは、2008年4月、卒前医学教育と卒後臨床研修を一貫して支援する組織として、医学教育部門と臨床医学教育研修部門が設立されました。その後、看護学教育研修部門と災害医療総合学習センター、医療手技教育研修開発センターを加え、さらに2021年からは、保健科学部の開講に伴い、保健科学教育研修部門を加えた5部門が置かれ、それぞれ各部門が担う役割を果たし、学部教育・卒後教育の充実をはかり、よき医療人の育成を目指して取り組んでいます。

医学教育部門

医学教育部門は、医学生が6年間で十分な知識と基本技能、そしてプロフェッショナルとしての姿勢と思考を自立的に身に付けられるよう、新しいプログラムの企画と支援、教育資源の管理、医学教育に係る提言を行っています。本学の医学教育全体を俯瞰して講座間、学部間を有機的につなぐ使命も担います。

I. 教育プログラムの企画と支援

新しい教育手法（TBL、統合授業、反転授業等）の導入と実践
プロフェッショナル教育（早期ポリクリ、地域実習、多職種連携教育）の企画実践

領域横断的な技能教育の実践（医療面接、採血）と評価（OSCE）

II. 教育資源の管理

SP会運営、スキルラボ管理、FD、教育相談

III. 医学教育に係る提言

分野別認証評価、学生評価システム、入試、カリキュラム等

IV. 医学部入学への動機づけ事業の支援

出前講義、学校見学対応等

看護学教育研修部門

2014年4月から、看護学教育研修部門が設けられています。この部門では、地域医療を担う看護師等の資質向上の支援として、大学附属病院看護職、県内で働く看護職を対象とした研修、地域医療を担う看護師等の確保支援としての就職ガイダンス、高等学校等の広報活動・看護学への動機づけ支援としての出前講座や学校見学等を行っております。

これらにより、看護学への関心を高めるとともに看護学を学ぶことの動機づけを行い、将来の仕事としての看護職をイメージし、入学前から卒業後も継続して、生涯にわたり専門職として学ぶことができる環境整備に取り組んでいます。

主な事業

- 看護職等の資質向上のための研修
- 就職ガイダンス
- 学校見学
- 出前講座

臨床医学教育研修部門

臨床医学教育研修部門は、卒後教育の充実を主な役割として、下記事業を通して、地域医療に必要な知識・技術の習得・向上のため、臨床研修医や指導医等の人材育成を支援しています。

特に、臨床研修の充実により、県内臨床研修医採用数を増加させることは、県内の医師確保につながることから、福島で日本トップクラスの臨床研修を提供しています。また、第一線で働く医師を育てるため、県内20臨床研修病院をネットワーク化し、福島医大だけでなく県内全体の臨床研修内容のレベルアップにも努めています。

2018年度の4年生から始まった臨床実習（BSL）の72週化にあわせ、BSLの内容の改善や評価のIT化を担っています。センター創立10年が過ぎ、臨床教育を見据え、学部の臨床教育へ活動範囲が広がってきています。

さらに現行の専門医制度による専門医研修支援を行っていきます。県内各病院での学部教育・臨床研修に関する講習会や臨床研修指導医養成講習会の開催などを通じて、大学の枠を越え、福島県全体の臨床医学教育の向上も目指しています。

主な事業

- 臨床実習（BSL）改革の推進
- 臨床研修・専門医研修の充実
- 医療・福祉・地域医療体験プログラムの提供
- 各種講習会・セミナー開催による医師生涯教育の支援
- 福島県臨床研修病院ネットワークの統括
- 福島県地域医療支援センターとの共同事業

保健科学教育研修部門

保健科学教育研修部門は、2021年4月の保健科学部開設に伴い設置されました。

4学科で育成される理学療法士、作業療法士、診療放射線技師、および臨床検査技師のそれぞれが専門医療技術者として高い倫理観と知識、技術、コミュニケーション能力等の臨床能力を身につけることができるよう、環境整備や教育支援を行っています。また、研修会などを開催して地域医療を担う医療従事者の資質向上の支援を行っています。

災害医療総合学習センター

福島でしかできない実践的な教育

災害医療総合学習センターは、災害医療や放射線被ばく医療の知識や技術を持ち、それを実践できるエキスパート（医師・看護師・診療放射線技師など多様な医療人）を育てるための教育と、その研修体制確立を主な役割としています。

医療手技教育研修開発センター

献体遺体を用いた手術手技研修（CST: Cadaver Surgical Training）の普及・発展のため、2020年4月に設置されました。今後は、医療手技の向上に向けた環境整備を行っていきます。

実践的な医療手技の向上に寄与していくことが期待されております。

指導医（スタッフ）紹介



センター長
臨床医学教育研修 部門長
(教授)
大谷 晃司

埼玉県立川越高等学校卒業
平成2年 福島県立医科大学卒業
平成10年 医学博士取得

臨床専門分野

1) 脊椎・脊髄外科学

研究分野

- 1) 脊髄・神経根障害の基礎的・臨床的研究
- 2) 高齢者の整形外科
- 3) 運動器疾患の疫学的研究
- 4) 転倒・骨折予防



医学教育部門長(教授)
亀岡 弥生

福島県立福島女子高等学校卒業
昭和62年 福島県立医科大学医学部卒業
医学博士

臨床専門分野

- 1) 血液内科学
- 2) 薬理学
- 3) 医学教育

研究分野

- 1) 骨髄異形成症候群の病態成立機序解明
- 2) 血球機能制御機構とmicroRNA
- 3) 細胞ストレスと造血
- 4) 日本文化に根差した「医療チームにおける医師のリーダーシップ」の再定義



助教 唐 尊一



助教 青木俊太郎



助教 安井 清孝



助教 日高亜紀子
(兼任)



助教 中村 光輝
(兼任)



助手 安田 恵



助手 Maham Stanyon



助手 諸井 陽子



助手 赤間 孝洋

クリニカル・スキルス・ラボラトリー<スキルラボ>

当院のスキルラボは、きぼう棟・ベーシック・アドバンス・手術室の4部屋で構成され、その総面積及び整備されたシミュレータの充実度は**全国トップクラス**です。研修医や看護師、および医学生・看護学生が、実際の医療現場を模した各種の疑似環境の中で、患者が受ける肉体的・精神的な負担や潜在的な危険（合併症）を学習し、臨床能力の向上を図っています。福島県内の臨床研修病院で研修する医師の自己学習利用も受け入れています。

【シミュレータの一例】

スキルラボ・きぼう棟 (きぼう棟4階西)	・心音・呼吸音シミュレータ ・多人数教育用聴診システム ・3D内視鏡シミュレータ ・3D触覚機能付き腹腔鏡下手術シミュレータ ・超音波診断ファントム (胸部・上腹部病変付モデル・胎児モデル)
スキルラボ・ベーシック (8号館2階)	・身体診察シミュレータ ・フィジカルアセスメントモデル ・採血・注射シミュレータ
スキルラボ・アドバンス (4号館5階)	・救急蘇生トレーナー ・医療面接ビデオフィードバックシステム
スキルラボ・手術室 (みらい棟2階麻酔科 外来回復室内)	・高機能患者シミュレータ



<中心静脈カテーテル挿入手技講習会>

部門紹介

東日本大震災および福島第1原子力発電所事故の概要や復興の状況について、全国の医療従事者、災害担当者、復興支援者に伝えること、及び災害対応者の育成のため、放射線被ばく医療・リスクコミュニケーション等に関する研修を企画・開発し、提供している。

指導医（スタッフ）紹介



センター長
長谷川有史
(放射線災害医療学講座主任教授)

新潟県立新潟高等学校卒業
平成5年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 救急医学
2) 外科学
3) 放射線災害医療学
臨床専門分野
1) 大腸がんの発癌関与する遺伝子群
2) ヒト脳のプロテオミクス解析
3) 医学教育
趣味：テニス、バイク、読書、犬と妻との散歩、仕事



副センター長 **坪倉 正治**
(放射線健康管理学講座主任教授)

私立灘高等学校卒業
平成18年 東京大学卒業
臨床専門分野
1) 放射線健康管理学
2) 地域の公衆衛生
3) 血液内科学
趣味：水泳、仕事



助教 **安井 清孝**
(医療人育成・支援センター)

東京都立大塚看護専門学校卒業
長崎大学・福島県立医科大学
災害被ばく医療科学共同専攻卒業
福島県立医科大学博士課程卒業
趣味：マラソン

事業内容

災害や放射線被ばく医療を有する医療人（医師・看護師）の育成

①医師の育成

- ア トレーニングシミュレータ等を利用したカリキュラムを検討し、本学医学部生に災害や放射線被ばく医療の医学教育等を行う。
- イ 県内の臨床研修医に対し、プライマリ・ケアのほか、福島県内においてより必要性が求められる災害・放射線被ばく医療の基礎知識について学ばせる機会を提供する。
- ウ 本学医学部生・本院臨床研修医を対象とする災害・放射線被ばく医療研修を開催する。

②看護師の育成

- ア 災害や放射線被ばく医療の研修を行うための事前学習を実施する。
- イ 福島県看護協会と連携し、災害・放射線被ばく医療研修・講習会を開催する。



問合せ先

災害医療総合学習センター 医療人育成・支援センター内
TEL : 024-547-1047 FAX : 024-547-1715 E-mail : ecdm@fmu.ac.jp
ホームページ URL <http://www.fmu.ac.jp/home/cmecd/ecdm/index.html>

部門紹介

- 1) 総合診療・総合内科の実践を通して分野を問わず患者・地域住民の健康に寄与する
- 2) 総合診療医・総合内科医の特徴を生かして分野横断的な教育を実践する
- 3) 多様性をもった総合診療医・総合内科医の育成に取り組む

指導医(スタッフ)紹介



センター長
山中 克郎
(会)総合内科学講座教授

愛知県立千種高等学校卒業
昭和60年 名古屋大学医学部卒業
平成6年 医学博士取得
臨床専門分野
1) 総合内科
研究分野
1) 診断推論
2) 医学生/研修医教育
趣味: ハイキング



副センター長
濱口 杉大
(総合内科教授)



中村 光輝
(地域・家庭医療学講座助教)



大谷 晃司
(医療人育成・支援センター長)



鷹栖 相崇
(会)総合内科学講座助手



宗像 源之
(会)総合内科学講座講師



小野 正博
(宮下病院副院長)



菅家 智史
(地域・家庭医療学講座講師)

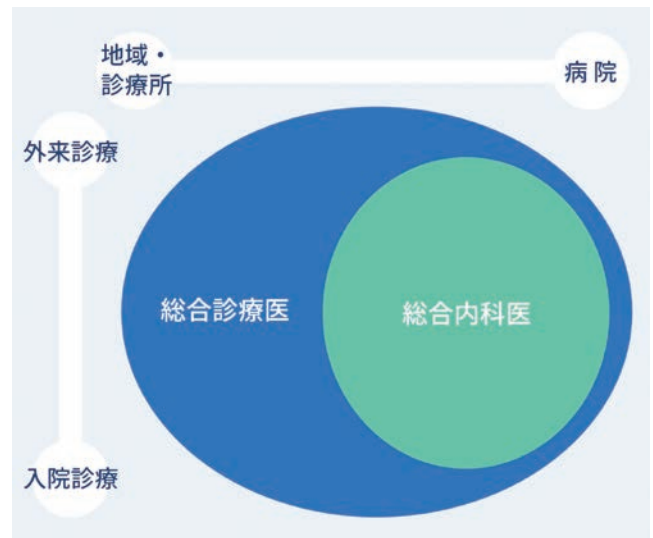
総合診療医とは

総合診療医は、地域や勤務する医療機関のニーズに応じて仕事の内容を柔軟に変えながら活躍できる、多様性のある医師です。例えばある環境では、高齢者の複合疾患や診断困難事例の臨床推論、救急医療で力を発揮します。また別の環境では、臓器にこだわらずにその人全体、そして家族・生活背景・地域文化も診て、地域の人々の健康な生活を支援します。

総合内科・総合診療医センターは、地域に寄り添い、人と心を通わせながら地域医療全体に貢献できるオールラウンダー＝総合診療医の育成に全力で取り組んでいます。

総合診療医は「家庭医」と「病院総合医」からなり、患者の主要な健康上の問題をすべて取り上げてマネジメントする医師というのが基本的概念です。患者だけでなく地域や医療機関の医療的問題にも取り組むことがあります。専門医制度では基本領域は総合診療専門医に属します。

総合内科医は、総合診療医のうち、入院医療を中心とした総合医療を行う「病院総合医」と同義ですが、診断推論や感染症診療、内科救急・集中治療診療など、主に内科的問題を扱うため、慣習的に「総合内科医」と呼ばれています。専門医制度では基本領域は内科専門医に属します。



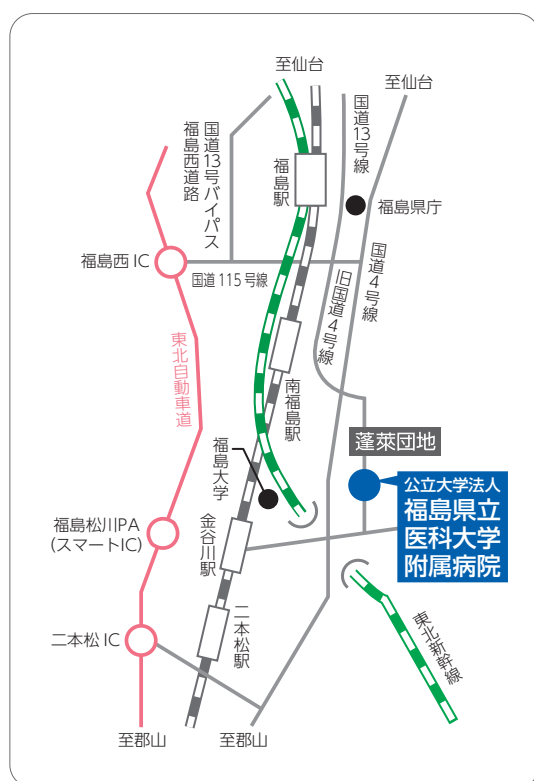
指導医からのメッセージ

総合診療という分野にもいろいろな役割や働き方があります。福島県立医科大学には総合診療医・総合内科医が多数在籍しており、多様なロールモデルと出会うことが可能です。教育熱心な指導医たちと一緒に、総合診療を通して患者・住民の健康増進に取り組んでみませんか？ 見学・相談のお問合せはお気軽にどうぞ！

専門研修プログラム

福島県立医科大学附属病院では、総合診療医を目指す後期研修を地域・家庭医療学講座が、総合内科医を目指す後期研修を総合内科が担当しています。詳細は各科を参照ください。

FUKUSHIMA MEDICAL UNIVERSITY HOSPITAL BOOKLET 2023



アクセス

◆東北新幹線での所要時間

福島駅 — 東京駅……………1 時間 40 分
福島駅 — 仙台駅…………… 25 分

◆交通案内

JR 福島駅東口バスターミナル
福島交通バス「バイパス経由医大」行き乗車、
「医大病院」下車。(所要時間約 30 分)

お問い合わせ

医療人育成・支援センター
〒960-1295 福島市光が丘 1 番地
TEL 024-547-1047
FAX 024-547-1715
E-mail CMECD@fmu.ac.jp
URL <http://www.fmu.ac.jp/byoin>